

杉並区高齢者等実態調査報告書

令和8年3月

杉 並 区

目 次

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	4
(1) 調査方法	4
(2) 回収状況	4
4. 地域区分	5
5. 調査結果を見る上での注意事項	6

第 2 章 高齢者実態調査

1. 回答者の属性	9
(1) 圏域	9
(2) 世帯構成	9
(3) 性別・年齢	10
2. 家族や生活の状況について	12
(1) 生活している場所	12
(2) 同居家族	13
(3) 昨年 1 年間の世帯収入	14
(4) 経済的にみた暮らしの状況	16
(5) 就業状況・就業意向	17
(6) 現在の仕事・希望する仕事	18
(7) 仕事をしている・働きたい理由	19
3. 医療・健康状態について	20
(1) かかりつけ医の有無	20
(2) かかりつけ医の診療方法	21
(3) 現在の健康状態	22
(4) 健康診断の受診状況	23
(5) 耳の聞こえの状態	25
(6) 補聴器の使用状況	26
4. 認知症について	28
(1) 認知症についての知識・印象など	28
(2) 認知症の診断有無	30
(3) 普段の暮らしの状況	31
(4) 認知症疑いの有無	32
(5) 最近 2 週間の過ごし方	34
(6) 精神的健康状態	35
5. 健康づくりについて	37
(1) からだを動かす活動の有無	37

(2) からだを動かす活動の頻度.....	38
(3) からだを動かす活動を一緒にしている方.....	39
(4) からだを動かす活動をしている場所.....	40
(5) からだを動かす活動の効果の有無.....	41
(6) からだを動かす活動をしていない理由.....	42
6. 社会的なつながりについて	44
(1) 家族や親せきとのつきあい.....	44
(2) 友人や知人とのつきあい.....	46
(3) 社会的孤立度.....	48
(4) 地域活動の参加状況.....	51
(5) 今後参加してみたい地域活動.....	52
(6) 自分らしく過ごせる居場所.....	53
(7) ペットの飼育状況.....	54
(8) ペットの預け先.....	55
7. スマートフォン等の利用状況について	56
(1) スマートフォン等の所持状況.....	56
(2) スマートフォン等の利用状況.....	57
(3) スマートフォン等の今後の使用意向.....	58
8. エネルギー機器の使用状況について	60
(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期.....	60
(2) エアコンの購入予定.....	61
(3) エアコンの購入予定がない理由.....	62
(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無.....	63
(5) エネルギー経費削減のために行っている対策.....	64
9. 介護予防や福祉サービスについて	65
(1) 参加したことがある介護予防事業.....	65
(2) 介護予防事業に参加していない理由.....	67
(3) 今後、区が力を入れていくべきこと.....	68
(4) 現在利用している高齢者在宅サービス.....	70
(5) 現在利用している民間の福祉サービス.....	72
(6) 今後利用したい福祉用具等.....	73
10. 終活について	74
(1) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所.....	74
(2) 人生の最期や終末期に向けての備え.....	75
(3) 人生の最期や終末期に向けた心配事.....	76
11. 困った時等の相談先について	77
(1) 困った時等の相談先.....	77
(2) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況.....	79
12. 自由意見	80

第3章 在宅介護高齢者実態調査

1. 回答者の属性	87
(1) 圏域	87
(2) 要介護度	87
(3) 性別・年齢	88
2. 家族や生活の状況について	89
(1) 生活している場所	89
(2) 同居家族	90
(3) 要介護度	91
3. 身体健康状態について	92
(1) 現在の健康状態	92
(2) かかりつけ医の診療方法	93
(3) 耳の聞こえの状態	94
(4) 補聴器の使用状況	96
4. 認知症について	98
(1) 認知症についての知識・印象等	98
(2) 認知症の診断有無	100
5. 社会的なつながりについて	101
(1) 家族や親せきとのつきあい	101
(2) 友人や知人とのつきあい	103
(3) 社会的孤立度	105
(4) 困った時等の相談先	108
(5) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況	110
6. スマートフォン等の利用状況について	111
(1) スマートフォン等の所持状況	111
(2) スマートフォン等の利用状況	112
(3) スマートフォン等の今後の使用意向等	113
7. エネルギー機器の使用状況について	114
(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期	114
(2) エアコンの購入予定	115
(3) エアコンの購入予定がない理由	116
(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無	117
(5) エネルギー経費削減のために行っている対策	118
8. 住まいについて	119
(1) 現在住んでいる地域への継続居住意向	119
(2) 介護サービスを受けたい場所	120
(3) 施設等に入所したい理由	121
9. 終活について	122
(1) 「人生会議（ACP）」認知状況	122
(2) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所	123

(3) 人生の最期や終末期に向けての備え.....	124
(4) 人生の最期や終末期に向けた心配事.....	125
10. 介護保険や在宅サービスについて	126
(1) 介護保険サービスの満足度.....	126
(2) 介護保険サービスを利用していない理由.....	127
(3) 介護保険サービスを利用するようになって変わったこと.....	129
(4) 要介護・要支援状態の改善についての考え.....	131
(5) 参加したことがある介護予防事業.....	132
(6) 介護予防事業に参加していない理由.....	134
(7) 高齢者在宅サービスの満足度.....	135
(8) 高齢者在宅サービスを利用していない理由.....	136
(9) 今後、区が力を入れていくべきこと.....	138
11. 主な介護者について	140
(1) 介護者の有無.....	140
(2) 主な介護者の性別・年齢.....	141
(3) 対象者との続柄.....	144
(4) 介護に通っている頻度（別居の方のみ）.....	145
(5) 主な介護者以外の介護者の有無.....	145
(6) 主な介護者以外の介護者の対象者との続柄.....	146
(7) 介護の年数.....	147
(8) 主な介護者が不安に感じること.....	148
(9) 介護保険サービス利用による負担軽減.....	151
(10) 介護を原因とする対象者との衝突の有無.....	152
(11) 主な介護者の相談先.....	153
(12) 今後の在宅生活継続に必要な支援・サービス.....	156
(13) 介護や家事以外に行っていること.....	158
(14) 介護のために働き方を調整することの有無.....	159
(15) 介護を理由とした離職経験の有無.....	160
(16) 仕事と介護の両立のための勤務先からの支援.....	161
(17) 就労しながらの介護の継続.....	162
12. 自由意見	164

第4章 共通質問の比較

1. 回答者の属性	173
(1) 圏域	173
(2) 世帯構成	173
(3) 生活している場所.....	174
2. 健康状態について	175
(1) 現在の健康状態.....	175
(2) 耳の聞こえの状態.....	175

(3) 補聴器の使用状況.....	176
3. 認知症について	177
(1) 認知症についての知識・印象など.....	177
(2) 認知症の診断有無.....	178
4. 社会的なつながり	179
(1) 家族・親せき、友人・知人とのつきあい.....	179
(2) 社会的孤立度.....	179
5. スマートフォン等の利用状況について	180
(1) スマートフォン等の所持状況.....	180
(2) スマートフォン等の利用状況.....	181
(3) スマートフォン等の今後の使用意向.....	181
6. エネルギー機器の使用状況について	182
(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期.....	182
(2) エアコンの購入予定.....	182
(3) エアコンの購入予定がない理由.....	183
(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無.....	183
(5) エネルギー経費削減のために行っている対策.....	184
7. 介護予防や福祉サービスについて	185
(1) 参加したことがある介護予防事業.....	185
(2) 介護予防事業に参加していない理由.....	186
(3) 今後、区が力を入れていくべきこと.....	187
8. 終活について	188
(1) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所.....	188
(2) 人生の最期や終末期に向けての備え.....	188
(3) 人生の最期や終末期に向けた心配事.....	189
9. 困った時等の相談先について	190
(1) 困った時等の相談先.....	190
(2) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況.....	191

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

1. 回答者の属性	195
(1) 年齢	195
(2) 要介護度	195
(3) 区の第一次評価（入所の優先度）	196
2. 家族や生活の状況について	197
(1) 生活している場所.....	197
(2) 利用中・利用したことがある介護サービス.....	199
(3) 同居家族	200
3 特別養護老人ホームへの入所申込みに関することについて	201
(1) 入所申込み理由.....	201

(2) 入所希望時期.....	203
(3) 希望する施設形態.....	206
(4) 入所先を選ぶ際に重視すること.....	208
(5) 入所に関しての連絡の有無.....	210
(6) 入所を見合わせた理由.....	211

第6章 介護サービス事業所等実態調査

1 回答事業所・施設の概要	217
(1) サービス種別.....	217
(2) 圏域.....	218
(3) 開設から現在までの実年数.....	218
(4) 法人形態.....	219
2 従業員について	220
(1) 現在配置されている従業員の職種.....	220
(2) 従業員数.....	221
(3) 採用者数.....	224
(4) 従業員採用で効果的だった取組.....	227
(5) 令和7年6月30日以前に配置されていた従業員の職種.....	229
(6) 離職者数.....	230
(7) 採用率・離職率.....	233
(8) 前年度と比較した離職率の状況.....	236
(9) 離職の理由として考えられること.....	237
3 人材の充足状況・人材確保等について	239
(1) 人材の充足状況.....	239
(2) 人材確保のために必要な取組.....	242
(3) 「介護補助者（無資格者）」の活用状況.....	243
(4) 「ボランティア」の活用状況.....	245
(5) 外国人の受け入れ状況.....	247
(6) 人材確保について区に望むこと.....	250
4 人材育成について	254
(1) 人材育成のために行っている方策.....	254
(2) 人材育成について区に望むこと.....	256
5 経営・運営状況について	258
(1) 現在の経営状況.....	258
(2) 「介護職員等処遇改善加算」の取得状況.....	263
(3) 「介護人材確保・職場環境改善等事業」の申請の有無.....	264
(4) ケアプランデータ連携システムの導入状況.....	265
(5) ハラスメント対策についての取組.....	267
6 医療機関との連携について	270
(1) 医療機関との連携状況.....	270

(2) 医療機関との連携に当たっての課題.....	271
(3) 非常時の連携施設の有無.....	272
7 「すぎなみ福祉サーチ」について	273
(1) 「すぎなみ福祉サーチ」閲覧・確認状況.....	273
8. 自由意見	275

資料 調査票

1 「高齢者実態調査」調査票	279
2 「在宅介護高齢者実態調査」調査票	288
3 「特別養護老人ホーム入所申込者実態調査」調査票	299
4 「介護サービス事業所等実態調査」調査票	302

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

「杉並区保健福祉計画 高齢者施策推進計画（令和9年度～11年度）」の策定等に向けた基礎データを把握するため、調査を実施しました。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
ア. 高齢者実態調査	<p>要介護・要支援認定以外の65歳以上の区民から日常生活圏域（7圏域）別※に無作為抽出した5,500名。</p> <p>①独居高齢者 2,000名 ②高齢者のみの世帯の高齢者 2,000名 ③上記①・②以外の高齢者 1,500名</p> <p>（①～③の人数は、令和7年4月時点の人数割合に応じ、按分して抽出）</p>
イ. 在宅介護高齢者実態調査	<p>要介護・要支援認定を受け、在宅で生活している65歳以上の区民から日常生活圏域（7圏域）別※に無作為抽出した3,500名。</p> <p>①要支援1 700名 ②要支援2 300名 ③要介護1 900名 ④要介護2 400名 ⑤要介護3 400名 ⑥要介護4 500名 ⑦要介護5 300名</p> <p>（①～⑦の人数は、令和7年4月時点の人数割合に応じ、按分して抽出）</p>
ウ. 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査	令和7年6月末時点で特別養護老人ホーム入所申込書を提出している515名。
エ. 介護サービス事業所等実態調査	令和7年6月末現在の区内682事業所。

※7圏域の区分については、「4. 地域区分」（5ページ）を参照。

3. 調査方法と回収状況

(1) 調査方法

調査名	調査方法	調査期間
ア. 高齢者実態調査	郵送配布／郵送・ Web 併用回収	令和7年8月4日（月）～ 9月16日（火）
イ. 在宅介護高齢者実態調査	郵送配布／郵送・ Web 併用回収	令和7年9月4日（木）～ 10月16日（木）
ウ. 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査	郵送配布／郵送・ Web 併用回収	令和7年9月8日（月）～ 10月20日（月）
エ. 介護サービス事業所等実態調査	Webによるオンライン 回答	令和7年8月8日（金）～ 9月12日（金）

(2) 回収状況

調査名	発送数	有効回答数	有効回答率
ア. 高齢者実態調査	5,500 件	3,603 件 （郵送 3,104 件 Web 499 件）	65.5%
イ. 在宅介護高齢者実態調査	3,500 件	2,156 件 （郵送 1,914 件 Web 242 件）	61.6%
ウ. 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査	515 件	285 件 （郵送 213 件 Web 72 件）	55.3%
エ. 介護サービス事業所等実態調査	682 件	401 件	58.8%

4. 地域区分

本調査で用いた地域区分は以下の7圏域です。



圏域名	圏域の説明
井草地域	西武新宿線沿線の上井草駅、井荻駅、下井草駅の3駅を中心とした地域
西荻地域	JR中央線の西荻窪駅を中心とした地域
荻窪地域	JR中央線の荻窪駅を中心とした地域
阿佐谷地域	JR中央線の阿佐ヶ谷駅を中心とした地域
高円寺地域	JR中央線の高円寺駅を中心とした地域
高井戸地域	京王井の頭線の久我山駅、富士見ヶ丘駅、高井戸駅、浜田山駅の4駅を中心とした地域
方南・和泉地域	京王井の頭線の西永福駅、永福町駅の2駅と地下鉄丸ノ内線の方南町駅を中心とした地域

5. 調査結果を見る上での注意事項

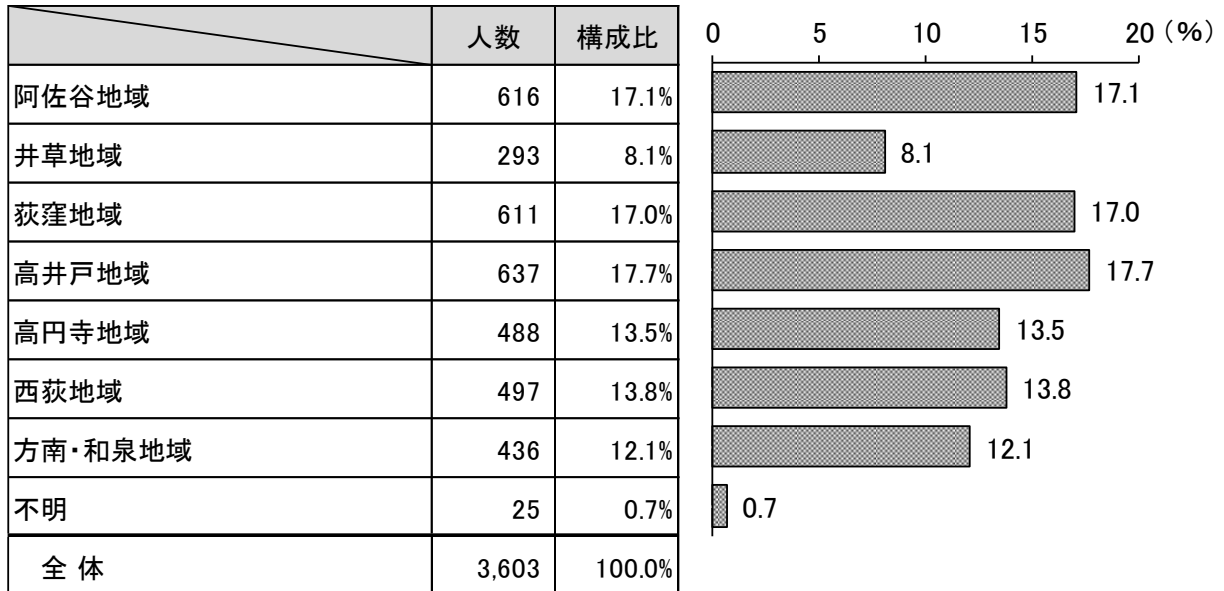
- 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ設問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- 2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率はそれぞれの選択肢の回答数を合計し、比率を再計算したものを使用しているため、図表中の%の合計と本文中の数値が一致しない場合があります。（例：16 ページにおいて「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計して《苦しい》とする場合など）
- 複数回答（2つ以上選んでよい設問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- クロス集計で示している表、グラフの「n」は無回答を除いているため、全体の「n」と合致しない場合があります。
- 表示の都合上、帯グラフの0%については表示を省略しています。また、本文、表、グラフにおいて、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- 表の中で、網掛けにしている部分は、各項目の最高値を示しています。
- 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

第2章 高齢者実態調査

1. 回答者の属性

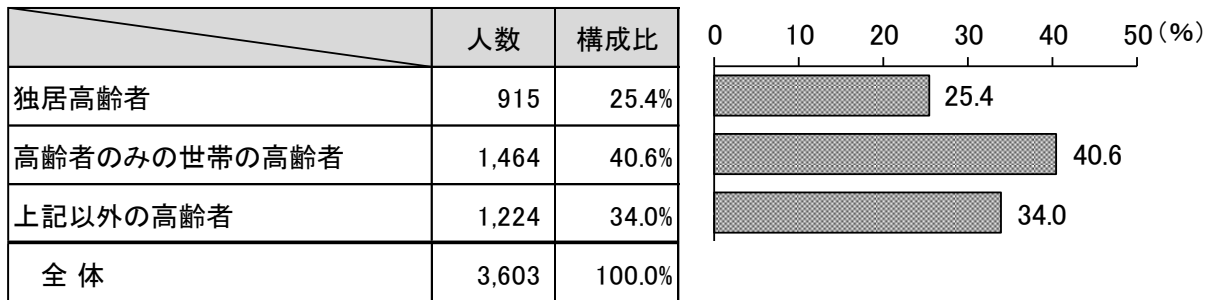
(1) 圏域

図表2-1-1 圏域



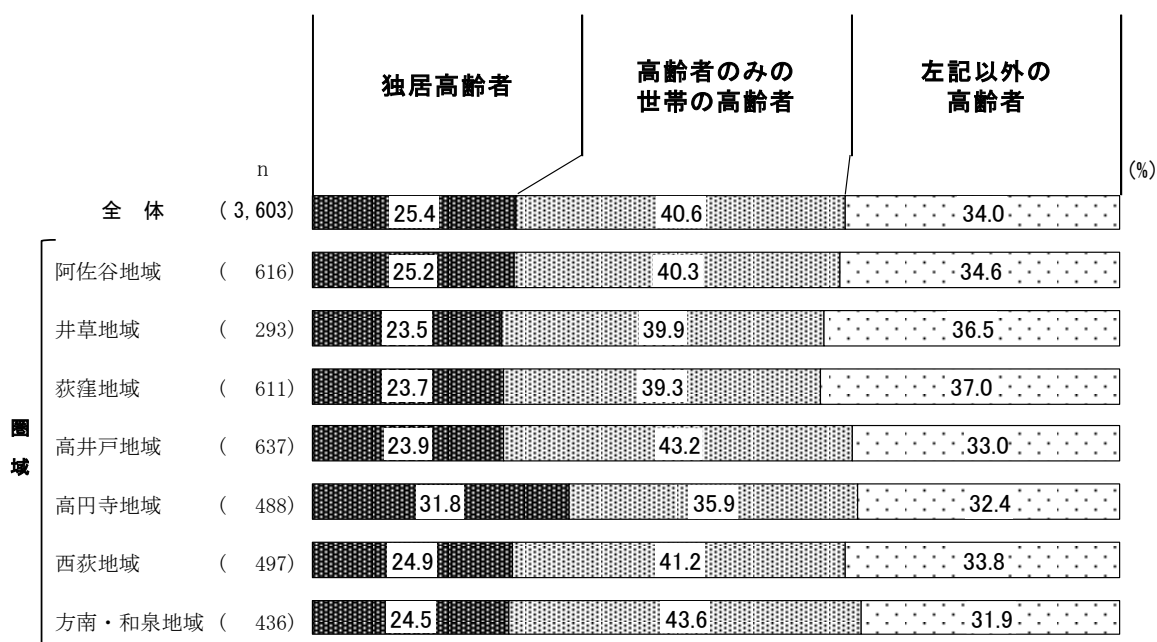
(2) 世帯構成

図表2-1-2 世帯構成



※「高齢者のみの世帯の高齢者」は、高齢者のみ2人以上の世帯を指します。

図表2-1-3 世帯構成／圏域別



(3) 性別・年齢

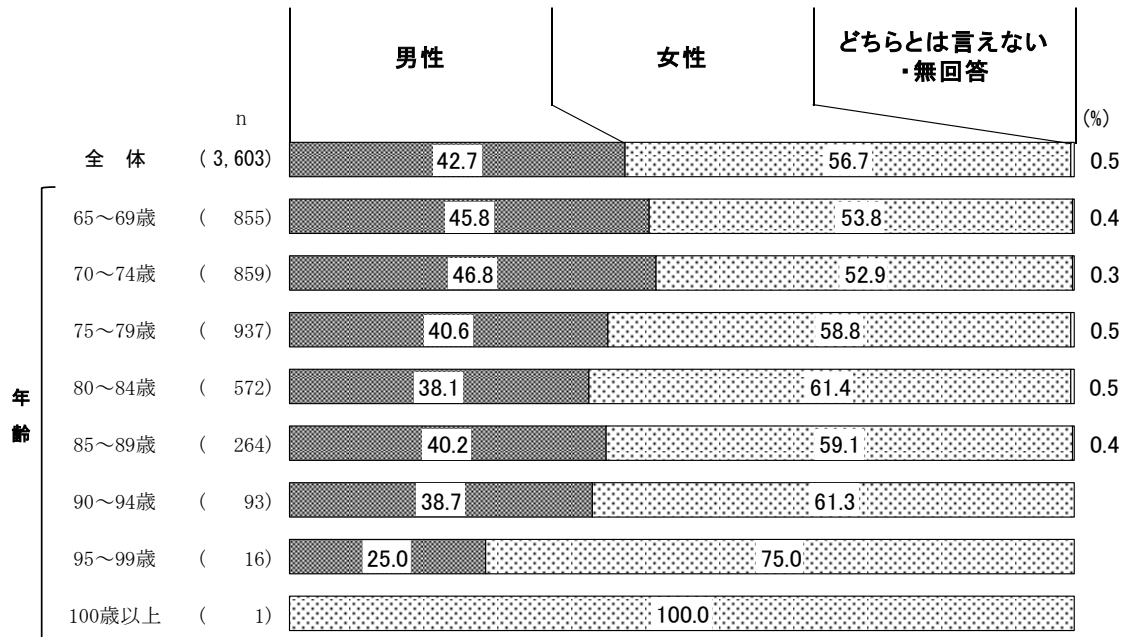
- 問1 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)
 問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

図表2-1-4 性別・年齢

(上段:人数、下段:構成比)

	全体	男性	女性	どちらとは言えない	無回答
65～69歳	855 100.0%	392 45.8%	460 53.8%	-	3 0.4%
70～74歳	859 100.0%	402 46.8%	454 52.9%	-	3 0.3%
75～79歳	937 100.0%	380 40.6%	551 58.8%	1 0.1%	5 0.5%
80～84歳	572 100.0%	218 38.1%	351 61.4%	-	3 0.5%
85～89歳	264 100.0%	106 40.2%	156 59.1%	1 0.4%	1 0.4%
90～94歳	93 100.0%	36 38.7%	57 61.3%	-	-
95～99歳	16 100.0%	4 25.0%	12 75.0%	-	-
100歳以上	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-
無回答	6 100.0%	1 16.7%	1 16.7%	-	4 66.7%
全体	3,603 100.0%	1,539 42.7%	2,043 56.7%	2 0.1%	19 0.5%

図表2-1-5 性別／年齢別



2. 家族や生活の状況について

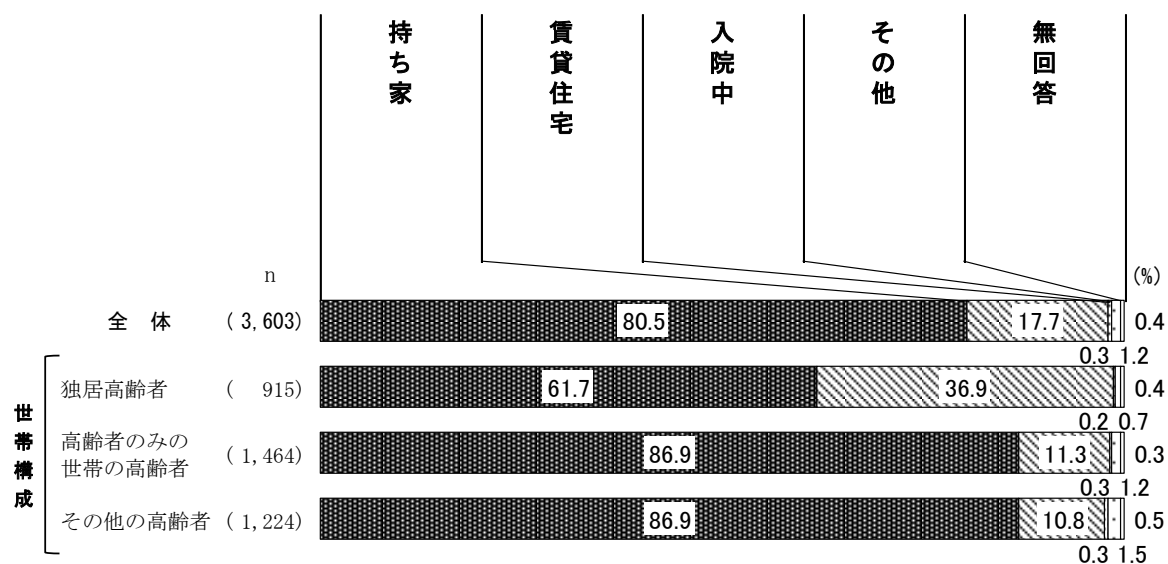
(1) 生活している場所

問3 あなたが現在、生活している場所について教えてください。(〇は1つ)

現在、生活している場所については、「持ち家」が80.5%と最も高くなっています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「持ち家」が61.7%と低く、「賃貸住宅」が36.9%と高くなっています。

図表2-2-1 生活している場所／世帯構成別



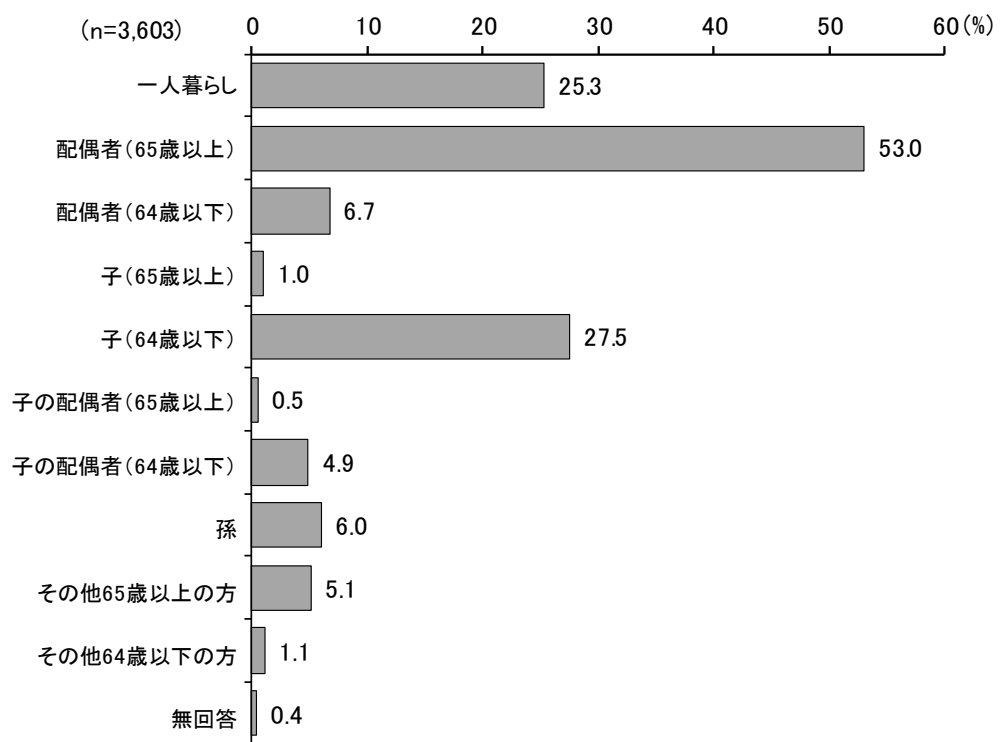
「その他」の回答内容 (上位3項目)	件数
家族・親戚の家	26
社宅	5
老人ホーム	5

(2) 同居家族

問4 現在、一緒に暮らしている（2世帯住宅を含む）ご家族を教えてください。
 （一人暮らし以外の場合、〇はいくつでも）
 ※ 配偶者には事実婚の相手や同性パートナーを含みます。

同居家族については、「配偶者（65歳以上）」が53.0%と最も高く、次いで「子（64歳以下）」（27.5%）、「一人暮らし」（25.3%）と続いています。

図表2-2-2 同居家族

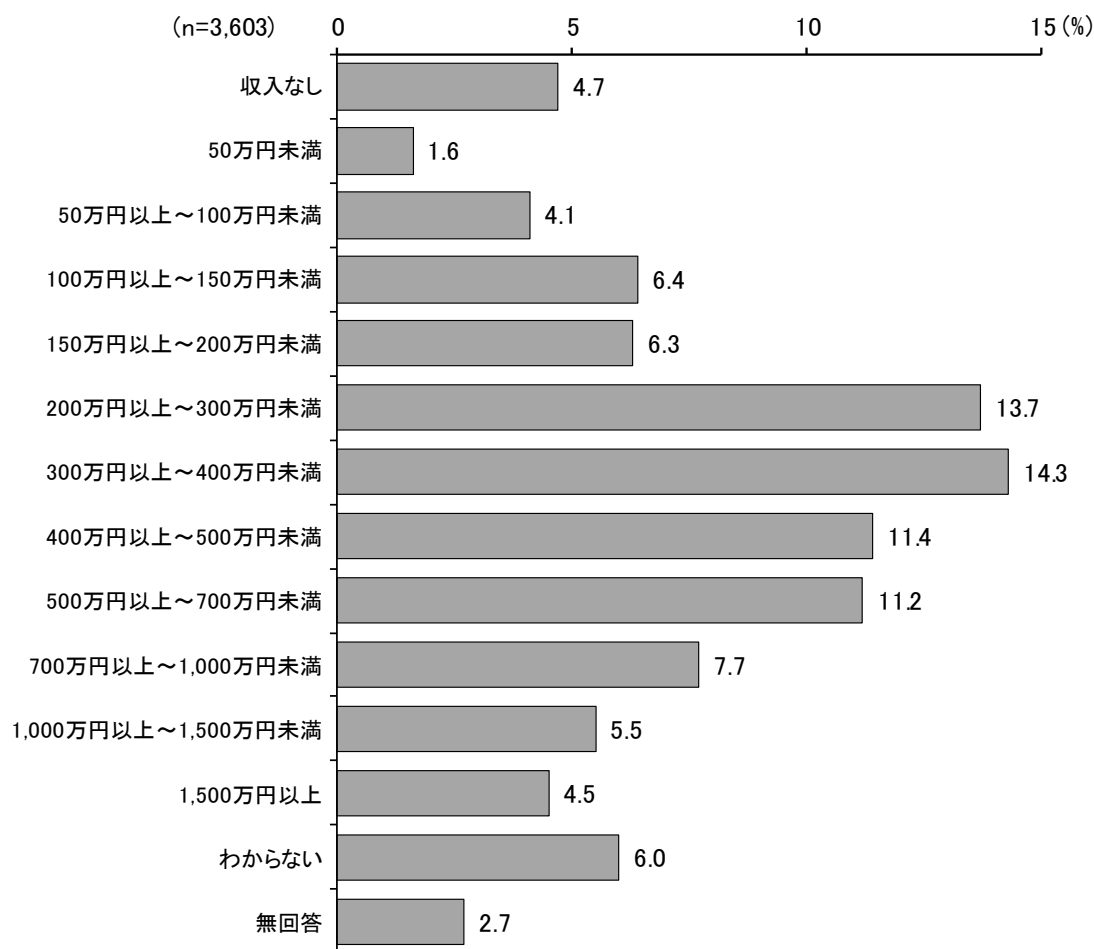


(3) 昨年1年間の世帯収入

問5 昨年1年間の世帯（問4でご回答いただいたご家族すべてを含む）の収入はどのくらいでしたか。（〇は1つ）

昨年1年間の世帯収入については、「300万円以上～400万円未満」が14.3%と最も高く、次いで「200万円以上～300万円未満」（13.7%）、「400万円以上～500万円未満」（11.4%）と続いています。

図表2-2-3 昨年1年間の世帯収入



昨年1年間の世帯収入を「200万円未満」、「200万円以上～500万円未満」、「500万円以上」に分け、年齢別で見ると、【65～69歳】は「500万円以上」が最も高く、その他の年齢層は「200万円以上～500万円未満」が最も高くなっています。また、「200万円未満」は年齢が上がるほど割合が高くなっています。

図表2-2-4 昨年1年間の世帯収入／年齢別

		回答者数 (n)	200万円 未満	200万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上	わから ない	無回答
全体		3,603	23.0	39.4	28.8	6.0	2.7
年齢	65～69歳	855	16.0	34.9	42.6	5.1	1.4
	70～74歳	859	21.7	39.7	30.7	5.9	2.0
	75～79歳	937	23.8	43.3	24.2	5.7	3.0
	80～84歳	572	29.7	40.9	20.3	5.2	3.8
	85～89歳	264	29.9	38.6	17.8	11.0	2.7
	90歳以上	110	30.0	34.5	19.1	9.1	7.3

世帯構成と性別で見ると、【独居高齢者】は男女共に「200万円未満」が最も高く、その割合は【女性】の方が高くなっています。【高齢者のみの世帯の高齢者】は「200万円以上～500万円未満」が最も高く、性別では差が見られませんでした。【その他の高齢者】は男女共に「500万円以上」が最も高く、その割合は【男性】の方が高くなっています。

図表2-2-5 昨年1年間の世帯収入／世帯構成×性別

		回答者数 (n)	200万円 未満	200万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上	わから ない	無回答
全体		3,603	23.0	39.4	28.8	6.0	2.7
世帯 構成 × 性別	独居高齢者	915	52.7	35.7	7.5	1.5	2.5
	男性	288	45.1	38.5	12.5	2.1	1.7
	女性	621	56.4	34.6	5.3	1.3	2.4
	高齢者のみの世帯の高齢者	1,464	14.3	48.7	30.9	3.3	2.7
	男性	694	15.1	48.8	32.3	2.3	1.4
	女性	761	13.4	48.8	29.8	4.3	3.7
	その他の高齢者	1,224	11.3	31.0	42.2	12.6	2.9
	男性	557	7.0	32.0	53.3	6.3	1.4
女性	661	14.8	30.3	33.0	17.9	4.1	

(4) 経済的にみた暮らしの状況

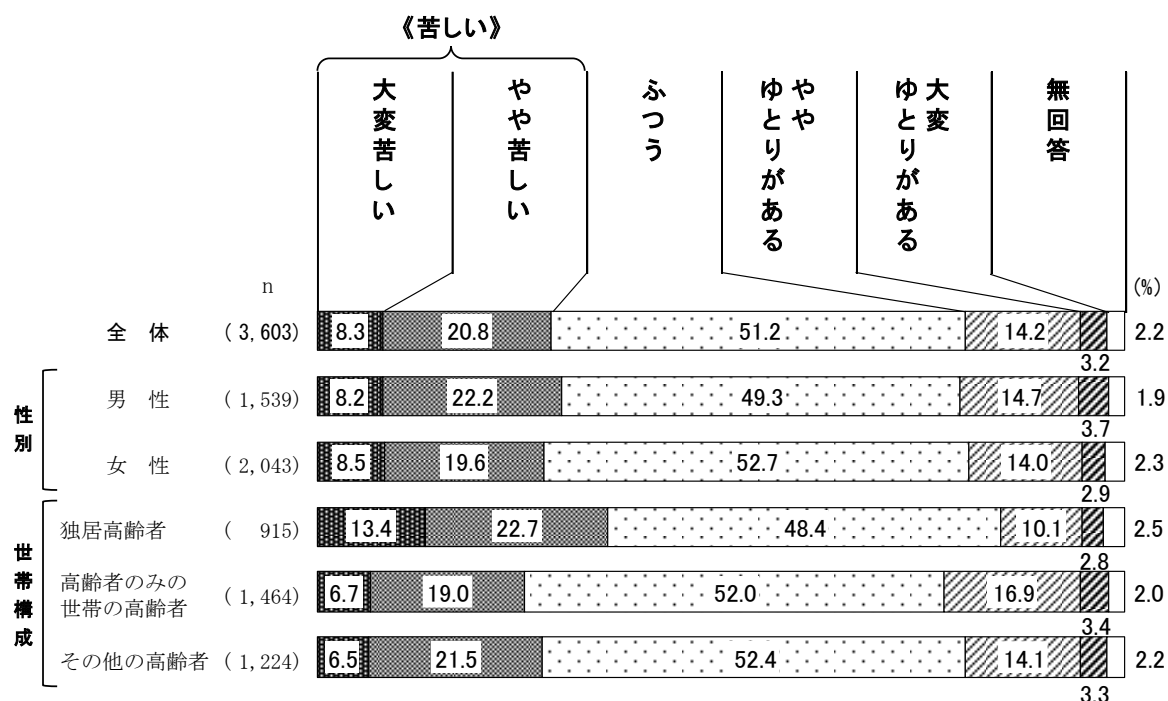
問6 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

現在の暮らしの状況については、「ふつう」が51.2%で最も高くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した《苦しい》は29.1%となっています。

性別では大きな差は見られません。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は《苦しい》が36.2%で、他の層と比べて高くなっています。

図表2-2-6 経済的にみた暮らしの状況／性別・世帯構成別



(5) 就業状況・就業意向

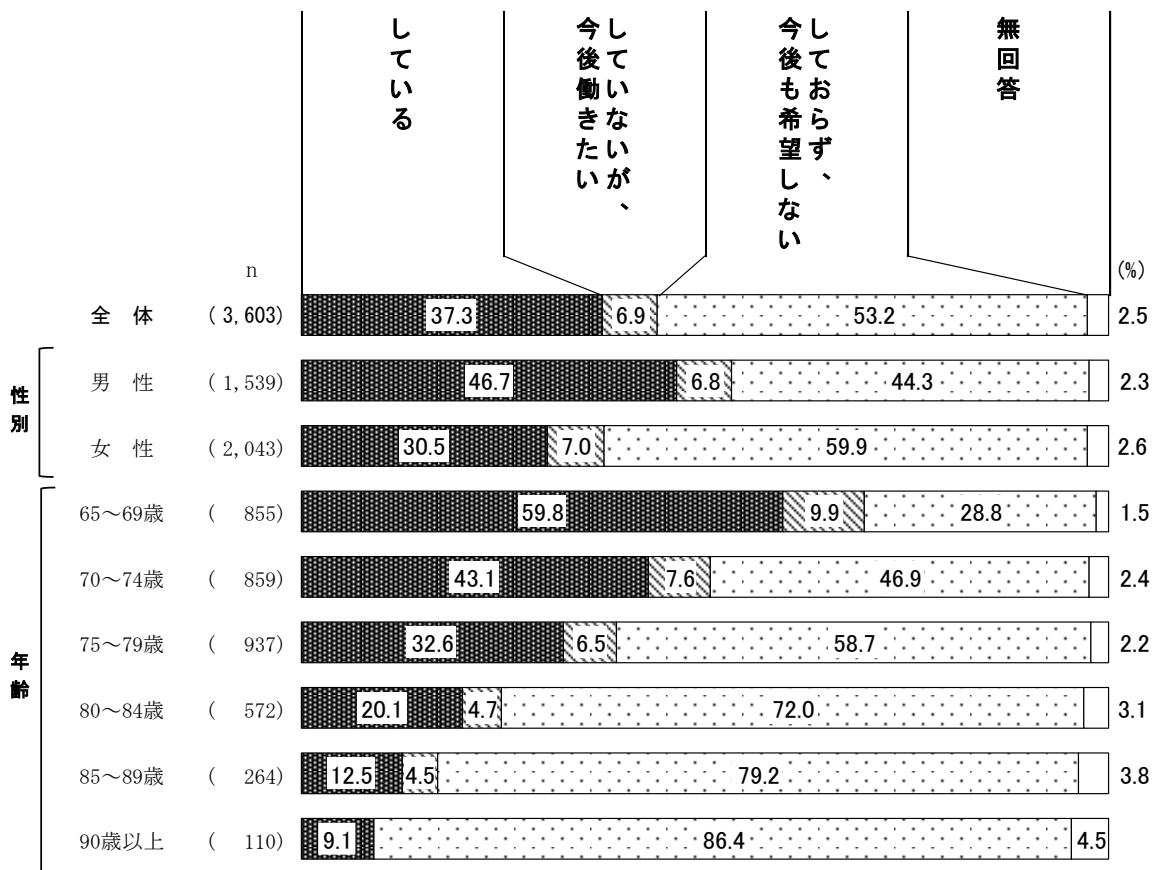
問7 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(○は1つ)

就業状況・就業意向については、「しておらず、今後も希望しない」が53.2%と最も高く、次いで「している」(37.3%)、「していないが、今後働きたい」(6.9%)となっています。

性別で見ると、【男性】は「している」の割合が46.7%で最も高く、【女性】は「しておらず、今後も希望しない」の割合が59.9%で最も高くなっています。

年齢別で見ると、「している」の割合は【65～69歳】が59.8%で最も高く、年齢が上がるほど低くなっています。

図表2-2-7 就業状況・就業意向／性別・年齢別



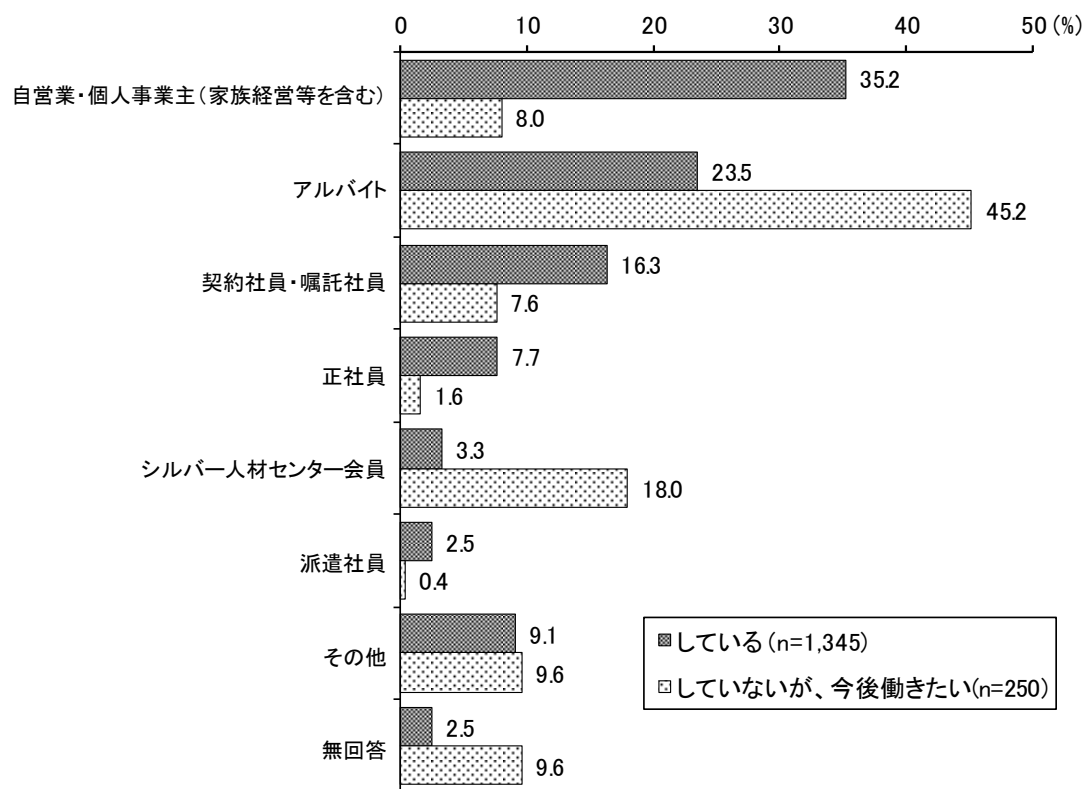
(6) 現在の仕事・希望する仕事

問8 仕事をしている方は現在の仕事、していないが今後働きたい方は希望する仕事を教えてください。(○は1つ)

収入のある仕事を【している】人の現在の仕事は、「自営業・個人事業主（家族経営等を含む）」が35.2%で最も高く、次いで「アルバイト」（23.5%）、「契約社員・嘱託社員」（16.3%）と続いています。

収入のある仕事を【していないが、今後働きたい】人の希望する仕事は、「アルバイト」が45.2%で最も高く、次いで「シルバー人材センター会員」（18.0%）、「その他」（9.6%）と続いています。

図表2-2-8 現在の仕事・希望する仕事／就業状況別

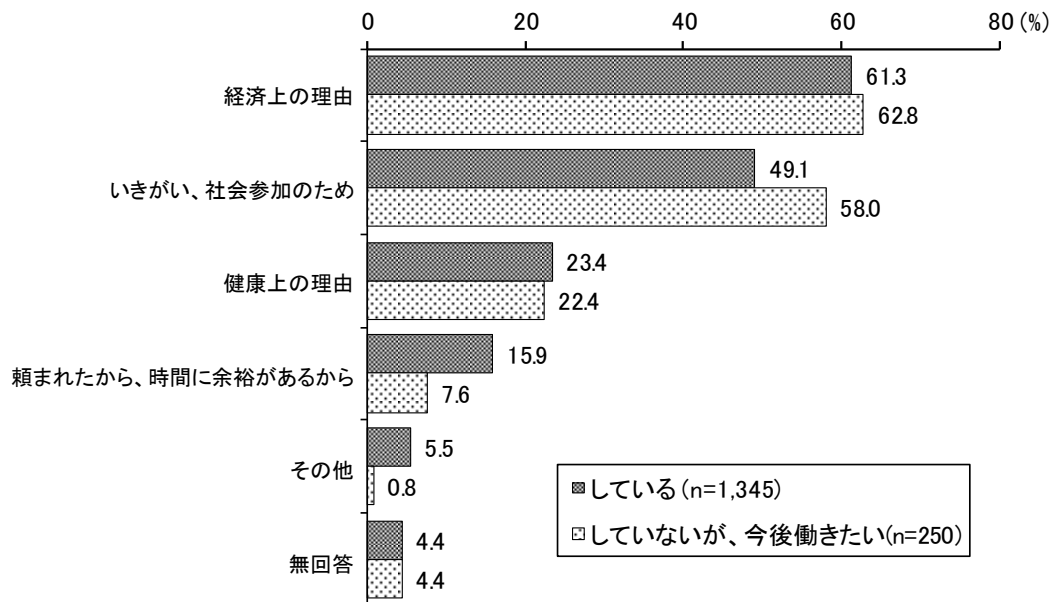


(7) 仕事をしている・働きたい理由

問9 あなたが仕事をしている、または今後働きたい理由はなんですか。(〇はいくつでも)

収入のある仕事を【している】人が仕事をしている理由と【していないが、今後働きたい】人の今後働きたい理由は、いずれも「経済上の理由」、「いきがい、社会参加のため」、「健康上の理由」が上位3位となっていますが、「いきがい、社会参加のため」は【していないが、今後働きたい】人の方が高く、「頼まれたから、時間に余裕があるから」は【している】人の方が高くなっています。

図表2-2-9 仕事をしている・働きたい理由／就業状況別



問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】、【やや苦しい】、【ふつう】と回答した人は「経済上の理由」が最も高く、【ややゆとりがある】、【大変ゆとりがある】と回答した人は「いきがい、社会参加のため」が最も高くなっています。

図表2-2-10 仕事をしている・働きたい理由／経済的にみた暮らしの状況別

		回答者数 (n)	経済上の理由	いきがい、社会参加のため	健康上の理由	頼まれたから、時間に余裕があるから	その他	無回答
全体		1,595	61.6	50.5	23.3	14.6	4.8	4.4
暮らしの状況	大変苦しい	158	91.1	30.4	17.7	3.8	2.5	1.9
	やや苦しい	389	84.6	47.6	24.2	6.9	2.1	3.3
	ふつう	752	55.2	53.7	26.2	17.2	4.1	4.3
	ややゆとりがある	232	34.9	58.2	18.1	23.3	10.3	7.3
	大変ゆとりがある	57	12.3	52.6	15.8	28.1	15.8	8.8

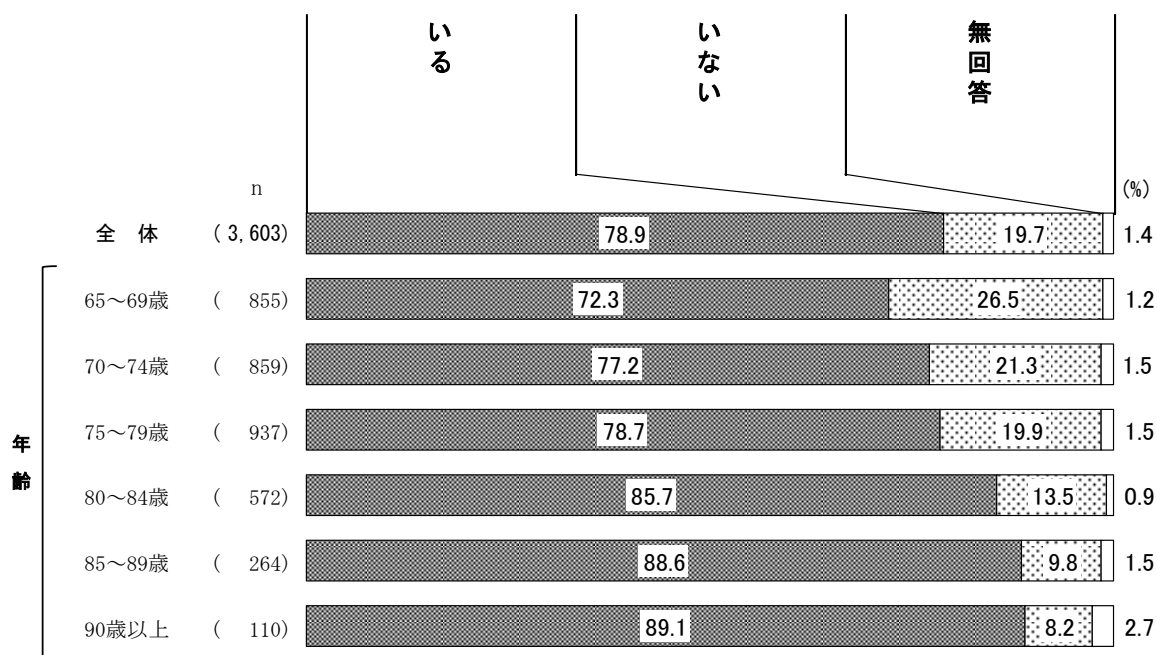
3. 医療・健康状態について

(1) かかりつけ医の有無

問10 あなたにはかかりつけ医がいますか。(〇は1つ)

かかりつけ医の有無については、「いる」が78.9%、「いない」が19.7%となっています。
年齢別で見ると、「いる」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

図表2-3-1 かかりつけ医の有無／年齢別



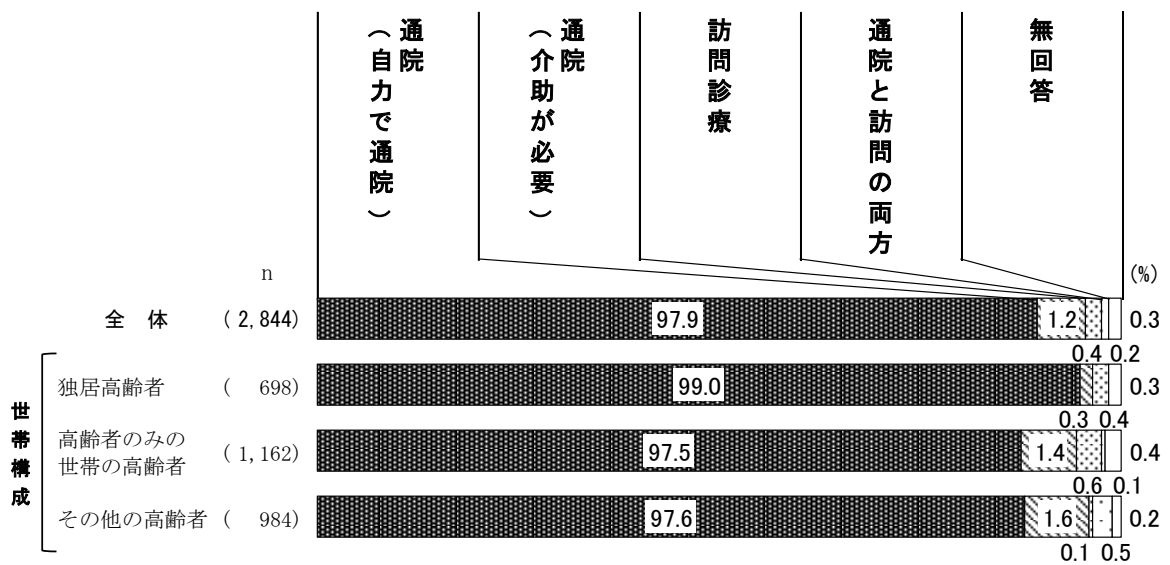
(2) かかりつけ医の診療方法

問11 かかりつけ医の診療方法を教えてください。(〇は1つ)

かかりつけ医がいる人の診療方法については、「通院（自力で通院）」が97.9%で最も高くなっています。

世帯構成別で見ると、いずれも「通院（自力で通院）」が9割台後半となっています。

図表2-3-2 かかりつけ医の診療方法／世帯構成別



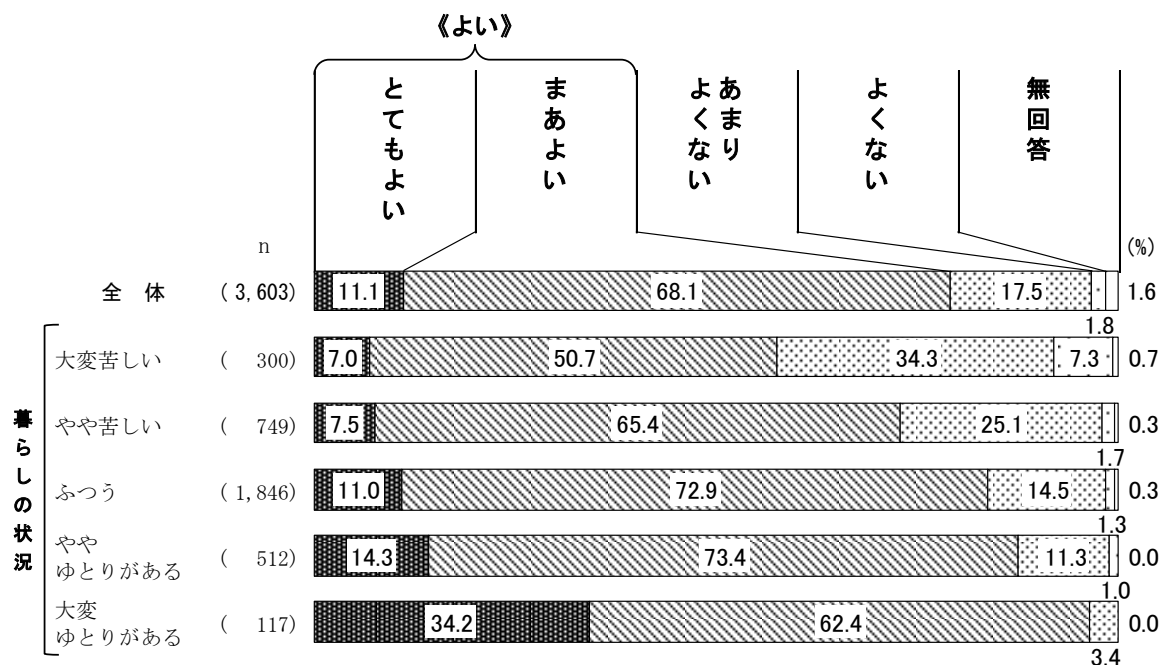
(3) 現在の健康状態

問12 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

現在の健康状態については、「まあよい」が68.1%で最も高くなっています。また、「とてもよい」と「まあよい」を合計した《よい》の割合は79.2%となっています。

問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「とてもよい」の割合は【大変苦しい】、【やや苦しい】と回答した人は1割未満となっていますが、【大変ゆとりがある】と回答した人では34.2%と高くなっています。

図表2-3-3 現在の健康状態／経済的にみた暮らしの状況別

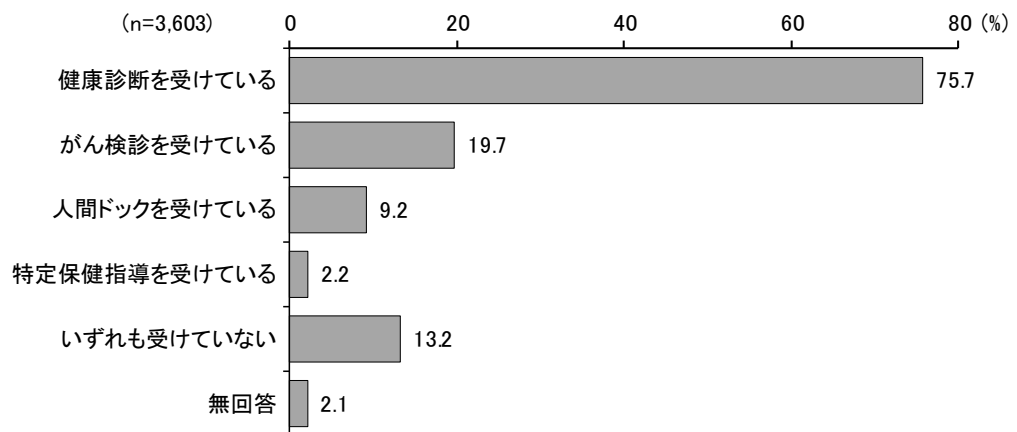


(4) 健康診断の受診状況

問 13 あなたは定期的に健康診断を受診していますか。(〇はいくつでも)

健康診断の受診状況については、「健康診断を受けている」が75.7%で最も高く、次いで「がん検診を受けている」(19.7%)、「いずれも受けていない」(13.2%)と続いています。

図表 2-3-4 健康診断の受診状況



年齢別で見ると、「健康診断を受けている」の割合は【90歳以上】(86.4%)で8割を超え、最も高くなっています。

図表 2-3-5 健康診断の受診状況／年齢別

		回答者数 (n)	健康診断 を受けて いる	がん検診 を受けて いる	人間ドック を受けて いる	特定保健 指導を受 けている	いずれも 受けてい ない	無回答
全体		3,603	75.7	19.7	9.2	2.2	13.2	2.1
年齢	65～69歳	855	72.7	18.7	18.0	2.6	10.6	1.6
	70～74歳	859	72.2	19.9	11.4	2.1	14.1	2.0
	75～79歳	937	77.1	22.7	4.7	2.6	15.2	2.3
	80～84歳	572	79.7	20.3	3.7	2.1	11.9	2.1
	85～89歳	264	78.8	15.9	4.2	1.1	15.5	1.5
	90歳以上	110	86.4	5.5	1.8	1.8	10.9	2.7

第2章 高齢者実態調査

問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「人間ドックを受けている」の割合は【大変ゆとりがある】と回答した人で32.5%と高くなっています。また、「いずれも受けていない」の割合は経済的にみた暮らしの状況が苦しい人ほど高くなっています。

図表2-3-6 健康診断の受診状況／経済的にみた暮らしの状況別

			(%)					
		回答者数 (n)	健康診断 を受けて いる	がん検診 を受けて いる	人間ドック を受けて いる	特定保健 指導を受 けている	いずれも 受けてい ない	無回答
全体		3,603	75.7	19.7	9.2	2.2	13.2	2.1
暮 ら し の 状 況	大変苦しい	300	74.7	17.0	3.0	1.3	18.7	1.7
	やや苦しい	749	77.7	18.2	5.9	2.4	14.7	0.8
	ふつう	1,846	76.9	20.6	9.3	2.4	12.9	0.7
	ややゆとりがある	512	77.5	21.7	12.9	2.3	10.2	0.2
	大変ゆとりがある	117	70.9	19.7	32.5	1.7	8.5	0.9

問12の健康状態別で見ると、【よくない】と回答した人は「健康診断を受けている」、「がん検診を受けている」の割合が他の層と比べて最も低く、「いずれも受けていない」の割合が他の層と比べて最も高くなっています。また、「人間ドックを受けている」の割合は【あまりよくない】、【よくない】と回答した人が【とてもよい】、【まあよい】と回答した人と比べて低くなっています。

図表2-3-7 健康診断の受診状況／健康状態別

			(%)					
		回答者数 (n)	健康診断 を受けて いる	がん検診 を受けて いる	人間ドック を受けて いる	特定保健 指導を受 けている	いずれも 受けてい ない	無回答
全体		3,603	75.7	19.7	9.2	2.2	13.2	2.1
健 康 状 態	とてもよい	399	77.2	20.3	11.8	1.5	12.5	1.0
	まあよい	2,453	77.5	20.0	10.2	2.4	12.3	0.5
	あまりよくない	630	74.8	20.5	4.4	2.2	16.7	1.3
	よくない	65	63.1	10.8	4.6	4.6	23.1	3.1

(5) 耳の聞こえの状態

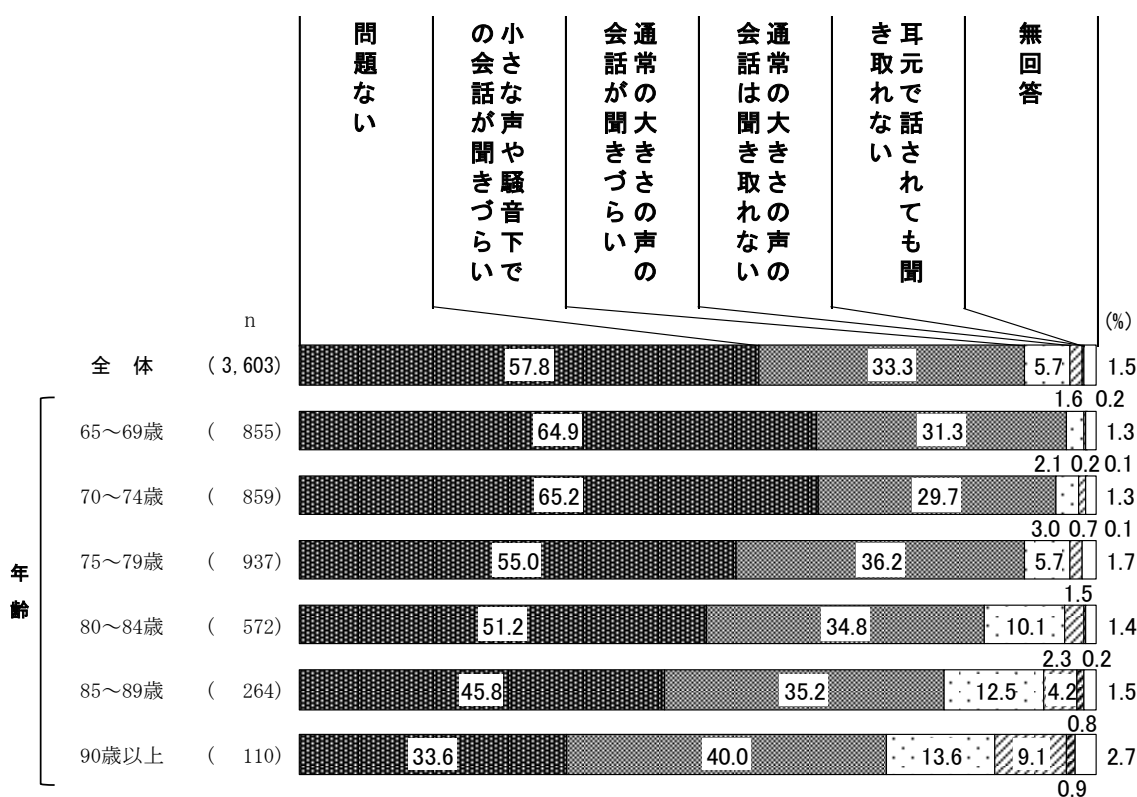
問 14 現在の耳の聞こえの状態はいかがですか。(○は1つ)

※ 普段から補聴器を使用している方は使用した状態でお答えください。

耳の聞こえの状態については、「問題ない」が57.8%で最も高く、次いで「小さな声や騒音下での会話が聞きづらい」(33.3%)、「通常の大きさの声の会話が聞きづらい」(5.7%)と続いています。

年齢別で見ると、「問題ない」の割合は【65～69歳】と【70～74歳】では6割台半ばとなっていますが、75歳以上は年齢が上がるほど低くなり、【90歳以上】では「問題ない」(33.6%)よりも「小さな声や騒音下での会話が聞きづらい」(40.0%)の方が高くなっています。

図表 2-3-8 耳の聞こえの状態／年齢別



世帯構成別で見ると、「問題ない」の割合は【その他の高齢者】が53.8%で他の層と比べて最も低くなっています。

図表 2-3-9 耳の聞こえの状態／世帯構成別

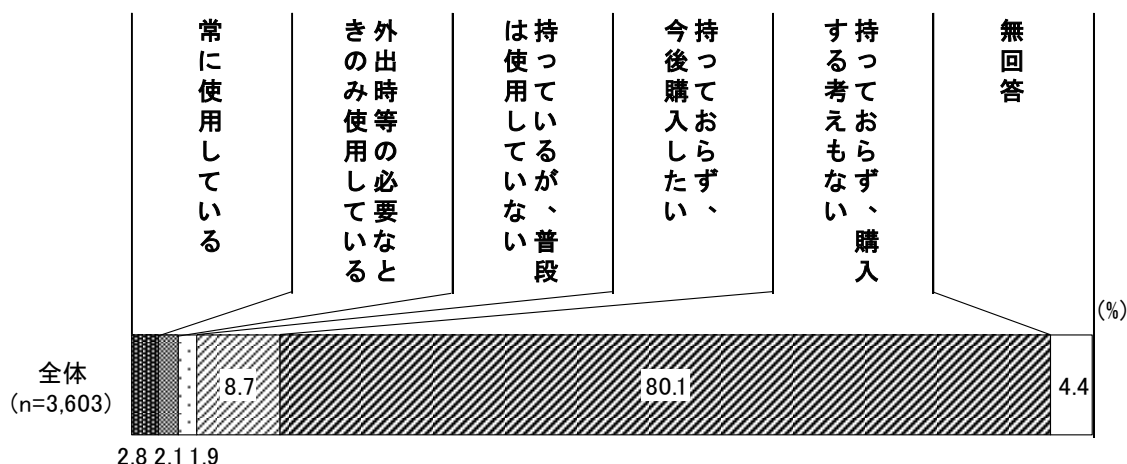
		回答者数 (n)	問題ない	小さな声や騒音下での会話が聞きづらい	通常の大きさの声の会話が聞きづらい	通常の大きさの声の会話は聞き取れない	耳元で話されても聞き取れない	無回答
全体		3,603	57.8	33.3	5.7	1.6	0.2	1.5
世帯構成	独居高齢者	915	60.0	31.9	5.2	0.8	0.2	1.9
	高齢者のみの世帯の高齢者	1,464	59.8	32.0	5.3	1.4	0.1	1.4
	その他の高齢者	1,224	53.8	35.9	6.4	2.4	0.2	1.5

(6) 補聴器の使用状況

問 15 現在、補聴器を使用していますか。(○は1つ)

補聴器の使用状況については、「持っておらず、購入する考えもない」が80.1%で最も高く、他の項目はすべて1割を下回っています。

図表 2-3-10 補聴器の使用状況



性・年齢別で見ると、「持っておらず、購入する考えもない」の割合は男女共に年齢が上がるほど低く、その他の項目は「外出時等の必要なときのみ使用している」を除き、概ね年齢が上がるほど高くなっています。また、「常に使用している」は【男性90歳以上】で1割を超え、他の年齢層と比べて高くなっています。

図表 2-3-11 補聴器の使用状況／性・年齢別

		回答者数 (n)	常に使用している	外出時等の必要なときのみ使用している	持っているが、普段は使用していない	持っておらず、今後購入したい	持っておらず、購入する考えもない	無回答
全体		3,603	2.8	2.1	1.9	8.7	80.1	4.4
性・年齢	男性65～69歳	392	1.0	1.0	0.5	4.1	91.6	1.8
	男性70～74歳	402	1.5	0.7	1.0	6.2	87.3	3.2
	男性75～79歳	380	3.4	1.8	2.1	8.9	79.7	3.9
	男性80～84歳	218	5.5	5.5	2.3	12.4	71.6	2.8
	男性85～89歳	106	7.5	8.5	7.5	12.3	59.4	4.7
	男性90歳以上	40	12.5	5.0	7.5	12.5	55.0	7.5
	女性65～69歳	460	0.7	1.1	0.2	4.1	90.2	3.7
	女性70～74歳	454	0.7	0.7	0.9	6.4	86.1	5.3
	女性75～79歳	551	2.2	1.5	0.9	10.3	80.6	4.5
	女性80～84歳	351	6.3	3.7	3.4	14.2	66.1	6.3
	女性85～89歳	156	5.8	3.8	5.1	16.0	60.3	9.0
	女性90歳以上	70	5.7	7.1	10.0	15.7	57.1	4.3

問14の耳の聞こえの状態別で見ると、【通常の大きさの声の会話は聞き取れない】と回答した人は「常に使用している」が41.1%で最も高くなっています。

図表2-3-12 補聴器の使用状況／耳の聞こえの状態別

(%)

		回答者数 (n)	常に使用 している	外出時等 の必要な ときのみ 使用して いる	持ってい るが、普 段は使用 していない	持ってお らず、今 後購入し たい	持ってお らず、購 入する考 えもない	無回答
全体		3,603	2.8	2.1	1.9	8.7	80.1	4.4
耳の聞こえの状態	問題ない	2,082	0.6	0.1	0.1	0.8	93.7	4.7
	小さな声や騒音下での会話が聞きづらい	1,200	3.3	3.4	2.7	19.3	70.7	0.8
	通常の大きさの声の会話が聞きづらい	204	13.7	11.3	12.7	26.5	35.3	0.5
	通常の大きさの声の会話は聞き取れない	56	41.1	14.3	8.9	19.6	16.1	-
	耳元で話されても聞き取れない	6	-	33.3	-	-	50.0	16.7

4. 認知症について

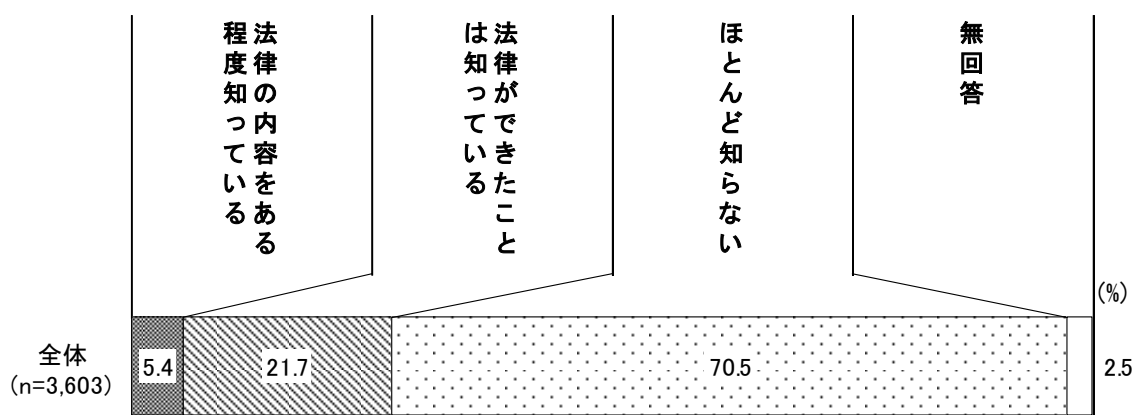
(1) 認知症についての知識・印象など

問16 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

(1) 令和6年1月1日に「認知症基本法」が施行されたことを知っていますか。(○は1つ)

「認知症基本法」については、「ほとんど知らない」が70.5%で最も高く、次いで「法律ができたことは知っている」(21.7%)、「法律の内容をある程度知っている」(5.4%)となっています。

図表2-4-1 「認知症基本法」について

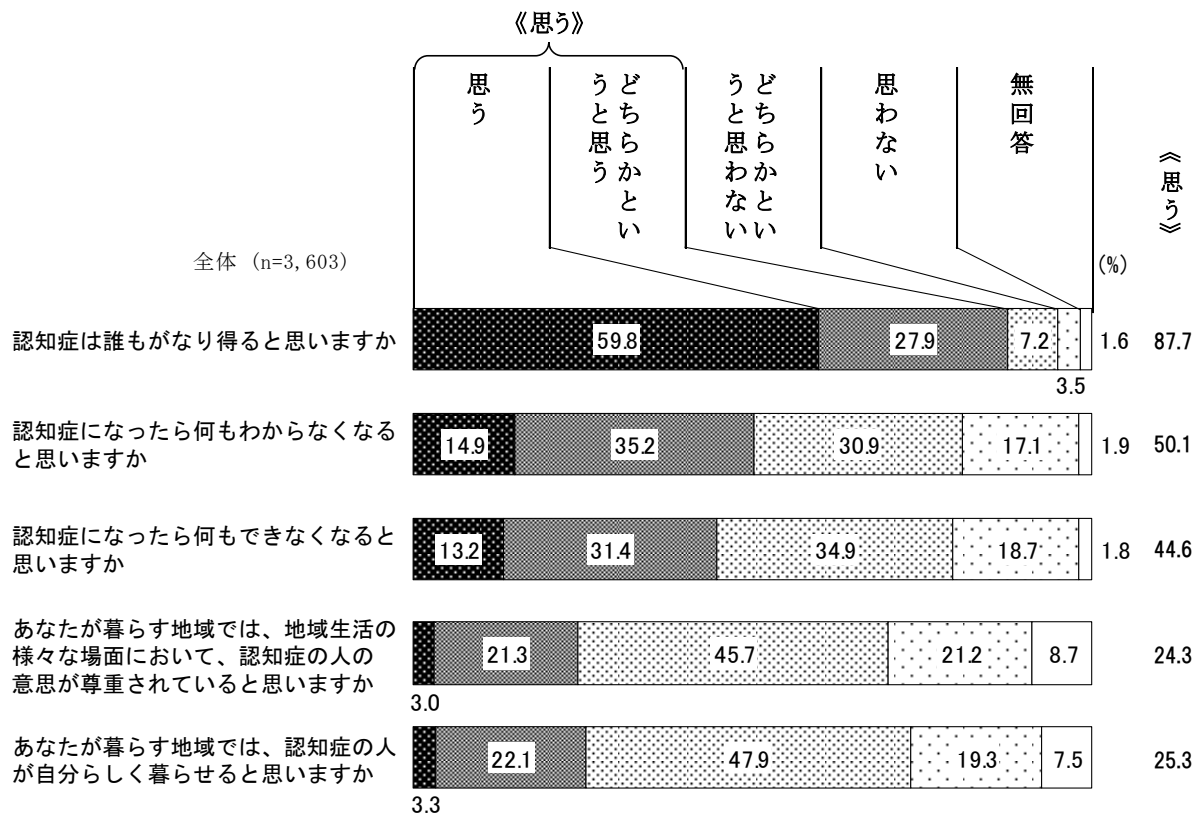


問 16 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
(○は1つずつ)

- (2) 認知症は誰もがなり得ると思いますか。
- (3) 認知症になったら何もわからなくなると思いますか。
- (4) 認知症になったら何もできなくなると思いますか。
- (5) あなたが暮らす地域では、地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されていると思いますか。
- (6) あなたが暮らす地域では、認知症の人が自分らしく暮らせると思いますか。

認知症の印象について、「思う」と「どちらかというと思う」を合計した《思う》の割合は、[認知症は誰もがなり得ると思いますか]が87.7%、[認知症になったら何もわからなくなると思いますか]と[認知症になったら何もできなくなると思いますか]は4割半ば～約5割、[あなたが暮らす地域では、地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されていると思いますか]と[あなたが暮らす地域では、認知症の人が自分らしく暮らせると思いますか]は2割台半ばとなっています。

図表2-4-2 認知症についての印象

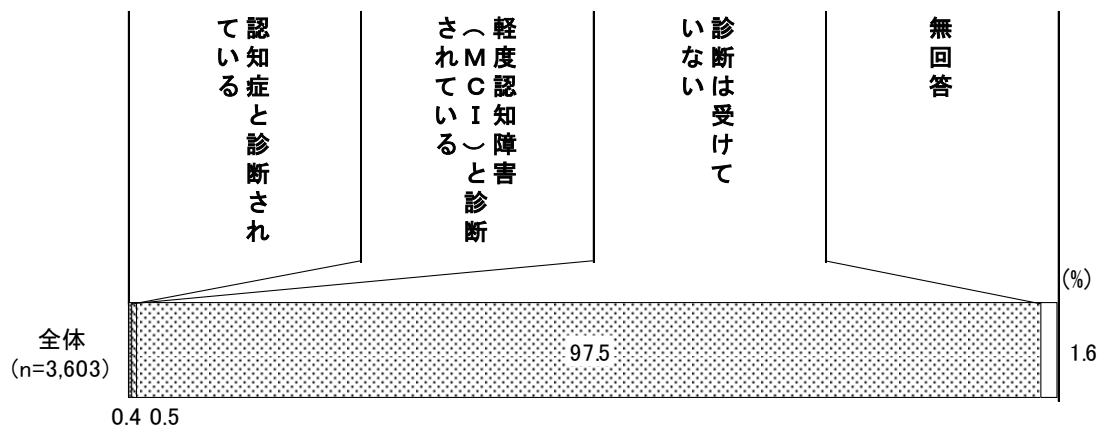


(2) 認知症の診断有無

問16 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (7) 認知症等の診断を受けていますか。(○は1つ)

認知症等の診断有無については、「診断は受けていない」が97.5%となっています。

図表2-4-3 認知症等の診断有無



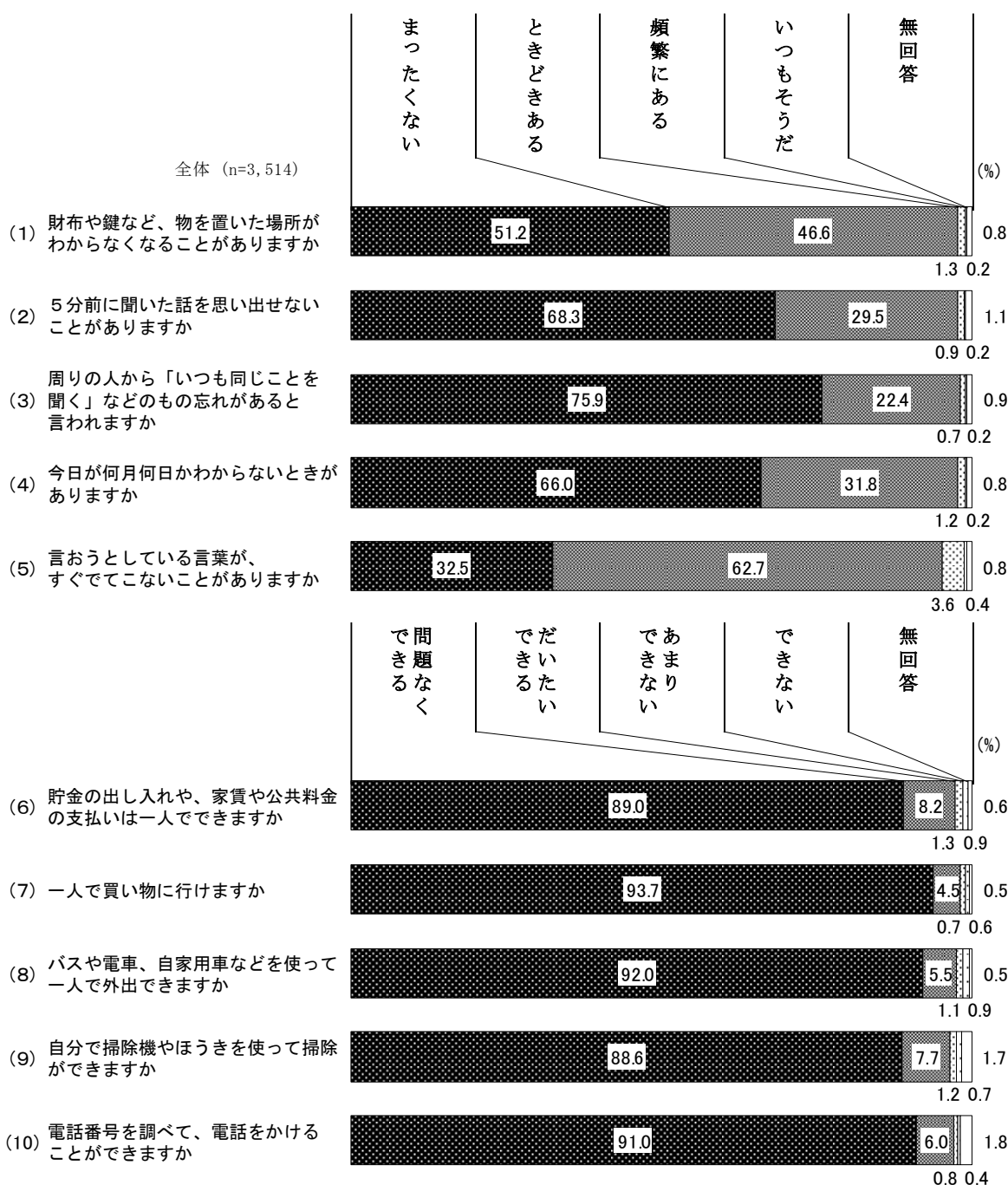
(3) 普段の暮らしの状況

問17 普段の暮らしの状況についてお伺いします。
次の(1)～(10)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

認知症の診断を受けていない人に普段の暮らしの状況についてたずねたところ、(1)～(5)では、「まったくない」の割合は、[言おうとしている言葉が、すぐでてこないことがありますか]で32.5%、[財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか]で51.2%となっており、その他の項目は6割を超えています。

(6)～(10)では、「問題なくできる」の割合は、いずれの項目も8割台後半以上となっています。

図表2-4-4 普段の暮らしの状況



(4) 認知症疑いの有無

問17(1)～(10)の回答結果から、下記の方法で認知症疑いの有無を判定しました。

○問17(1)～(10)の回答結果を下記の通り点数化して合計

(1)～(5) まったくない……1点	(6)～(10) 問題なくできる…1点
ときどきある……2点	だいたいできる…2点
頻繁にある……3点	あまりできない…3点
いつもそうだ……4点	できない……4点

○問16(7)の回答結果と合わせ、認知症疑い有無を判定

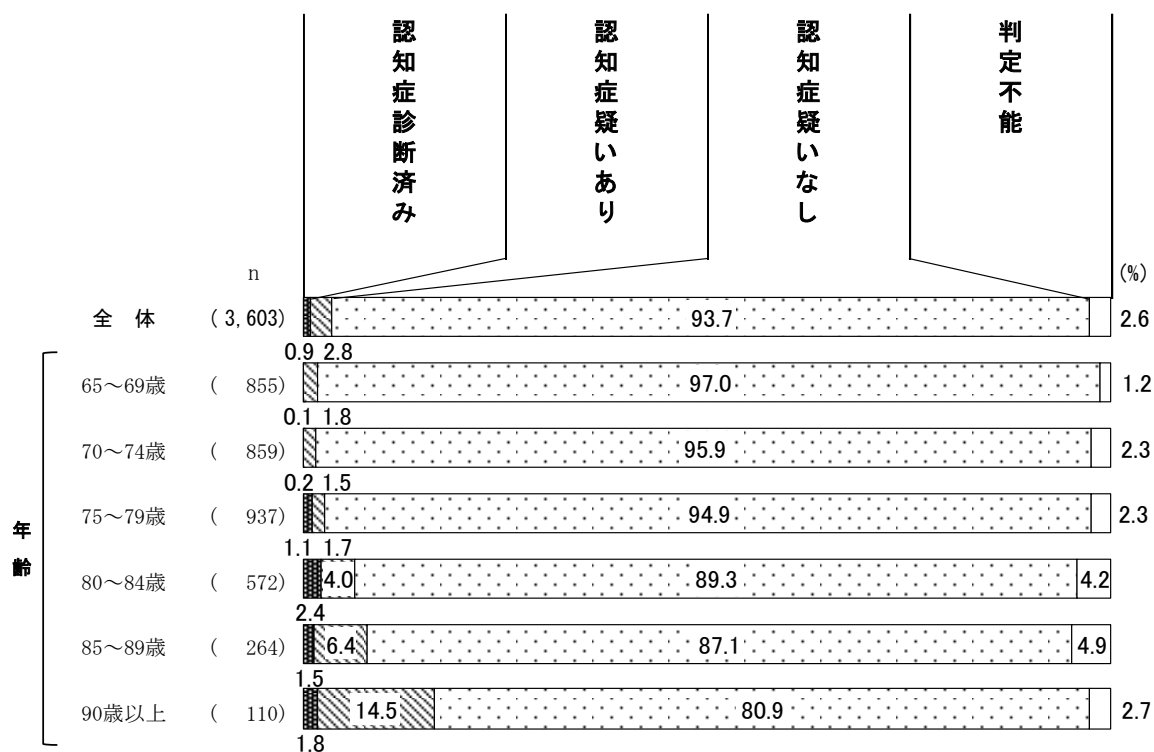
- ・認知症診断済み：問16(7)で「認知症と診断されている」または「軽度認知障害(MCI)と診断されている」と回答
- ・認知症疑いあり：合計点20点以上
- ・認知症疑いなし：合計点20点未満
- ・判定不能：無回答の項目があることにより判定不能

[参考] 自分でできる認知症の気づきチェックリスト／東京都健康長寿医療センター研究所

認知症疑いの有無については、「認知症疑いなし」が93.7%、「認知症疑いあり」が2.8%、「認知症診断済み」が0.9%となっています。

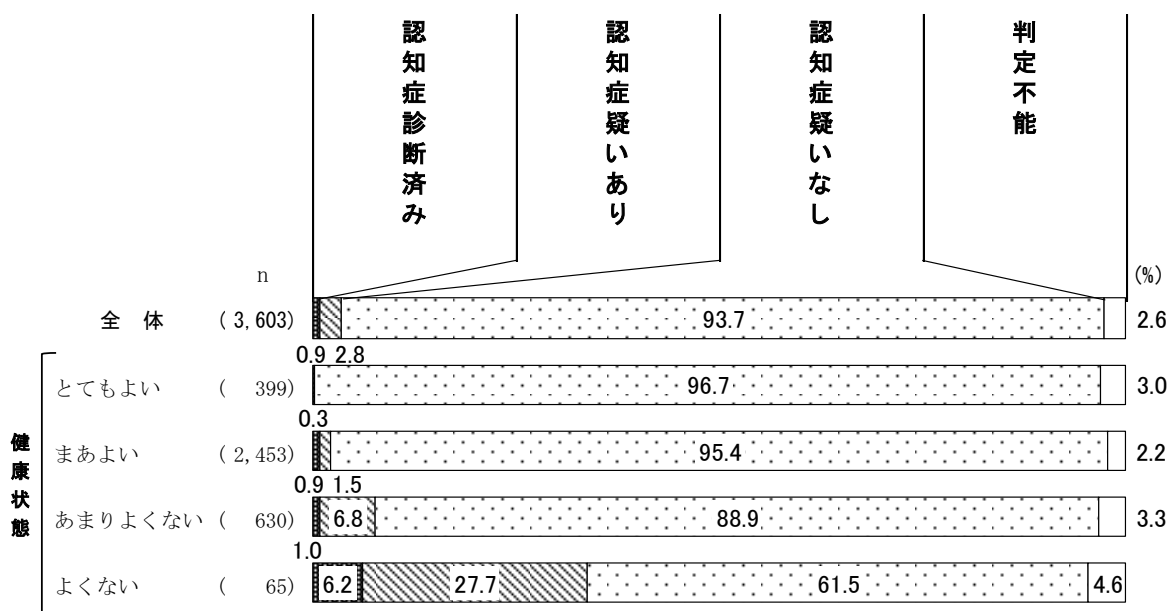
年齢別で見ると、「認知症疑いあり」の割合は70歳代以下では2%未満となっていますが、【80～84歳】は4.0%、【85～89歳】は6.4%、【90歳以上】は14.5%と年齢が上がるほど高くなっています。

図表2-4-5 認知症疑いの有無／年齢別



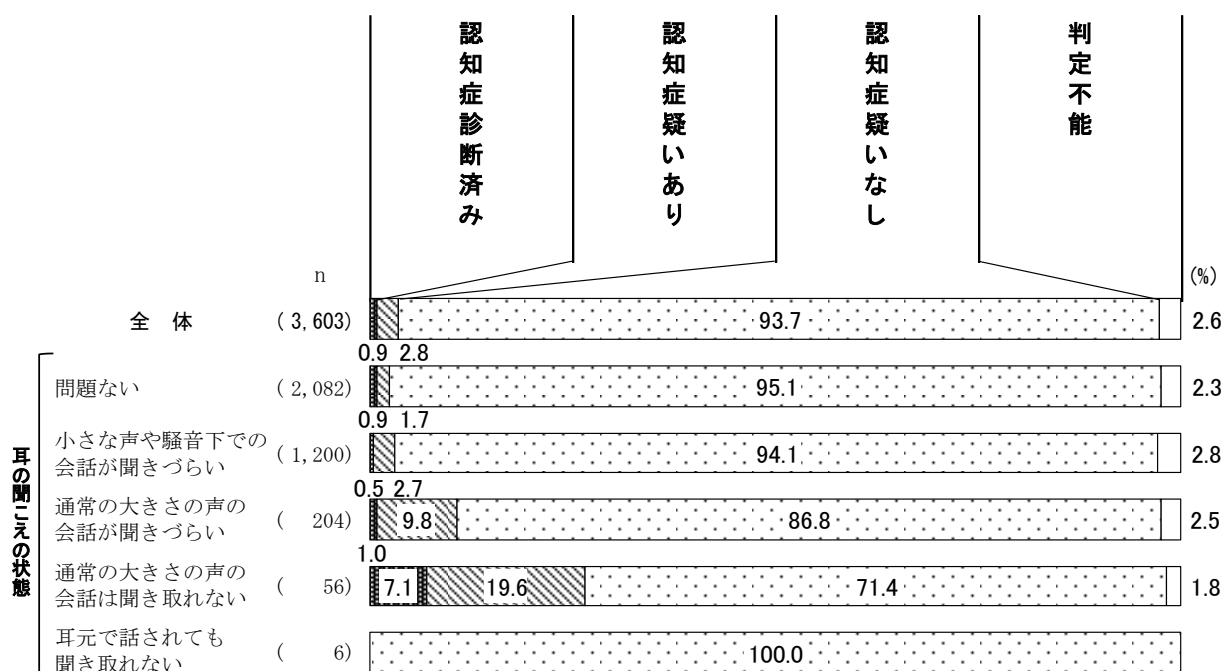
問12の健康状態別で見ると、「認知症疑いあり」の割合は【あまりよくない】と回答した人が6.8%、【よくない】と回答した人が27.7%と、【とてもよい】、【まあよい】と回答した人と比べて高くなっています。

図表2-4-6 認知症疑いの有無／健康状態別



問14の耳の聞こえの状態別で見ると、「認知症疑いあり」の割合は【通常の大きさの声の会話が聞きづらい】と回答した人が9.8%、【通常の大きさの声の会話は聞き取れない】と回答した人が19.6%と、他の層と比べて高くなっています。

図表2-4-7 認知症疑いの有無／耳の聞こえの状態別

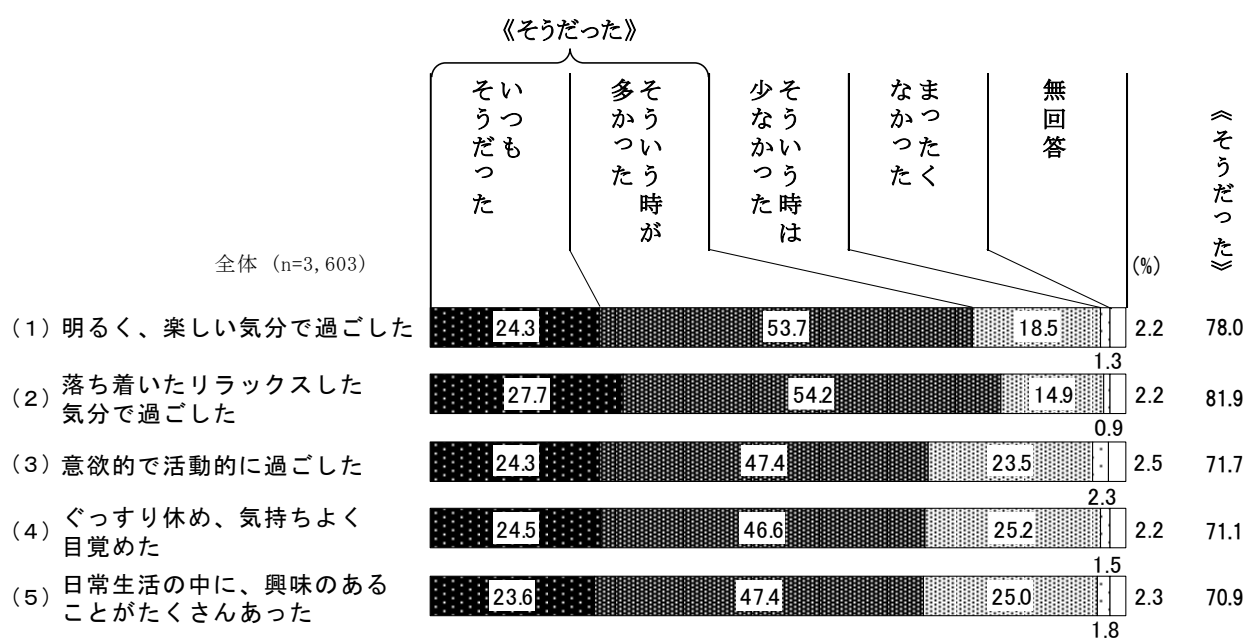


(5) 最近2週間の過ごし方

問18 次の(1)～(5)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

最近2週間の過ごし方については、すべての項目において「そういう時が多かった」が4割台後半～5割台前半で最も高く、「いつもそうだった」と「そういう時が多かった」を合計した《そうだった》の割合は、「明るく、楽しい気分で過ごした」と「落ち着いたリラックスした気分で過ごした」で8割前後、その他の項目では約7割となっています。

図表2-4-8 最近2週間の過ごし方



(6) 精神的健康状態

問18(1)～(5)の回答結果から、下記の方法で精神的健康状態悪化の有無を判定しました。

○問18(1)～(5)について、回答結果を下記の通り点数化して合計

まったくなかった……………0点

そういう時は少なかった…1点

そういう時が多かった……2点

いつもそうだった……………3点

○合計点により、精神的健康状態悪化の有無を判定

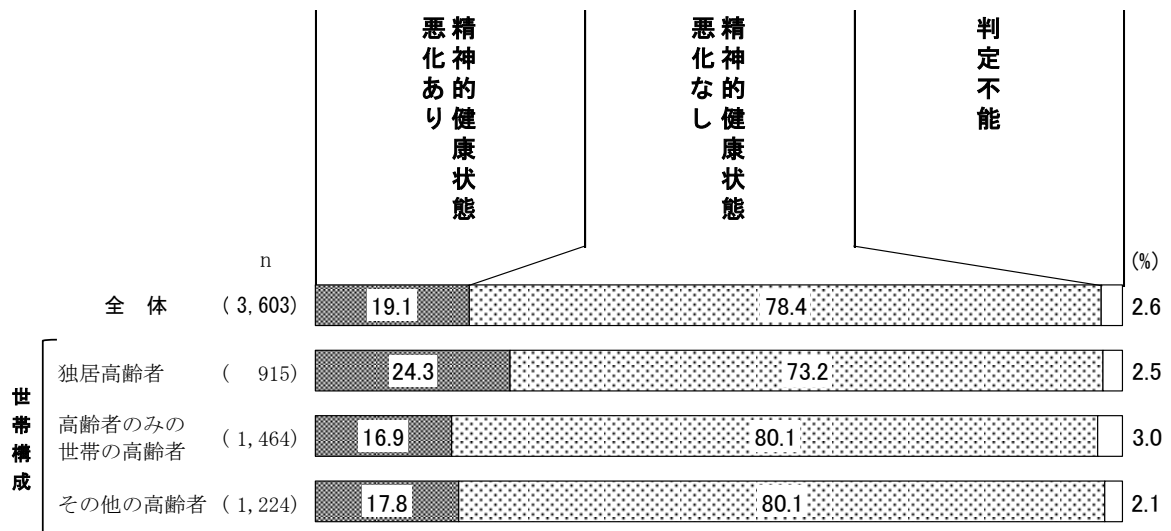
- ・精神的健康状態悪化あり：合計点8点未満
- ・精神的健康状態悪化なし：合計点8点以上
- ・判定不能：無回答の項目があることにより判定不能

[参考] WHO-5 精神健康状態表簡易版 (S-WHO-5-J)

精神的健康状態悪化の有無については、「精神的健康状態悪化なし」が78.4%、「精神的健康状態悪化あり」が19.1%となっています。

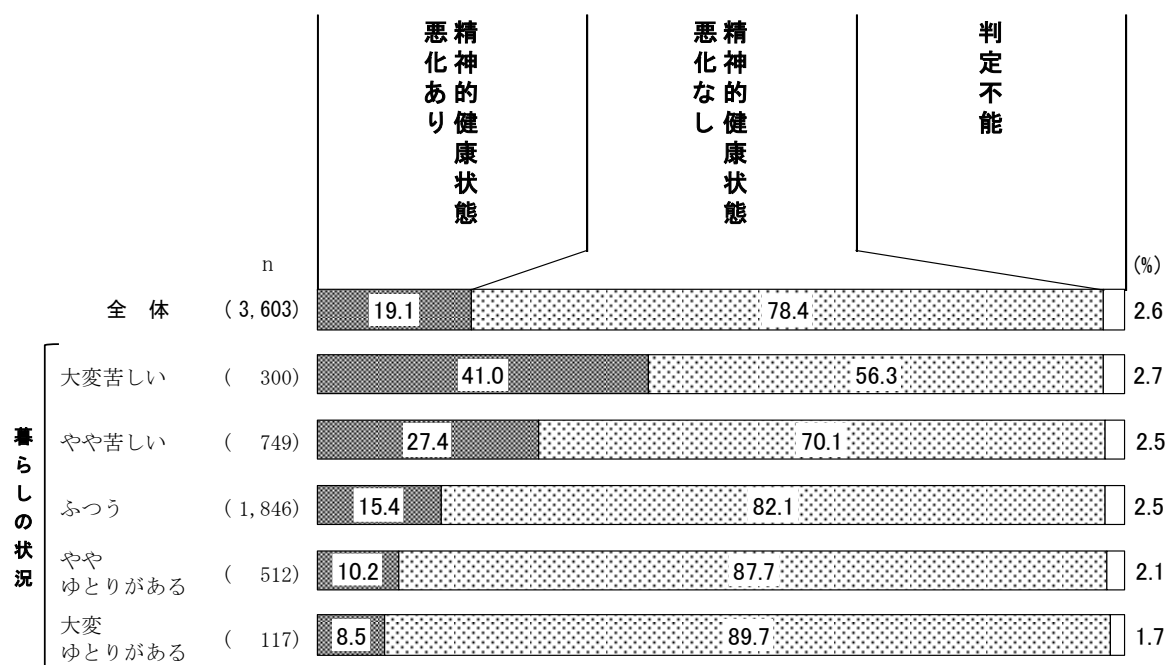
世帯構成別で見ると、「精神的健康状態悪化あり」は【独居高齢者】が24.3%で、【高齢者のみの世帯の高齢者】(16.9%)、【その他の高齢者】(17.8%)と比べて高くなっています。

図表2-4-9 精神的健康状態／世帯構成別



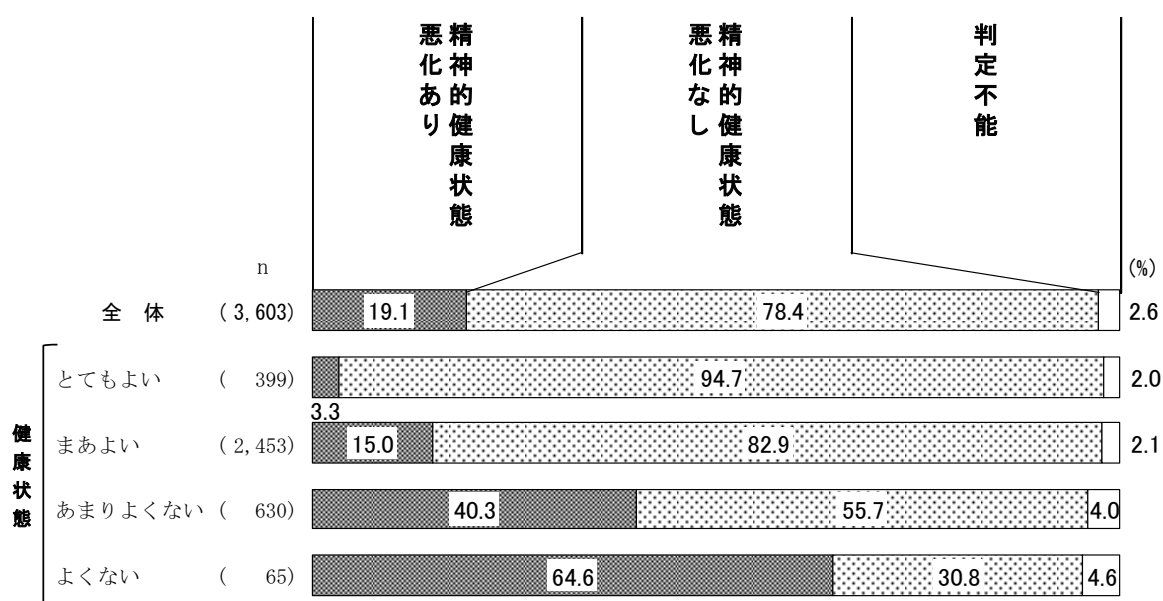
問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「精神的健康状態悪化あり」の割合は苦しいと回答した人ほど高くなっています。

図表2-4-10 精神的健康状態／経済的にみた暮らしの状況別



問12の健康状態別で見ると、「精神的健康状態悪化あり」は健康状態がよくないと回答した人ほど高く、【よくない】と回答した人（64.6%）では6割以上を占めています。

図表2-4-11 精神的健康状態／健康状態別



5. 健康づくりについて

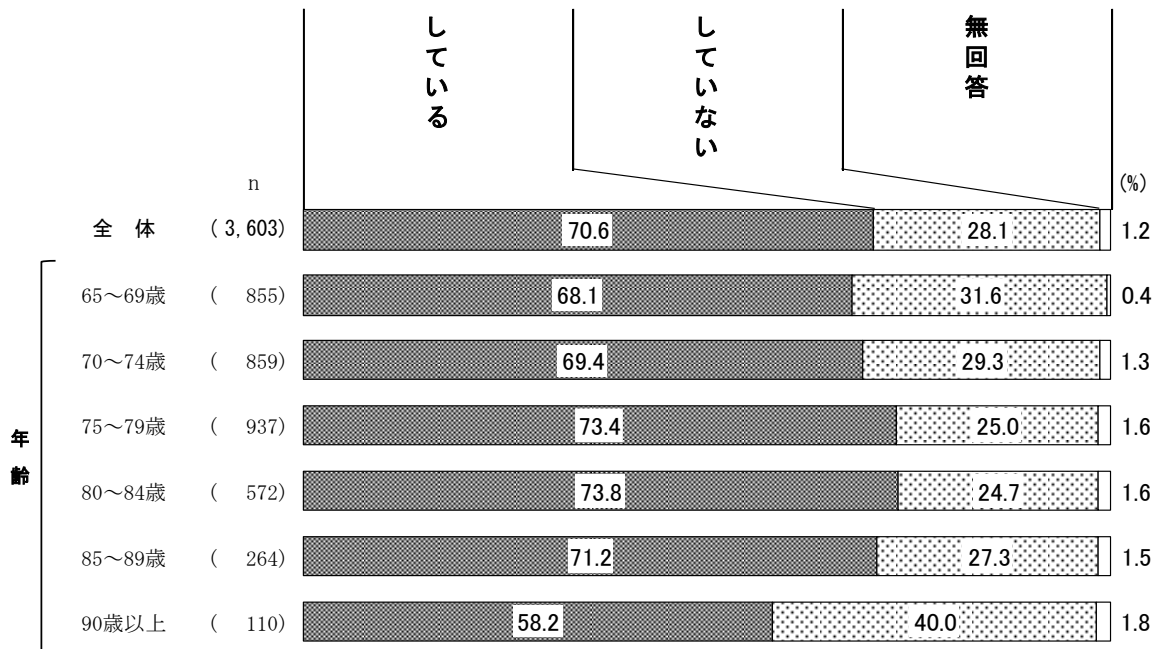
(1) からだを動かす活動の有無

問 19 体操や散歩などの活動をしていますか。(○は1つ)

からだを動かす活動の有無については、「している」が70.6%、「していない」が28.1%となっています。

年齢別で見ると、「している」の割合は、80歳代以下は7割前後となっていますが、【90歳以上】は58.2%と低くなっています。

図表 2-5-1 からだを動かす活動の有無／年齢別



問 7 の就業状況別で見ると、「している」の割合は、(仕事を)【している】と回答した人が67.9%と、他の層と比べて低くなっています。

図表 2-5-2 からだを動かす活動の有無／就業状況別

		回答者数 (n)	(%)		
			している	していない	無回答
全体		3,603	70.6	28.1	1.2
就業状況	している	1,345	67.9	30.8	1.3
	していないが、今後働きたい	250	72.0	28.0	-
	しておらず、今後も希望しない	1,918	72.7	26.2	1.1

(2) からだを動かす活動の頻度

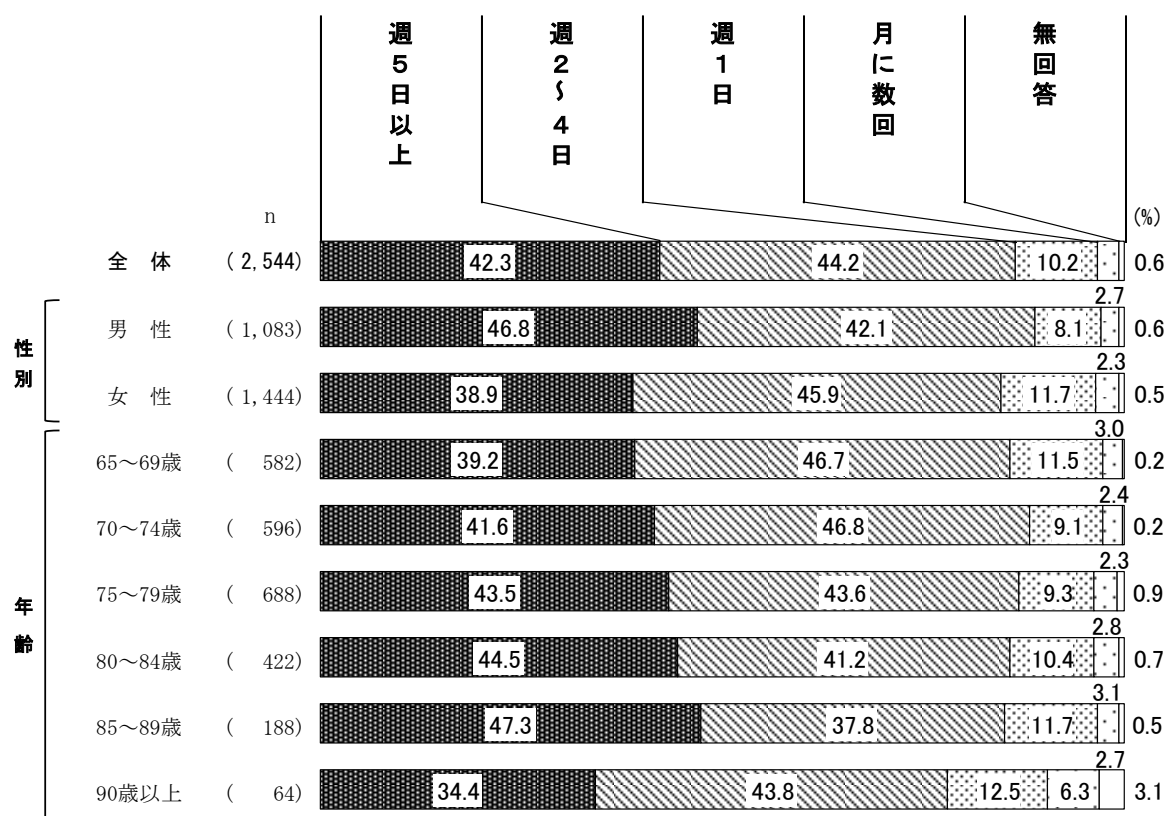
問 20 体操や散歩などの活動の頻度を教えてください。(○は1つ)

からだを動かす活動をしている人にその頻度をたずねたところ、「週2～4日」が44.2%で最も高く、次いで「週5日以上」(42.3%)、「週1日」(10.2%)と続いています。

性別で見ると、「週5日以上」は【男性】(46.8%)の方が【女性】(38.9%)よりも高くなっています。

年齢別で見ると、「週5日以上」は【90歳以上】が34.4%で、他の年齢層と比べて低くなっています。

図表2-5-3 からだを動かす活動の頻度／性別・年齢別

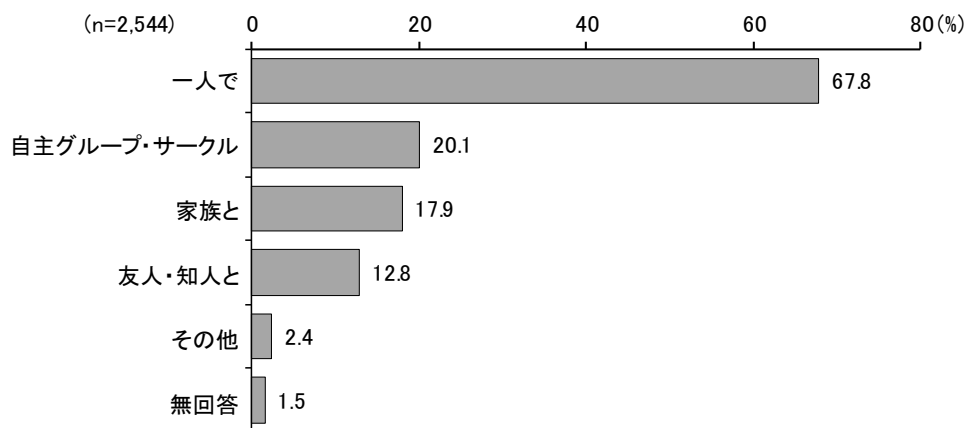


(3) からだを動かす活動を一緒にしている方

問 21 体操や散歩などの活動を一緒にしている方を教えてください。(〇はいくつでも)

からだを動かす活動をしている人に、活動を一緒にしている方についてたずねたところ、「一人で」が67.8%で最も高く、次いで「自主グループ・サークル」(20.1%)、「家族と」(17.9%)と続いています。

図表 2-5-4 からだを動かす活動を一緒にしている方



性別で見ると、「一人で」と「家族と」は【男性】の方が高く、「自主グループ・サークル」と「友人・知人と」は【女性】の方が高くなっています。

図表 2-5-5 からだを動かす活動を一緒にしている方／性別

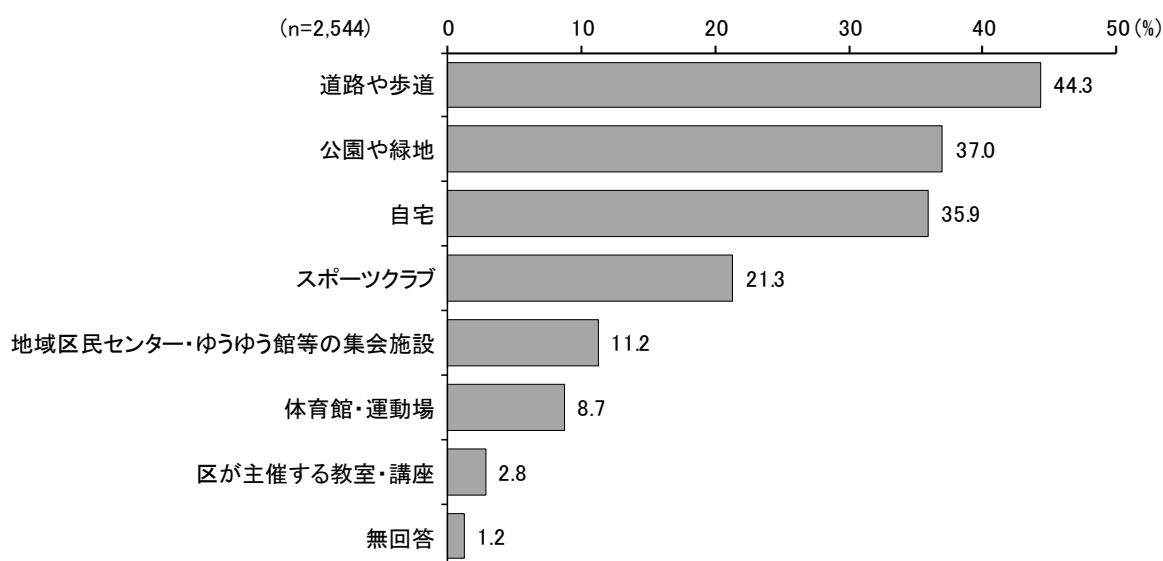
		回答者数 (n)	一人で	自主グループ・ サークル	家族と	友人・知 人と	その他	無回答
全体		2,544	67.8	20.1	17.9	12.8	2.4	1.5
性別	男性	1,083	75.2	9.5	20.4	9.2	1.3	1.4
	女性	1,444	62.0	28.0	16.2	15.6	3.3	1.7

(4) からだを動かす活動をしている場所

問 22 体操や散歩などの活動をしている場所を教えてください。(〇はいくつでも)

からだを動かす活動をしている人に、活動をしている場所についてたずねたところ、「道路や歩道」が44.3%で最も高く、次いで「公園や緑地」(37.0%)、「自宅」(35.9%)と続いています。

図表 2-5-6 からだを動かす活動をしている場所



性別で見ると、【男性】は「道路や歩道」(54.8%)が最も高く、【女性】は「自宅」(37.4%)が最も高くなっています。

図表 2-5-7 からだを動かす活動をしている場所／性別

		回答者数 (n)	道路や歩道	公園や緑地	自宅	スポーツクラブ	地域区民センター・ゆうゆう館等の集会施設	体育館・運動場	区が主催する教室・講座	無回答
全体		2,544	44.3	37.0	35.9	21.3	11.2	8.7	2.8	1.2
性別	男性	1,083	54.8	44.5	34.0	16.2	3.7	7.2	0.6	1.5
	女性	1,444	36.2	31.4	37.4	25.5	16.9	9.9	4.4	1.0

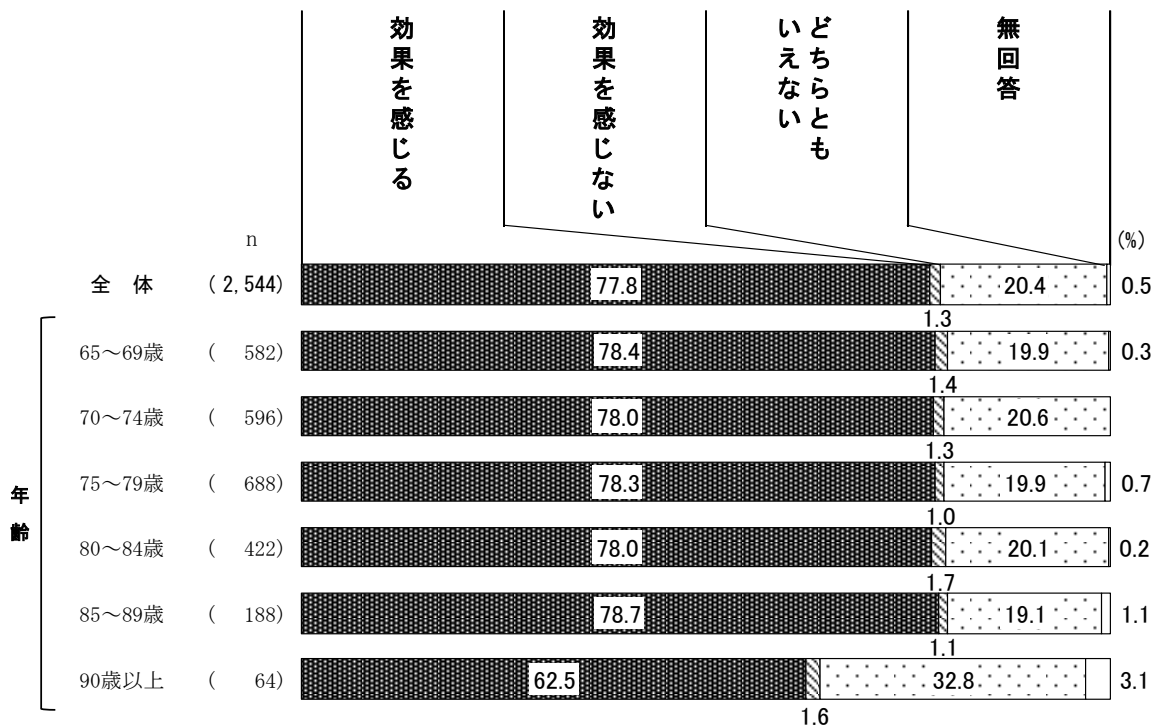
(5) からだを動かす活動の効果の有無

問 23 体操や散歩などの活動の効果を感じていますか。(○は1つ)

からだを動かす活動をしている人に活動の効果についてたずねたところ、「効果を感じる」が77.8%、「どちらともいえない」が20.4%、「効果を感じない」が1.3%となっています。

年齢別で見ると、「効果を感じる」の割合は【90歳以上】が62.5%と、他の年齢層と比べて低くなっています。

図表 2-5-8 からだを動かす活動の効果の有無／年齢別

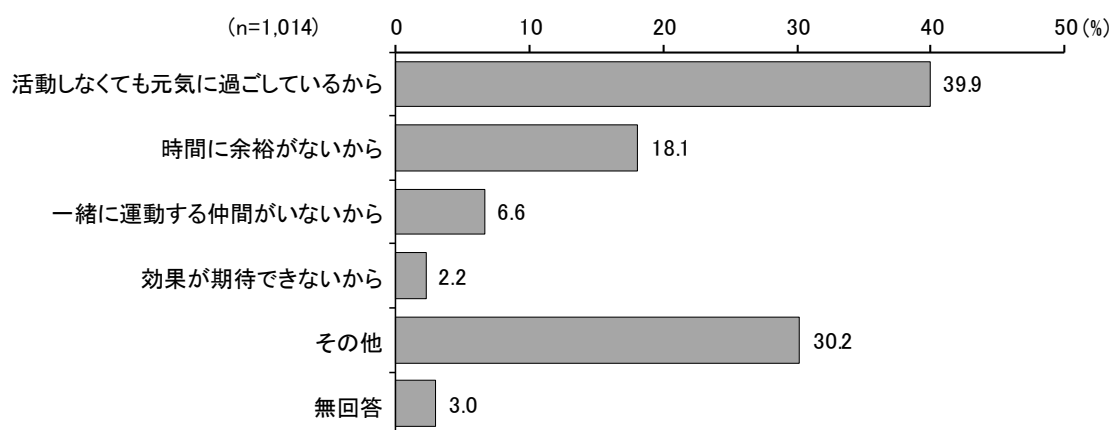


(6) からだを動かす活動をしていない理由

問 24 体操や散歩などの活動をしていない理由を教えてください。(○は1つ)

からだを動かす活動をしていない人に、活動をしていない理由についてたずねたところ、「活動しなくても元気に過ごしているから」が39.9%で最も高く、次いで「その他」(30.2%)、「時間に余裕がないから」(18.1%)と続いています。

図表 2-5-9 からだを動かす活動をしていない理由



「その他」の回答内容 (上位 10 項目)	件数
病気・体の痛み	102
仕事や普段の生活で動いている	50
暑すぎるから	38
疲れる・面倒	31
仕事・介護等で忙しい	15
体力がない	15
運動が好きでない	15
気力がない	7
したいと思っているができていない	5
人付き合いが好きでない	2

年齢別で見ると、「時間に余裕がないから」は【65～69歳】と【70～74歳】で2割を超えて高くなっています。

図表2-5-10 からだを動かす活動をしていない理由／年齢別

		回答者数 (n)	活動しなくても元気に過ごしているから	時間に余裕がないから	一緒に運動する仲間がいないから	効果が期待できないから	その他	無回答
全体		1,014	39.9	18.1	6.6	2.2	30.2	3.0
年齢	65～69歳	270	34.8	27.0	7.4	1.9	27.0	1.9
	70～74歳	252	42.5	22.2	6.3	1.2	26.2	1.6
	75～79歳	234	37.6	14.1	7.7	2.6	35.0	3.0
	80～84歳	141	48.2	9.2	4.3	3.5	28.4	6.4
	85～89歳	72	45.8	9.7	4.2	2.8	34.7	2.8
	90歳以上	44	34.1	4.5	9.1	-	45.5	6.8

問7の就業状況別で見ると、「活動しなくても元気に過ごしているから」は（仕事を）【しておらず、今後も希望しない】と回答した人が42.6%で最も高く、「時間に余裕がないから」は（仕事を）【している】と回答した人が31.2%で最も高くなっています。また、「一緒に運動する仲間がいないから」は（仕事を）【していないが、今後働きたい】と回答した人で11.4%と最も高くなっています。

図表2-5-11 からだを動かす活動をしていない理由／就業状況別

		回答者数 (n)	活動しなくても元気に過ごしているから	時間に余裕がないから	一緒に運動する仲間がいないから	効果が期待できないから	その他	無回答
全体		1,014	39.9	18.1	6.6	2.2	30.2	3.0
就業状況	している	414	37.2	31.2	5.3	1.7	22.7	1.9
	していないが、今後働きたい	70	35.7	14.3	11.4	1.4	32.9	4.3
	しておらず、今後も希望しない	502	42.6	8.6	6.8	2.6	35.7	3.8

6. 社会的なつながりについて

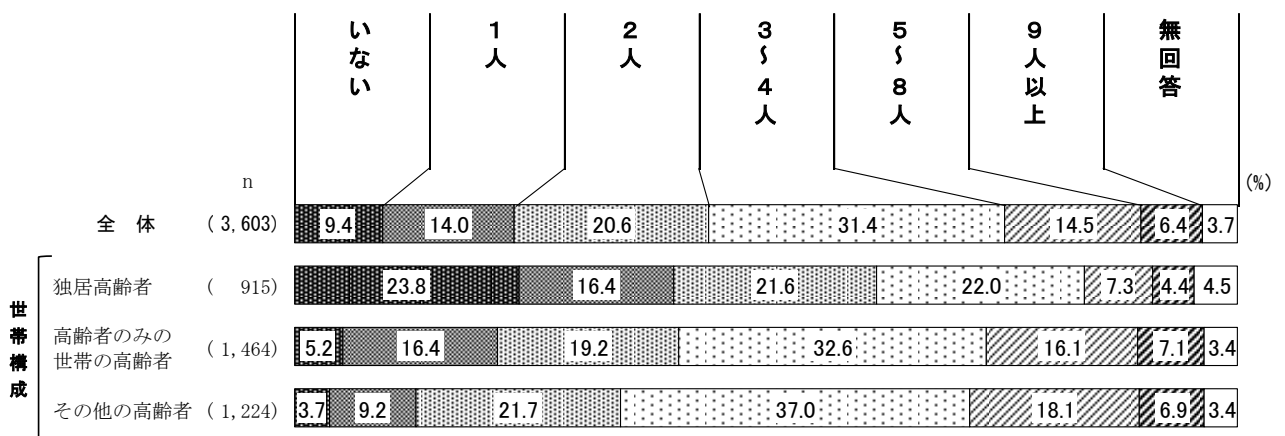
(1) 家族や親せきとのつきあい

問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (1) -①少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする家族や親せきは何人いますか。
 (○は1つ)

月1回以上会ったり話したりする家族や親せきの人数については、「3～4人」が31.4%で最も高く、次いで「2人」(20.6%)、「5～8人」(14.5%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(23.8%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表2-6-1 月1回以上会ったり話したりする家族や親せきの人数／世帯構成別

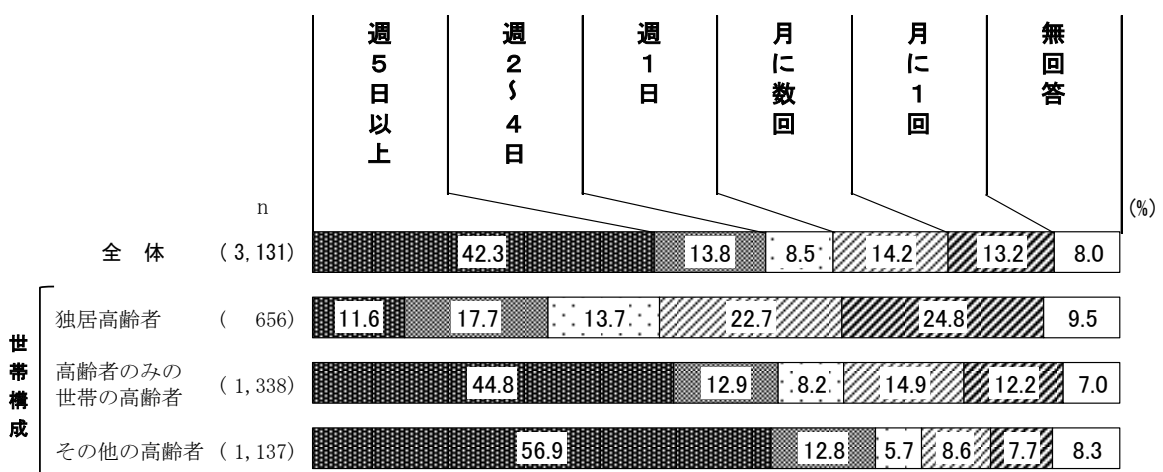


問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (1) -②家族や親せきと会ったり話をしたりする機会はどのくらいですか。(○は1つ)

月1回以上会ったり話したりする家族や親せきが1人以上いる人に、会ったり話をする頻度についてたずねたところ、「週5日以上」が42.3%で最も高く、次いで「月に数回」(14.2%)、「週2～4日」(13.8%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【高齢者のみの世帯の高齢者】と【その他の高齢者】は「週5日以上」が最も高く、【独居高齢者】は「月に1回」が最も高くなっています。

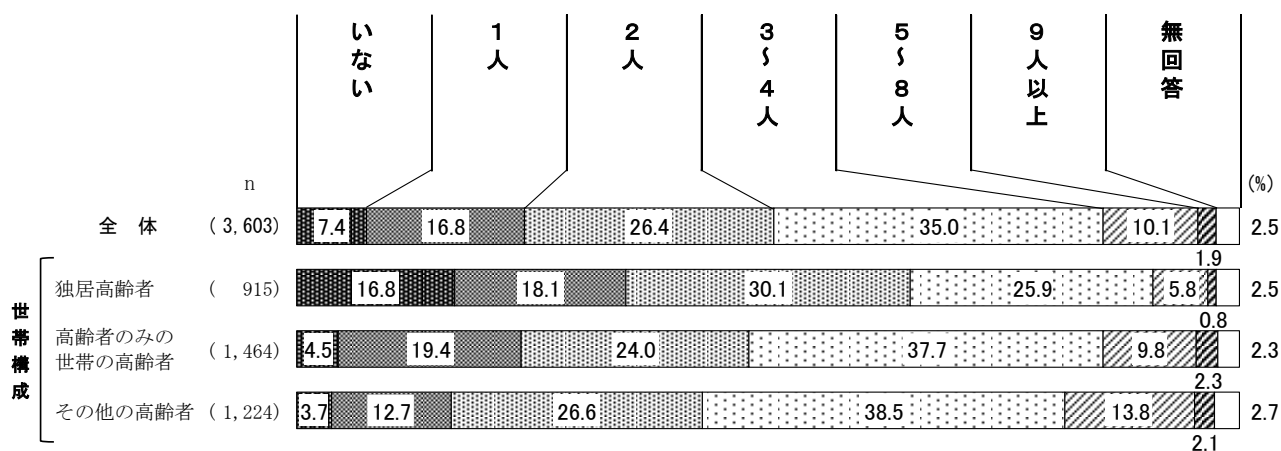
図表2-6-2 家族や親せきと会ったり話をしたりする頻度／世帯構成別



問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (2) 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきは何人いますか。(○は1つ)

個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきの人数については、「3～4人」が35.0%で最も高く、次いで「2人」(26.4%)、「1人」(16.8%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(16.8%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

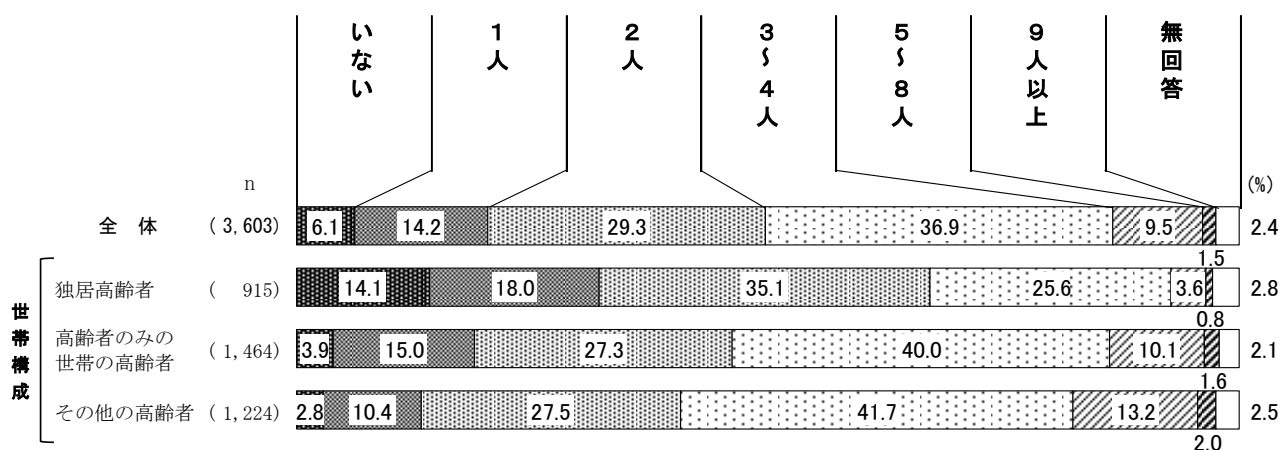
図表 2-6-3 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきの人数／世帯構成別



問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (3) 助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきは何人いますか。(○は1つ)

助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきの人数については、「3～4人」が36.9%で最も高く、次いで「2人」(29.3%)、「1人」(14.2%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(14.1%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表 2-6-4 助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきの人数／世帯構成別

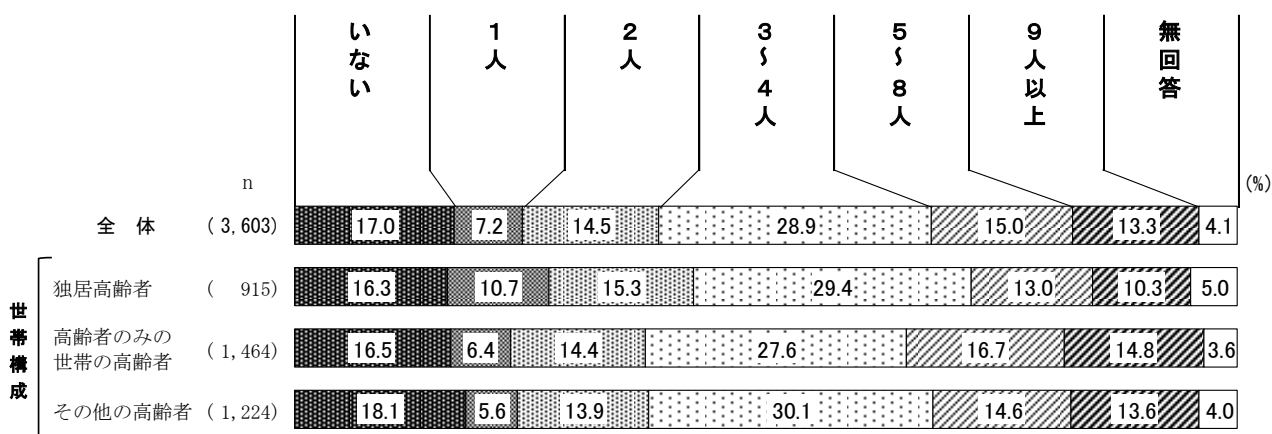


(2) 友人や知人とのつきあい

問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (4) -①少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人(近隣の方含む)は何人いますか。(○は1つ)

少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人の人数については、「3～4人」が28.9%で最も高く、次いで「いない」(17.0%)、「5～8人」(15.0%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、いずれの層においても「3～4人」が最も高くなっています。

図表2-6-5 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人の人数/世帯構成別

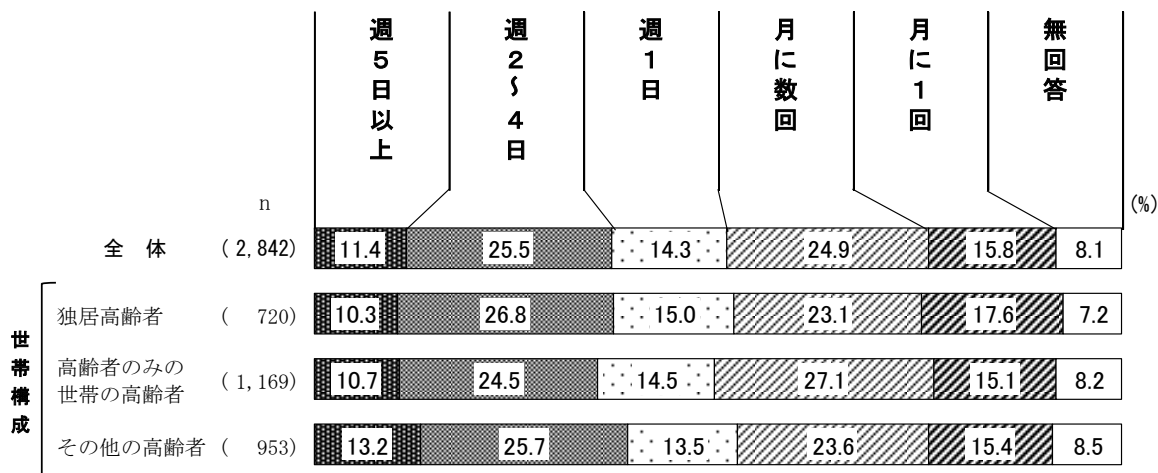


問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (4) -②友人や知人(近隣の方含む)と会ったり話をしたりする機会はどのくらいですか。(○は1つ)

月に1回以上会ったり話したりする友人や知人が1人以上いる人に、会ったり話をする頻度についてたずねたところ、「週2～4日」が25.5%で最も高く、次いで「月に数回」(24.9%)、「月に1回」(15.8%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】と【その他の高齢者】は「週2～4日」が最も高く、【高齢者のみの世帯の高齢者】は「月に数回」が最も高くなっています。

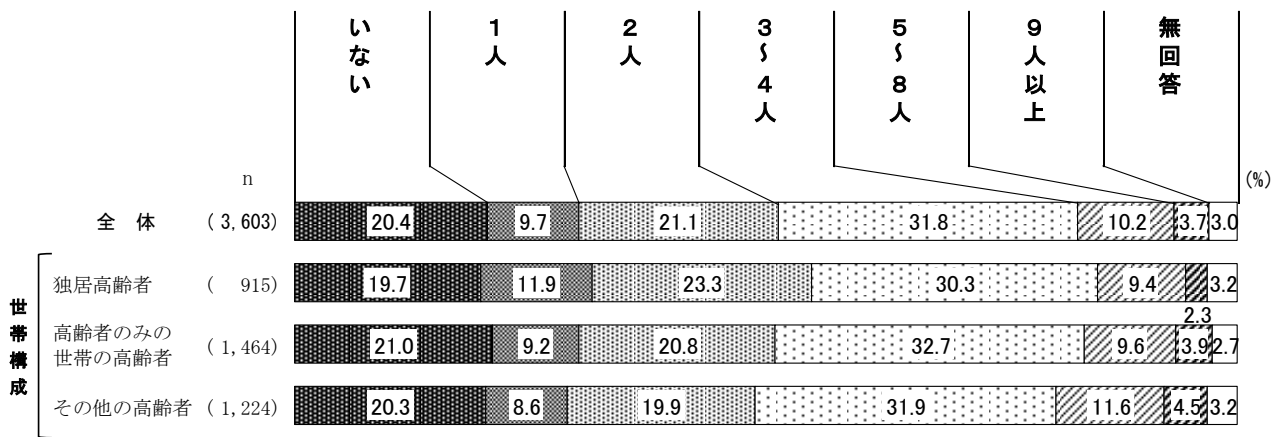
図表2-6-6 友人や知人と会ったり話をしたりする頻度/世帯構成別



問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (5) 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人(近隣の方含む)は何人いますか。(○は1つ)

個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人の人数については、「3～4人」が31.8%で最も高く、次いで「2人」(21.1%)、「いない」(20.4%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、いずれの層においても「3～4人」が最も高くなっています。

図表 2-6-7 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人の人数／世帯構成別

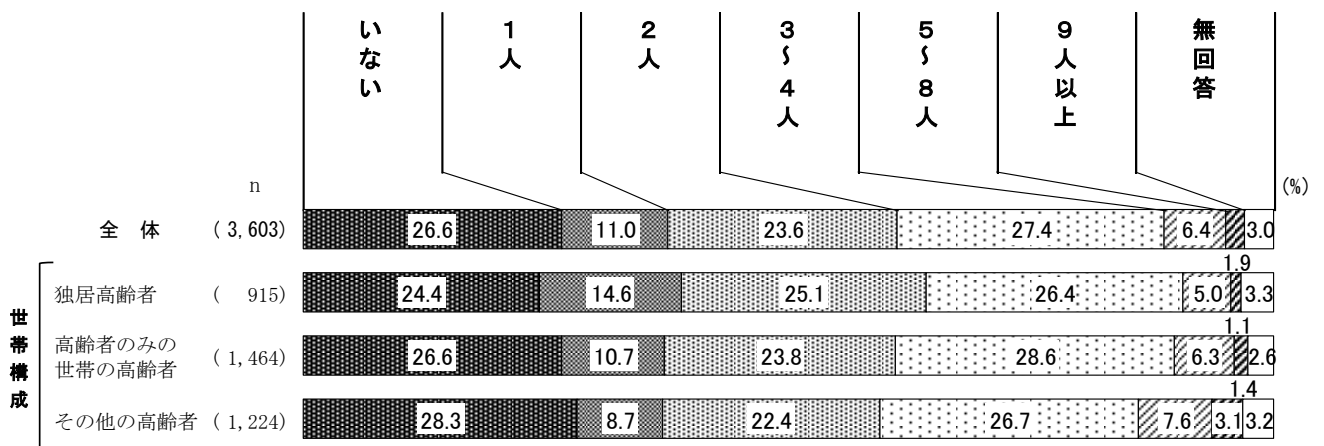


問 25 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (6) 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人(近隣の方含む)は何人いますか。(○は1つ)

助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人の人数については、「3～4人」が27.4%で最も高く、次いで「いない」(26.6%)、「2人」(23.6%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】と【高齢者のみの世帯の高齢者】は「3～4人」が最も高く、【その他の高齢者】は「いない」が最も高くなっています。

図表 2-6-8 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人の人数／世帯構成別



(3) 社会的孤立度

問25(1)～(6)の回答結果から、下記の方法で社会的孤立の状態について判定しました。

○問25(1)～(6)について、回答結果を下記の通り点数化して合計
 ※問25(1)-②、問25(4)-②は除外

いない……………0点
 1人……………1点
 2人……………2点
 3～4人…………3点
 5～8人…………4点
 9人以上…………5点

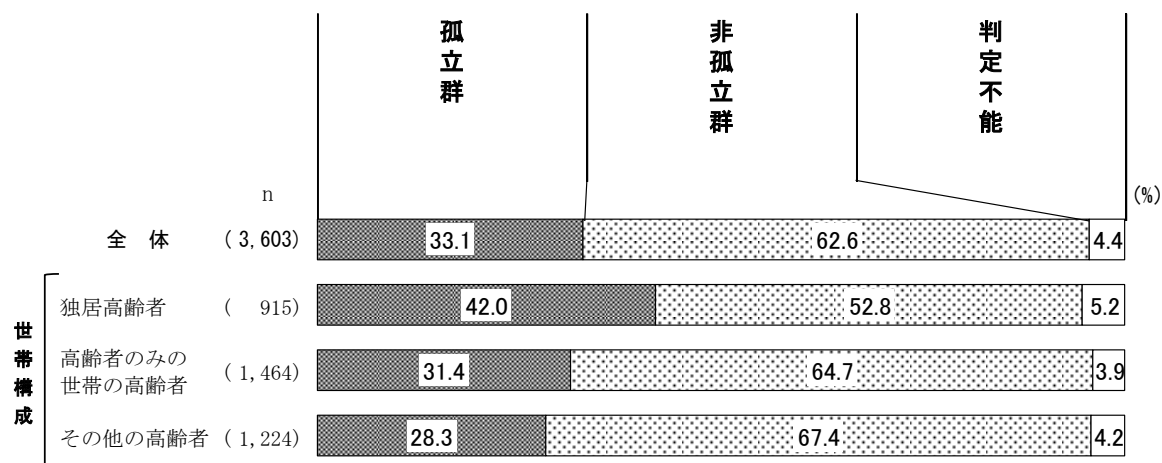
○合計点により社会的孤立の状態を判定

- ・孤立群：合計点12点未満
- ・非孤立群：合計点12点以上
- ・判定不能：無回答の項目があることにより判定不能

[参考] 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6)

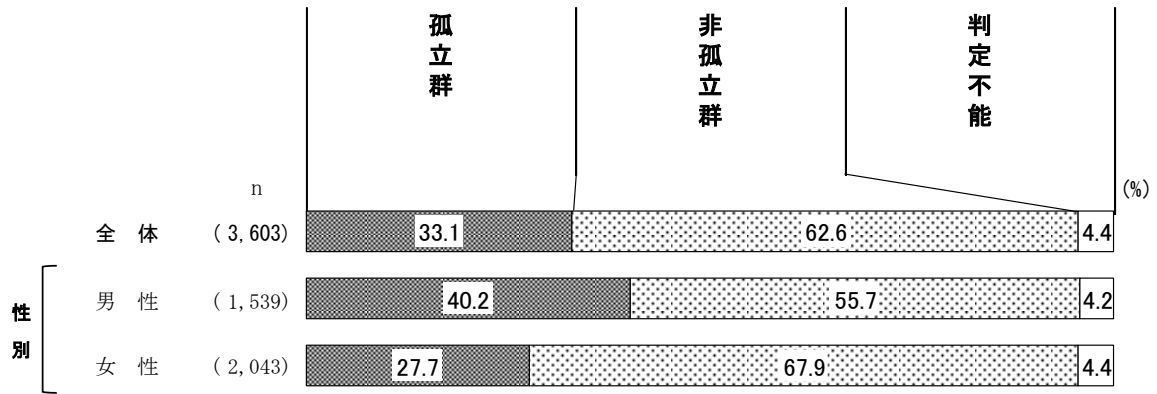
社会的孤立の状態については、「非孤立群」が62.6%、「孤立群」が33.1%となっています。
 世帯構成別で見ると、「孤立群」は【独居高齢者】が42.0%と、【高齢者のみの世帯の高齢者】
 (31.4%)、【その他の高齢者】(28.3%)と比べて高くなっています。

図表2-6-9 社会的孤立度/世帯構成別



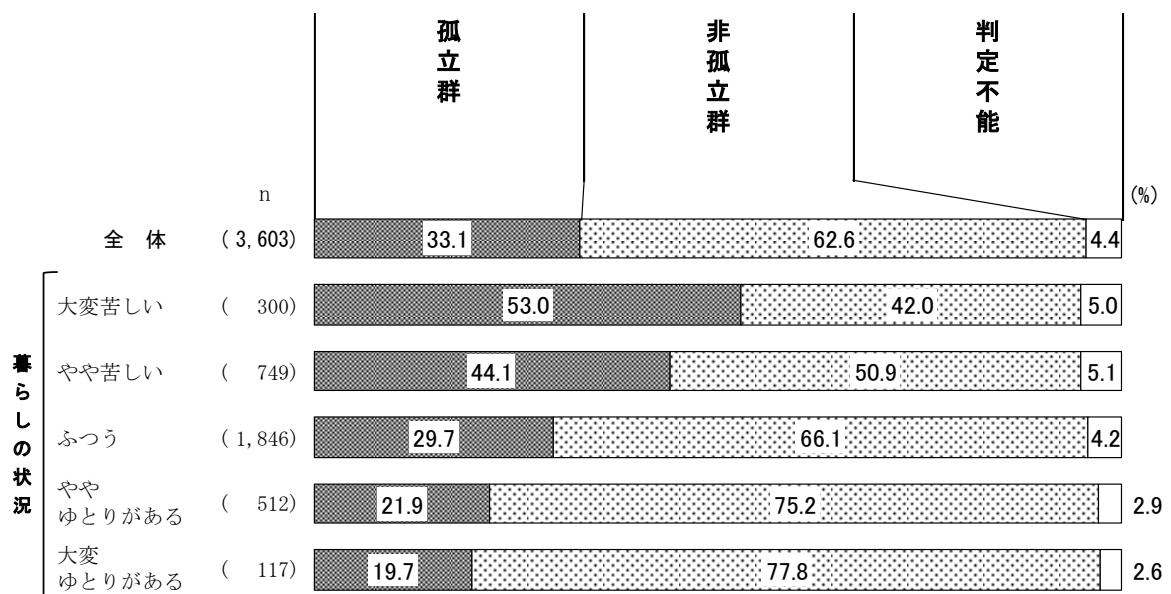
性別で見ると、「孤立群」は【男性】が40.2%で、【女性】(27.7%)と比べて高くなっています。

図表2-6-10 社会的孤立度／性別



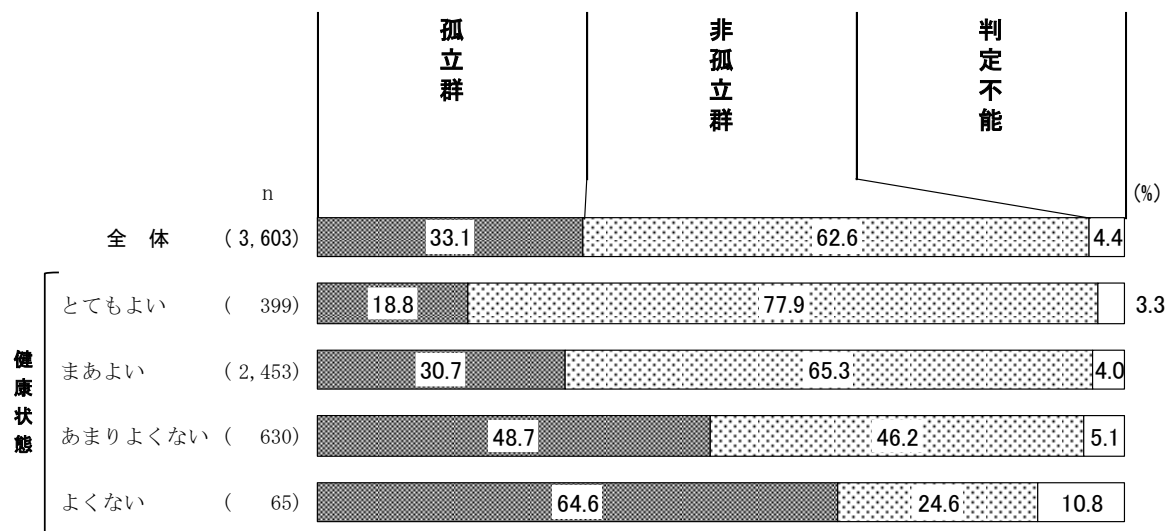
問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「孤立群」の割合は苦しいと回答した人ほど高くなっています。

図表2-6-11 社会的孤立度／経済的にみた暮らしの状況別



問12の健康状態別で見ると、「孤立群」の割合は健康状態がよくないと回答した人ほど高く、【よくない】と回答した人（64.6%）では6割以上を占めています。

図表2-6-12 社会的孤立度／健康状態別

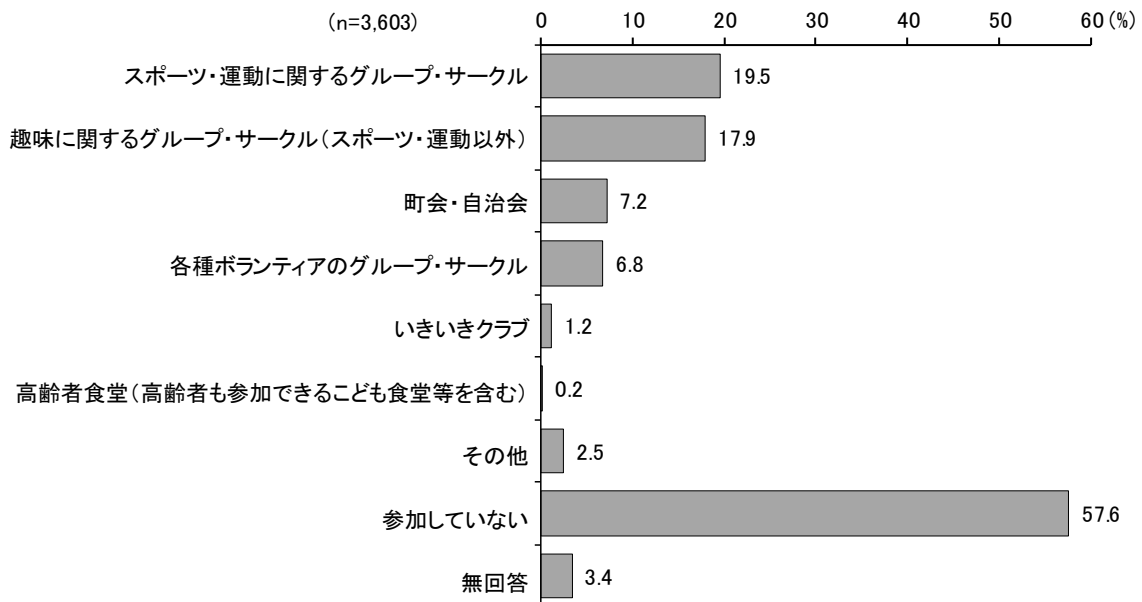


(4) 地域活動の参加状況

問 26 現在、参加している地域活動を教えてください。(〇はいくつでも)

現在、参加している地域活動については、「スポーツ・運動に関するグループ・サークル」が19.5%で最も高く、次いで「趣味に関するグループ・サークル(スポーツ・運動以外)」(17.9%)、「町会・自治会」(7.2%)と続いています。一方で、「参加していない」(57.6%)が5割以上を占めています。

図表 2-6-13 現在、参加している地域活動



性別で見ると、男女共に「参加していない」が最も高くなっていますが、すべての活動において【女性】の方が高く、「参加していない」は【男性】の方が高くなっています。

図表 2-6-14 現在、参加している地域活動／性別

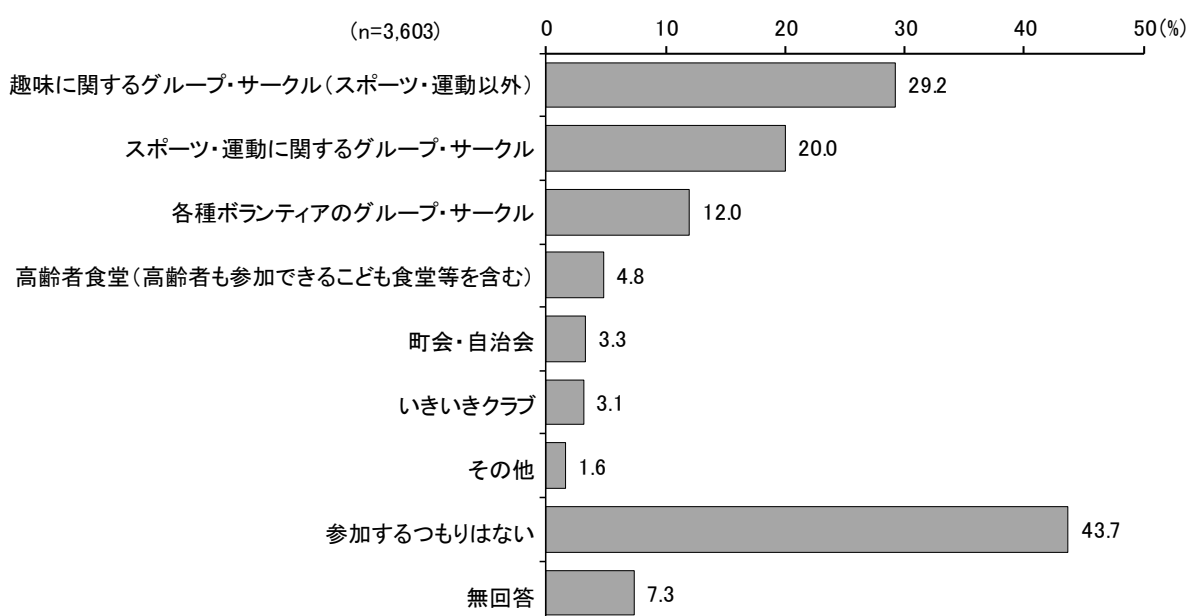
		回答者数 (n)	スポーツ・運動に関するグループ・サークル	趣味に関するグループ・サークル(スポーツ・運動以外)	町会・自治会	各種ボランティアのグループ・サークル	いきいきクラブ	高齢者食堂(高齢者も参加できるこども食堂等を含む)	その他	参加していない	無回答
全体		3,603	19.5	17.9	7.2	6.8	1.2	0.2	2.5	57.6	3.4
性別	男性	1,539	14.0	12.5	6.4	5.4	0.6	0.1	2.4	65.2	3.4
	女性	2,043	23.8	22.1	7.7	7.9	1.5	0.3	2.5	51.9	3.4

(5) 今後参加してみたい地域活動

問 27 今後、参加してみたい地域活動を教えてください。(〇はいくつでも)

今後、参加してみたい地域活動については、「趣味に関するグループ・サークル(スポーツ・運動以外)」が29.2%で最も高く、次いで「スポーツ・運動に関するグループ・サークル」(20.0%)、「各種ボランティアのグループ・サークル」(12.0%)と続いています。一方で、「参加するつもりはない」(43.7%)が4割以上を占めています。

図表 2-6-15 今後、参加してみたい地域活動



性別で見ると、男女共に「参加するつもりはない」が最も高くなっていますが、「町会・自治会」を除いた活動で【女性】の方が高く、「参加するつもりはない」は【男性】の方が高くなっています。

図表 2-6-16 今後、参加してみたい地域活動/性別

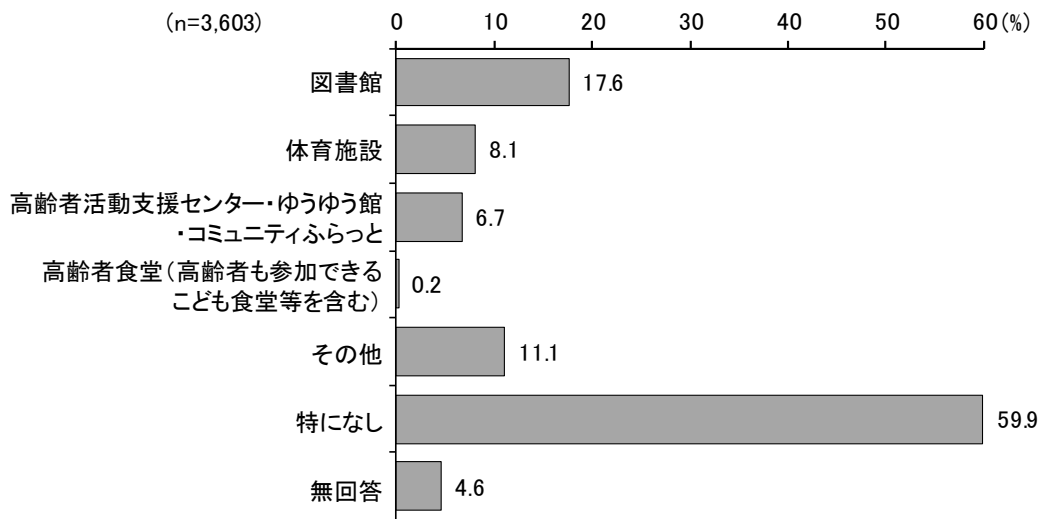
		回答者数 (n)	趣味に関するグループ・サークル(スポーツ・運動以外)	スポーツ・運動に関するグループ・サークル	各種ボランティアのグループ・サークル	高齢者食堂(高齢者も参加できるこども食堂等を含む)	町会・自治会	いきいきクラブ	その他	参加するつもりはない	無回答
全体		3,603	29.2	20.0	12.0	4.8	3.3	3.1	1.6	43.7	7.3
性別	男性	1,539	25.4	18.3	11.2	3.0	3.4	2.9	1.4	50.9	5.5
	女性	2,043	32.2	21.3	12.7	6.2	3.2	3.3	1.8	38.3	8.6

(6) 自分らしく過ごせる居場所

問 28 家庭や職場以外で自分らしく過ごせる居場所がありますか。(〇はいくつでも)

自分らしく過ごせる居場所については、「図書館」が17.6%で最も高く、次いで「体育施設」(8.1%)、「高齢者活動支援センター・ゆうゆう館・コミュニティふらっと」(6.7%)と続いています。一方で、「特になし」(59.9%)が約6割を占めています。

図表 2-6-17 自分らしく過ごせる居場所



「その他」の回答内容(上位10項目)	件数
趣味・習い事の場	74
飲食店	53
スポーツクラブ等、スポーツをする場	43
ゴルフクラブ	25
宗教施設	23
友人たちと集まる場	20
友人宅	19
公園	17
別荘	17
家族や親戚宅	15

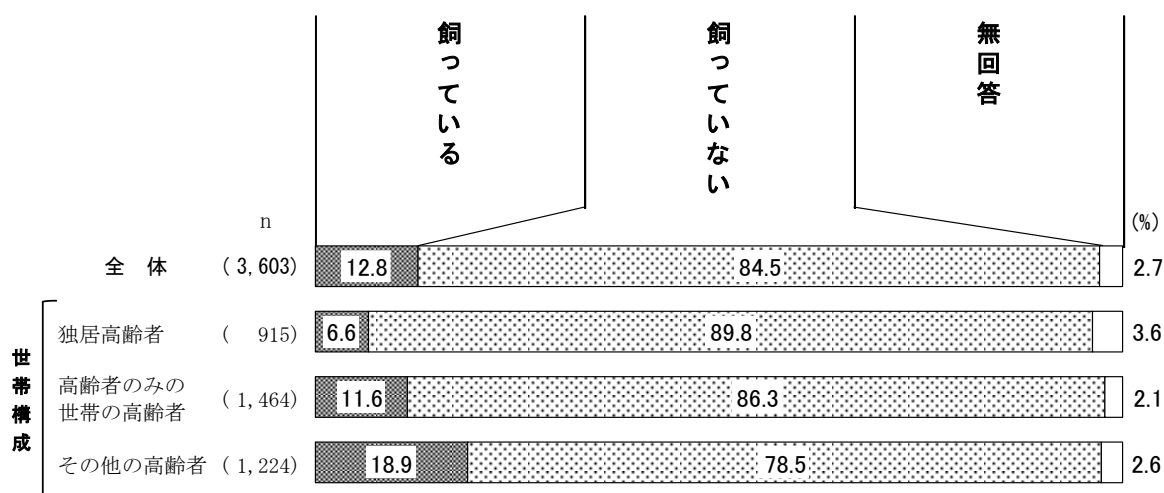
(7) ペットの飼育状況

問 29 現在、ペットを飼っていますか。(○は1つ)

ペットの飼育状況については、「飼っていない」が84.5%、「飼っている」が12.8%となっています。

世帯構成別で見ると、「飼っている」の割合は【独居高齢者】が6.6%で最も低く、【その他の高齢者】が18.9%で最も高くなっています。

図表 2-6-18 ペットの飼育状況／世帯構成別

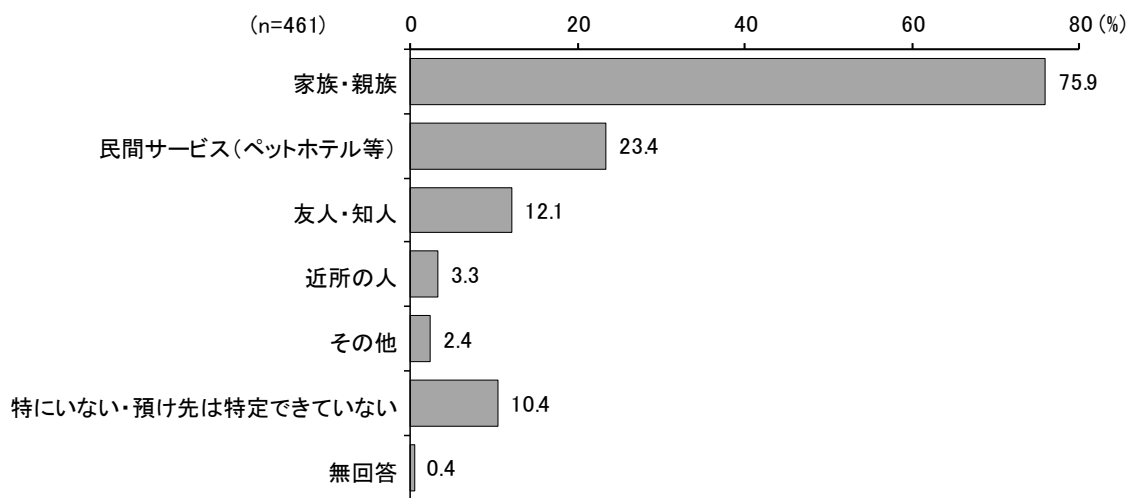


(8) ペットの預け先

問 30 緊急な用事や入院時等に、ペットの面倒を見てくれる人や、預け先はありますか。
(〇はいくつでも)

ペットを飼っている人に緊急時のペットの預け先についてたずねたところ、「家族・親族」が75.9%で最も高く、次いで「民間サービス(ペットホテル等)」(23.4%)、「友人・知人」(12.1%)と続いています。

図表 2-6-19 ペットの預け先



世帯構成別で見ると、「家族・親族」は【その他の高齢者】が85.3%で最も高く、その他の項目では【独居高齢者】が最も高くなっています。

図表 2-6-20 ペットの預け先／世帯構成別

		回答者数 (n)	家族・親族	民間サービス(ペットホテル等)	友人・知人	近所の人	その他	特にいない・預け先は特定できていない	無回答
全体		461	75.9	23.4	12.1	3.3	2.4	10.4	0.4
世帯構成	独居高齢者	60	51.7	28.3	30.0	6.7	6.7	16.7	-
	高齢者のみの世帯の高齢者	170	71.8	23.5	11.2	2.4	1.8	13.5	1.2
	その他の高齢者	231	85.3	22.1	8.2	3.0	1.7	6.5	-

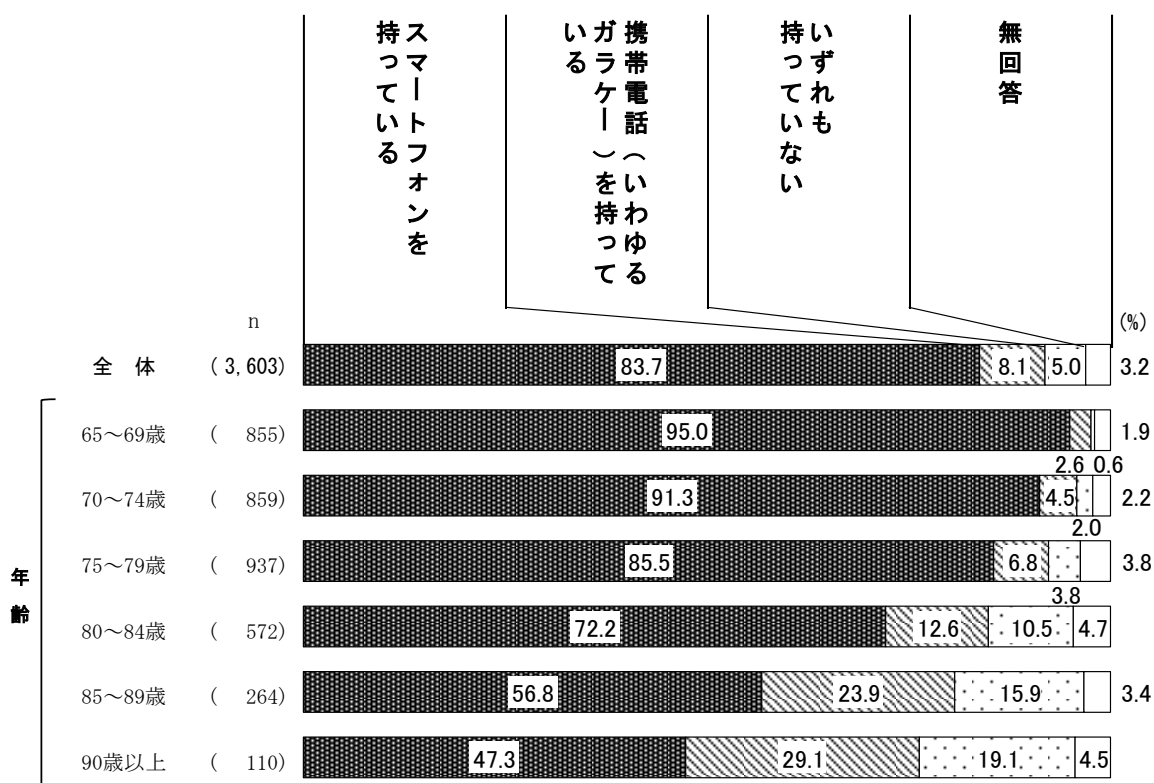
7. スマートフォン等の利用状況について

(1) スマートフォン等の所持状況

問 31 スマートフォン等の所持状況についてお答えください。(〇は1つ)

スマートフォン等の所持状況については、「スマートフォンを持っている」が83.7%、「携帯電話(いわゆるガラケー)を持っている」が8.1%、「いずれも持っていない」が5.0%となっています。年齢別で見ると、「スマートフォンを持っている」の割合は年齢が上がるほど低くなっています。

図表 2-7-1 スマートフォン等の所持状況／年齢別



問 6 の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「スマートフォンを持っている」の割合はゆとりがあると回答した人ほど高くなっています。

図表 2-7-2 スマートフォン等の所持状況／経済的にみた暮らしの状況別

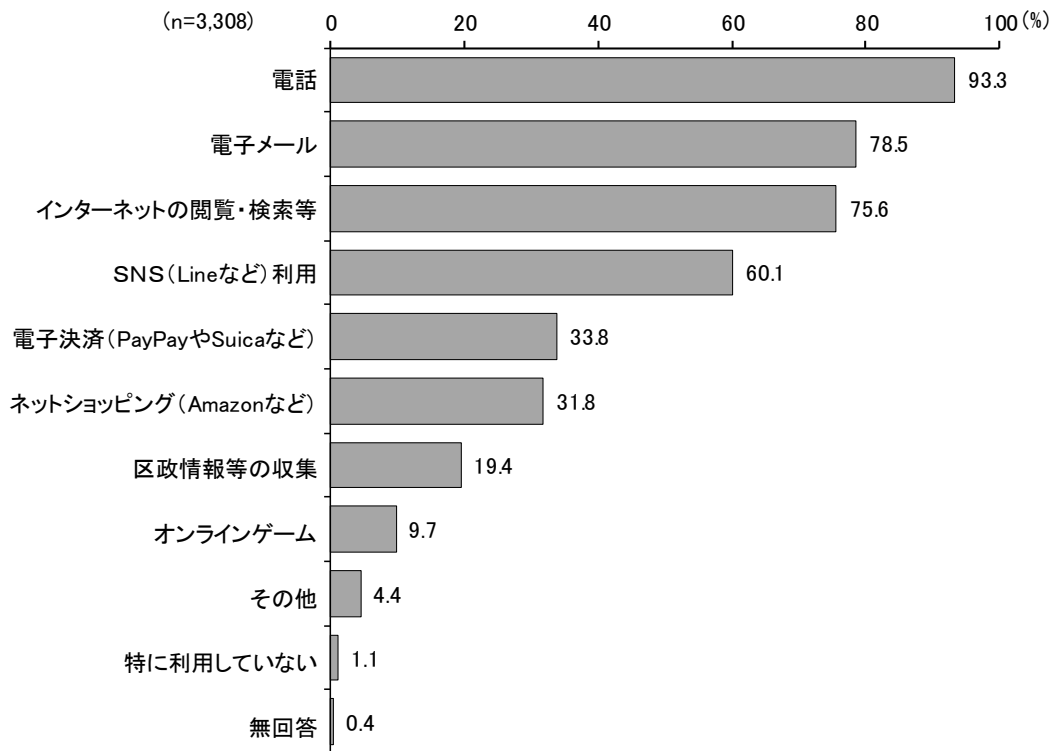
		回答者数 (n)	スマートフォンを持っている (%)	携帯電話(いわゆるガラケー)を持っている (%)	いずれも持っていない (%)	無回答 (%)
全体		3,603	83.7	8.1	5.0	3.2
暮らしの状況	大変苦しい	300	72.7	14.0	9.3	4.0
	やや苦しい	749	82.9	7.3	5.9	3.9
	ふつう	1,846	83.9	8.5	4.8	2.8
	ややゆとりがある	512	89.8	5.3	2.0	2.9
	大変ゆとりがある	117	91.5	2.6	4.3	1.7

(2) スマートフォン等の利用状況

問 31-① スマートフォン等の利用状況をお答えください。(〇はいくつでも)

スマートフォン、携帯電話（いわゆるガラケー）を持っている人に利用状況についてたずねたところ、「電話」が93.3%で最も高く、次いで「電子メール」(78.5%)、「インターネットの閲覧・検索等」(75.6%)と続いています。

図表 2-7-3 スマートフォン等の利用状況



年齢別で見ると、「その他」と「特に利用していない」を除いた項目で、年齢が下がるほど割合が高くなっています。

図表 2-7-4 スマートフォン等の利用状況／年齢別

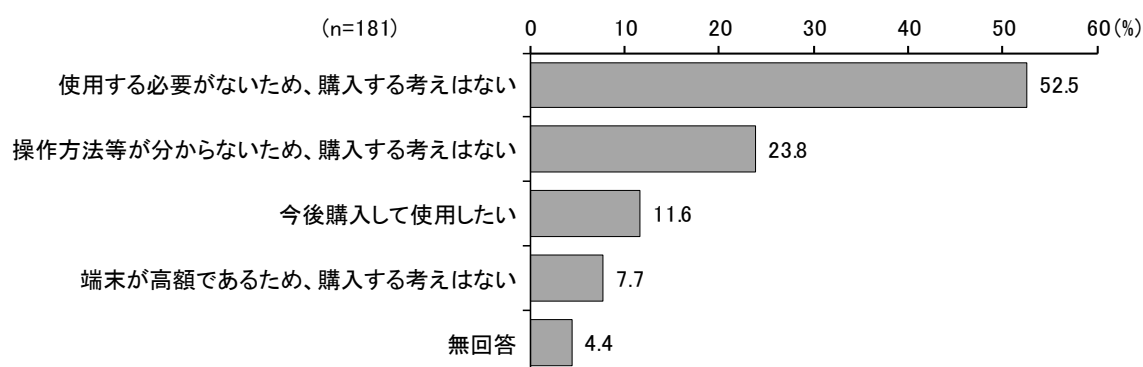
		回答者数 (n)	電話	電子メール	インターネットの閲覧・検索等	SNS (Lineなど) 利用	電子決済 (PayPayやSuicaなど)	ネットショッピング (Amazonなど)	区政情報等の収集	オンラインゲーム	その他	特に利用していない	無回答
全体		3,308	93.3	78.5	75.6	60.1	33.8	31.8	19.4	9.7	4.4	1.1	0.4
年齢	65～69歳	834	93.6	88.6	92.0	78.2	54.7	51.0	28.2	15.3	5.8	0.1	-
	70～74歳	823	92.3	84.2	83.0	65.0	39.9	38.6	20.9	12.9	4.6	0.9	0.6
	75～79歳	865	94.0	79.2	74.2	58.2	27.2	25.2	19.1	6.7	3.5	0.7	0.1
	80～84歳	485	95.3	67.8	59.4	44.5	15.3	14.4	11.1	4.7	4.7	1.4	0.6
	85～89歳	213	89.7	54.0	43.7	31.0	11.3	7.5	4.7	1.9	2.3	4.7	2.3
	90歳以上	84	88.1	39.3	31.0	17.9	2.4	3.6	8.3	1.2	2.4	8.3	-

(3) スマートフォン等の今後の使用意向

問 31-② スマートフォン等の今後の使用意向等についてお答えください。(○は1つ)

スマートフォン、携帯電話（いわゆるガラケー）いずれも持っていない人に今後の使用意向についてたずねたところ、「使用する必要がないため、購入する考えはない」が52.5%で最も高く、次いで「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」(23.8%)、「今後購入して使用したい」(11.6%)と続いています。

図表 2-7-5 スマートフォン等の今後の使用意向



性別で見ると、「使用する必要がないため、購入する考えはない」と「端末が高額であるため、購入する考えはない」は【男性】の方が高く、「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」と「今後購入して使用したい」は【女性】の方が高くなっています。

年齢で見ると、「使用する必要がないため、購入する考えはない」は【80～84歳】で最も高くなっています。

図表 2-7-6 スマートフォン等の今後の使用意向／性別・年齢別

		回答者数 (n)	使用する 必要がない ため、 購入する 考えはない	操作方 法等が分 からない ため、 購入 する考 えは ない	今後購 入して 使用し たい	端末が 高額 である ため、 購 入する 考 えは ない	無回答
全体		181	52.5	23.8	11.6	7.7	4.4
性別	男性	73	58.9	20.5	8.2	8.2	4.1
	女性	105	49.5	24.8	14.3	6.7	4.8
年齢	65～69歳	5	20.0	-	40.0	40.0	-
	70～74歳	17	52.9	17.6	11.8	17.6	-
	75～79歳	36	50.0	22.2	11.1	13.9	2.8
	80～84歳	60	60.0	16.7	11.7	5.0	6.7
	85～89歳	42	52.4	26.2	11.9	2.4	7.1
	90歳以上	21	42.9	52.4	4.8	-	-

問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】、【やや苦しい】と回答した人は「端末が高額であるため、購入する考えはない」の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表2-7-7 スマートフォン等の今後の使用意向／経済的にみた暮らしの状況別

			(%)				
		回答者数 (n)	使用する 必要がない ため、 購入する 考えはな い	操作方 法等が分 からない ため、 購入 する考 えはな い	今後購 入して 使用し たい	端末が 高額で ある ため、 購入 する考 えはな い	無回答
全体		181	52.5	23.8	11.6	7.7	4.4
暮 ら し の 状 況	大変苦しい	28	39.3	35.7	3.6	17.9	3.6
	やや苦しい	44	50.0	25.0	4.5	15.9	4.5
	ふつう	88	61.4	18.2	14.8	1.1	4.5
	ややゆとりがある	10	40.0	50.0	10.0	-	-
	大変ゆとりがある	5	40.0	-	60.0	-	-

8. エネルギー機器の使用状況について

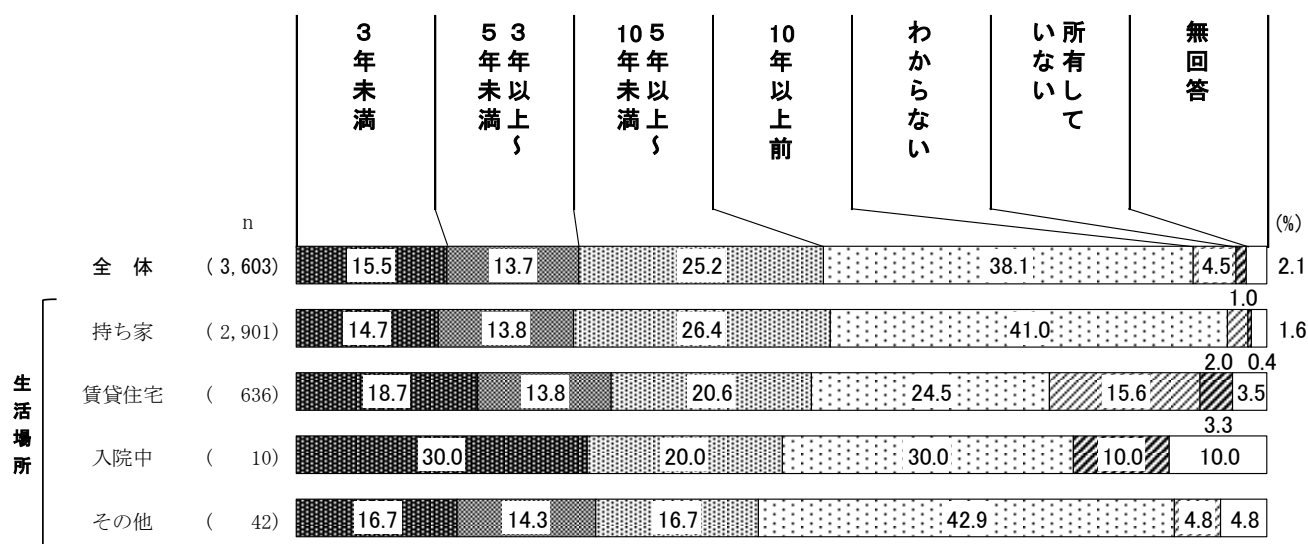
(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期

問 32 現在、ご家庭で使用しているエアコン（一番古いもの）を購入したのはいつ頃ですか。
 (〇は1つ)

家庭で使用しているエアコンの購入時期については、「10年以上前」が38.1%で最も高く、次いで「5年以上～10年未満」(25.2%)、「3年未満」(15.5%)と続いています。

問3の生活している場所別で見ると、【賃貸住宅】の人は他の層と比べて「10年以上前」(24.5%)が低く、「わからない」(15.6%)が高くなっています。

図表2-8-1 家庭で使用しているエアコンの購入時期／生活している場所別



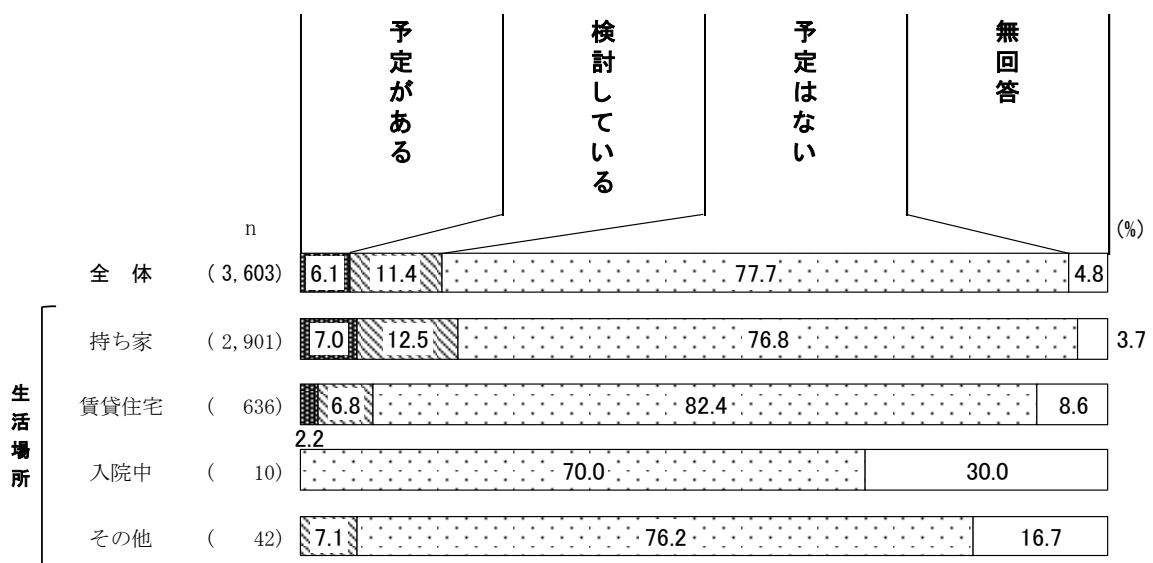
(2) エアコンの購入予定

問 33 おおむね 1 年以内にエアコンを買い替えまたは購入する予定はありますか。(○は 1 つ)

おおむね 1 年以内のエアコンの購入予定については、「予定はない」が 77.7% で最も高く、「検討している」が 11.4%、「予定がある」が 6.1% となっています。

問 3 の生活している場所別で見ると、【持ち家】の人は「検討している」が 12.5% で、他の層と比べて高くなっています。

図表 2-8-2 エアコンの購入予定／生活している場所別



問 6 の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】と回答した人は「検討している」(8.0%) が他の層と比べて最も低くなっています。

図表 2-8-3 エアコンの購入予定／経済的にみた暮らしの状況別

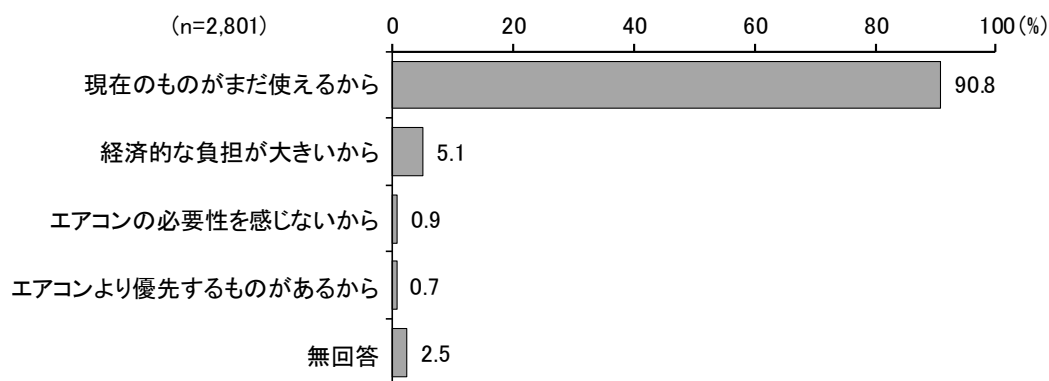
		回答者数 (n)	予定がある (%)	検討している (%)	予定はない (%)	無回答 (%)
全体		3,603	6.1	11.4	77.7	4.8
暮らしの状況	大変苦しい	300	3.7	8.0	80.3	8.0
	やや苦しい	749	4.4	12.8	78.1	4.7
	ふつう	1,846	6.8	11.4	77.6	4.2
	ややゆとりがある	512	7.4	11.5	78.1	2.9
	大変ゆとりがある	117	3.4	13.7	77.8	5.1

(3) エアコンの購入予定がない理由

問 33-① エアコンの買い替えまたは購入の予定がないとした最も大きな理由はなんですか。
(○は1つ)

おおむね1年以内のエアコンの購入予定がない人に、購入予定がない理由についてたずねたところ、「現在のものがまだ使えるから」(90.8%)が約9割を占めています。

図表 2-8-4 エアコンの購入予定がない理由



問 6 の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「経済的な負担が大きいから」は【大変苦しい】(24.5%)、【やや苦しい】(10.1%)と回答した人が他の層と比べて高くなっています。

図表 2-8-5 エアコンの購入予定がない理由／経済的にみた暮らしの状況別

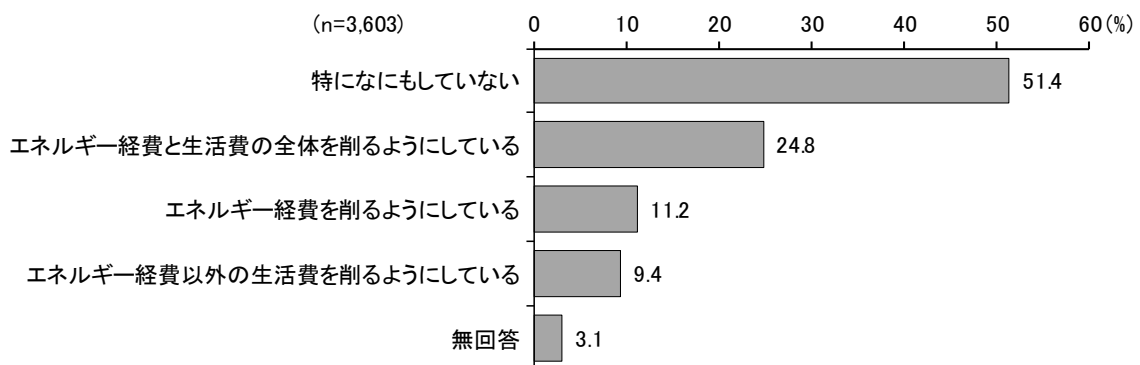
		回答者数 (n)	現在のものがまだ 使えるから	経済的な 負担が大 きいから	エアコン の必要 性を感じ ないから	エアコンよ り優先す るもの があるから	無回答
全体		2,801	90.8	5.1	0.9	0.7	2.5
暮 ら し の 状 況	大変苦しい	241	69.3	24.5	3.7	0.8	1.7
	やや苦しい	585	84.6	10.1	0.9	1.4	3.1
	ふつう	1,432	94.6	1.6	0.6	0.6	2.7
	ややゆとりがある	400	97.5	0.3	0.8	-	1.5
	大変ゆとりがある	91	97.8	-	-	-	2.2

(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無

問 34 エネルギー経費（電気、ガス、ガソリン代など）が家計の負担となっていて、エアコンやガスなどの使用を控えたり、その他の生活費（食費、服飾費、住居費など）を削減していますか。（○は1つ）

エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無については、「特になにもしていない」が51.4%で最も高く、次いで「エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている」（24.8%）、「エネルギー経費を削るようにしている」（11.2%）と続いています。

図表 2-8-6 エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無



問 6 の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】、【やや苦しい】と回答した人は「エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている」が最も高く、その他の層は「特になにもしていない」が最も高くなっています。

図表 2-8-7 エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無
／経済的にみた暮らしの状況別

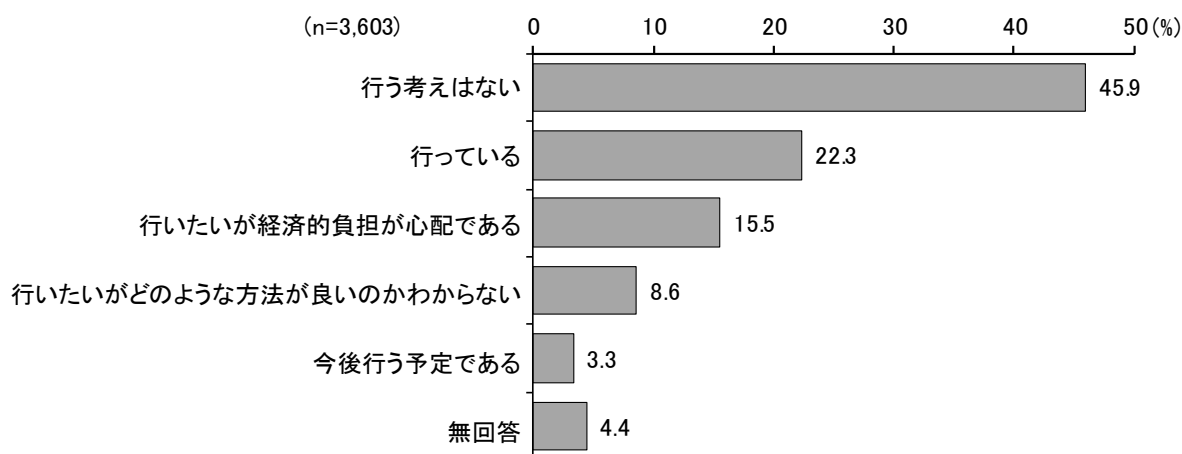
		回答者数 (n)	特になにもしていない (%)	エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている (%)	エネルギー経費を削るようにしている (%)	エネルギー経費以外の生活費を削るようにしている (%)	無回答 (%)
全体		3,603	51.4	24.8	11.2	9.4	3.1
暮らしの状況	大変苦しい	300	15.0	55.3	11.7	13.3	4.7
	やや苦しい	749	24.8	45.1	13.0	14.6	2.5
	ふつう	1,846	58.6	18.2	11.8	8.6	2.9
	ややゆとりがある	512	79.7	6.8	8.8	2.3	2.3
	大変ゆとりがある	117	88.0	4.3	3.4	-	4.3

(5) エネルギー経費削減のためにしている対策

問 35 エネルギー経費削減のため、住宅の壁、床、屋根、窓などの断熱化や太陽光発電機器の導入などの対策を行っていますか。(○は1つ)

エネルギー経費削減のためにしている対策については、「行う考えはない」が45.9%で最も高く、次いで「行っている」(22.3%)、「行いたいが経済的負担が心配である」(15.5%)と続いています。

図表2-8-8 エネルギー経費削減のためにしている対策



問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「行っている」の割合はゆとりがあると回答した人ほど高くなっています。また、「行いたいが経済的負担が心配である」の割合は苦しいと回答した人ほど高くなっています。

図表2-8-9 エネルギー経費削減のためにしている対策／経済的にみた暮らしの状況別

		回答者数 (n)	行わない (%)	行っている (%)	行いたい が経済的 負担が心 配である (%)	行いたい がどのよ うな方法 が良いの かわから ない (%)	今後行う 予定であ る (%)	無回答 (%)
全体		3,603	45.9	22.3	15.5	8.6	3.3	4.4
暮らしの 状況	大変苦しい	300	49.3	7.7	30.0	3.0	2.7	7.3
	やや苦しい	749	42.3	16.6	27.5	7.7	1.7	4.1
	ふつう	1,846	46.9	24.2	12.0	9.5	3.4	4.0
	ややゆとりがある	512	44.3	30.9	5.9	10.5	5.1	3.3
	大変ゆとりがある	117	53.0	33.3	0.9	5.1	4.3	3.4

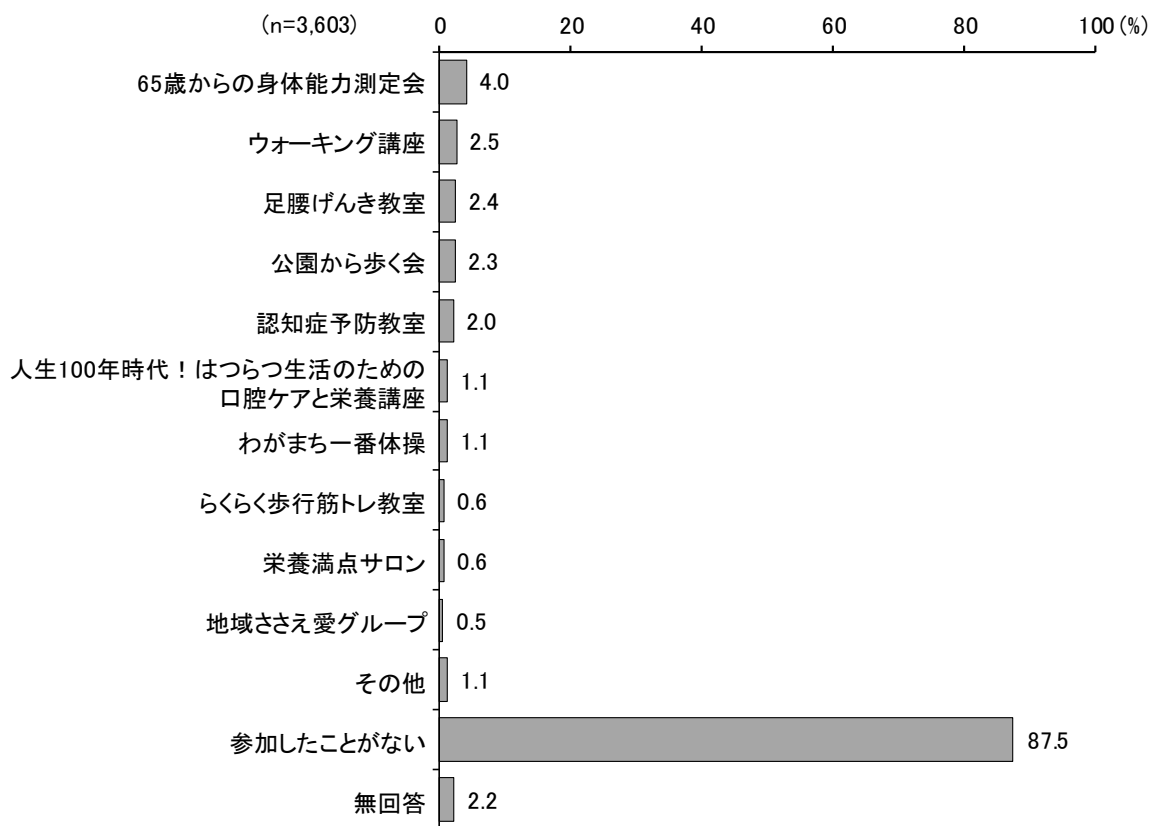
9. 介護予防や福祉サービスについて

(1) 参加したことがある介護予防事業

問 36 これまでに参加している・したことがある介護予防事業はありますか。
(〇はいくつでも)

参加したことがある介護予防事業については、最も割合の高い「65歳からの身体能力測定会」(4.0%)でも1割を下回り、「参加したことがない」(87.5%)が8割以上を占めています。

図表 2-9-1 参加したことがある介護予防事業



第2章 高齢者実態調査

いずれかの介護予防事業に参加している、または参加したことがあると回答した人について年齢別で見ると、90歳未満の年齢層で「65歳からの身体能力測定会」が最も高くなっています。

図表2-9-2 参加したことがある介護予防事業／年齢別

			(%)										
		「参加している・したことがある」回答者数(n)	65歳からの身体能力測定会	ウォーキング講座	足腰げんき教室	公園から歩く会	認知症予防教室	わがまち一番体操	人生100年時代！はつらつ生活のための口腔ケアと栄養講座	らくらく歩行筋トレ教室	栄養満点サロン	地域ささえ愛グループ	その他
全体		374	38.5	24.3	23.0	22.5	19.5	11.0	10.4	5.9	5.9	5.1	11.0
年齢	65～69歳	36	44.4	33.3	11.1	22.2	8.3	5.6	8.3	8.3	5.6	-	11.1
	70～74歳	79	35.4	17.7	21.5	13.9	15.2	6.3	10.1	7.6	3.8	5.1	19.0
	75～79歳	110	41.8	27.3	18.2	23.6	23.6	8.2	10.0	3.6	4.5	5.5	3.6
	80～84歳	92	33.7	20.7	29.3	26.1	26.1	15.2	10.9	3.3	9.8	6.5	16.3
	85～89歳	44	38.6	27.3	27.3	25.0	13.6	18.2	13.6	11.4	6.8	6.8	6.8
	90歳以上	12	41.7	25.0	50.0	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	-	-	-

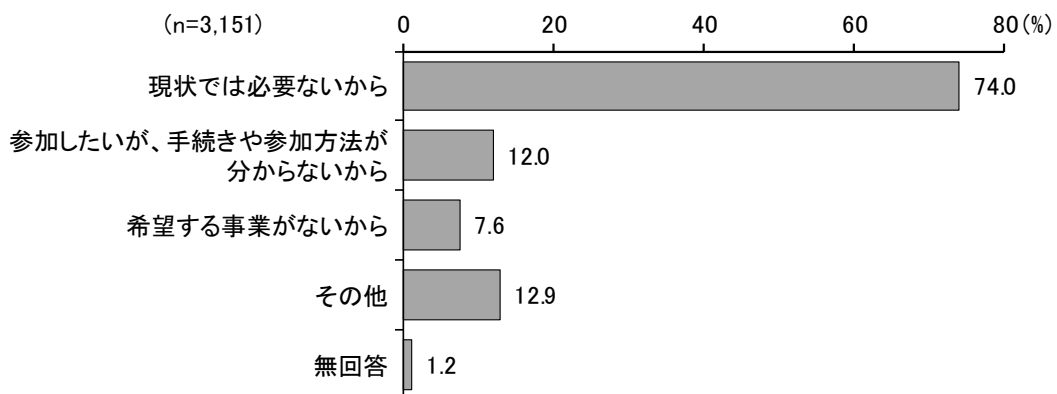
※回答者数から「参加したことがない」と無回答を除いた人数を「参加している・したことがある」回答者数としています。

(2) 介護予防事業に参加していない理由

問 36-① 介護予防事業に参加していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

介護予防事業に参加したことがない人に、その理由についてたずねたところ、「現状では必要ないから」が74.0%で最も高く、次いで「その他」(12.9%)、「参加したいが、手続きや参加方法が分からないから」(12.0%)と続いています。

図表 2-9-3 介護予防事業に参加していない理由



「その他」の回答内容 (上位 10 項目)	件数
仕事をしていて忙しい	59
病気・体の痛みのため	55
介護予防事業のことを知らない	49
忙しい・時間がない	46
別途スポーツ等をしている	32
家族の看護・介護のため外出できない	30
近くでやっていない	29
人付き合いしたくない・集団が苦手	25
面倒	11
予定が合わない	10

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は他の層と比べて「現状では必要ないから」が低く、「参加したいが、手続きや参加方法が分からないから」が高くなっています。

図表 2-9-4 介護予防事業に参加していない理由／世帯構成別

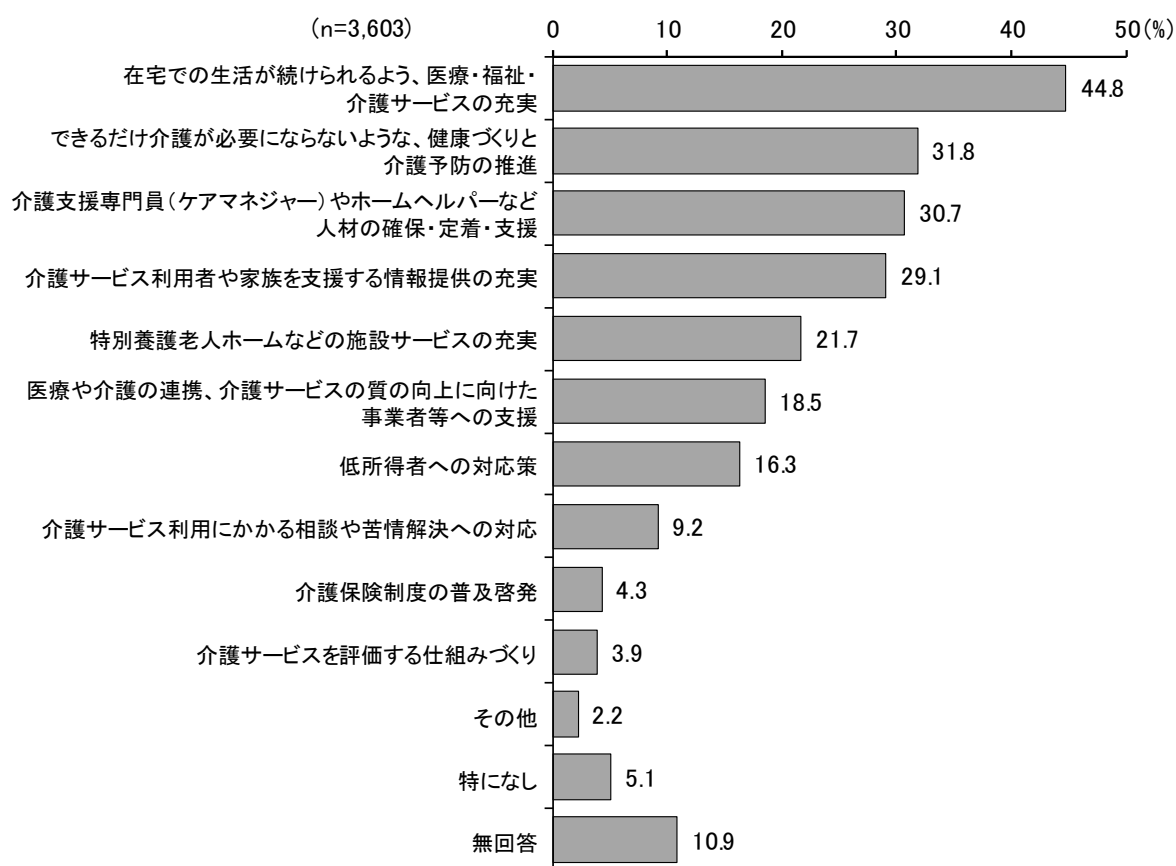
		回答者数 (n)	現状では必要ないから (%)	参加したいが、手続きや参加方法が分からないから (%)	希望する事業がないから (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体		3,151	74.0	12.0	7.6	12.9	1.2
世帯構成	独居高齢者	772	68.1	15.7	6.9	13.3	1.8
	高齢者のみの世帯の高齢者	1,292	76.2	10.4	7.8	12.5	0.9
	その他の高齢者	1,087	75.5	11.1	8.0	13.2	1.0

(3) 今後、区が力を入れていくべきこと

問 37 今後、区が力を入れていくべきと思うことはなんですか。(〇は3つまで)

今後、区が力を入れていくべきことについては、「在宅での生活が続けられるよう、医療・福祉・介護サービスの充実」が44.8%で最も高く、次いで「できるだけ介護が必要にならないような、健康づくりと介護予防の推進」(31.8%)、「介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパーなど人材の確保・定着・支援」(30.7%)と続いています。

図表 2-9-5 今後、区が力を入れていくべきこと



問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】と回答した人は、「低所得者への対応策」(54.0%)が最も高くなっています。また、【大変ゆとりがある】と回答した人は、「特になし」(12.8%)が他の層と比べて高くなっています。

図表2-9-6 今後、区が力を入れていくべきこと／経済的にみた暮らしの状況別

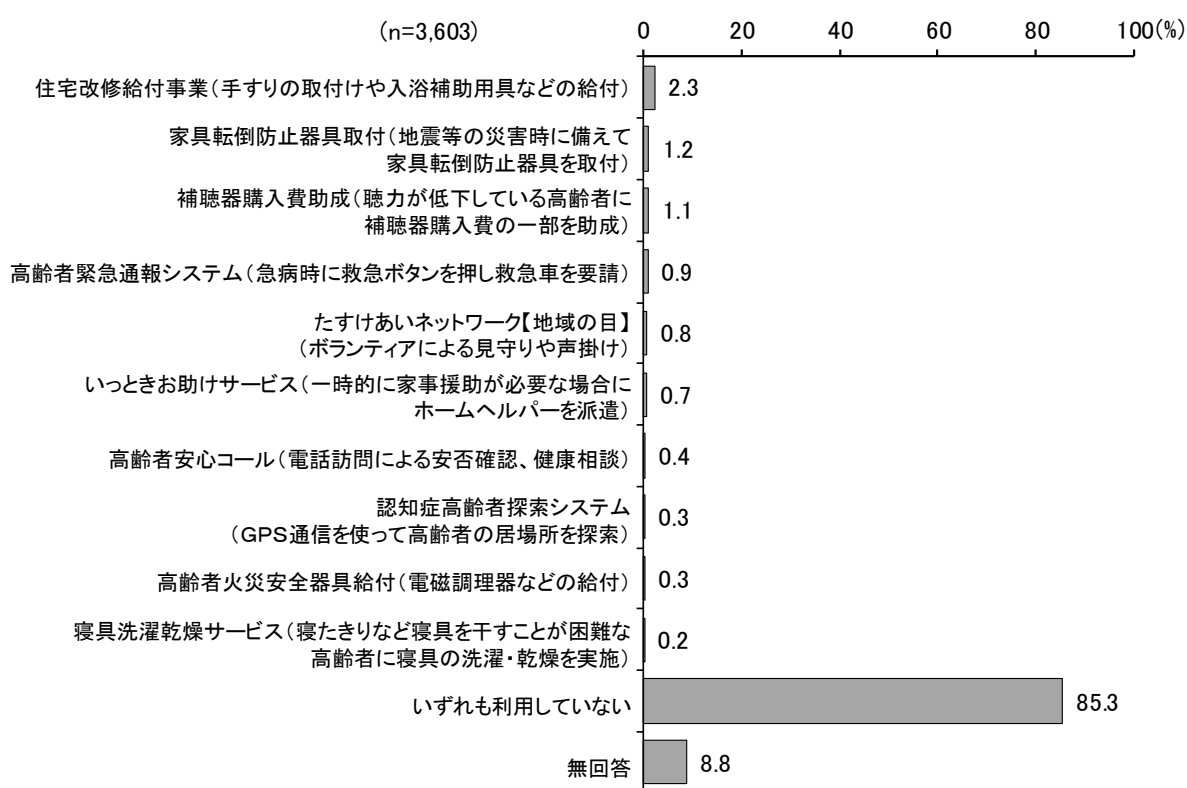
		回答者数 (n)	(%)									
			在宅での生活が続けられるよう、医療・福祉・介護サービスの充実	できるだけ介護が必要にならないような、健康づくりと介護予防の推進	介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパーなど人材の確保・定着・支援	介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実	特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実	医療や介護の連携、介護サービスの質の向上に向けた事業者等への支援	低所得者への対応策	介護サービス利用にかかる相談や苦情解決への対応	介護保険制度の普及啓発	介護サービスを評価する仕組みづくり
全体		3,603	44.8	31.8	30.7	29.1	21.7	18.5	16.3	9.2	4.3	3.9
暮らしの状況	大変苦しい	300	38.7	22.0	20.0	19.3	23.0	13.7	54.0	11.0	2.7	4.3
	やや苦しい	749	43.4	29.6	26.3	25.1	22.6	18.8	28.6	9.5	6.3	4.1
	ふつう	1,846	46.2	34.2	31.8	31.6	22.7	18.0	9.0	9.2	4.3	3.5
	ややゆとりがある	512	48.0	33.0	38.9	33.8	19.1	20.5	4.9	8.4	3.1	3.9
	大変ゆとりがある	117	39.3	30.8	33.3	26.5	13.7	25.6	7.7	6.8	2.6	6.0
		回答者数 (n)	その他	特になし	無回答							
全体		3,603	2.2	5.1	10.9							
暮らしの状況	大変苦しい	300	4.0	3.3	11.7							
	やや苦しい	749	2.7	3.7	10.9							
	ふつう	1,846	1.8	5.5	10.3							
	ややゆとりがある	512	1.8	5.1	10.4							
	大変ゆとりがある	117	3.4	12.8	10.3							

(4) 現在利用している高齢者在宅サービス

問 38 次の中で、現在利用している高齢者在宅サービス（区の独自サービス）はありますか。
（○はいくつでも）

現在利用している高齢者在宅サービスについては、最も割合の高い「住宅改修給付事業（手すりの取付けや入浴補助用具などの給付）」（2.3%）でも1割を下回り、「いずれも利用していない」（85.3%）が8割以上を占めています。

図表 2-9-7 現在利用している高齢者在宅サービス



年齢別で見ると、「いずれも利用していない」の割合は、【65～69歳】と【70～74歳】が9割を超えて高くなっています。

図表2-9-8 現在利用している高齢者在宅サービス／年齢別

		回答者数 (n)	住宅改修 給付事業 (手すりの 取付けや 入浴補助 用具など の給付)	家具転倒 防止器具 取付(地 震等の災 害時に備 えて家具 転倒防止 器具を取 付)	補聴器購 入費助成 (聴力が 低下して いる高齢 者に補聴 器購入費 の一部を 助成)	高齢者緊 急通報シ ステム(急 病時に救 急ボタンを 押し救急 車を要請)	たすけあ いネット ワーク【地 域の目】 (ボラン ティアによ る見守り や声掛け)	いっときお 助けサー ビス(一時 的に家事 援助が必 要な場合 にホーム ヘルパー を養成)	高齢者安 心コール (電話訪 問による 安否確 認、健康 相談)	認知症高 齢者探索 システム (GPS通 信を使っ て高齢者 の居場所 を探索)	高齢者火 災安全器 具給付 (電磁調 理器など の給付)
全体		3,603	2.3	1.2	1.1	0.9	0.8	0.7	0.4	0.3	0.3
年齢	65～69歳	855	0.9	0.6	0.6	0.4	0.4	0.4	0.1	0.2	-
	70～74歳	859	0.7	0.7	0.2	0.3	0.2	0.8	0.2	0.1	-
	75～79歳	937	1.8	1.2	1.0	0.4	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4
	80～84歳	572	5.4	2.6	2.1	2.1	1.7	1.7	1.2	0.5	0.9
	85～89歳	264	4.9	1.5	3.0	3.0	2.3	0.8	0.8	-	0.8
	90歳以上	110	6.4	1.8	3.6	3.6	2.7	0.9	-	-	-

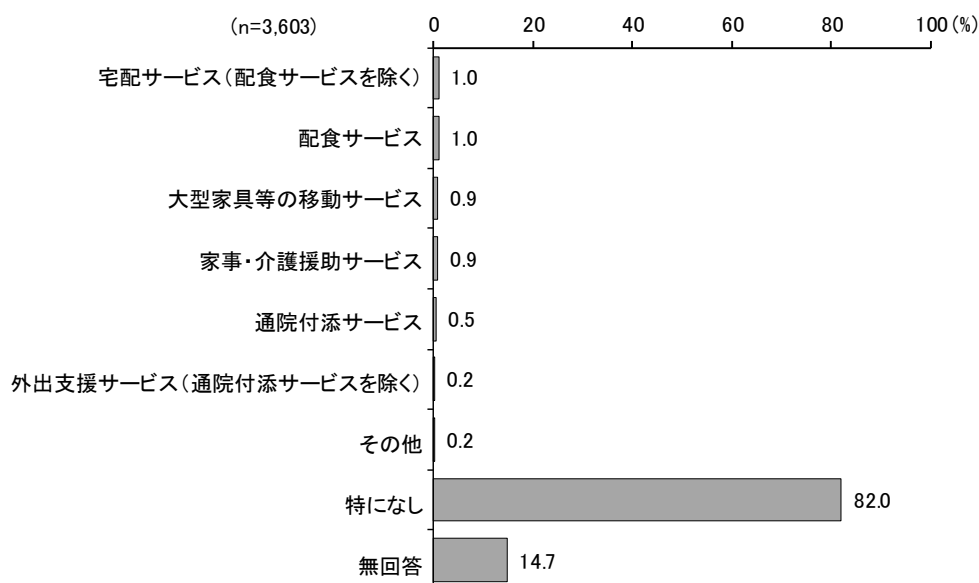
		回答者数 (n)	寝具洗濯 乾燥サー ビス(寝た きりなど寝 具を干す ことが困 難な高齢 者に寝具 の洗濯・ 乾燥を実 施)	いずれも 利用して いない	無回答
全体		3,603	0.2	85.3	8.8
年齢	65～69歳	855	0.1	93.7	4.3
	70～74歳	859	0.1	91.0	5.9
	75～79歳	937	0.2	85.3	9.6
	80～84歳	572	0.5	73.8	13.6
	85～89歳	264	-	69.7	17.8
	90歳以上	110	-	74.5	10.9

(5) 現在利用している民間の福祉サービス

問 39 問 38 以外で利用している民間の福祉サービスがあれば教えてください。
(〇はいくつでも)

現在利用している民間の福祉サービスについては、最も割合の高い「宅配サービス（配食サービスを除く）」（1.0%）でも1割を下回り、「特になし」（82.0%）が8割以上を占めています。

図表 2-9-9 現在利用している民間の福祉サービス



年齢別で見ると、「特になし」の割合は【90歳以上】を除き、年齢が上がるほど低くなっています。

図表 2-9-10 現在利用している民間の福祉サービス／年齢別

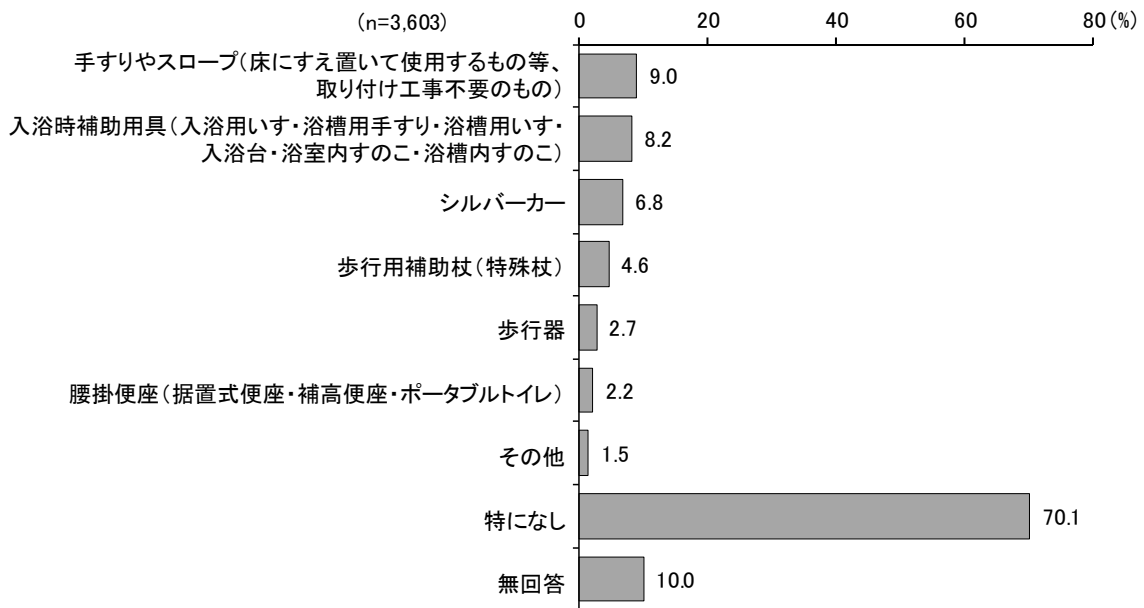
		回答者数 (n)	宅配サービス(配食サービスを除く)	配食サービス	大型家具等の移動サービス	家事・介護援助サービス	通院付添サービス	外出支援サービス(通院付添サービスを除く)	その他	特になし	無回答
全体		3,603	1.0	1.0	0.9	0.9	0.5	0.2	0.2	82.0	14.7
年齢	65～69歳	855	0.8	1.1	0.7	1.2	0.5	0.4	0.1	89.5	7.7
	70～74歳	859	0.8	0.8	0.6	1.3	0.5	0.3	0.3	85.6	11.3
	75～79歳	937	0.9	0.5	1.0	0.5	0.4	0.2	0.2	82.8	14.6
	80～84歳	572	1.0	1.4	0.7	1.0	0.7	0.2	0.2	73.3	23.1
	85～89歳	264	2.7	1.5	2.3	0.4	0.8	-	0.4	65.9	27.3
	90歳以上	110	1.8	1.8	0.9	0.9	0.9	-	0.9	74.5	19.1

(6) 今後利用したい福祉用具等

問 40 次の中で、今後利用したい福祉用具等がありますか。(〇はいくつでも)

今後利用したい福祉用具等については、最も割合の高い「手すりやスロープ(床にすえ置いて使用するもの等、取り付け工事不要のもの)」(9.0%)でも1割を下回り、「特になし」(70.1%)が約7割を占めています。

図表 2-9-11 今後利用したい福祉用具等



年齢別で見ると、「特になし」の割合は年齢が上がるほど低くなっています。

図表 2-9-12 今後利用したい福祉用具等／年齢別

		回答者数 (n)	手すりやスロープ(床にすえ置いて使用するもの等、取り付け工事不要のもの)	入浴時補助用具(入浴用いす・浴槽用手すり・浴槽用いす・入浴台・浴室内すのこ・浴槽内すのこ)	シルバーカー	歩行用補助杖(特殊杖)	歩行器	腰掛便座(据置式便座・補高便座・ポータブルトイレ)	その他	特になし	無回答
全体		3,603	9.0	8.2	6.8	4.6	2.7	2.2	1.5	70.1	10.0
年齢	65~69歳	855	9.6	7.1	4.7	5.0	2.5	1.9	0.8	79.5	4.4
	70~74歳	859	9.0	6.9	7.0	3.4	1.5	2.2	1.6	76.3	6.9
	75~79歳	937	8.6	8.1	6.3	3.4	2.6	1.7	1.7	67.8	11.3
	80~84歳	572	9.3	10.5	9.4	5.9	3.5	3.7	0.7	59.6	16.3
	85~89歳	264	7.2	8.0	6.8	6.8	5.3	2.7	3.0	58.7	18.6
	90歳以上	110	10.0	14.5	11.8	9.1	4.5	1.8	4.5	52.7	13.6

10. 終活について

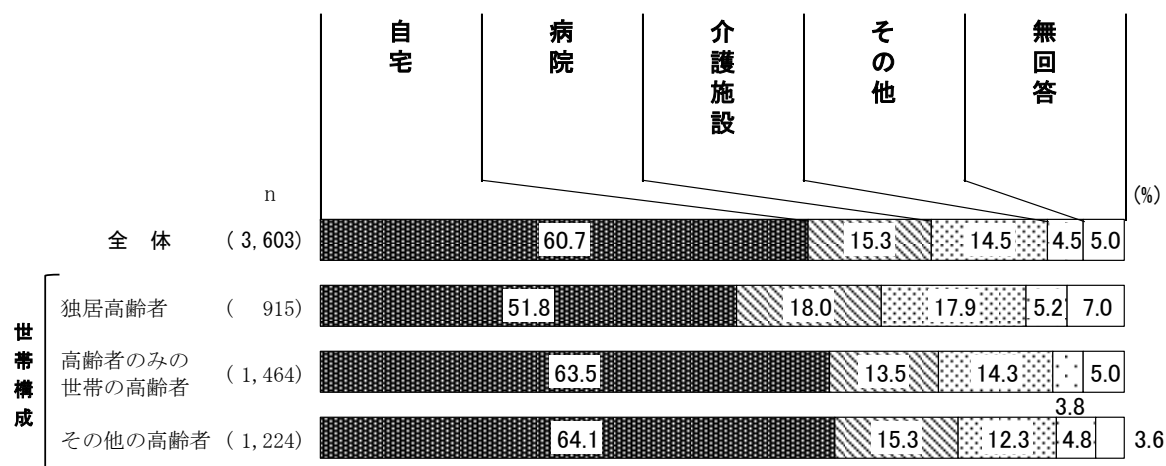
(1) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所

問 41 人生の最期や終末期を過ごしたい場所はどちらですか。(〇は1つ)

人生の最期や終末期を過ごしたい場所については、「自宅」が60.7%で最も高く、次いで「病院」(15.3%)、「介護施設」(14.5%)と続いています。

世帯構成別で見ると、「自宅」の割合は【独居高齢者】が51.8%と、他の層と比べて低くなっています。

図表 2-10-1 人生の最期や終末期を過ごしたい場所／世帯構成別



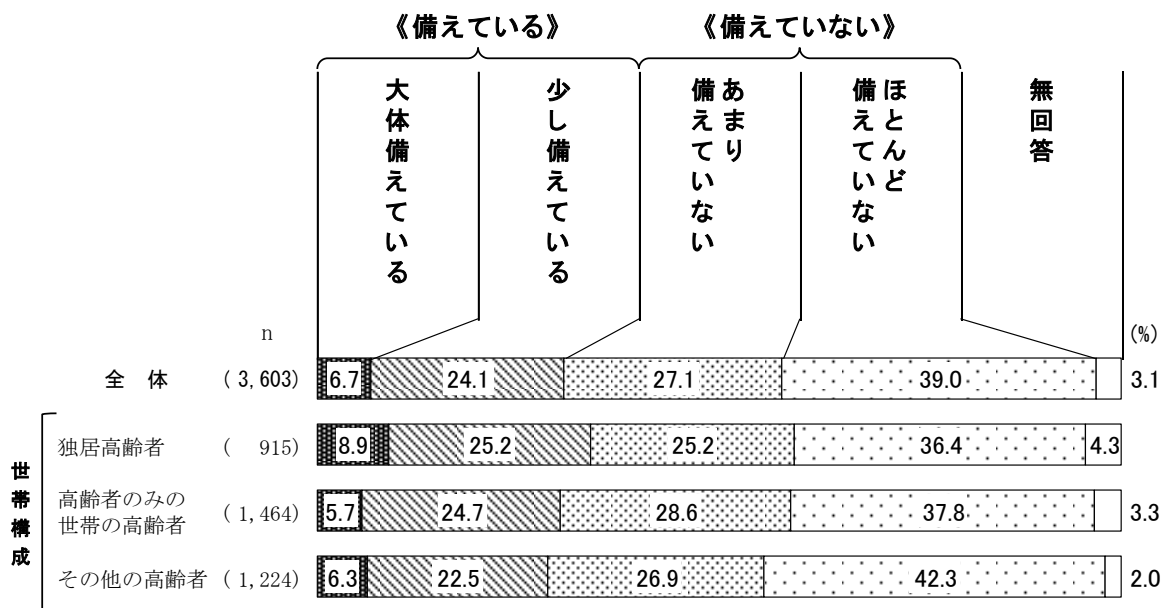
(2) 人生の最期や終末期に向けての備え

問 42 人生の最期や終末期に向けて備えていますか。(○は1つ)

人生の最期や終末期に向けての備えについては、「ほとんど備えていない」が39.0%で最も高く、次いで「あまり備えていない」(27.1%)、「少し備えている」(24.1%)と続いています。

世帯構成別で見ると、「大体備えている」と「少し備えている」を合計した《備えている》の割合は、【独居高齢者】が34.1%で、他の層と比べて高くなっています。

図表2-10-2 人生の最期や終末期に向けての備え／世帯構成別



問6の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、「あまり備えていない」と「ほとんど備えていない」を合計した《備えていない》の割合は経済的に苦しいと回答した人ほど高くなっています。

図表2-10-3 人生の最期や終末期に向けての備え／経済的にみた暮らしの状況別

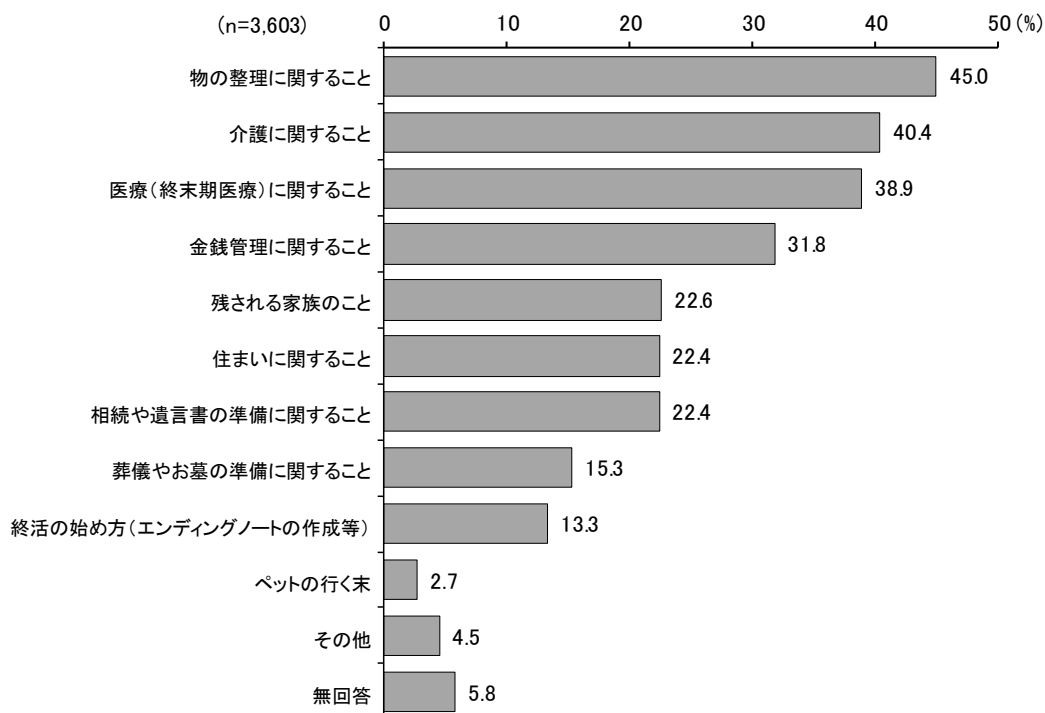
		回答者数 (n)	(%)				
			大体備えている	少し備えている	あまり備えていない	ほとんど備えていない	無回答
全体		3,603	6.7	24.1	27.1	39.0	3.1
暮らしの状況	大変苦しい	300	3.7	15.0	23.0	53.7	4.7
	やや苦しい	749	2.0	19.8	28.7	46.6	2.9
	ふつう	1,846	6.9	25.1	27.5	37.4	3.1
	ややゆとりがある	512	10.5	32.2	28.3	27.0	2.0
	大変ゆとりがある	117	22.2	22.2	20.5	33.3	1.7

(3) 人生の最期や終末期に向けた心配事

問 43 人生の最期や終末期に向けた心配事はなんですか。(〇はいくつでも)

人生の最期や終末期に向けた心配事については、「物の整理に関すること」が45.0%で最も高く、次いで「介護に関すること」(40.4%)、「医療(終末期医療)に関すること」(38.9%)、「金銭管理に関すること」(31.8%)と続いています。

図表 2-10-4 人生の最期や終末期に向けた心配事



問 6 の経済的にみた暮らしの状況別で見ると、【大変苦しい】、【やや苦しい】と回答した人は「金銭管理に関すること」、「残される家族のこと」、「住まいに関すること」、「葬儀やお墓の準備に関すること」の割合が他の層と比べて高くなっています。また、【ややゆとりがある】、【大変ゆとりがある】と回答した人は「相続や遺言書の準備に関すること」の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表 2-10-5 人生の最期や終末期に向けた心配事／経済的にみた暮らしの状況別

		回答者数 (n)	物の整理に関すること	介護に関すること	医療(終末期医療)に関すること	金銭管理に関すること	残される家族のこと	住まいに関すること	相続や遺言書の準備に関すること	葬儀やお墓の準備に関すること	終活の始め方(エンディングノートの作成等)	ペットの行く末	その他	無回答
全体		3,603	45.0	40.4	38.9	31.8	22.6	22.4	22.4	15.3	13.3	2.7	4.5	5.8
暮らしの状況	大変苦しい	300	46.3	35.7	36.0	39.7	24.3	34.7	13.3	25.3	11.0	3.3	6.3	6.3
	やや苦しい	749	47.3	42.6	42.1	39.3	27.6	28.6	19.8	21.5	14.7	3.2	4.4	5.2
	ふつう	1,846	44.9	40.2	38.7	30.0	20.7	20.4	21.9	13.0	13.2	2.3	4.8	6.0
	ややゆとりがある	512	42.8	44.1	40.8	27.0	23.8	16.2	31.4	12.1	12.7	2.0	2.7	4.1
	大変ゆとりがある	117	45.3	25.6	25.6	15.4	14.5	12.0	33.3	3.4	17.9	4.3	6.8	8.5

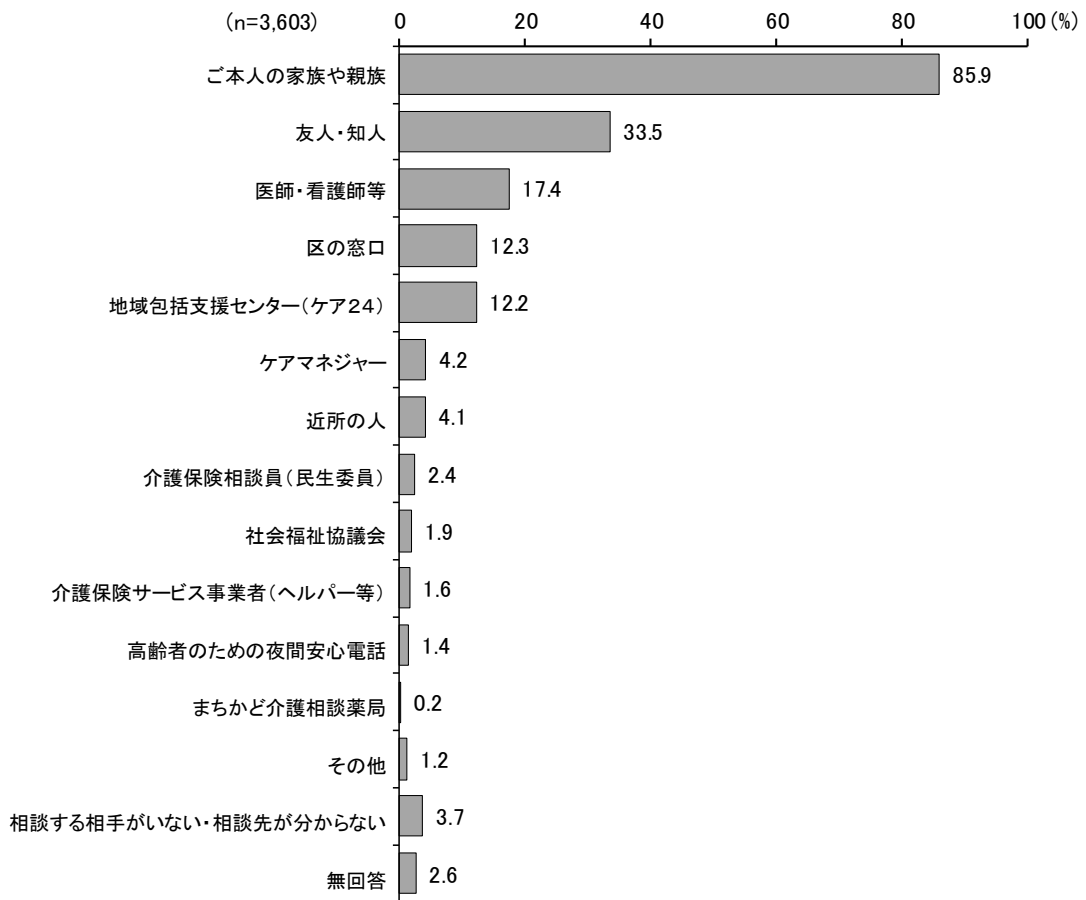
11. 困った時等の相談先について

(1) 困った時等の相談先

問44 生活の中で困ったことや不安に思うことがあったとき、どなた（どこ）に相談しますか。
（〇はいくつでも）

困った時等の相談先については、「ご本人の家族や親族」が85.9%で最も高く、次いで「友人・知人」(33.5%)、「医師・看護師等」(17.4%)、「区の窓口」(12.3%)と続いています。

図表2-11-1 困った時等の相談先



第2章 高齢者実態調査

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は他の層と比べて「ご本人の家族や親族」の割合が低く、「友人・知人」、「相談する相手がない・相談先が分からない」の割合が高くなっています。

図表2-11-2 困った時等の相談先／世帯構成別

		回答者数 (n)	ご本人の家族や親族	友人・知人	医師・看護師等	区の窓口	地域包括支援センター(ケア24)	ケアマネジャー	近所の人	介護保険相談員(民生委員)	社会福祉協議会	介護保険サービス事業者(ヘルパー等)
全体		3,603	85.9	33.5	17.4	12.3	12.2	4.2	4.1	2.4	1.9	1.6
世帯構成	独居高齢者	915	73.1	40.1	12.6	11.0	11.8	2.7	5.7	2.5	3.2	1.1
	高齢者のみの世帯の高齢者	1,464	89.3	32.3	18.2	12.3	13.2	5.4	3.4	2.6	1.5	2.0
	その他の高齢者	1,224	91.3	30.0	19.9	13.3	11.3	3.9	3.7	2.0	1.4	1.5

		回答者数 (n)	高齢者のための夜間安心電話	まちかど介護相談薬局	その他	相談する相手がない・相談先が分からない	無回答
全体		3,603	1.4	0.2	1.2	3.7	2.6
世帯構成	独居高齢者	915	1.6	0.1	1.4	7.3	3.3
	高齢者のみの世帯の高齢者	1,464	1.2	0.1	1.0	2.5	2.9
	その他の高齢者	1,224	1.5	0.4	1.2	2.4	1.7

(2) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況

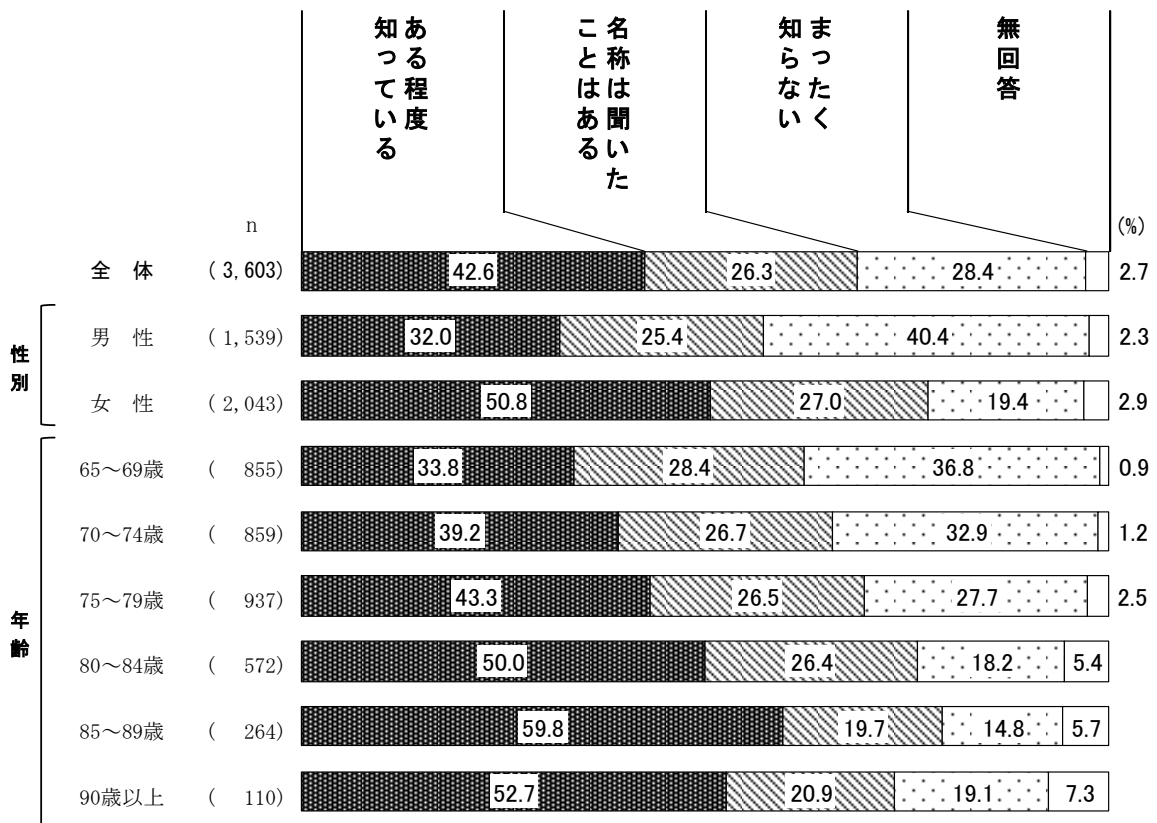
問 45 高齢者の総合相談窓口として、区内20カ所に設置している「ケア24（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況については、「ある程度知っている」が42.6%で最も高く、次いで「まったく知らない」（28.4%）、「名称は聞いたことはある」（26.3%）となっています。

性別で見ると、「ある程度知っている」の割合は【女性】の方が高く、「まったく知らない」は【男性】の方が高くなっています。

年齢別で見ると、「ある程度知っている」の割合は【90歳以上】を除き、年齢が上がるほど高くなっています。

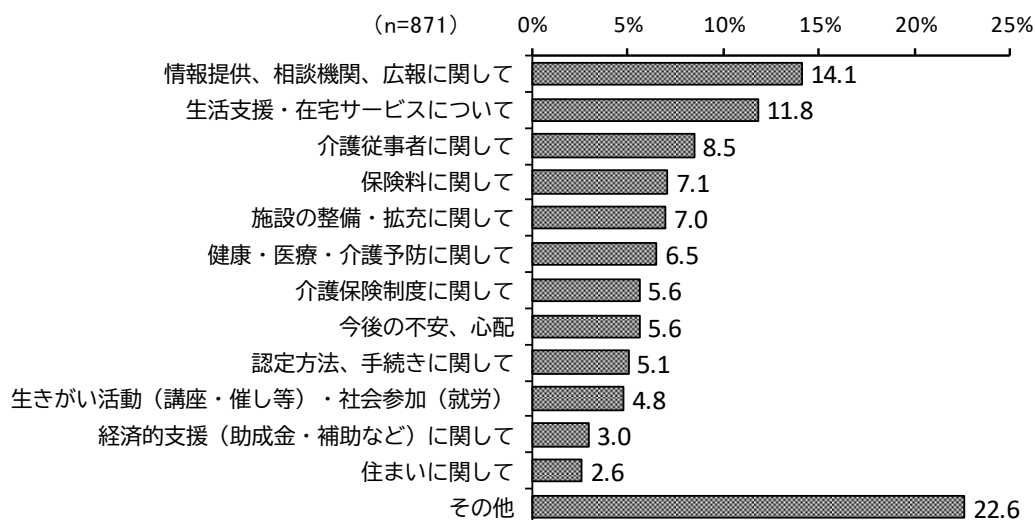
図表2-11-3 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況／性別・年齢別



12. 自由意見

介護保険制度、高齢者福祉サービスなどについてのご意見・ご要望をご自由にお書きください。

介護保険制度、高齢者福祉サービスなどについて、871人の方からご意見・ご要望をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、世帯構成（独居高齢者／高齢者のみの世帯の高齢者／その他の高齢者）別に、内容別に件数が多かった上位5位の主な意見・要望を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

独居高齢者

249人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 情報提供、相談機関、広報に関して（30人／12.0%）

- ・このアンケートに答えることで杉並区の情報を色々と知ることができました。今はまだ働いたり、病院のお世話にはなっていませんがいざというときの備えが出来ない一人暮らしをしています。何でもかんでもネットを通して相談して欲しいとの社会はやめてほしいです。不安解消はネットではなく、口頭で電話対応できる安心できる窓口が必要と思います。（60代後半、女性）
- ・高齢者の抱える問題について一括して相談できる窓口が区にあると助かる。終活の各種手続きにあたり、必要になる専門家（弁護士等）を区で紹介してくれるサービス等があるとよい。（60代後半、男性）

◆ 生活支援・在宅サービスに関して（29人／11.6%）

- ・独身高齢者なので、認知症になる前に後見人や家族信託などの制度を詳しく知って手続きしておきたいと思います。財産相続や税金についても決めておきたいと思います。相談窓口を望みます。（70代前半、女性）

- ・主人を亡くし、一人で何でもやらないといけなくなり、困ることが多い。特に力仕事、修理など。近所や地元に残っている方がいない（頼りになるのは地方にいる妹と都内にいる娘夫婦）ので、悩みを話せる相手がいない。(60代後半、女性)

◆ 介護従事者に関して (21人/8.4%)

- ・今後ますます高齢者数が増え、介護・福祉の従事者が不足すると思う。サービスの質を低下させないためにも、現場で働く人々の待遇を良くする必要がある。財政・税金などを検討して、高齢者、受益者の負担が増えても仕方ないと思う。(80代前半、女性)
- ・昨年、もう少しで98歳になるところだった母を亡くしました。仕事を続けながら自宅で介護を続けるのが限界になり、亡くなる2年前に有料老人ホームに入ってもらいました。自分も10年もすれば人生の終わりをどう迎えるか真剣に考える年齢になってきました。そのために区にお願いしたいのは（国かもしれませんが）、介護に携わる方たちの待遇改善を一番に考えていただきたいと思います。(60代後半、男性)

◆ 保険料に関して (18人/7.2%)

- ・現在の介護健康保険料は年金生活者にとって負担が大きすぎると思います。保険料自体が変えられないのであれば、他の生活面での支援も充実させていただきたいと思います。国の方針をそのまま受け入れるのではなく、「区民の生活を守る」という意識をもっと強く持ってください。(60代後半、男性)
- ・低所得者（年金生活者1人暮らし）にとっては、介護保険料は高いと思います。(70代前半、女性)

◆ 今後の不安、心配 (16人/6.4%)

- ・今は高齢ながら自分でひとり暮らしができていますが、それができなくなった時に介護保険制度や高齢者福祉サービスなどを受けるタイミングというか、きっかけをどのようにして利用し始めていいかわからない。全く関係なく自立して生活しているが、将来のことを考えると不安に思うことがある。(70代後半、女性)
- ・最後まで1人だと思うので、自力生活ができなくなったら介護保険を利用して生活補助をしてもらいたいと思っている。特養には入らず、地域のグループホームや支え合い制度を充実していただけたら幸いです。(70代前半、女性)

高齢者のみの世帯の高齢者

340人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 情報提供、相談機関、広報に関して (45人/13.2%)

- ・介護保険制度を使ってどのくらいのことのできるのか、そのメニューの周知を十分やってほしい。保険料を年金から天引きされるだけで、「本当はこんな細かいサービスを受けられるよ」というメッセージが伝わってこない。見逃している人が多いと思う。(80代前半、男性)
- ・多くの区の高齢者サービスの存在を知らないことに気がきました。そうした情報が目につきやすいようにしていただくとよいと思う。(70代後半、女性)

◆ **生活支援・在宅サービスに関して（45人／13.2%）**

- ・母（102歳）の24時間介護をして1年10ヶ月経ちました。私自身も足腰が弱ってきていますが、一番大変なことは、普段の生活、掃除、洗濯、料理です。これを全て私の責任のもとしなければならぬことは負担です。（70代後半、女性）
- ・将来単身で終末期を迎えるにあたり、事前にお金を支払っておくと区が看取り葬儀、埋葬まで請け負ってくれるサービスを希望します。どこかの自治体で既に始まっているとテレビで見ました。民間業者では不安ですが、区でそんなサービスがあれば日々安心して暮らせそうな気がします。（70代前半、女性）

◆ **介護従事者に関して（34人／10.0%）**

- ・これから高齢者福祉サービス等を受けるであろう私にとっては、サービスをしてくださる方々の人手不足がとても気になりますので、エッセンシャルワーカーの方々の処遇改善をもっと進めていただいて、人手不足にならないような方策をお願いしたいと切に思っております。（80代前半、男性）
- ・介護職に対する世間へのイメージアップを図っていく。失敗、困難な面も含め、イキイキ働いている様子を知ることができるとよい。介護施設において、ボランティアとしてできる仕事を募っては？（元気な高齢者も参加できる）（70代後半、女性）

◆ **健康・医療・介護予防に関して（28人／8.2%）**

- ・運動の大切さを日頃から感じています。先日「足腰げんき教室」に参加しました。暑い時期に涼しい場所で身体を動かせることはとても快適でした。他にも高齢者の介護予防事業は色々ありますが、当選しにくいようで、もう少し回数を増やしていただけたらと思います。（60代後半、女性）
- ・介護予防事業に力を入れていただきたいです。情報がわかりにくく、どのように参加したら良いのかわかりづらく、またその場所も少なく感じます。自立している人にもデイサービスのよな通える場所があると良いと思います。（70代前半、男性）

◆ **保険料に関して（24人／7.1%）**

- ・介護保険料が高額で、その上、後期高齢者保険料も更に高額で、生活費を圧迫しています。（80代前半、男性）
- ・いずれ介護のお世話になる時が来ると思うが、現在、夫婦とも元気で自力で暮らしている状況では、介護保険料の負担が大きすぎるように感じる。（60代後半、男性）

その他の高齢者

282人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ **情報提供、相談機関、広報に関して（48人／17.0%）**

- ・ケア24が高齢者の総合相談窓口とは知らなかった。福祉系のみと思っていました。（60代後半、男性）

- ・介護保険制度や高齢者福祉サービスなどについてある程度理解はしているつもりだが、今のところ自分ごととして捉えられていない。認知症もMCI状態での早期発見と対処が重要と言われつつあることもあり、区の行政サービスとしての枠組みの概要周知と高齢者向けの健康状態健診などにこれからも注力いただければありがたい。(60代後半、男性)

◆ **生活支援・在宅サービスに関して (29人/10.3%)**

- ・杉並区の高齢化率が今後相当高まることが予想される中、各介護サービスの能力が十分満足な状態となるか否かが非常に気になる。現在の町会制度がほぼ機能しなくなっている背景もあり、近所での見守りや声かけなどが期待できなくなる中で、行政がどうそこをカバーするかが大きな課題となる。(70代前半、男性)
- ・現在はまずまず健康で(87歳)いられるので、家族(息子、娘各1名)と同居しているので特に不安はないのですが、ここ1年ごとに足に衰えを感じたり、ものの名前がなかなか出てこなかったりと老化を非常に感じています。今のところ家事全般(食事の支度・洗濯・掃除など、買物も)できていますが、1年先はどうなのかという不安はあります。子どもたちに負担をかけるようになった時の福祉サービスなどが少し心配です。(80代後半、女性)

◆ **施設の整備・拡充に関して (27人/9.6%)**

- ・高額な介護施設ではなく、高度な介護が比較的定額で受けられる施設や人材の養成が急務なのではと思います。(70代前半、男性)
- ・年収に関係なく誰でも入れる施設の充実。健康な高齢者が保証人無しで入れるアパート等を区で準備してほしい。(60代後半、男性)

◆ **保険料に関して (20人/7.1%)**

- ・介護認定の有無にかかわらず、必要なサービスが誰でも受けられるような制度の仕組みになってほしい。介護保険の支払いが高く生活が大変です。(60代後半、女性)
- ・今現在66歳ですが、今のところ制度やサービスは全く必要ないと感じております。65歳からではなく、70歳からの徴収でよいのではと思います。(60代後半、女性)

◆ **介護従事者に関して/健康・医療・介護予防に関して/今後の不安、心配 (各19人/6.7%)**

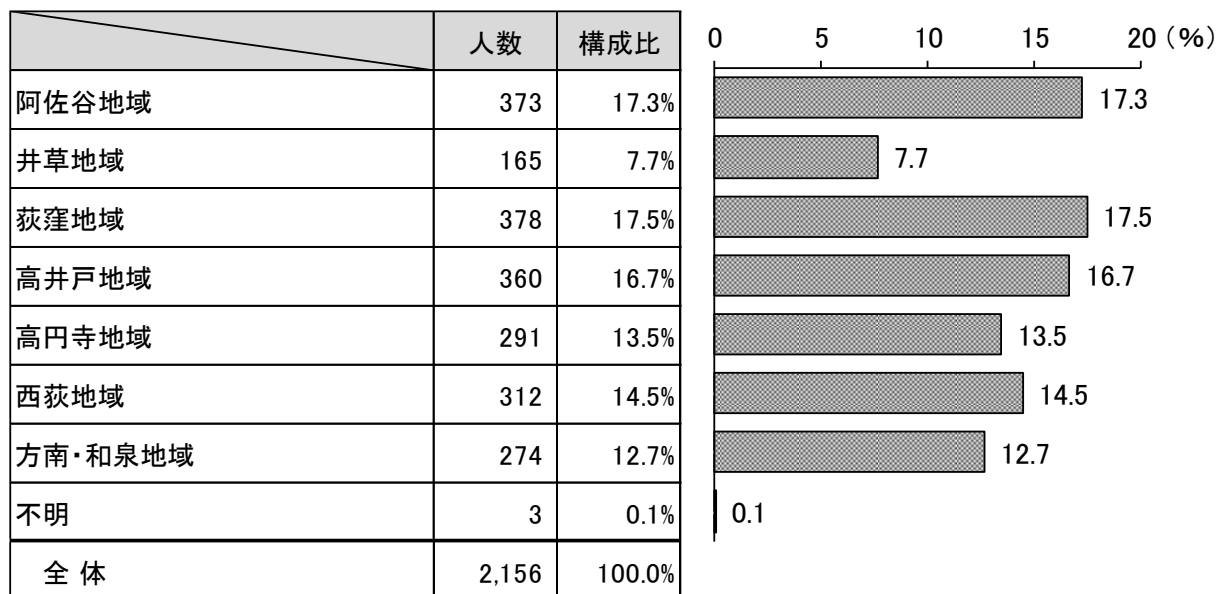
- ・ケアマネやホームヘルパーなど、人材の確保・定着・支援に力を入れていただきたいと思えます。人件費が安すぎます。(70代後半、女性)
- ・これから高齢者が増えていくので、椅子体操のように自身で体を鍛えられるような教室をもっと増やしてほしいです。皆が参加できるようにしてほしいと思えます。(70代後半、女性)
- ・今は現役として収入があり、年金収入もあるから良いが、介護サービスを受けるようになれば年金収入だけになり、手持ち預金と年金でやれるかが心配です。介護を受けたり高齢者施設へ入った場合に資金が足りるのかが不安です。(80代前半、男性)

第3章 在宅介護高齢者実態調査

1. 回答者の属性

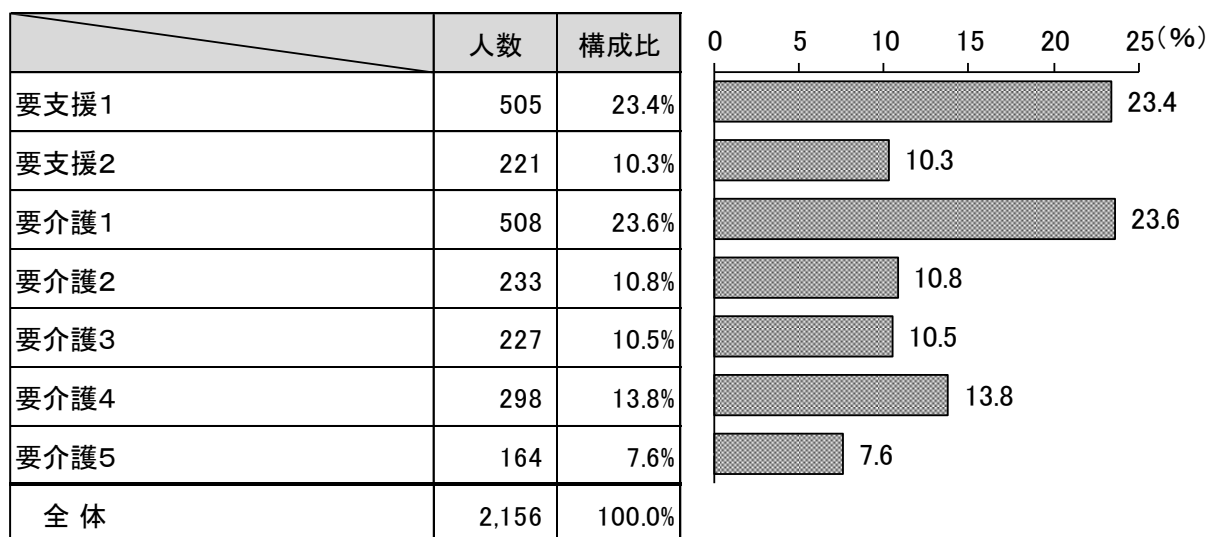
(1) 圏域

図表3-1-1 圏域



(2) 要介護度

図表3-1-2 要介護度



(3) 性別・年齢

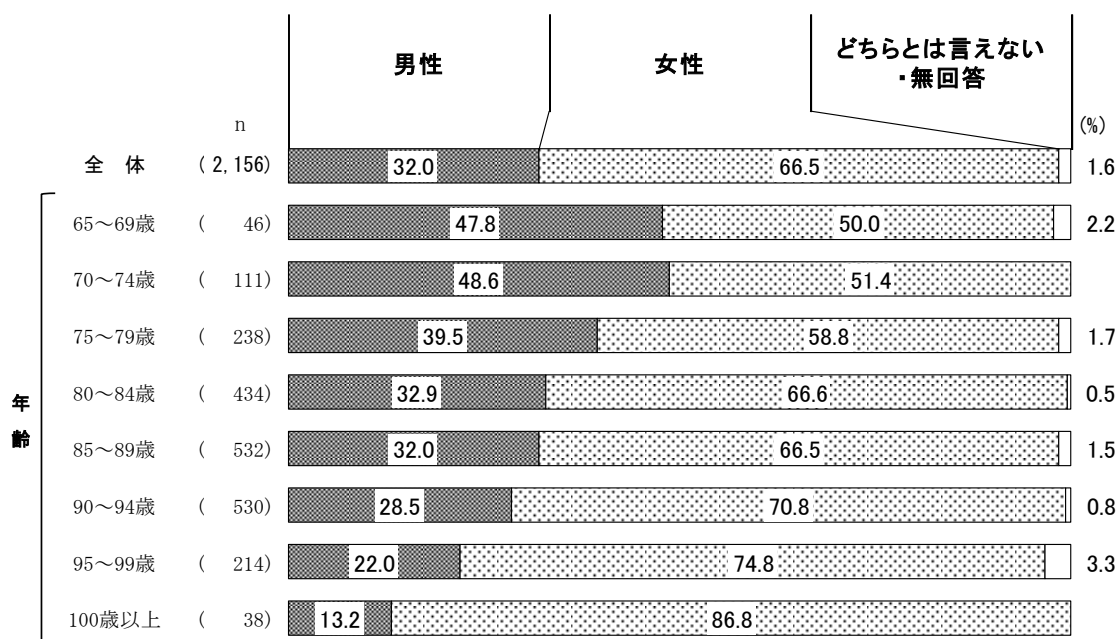
問1 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)
 問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

図表3-1-3 性別・年齢

(上段:人数、下段:構成比)

	全体	男性	女性	どちらとは言えない	無回答
65～69歳	46 100.0%	22 47.8%	23 50.0%	-	1 2.2%
70～74歳	111 100.0%	54 48.6%	57 51.4%	-	-
75～79歳	238 100.0%	94 39.5%	140 58.8%	-	4 1.7%
80～84歳	434 100.0%	143 32.9%	289 66.6%	-	2 0.5%
85～89歳	532 100.0%	170 32.0%	354 66.5%	-	8 1.5%
90～94歳	530 100.0%	151 28.5%	375 70.8%	-	4 0.8%
95～99歳	214 100.0%	47 22.0%	160 74.8%	1 0.5%	6 2.8%
100歳以上	38 100.0%	5 13.2%	33 86.8%	-	-
無回答	13 100.0%	3 23.1%	2 15.4%	-	8 61.5%
全体	2,156 100.0%	689 32.0%	1,433 66.5%	1 0.0%	33 1.5%

図表3-1-4 性別／年齢別



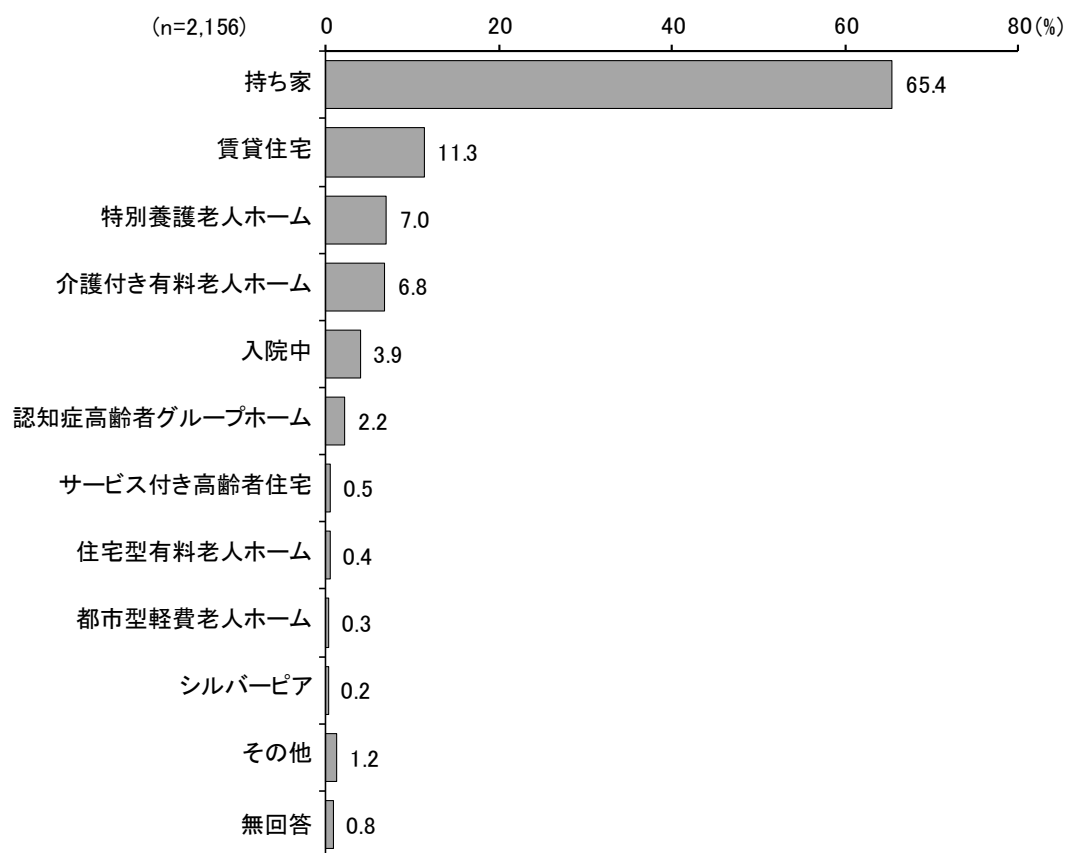
2. 家族や生活の状況について

(1) 生活している場所

問3 あなたが現在、生活している場所について教えてください。(○は1つ)

現在、生活している場所については、「持ち家」が65.4%で最も高く、次いで「賃貸住宅」(11.3%)、「特別養護老人ホーム」(7.0%)、「介護付き有料老人ホーム」(6.8%)と続いています。

図表3-2-1 生活している場所



「その他」の回答内容 (上位2項目)	件数
家族・親戚の家	9
老人保健施設	8

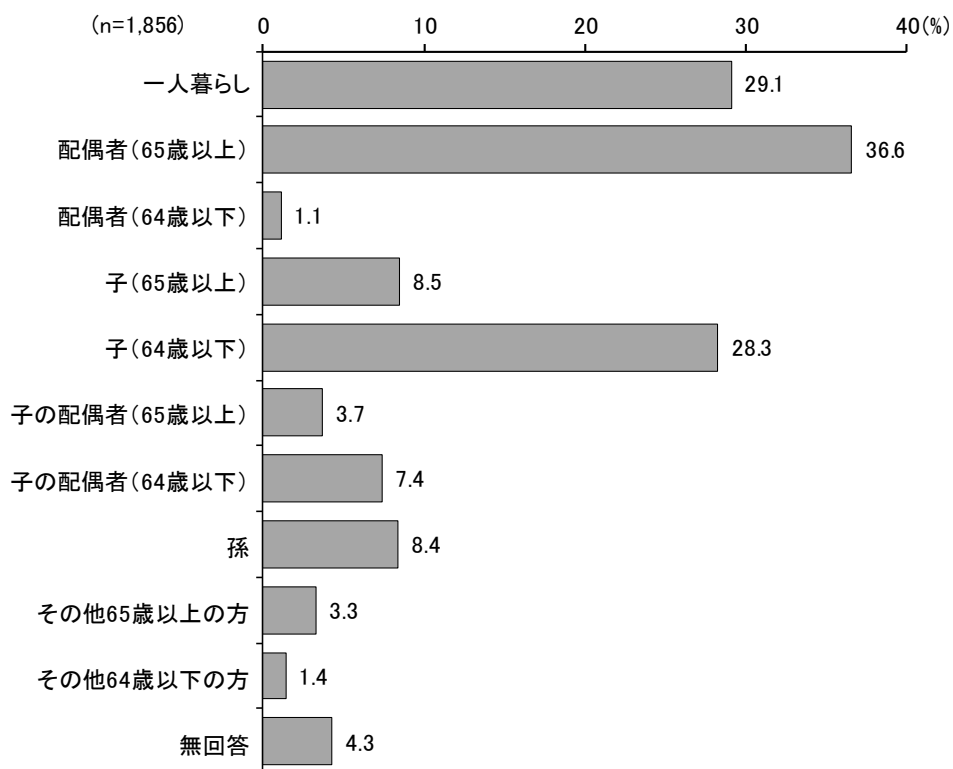
※「特別養護老人ホーム」、「認知症高齢者グループホーム」、「入院中」、無回答の人(300人)はこの設問で終了。

(2) 同居家族

問4 現在、一緒に暮らしている（2世帯住宅を含む）ご家族を教えてください。
 （一人暮らし以外の場合、〇はいくつでも）
 ※ 配偶者には事実婚の相手や同性パートナーを含みます。

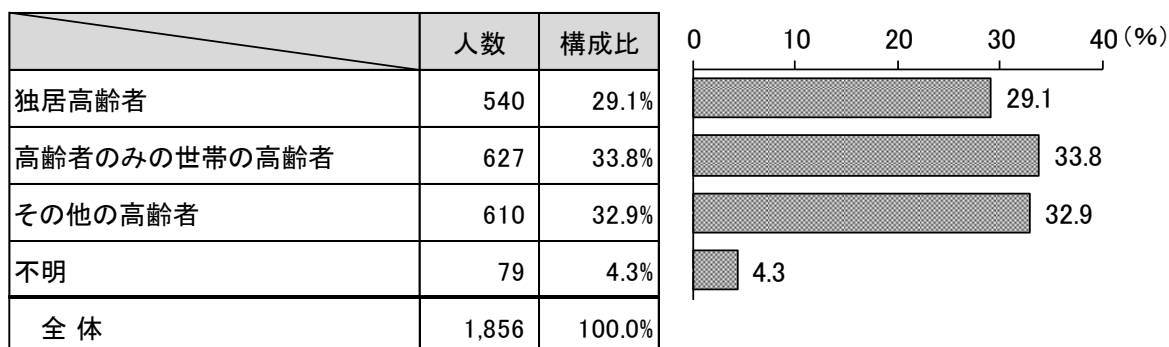
同居家族については、「配偶者（65歳以上）」が36.6%で最も高く、次いで「一人暮らし」（29.1%）、「子（64歳以下）」（28.3%）と続いています。

図表3-2-2 同居家族



問4の回答を基に、「独居高齢者」、「高齢者のみの世帯の高齢者」、「その他の高齢者」の3層に集約した結果は下記のとおりです。

図表3-2-3 世帯構成

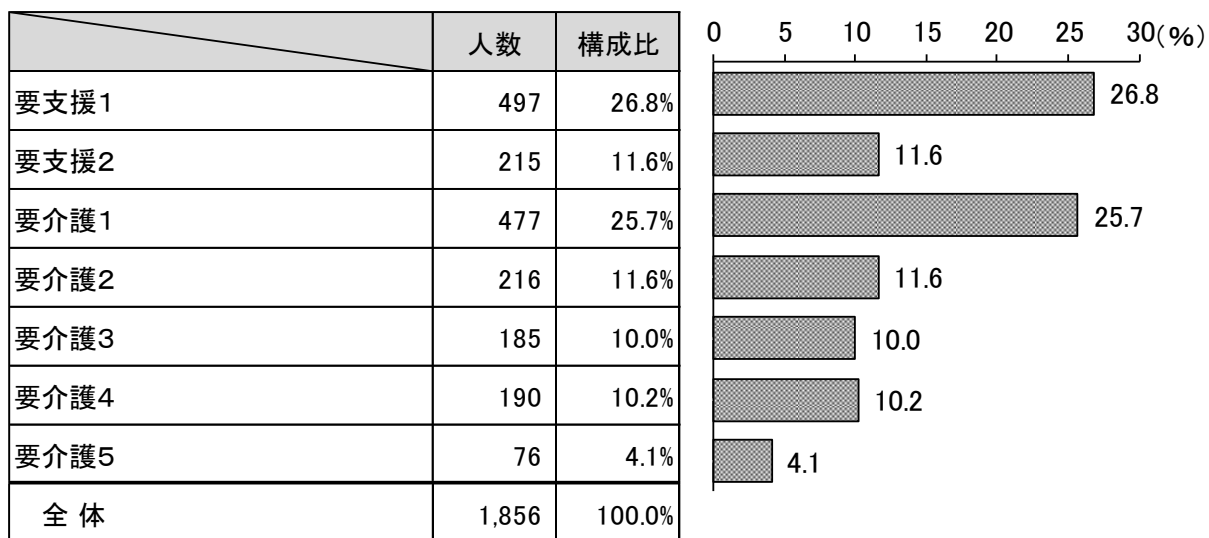


※ 「高齢者のみの世帯の高齢者」は、高齢者のみ2人以上の世帯を指します。

(3) 要介護度

問5 現在の要介護度を教えてください。(〇は1つ)

図表3-2-4 要介護度



3. 身体 の健康状態について

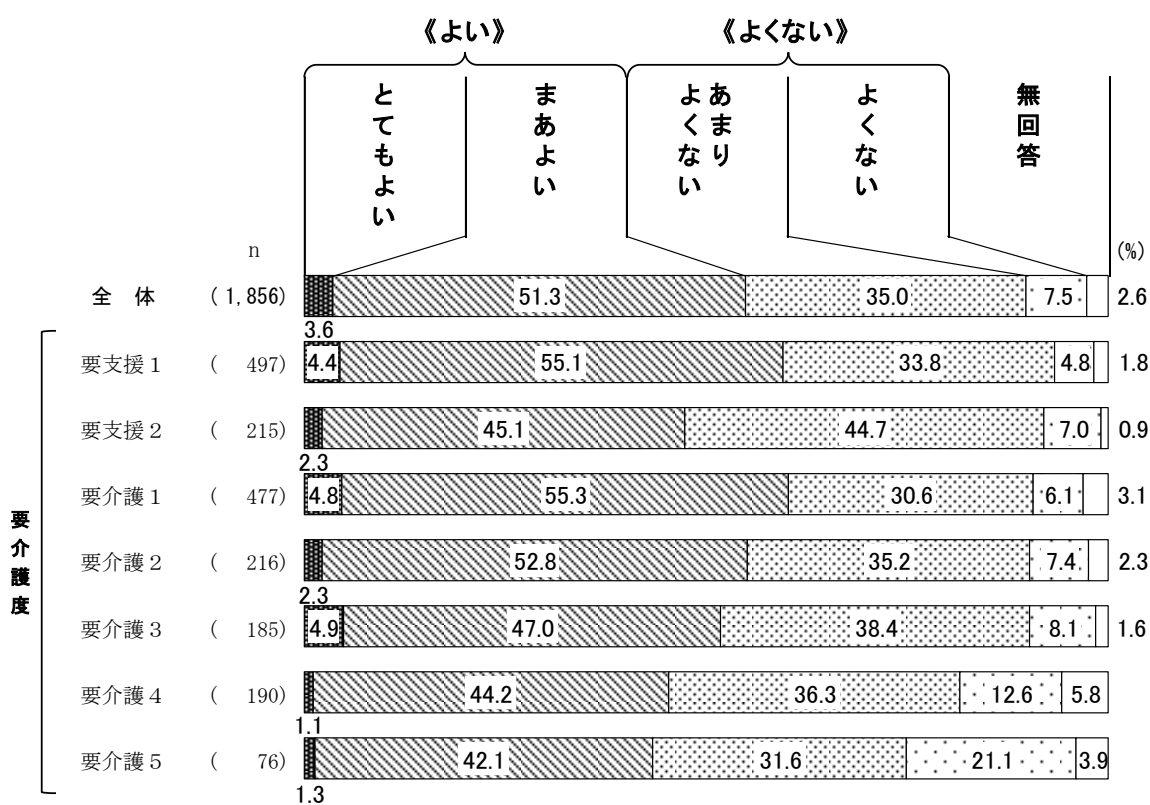
(1) 現在の健康状態

問6 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

現在の健康状態については、「まあよい」が51.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」(35.0%)、「よくない」(7.5%)と続いています。また、「とてもよい」と「まあよい」を合計した《よい》は54.9%となっています。

要介護度別で見ると、【要支援2】、【要介護4】、【要介護5】は《よい》よりも「あまりよくない」と「よくない」を合計した《よくない》の方が高くなっています。

図表3-3-1 現在の健康状態／要介護度別



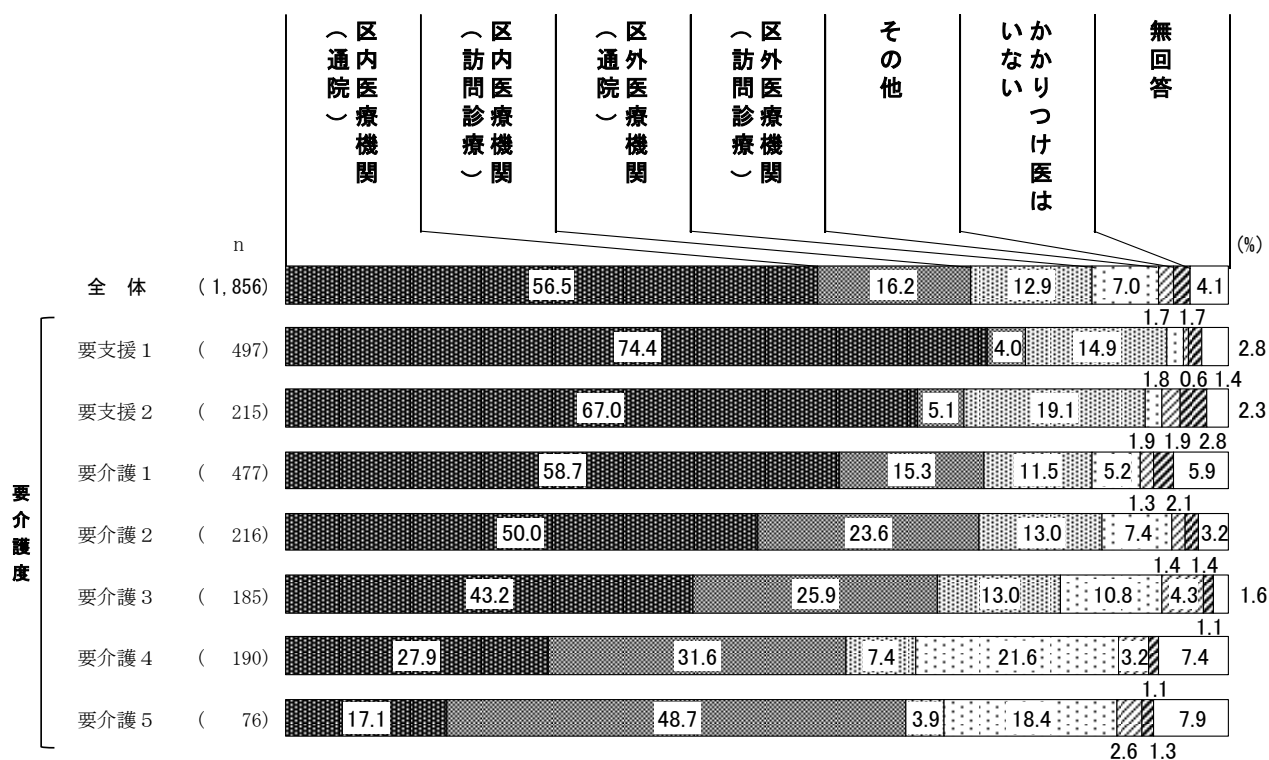
(2) かかりつけ医の診療方法

問7 かかりつけ医について教えてください。(〇は1つ)

かかりつけ医の診療方法については、「区内医療機関（通院）」が56.5%で最も高く、次いで「区内医療機関（訪問診療）」（16.2%）、「区外医療機関（通院）」（12.9%）と続いています。

要介護度別で見ると、【要支援1】、【要支援2】、【要介護1】～【要介護3】は「区内医療機関（通院）」が最も高く、【要介護4】と【要介護5】は「区内医療機関（訪問診療）」が最も高くなっています。

図表3-3-2 かかりつけ医の診療方法／要介護度別



(3) 耳の聞こえの状態

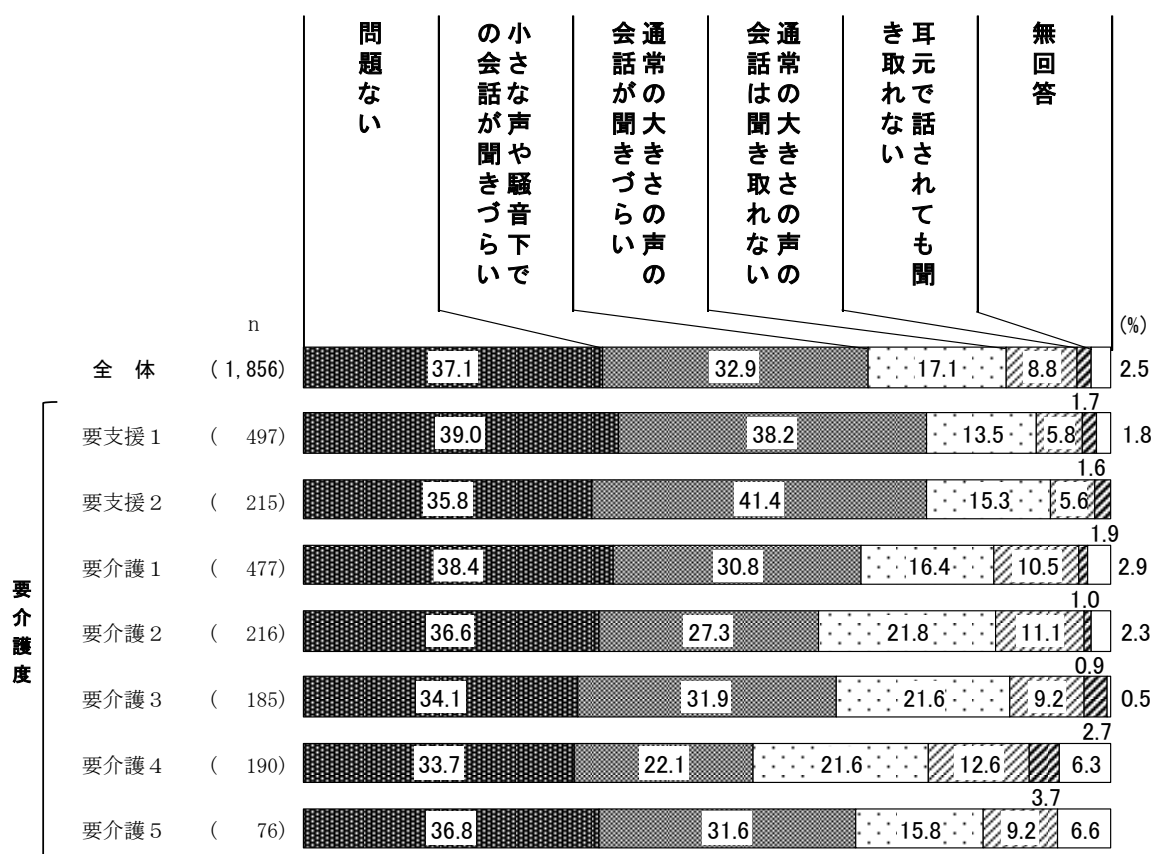
問8 現在の耳の聞こえの状態はいかがですか。(○は1つ)

※ 普段から補聴器を使用している方は使用した状態でお答えください。

耳の聞こえの状態については、「問題ない」が37.1%で最も高く、次いで「小さな声や騒音下での会話が聞きづらい」(32.9%)、「通常の大きさの声の会話が聞きづらい」(17.1%)と続いています。

要介護度別で見ると、【要支援2】は「問題ない」(35.8%)よりも「小さな声や騒音下での会話が聞きづらい」(41.4%)の方が高くなっています。また、【要介護2】～【要介護4】は「通常の大きさの声の会話が聞きづらい」が2割を超えて高くなっています。

図表3-3-3 耳の聞こえの状態／要介護度別



年齢別で見ると、80歳代以下では「問題ない」が最も高くなっています。また、【90～94歳】は「小さな声や騒音下での会話が聞きづらい」が最も高く、【95～99歳】は「通常の大きさの声の会話が聞きづらい」が最も高くなっています。

図表3-3-4 耳の聞こえの状態／年齢別

(%)

		回答者数 (n)	問題ない	小さな声 や騒音下 での会話が 聞きづら い	通常の大き さの声の 会話が 聞きづら い	通常の大き さの声の 会話は 聞き取れ ない	耳元で話 されても 聞き取れ ない	無回答
全体		1,856	37.1	32.9	17.1	8.8	1.7	2.5
年齢	65～69歳	42	57.1	35.7	2.4	2.4	-	2.4
	70～74歳	104	49.0	34.6	10.6	1.0	-	4.8
	75～79歳	217	50.7	35.0	8.8	2.3	0.5	2.8
	80～84歳	388	47.2	32.0	10.1	5.7	1.8	3.4
	85～89歳	466	35.8	35.6	16.7	9.0	1.7	1.1
	90～94歳	445	26.5	32.4	25.8	11.5	2.2	1.6
	95～99歳	164	18.3	26.2	28.7	19.5	3.0	4.3
	100歳以上	25	8.0	16.0	32.0	36.0	-	8.0

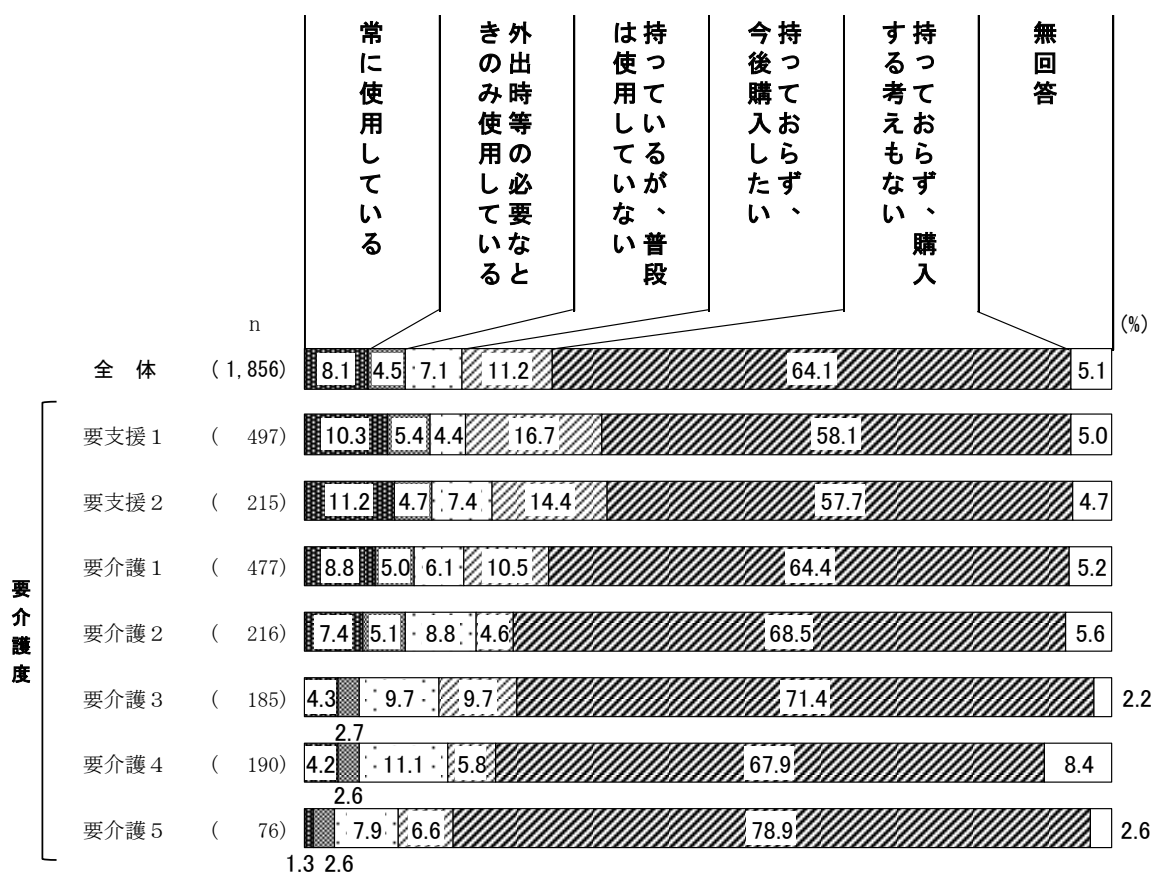
(4) 補聴器の使用状況

問9 現在、補聴器を使用していますか。(○は1つ)

補聴器の使用状況については、「持っておらず、購入する考えもない」が64.1%で最も高く、次いで「持っておらず、今後購入したい」(11.2%)、「常に使用している」(8.1%)と続いています。

要介護度別で見ると、【要支援1】と【要支援2】は他の層と比べて「常に使用している」と「持っておらず、今後購入したい」が高くなっています。また、【要介護5】は「持っておらず、購入する考えもない」が78.9%で、他の層と比べて最も高くなっています。

図表3-3-5 補聴器の使用状況／要介護度別



性・年齢別で見ると、「常に使用している」の割合は男女共に【90～94歳】と【95～99歳】で1割を超えています。「持っているが、普段は使用していない」は【75～79歳】を除いた年齢層で女性の方が高くなっています。

図表3-3-6 補聴器の使用状況／性・年齢別

		回答者数 (n)	常に使用 している	外出時等 の必要な ときのみ 使用して いる	持っている が、普 段は使用 していない	持って おらず、 今後購 入したい	持って おらず、 購入す る考え もない	無回答
全体		1,856	8.1	4.5	7.1	11.2	64.1	5.1
性・ 年齢	男性65～69歳	20	-	5.0	-	5.0	90.0	-
	男性70～74歳	50	2.0	2.0	-	12.0	80.0	4.0
	男性75～79歳	87	3.4	3.4	3.4	4.6	78.2	6.9
	男性80～84歳	126	4.8	4.0	2.4	12.7	69.0	7.1
	男性85～89歳	153	7.8	3.3	7.8	14.4	60.8	5.9
	男性90～94歳	130	14.6	9.2	6.9	12.3	53.8	3.1
	男性95～99歳	38	15.8	5.3	13.2	10.5	52.6	2.6
	男性100歳以上	5	-	20.0	-	-	40.0	40.0
	女性65～69歳	21	4.8	4.8	4.8	4.8	76.2	4.8
	女性70～74歳	54	1.9	-	3.7	1.9	87.0	5.6
	女性75～79歳	127	3.1	0.8	2.4	10.2	79.5	3.9
	女性80～84歳	260	7.7	4.2	5.4	13.8	59.2	9.6
	女性85～89歳	308	8.8	3.9	8.1	11.0	64.6	3.6
	女性90～94歳	311	10.3	7.1	8.7	12.2	59.5	2.3
女性95～99歳	121	10.7	5.8	14.9	7.4	56.2	5.0	
女性100歳以上	20	15.0	-	40.0	5.0	35.0	5.0	

問8の耳の聞こえの状態別で見ると、【耳元で話されても聞き取れない】と回答した人は「常に使用している」が32.3%で、他の層と比べて高くなっています。

図表3-3-7 補聴器の使用状況／耳の聞こえの状態別

		回答者数 (n)	常に使用 している	外出時等 の必要な ときのみ 使用して いる	持っている が、普 段は使用 していない	持って おらず、 今後購 入したい	持って おらず、 購入す る考え もない	無回答
全体		1,856	8.1	4.5	7.1	11.2	64.1	5.1
耳 の 聞 こ え の 状 態	問題ない	688	1.5	0.1	1.2	1.7	88.7	6.8
	小さな声や騒音下での会話が聞きづらい	610	8.4	5.1	6.1	18.9	60.2	1.5
	通常の大きさの声の会話が聞きづらい	318	11.3	10.7	13.2	19.2	44.0	1.6
	通常の大きさの声の会話は聞き取れない	163	24.5	8.6	21.5	11.0	34.4	-
	耳元で話されても聞き取れない	31	32.3	12.9	29.0	-	25.8	-

4. 認知症について

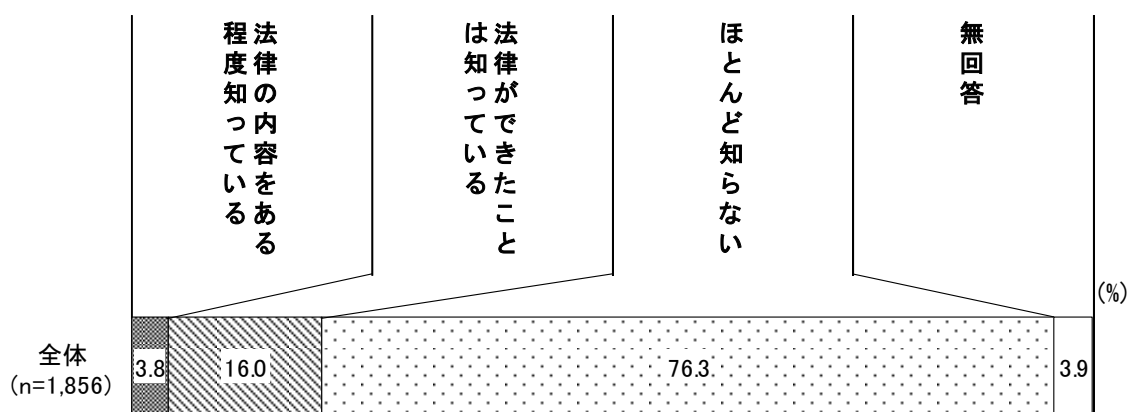
(1) 認知症についての知識・印象等

問10 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

(1) 令和6年1月1日に「認知症基本法」が施行されたことを知っていますか。(○は1つ)

「認知症基本法」については、「ほとんど知らない」が76.3%で最も高く、次いで「法律ができたことは知っている」(16.0%)、「法律の内容をある程度知っている」(3.8%)となっています。

図表3-4-1 「認知症基本法」について

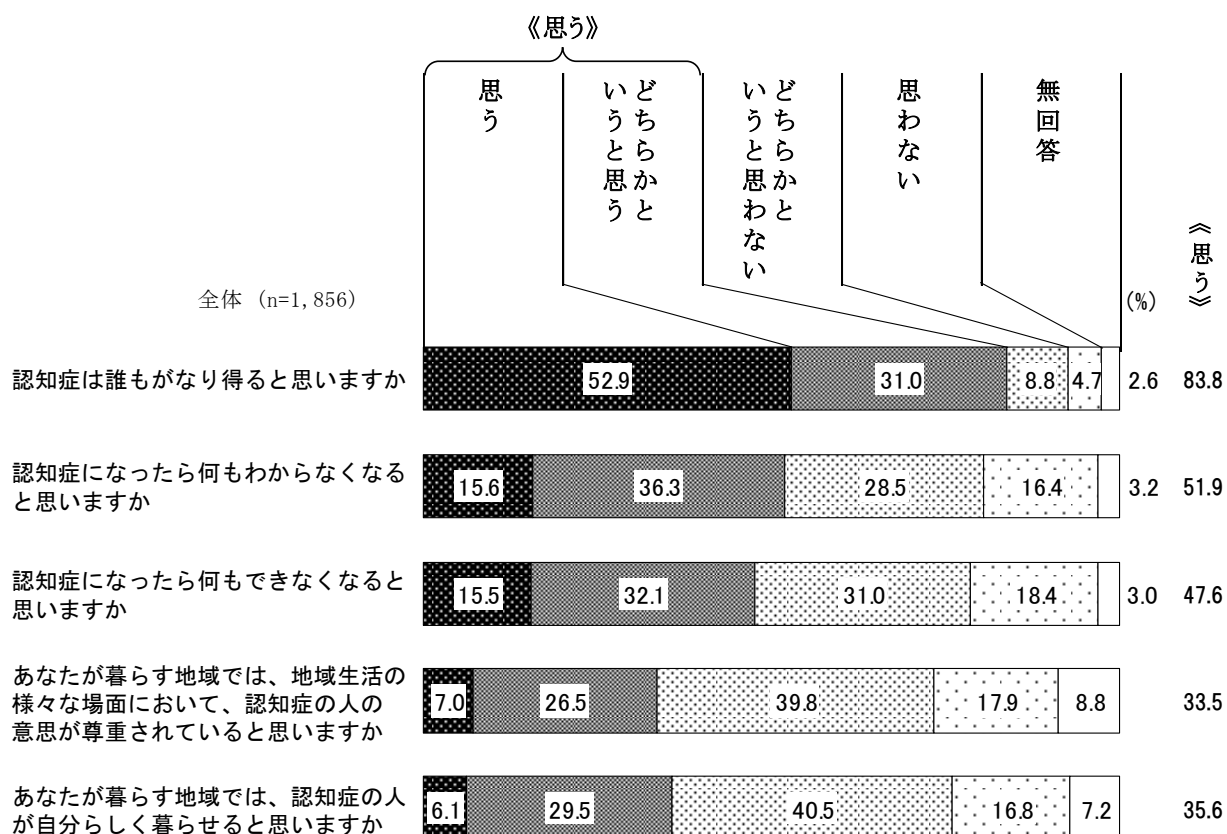


問 10 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
(○は1つずつ)

- (2) 認知症は誰もがなり得ると思いますか。
- (3) 認知症になったら何もわからなくなるとと思いますか。
- (4) 認知症になったら何もできなくなるとと思いますか。
- (5) あなたが暮らす地域では、地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されていると思いますか。
- (6) あなたが暮らす地域では、認知症の人が自分らしく暮らせるとと思いますか。

認知症の印象について、「思う」と「どちらかというと思う」を合計した《思う》の割合は、[認知症は誰もがなり得ると思いますか]が8割を超え、[認知症になったら何もわからなくなるとと思いますか]と[認知症になったら何もできなくなるとと思いますか]は約5割、[あなたが暮らす地域では、地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されていると思いますか]と[あなたが暮らす地域では、認知症の人が自分らしく暮らせるとと思いますか]は3割台となっています。

図表3-4-2 認知症についての印象



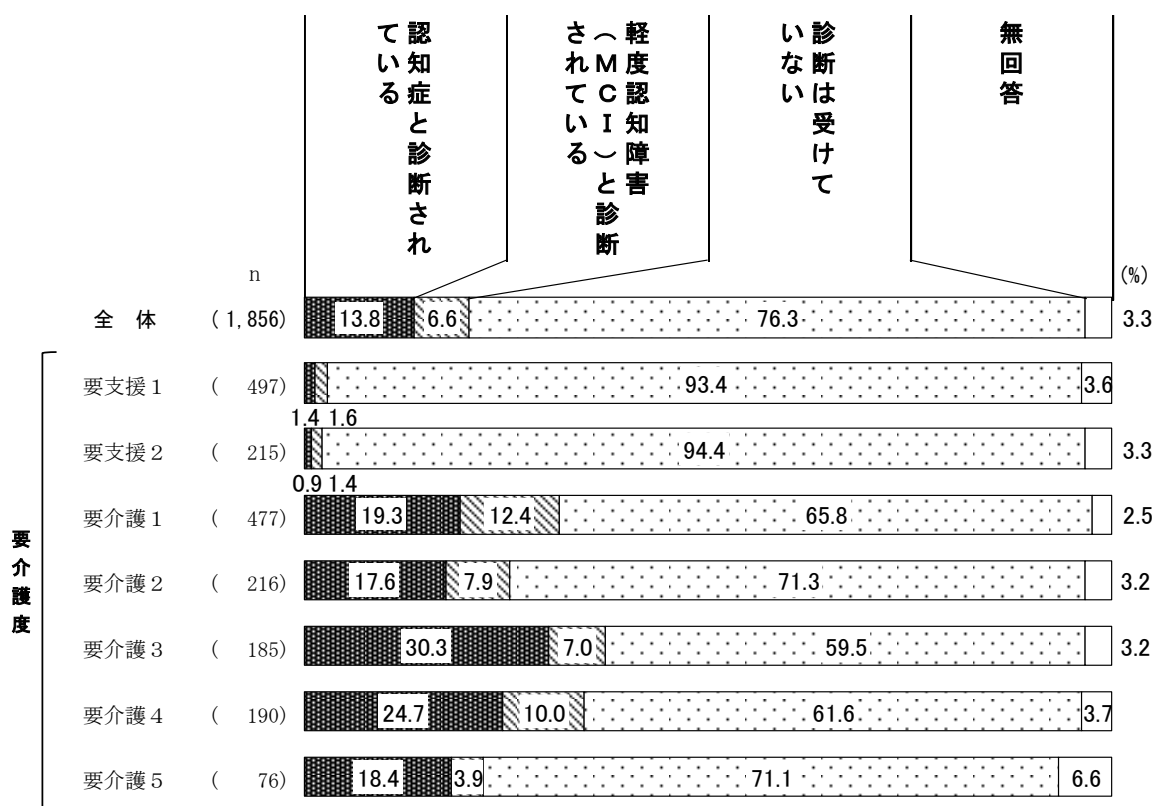
(2) 認知症の診断有無

問10 次の(1)～(7)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (7) 認知症等の診断を受けていますか。(○は1つ)

認知症等の診断有無については、「診断は受けていない」が76.3%、「認知症と診断されている」が13.8%、「軽度認知障害(MCI)と診断されている」が6.6%となっています。

要介護度別で見ると、【要介護1】～【要介護5】は「認知症と診断されている」が1割を超え、【要介護3】が30.3%と最も高くなっています。

図表3-4-3 認知症等の診断有無／要介護度別



5. 社会的なつながりについて

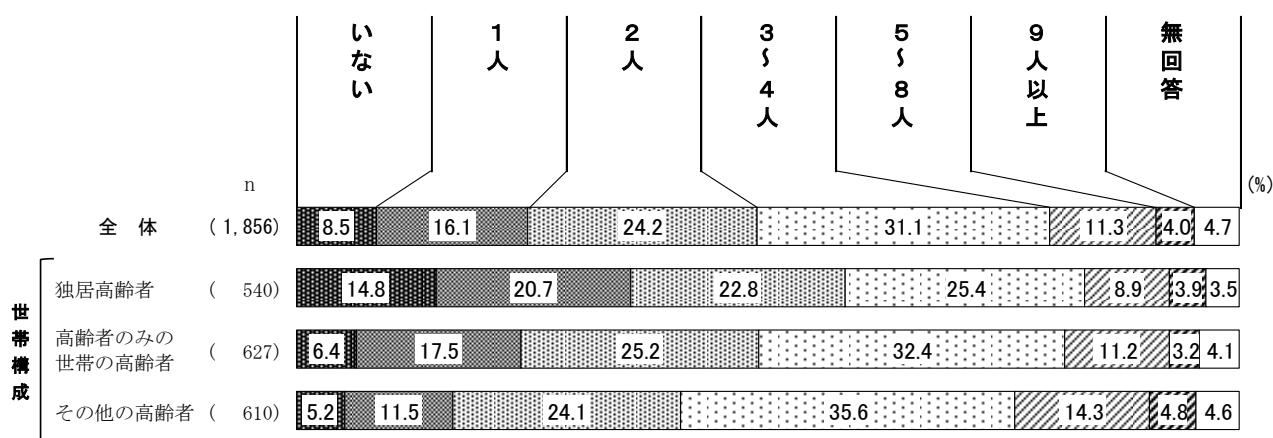
(1) 家族や親せきとのつきあい

問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (1) -①少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする家族や親せきは何人いますか。
 (○は1つ)

月1回以上会ったり話したりする家族や親せきの人数については、「3～4人」が31.1%で最も高く、次いで「2人」(24.2%)、「1人」(16.1%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(14.8%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表3-5-1 月1回以上会ったり話したりする家族や親せきの人数／世帯構成別

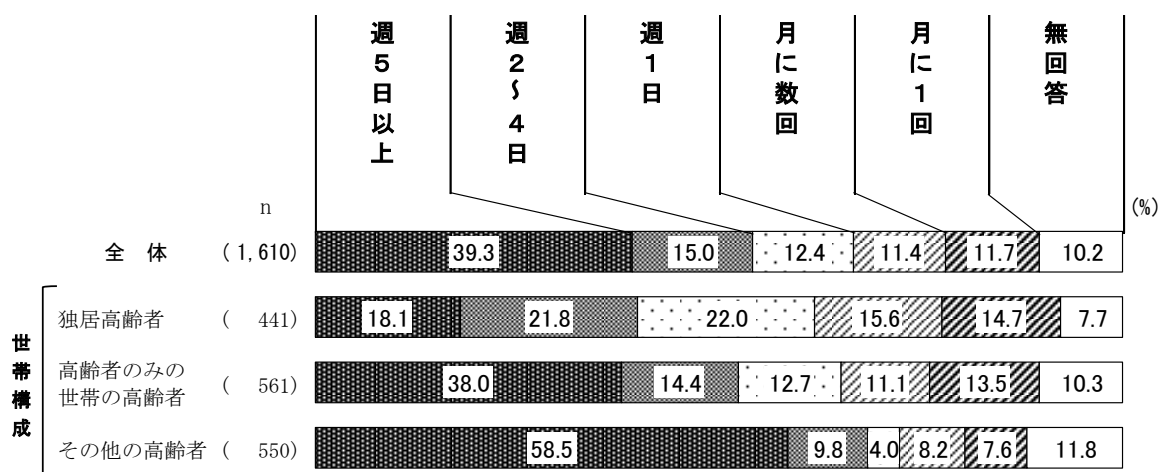


問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (1) -②家族や親せきと会ったり話をしたりする機会はどのくらいですか。(○は1つ)

月1回以上会ったり話したりする家族や親せきが1人以上いる人に、会ったり話をする頻度についてたずねたところ、「週5日以上」が39.3%で最も高く、次いで「週2～4日」(15.0%)、「週1日」(12.4%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【高齢者のみの世帯の高齢者】と【その他の高齢者】は「週5日以上」が最も高く、【独居高齢者】は「週1日」(22.0%)が最も高くなっています。

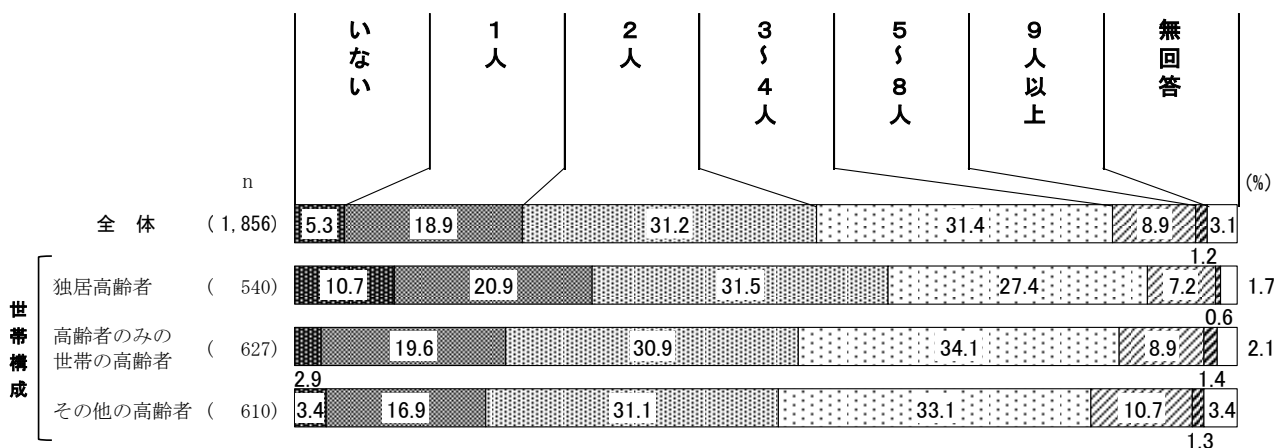
図表3-5-2 家族や親せきと会ったり話をしたりする頻度／世帯構成別



問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (2) 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきは何人いますか。(○は1つ)

個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきの人数については、「3～4人」が31.4%で最も高く、次いで「2人」(31.2%)、「1人」(18.9%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(10.7%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

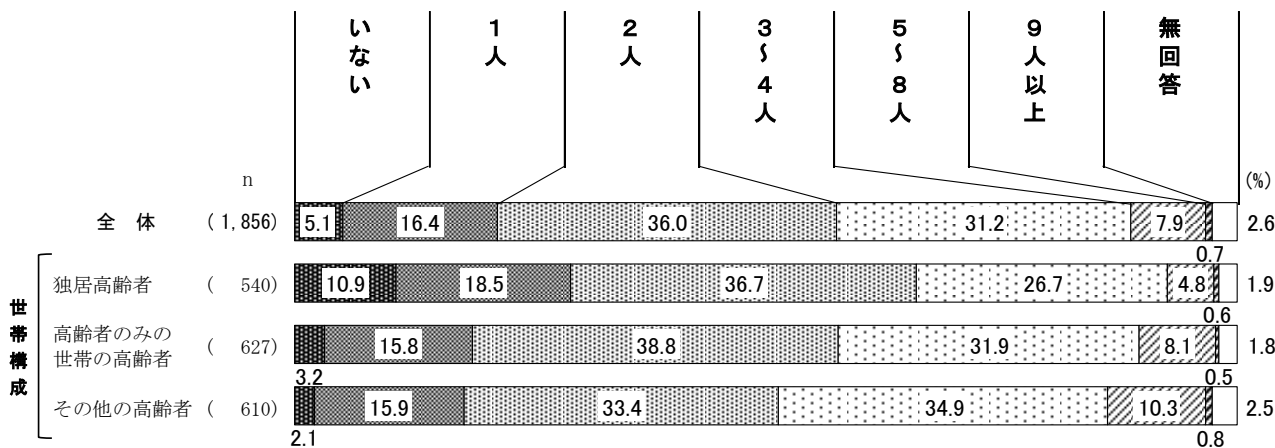
図表3-5-3 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親せきの人数／世帯構成別



問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (3) 助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきは何人いますか。(○は1つ)

助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきの人数については、「2人」が36.0%で最も高く、次いで「3～4人」(31.2%)、「1人」(16.4%)と続いています。
 世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「いない」(10.9%)の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表3-5-4 助けを求められることができるくらい親しく感じられる家族や親せきの人数／世帯構成別



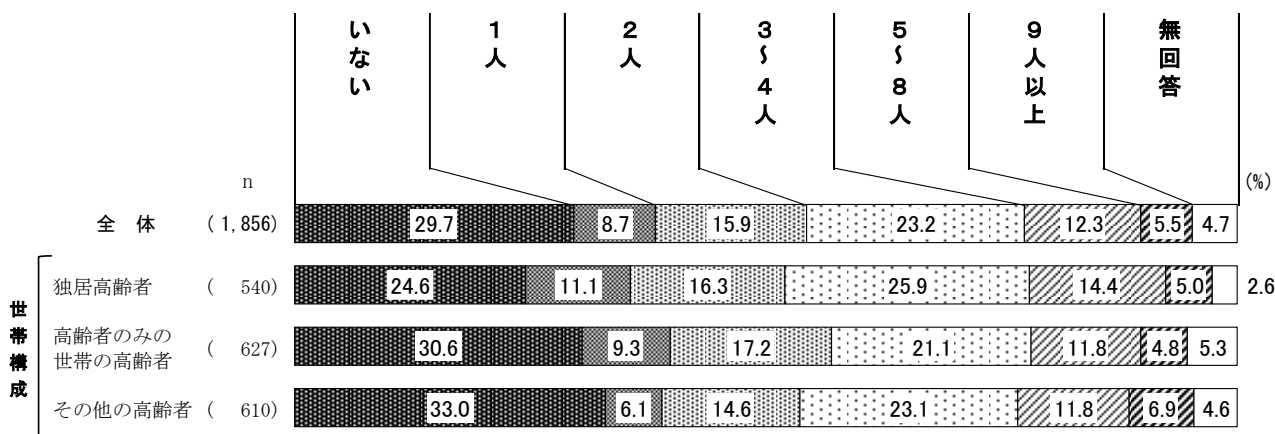
(2) 友人や知人とのつきあい

問 11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (4) -①少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人(近隣の方含む)は何人
 いますか。(○は1つ)

少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人の人数については、「いない」が29.7%で最も高く、次いで「3～4人」(23.2%)、「2人」(15.9%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「3～4人」が最も高く、【高齢者のみの世帯の高齢者】と【その他の高齢者】は「いない」が最も高くなっています。

図表3-5-5 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人や知人の人数/世帯構成別

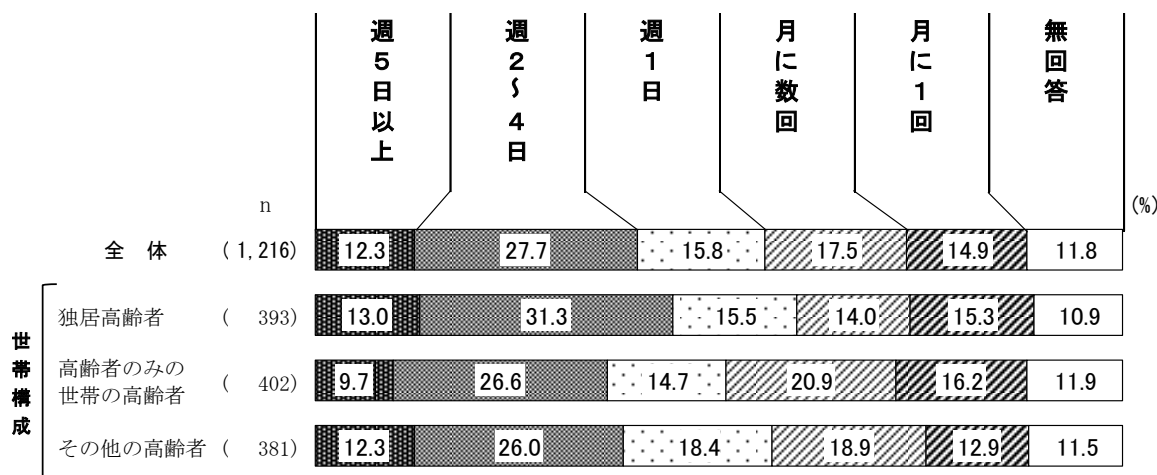


問 11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (4) -②友人や知人(近隣の方含む)と会ったり話をしたりする機会はどのくらいですか。
 (○は1つ)

月1回以上会ったり話したりする友人や知人が1人以上いる人に、会ったり話をする頻度についてたずねたところ、「週2～4日」が27.7%で最も高く、次いで「月に数回」(17.5%)、「週1日」(15.8%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「週5日以上」と「週2～4日」を合計した《週2日以上》の割合が44.3%で、他の層と比べて高くなっています。

図表3-5-6 友人や知人と会ったり話をしたりする頻度/世帯構成別

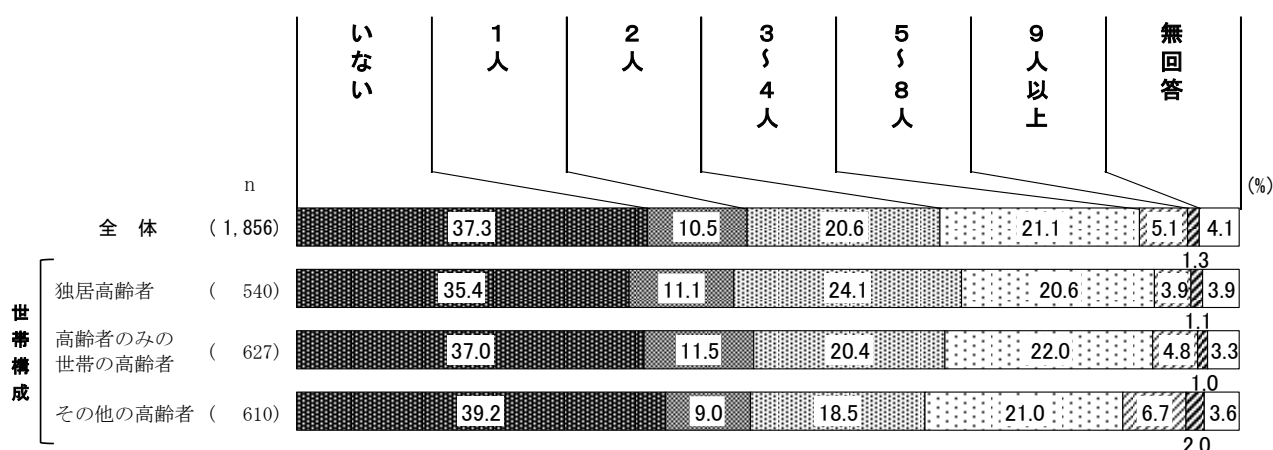


問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (5) 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人(近隣の方含む)は何人いますか。(○は1つ)

個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人の人数については、「いない」が37.3%で最も高く、次いで「3～4人」(21.1%)、「2人」(20.6%)と続いています。

世帯構成別で見ると、「いない」の割合は【その他の高齢者】(39.2%)が最も高くなっています。

図表3-5-7 個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人や知人の人数/世帯構成別

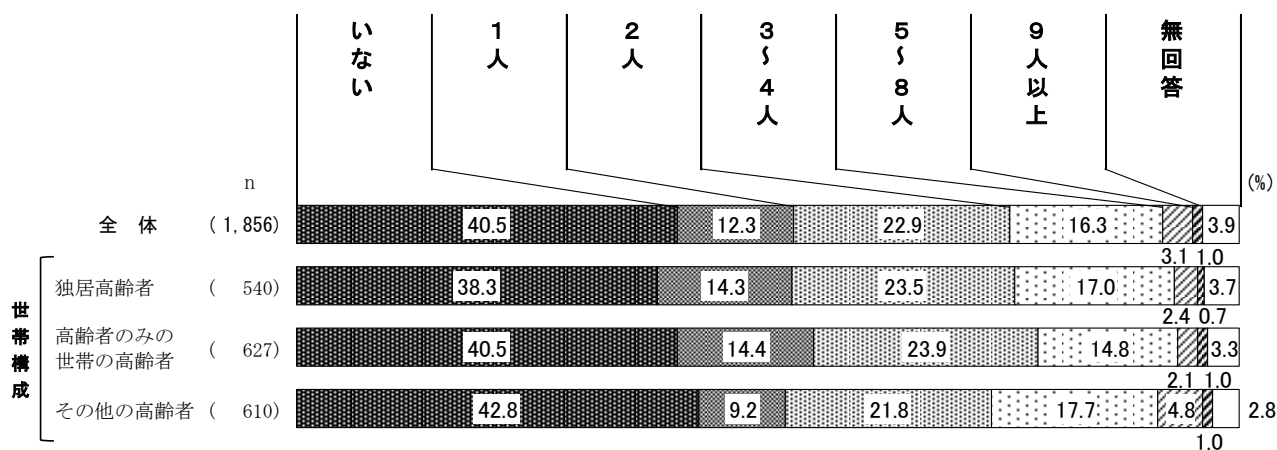


問11 次の(1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
 (6) 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人(近隣の方含む)は何人いますか。(○は1つ)

助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人の人数については、「いない」が40.5%で最も高く、次いで「2人」(22.9%)、「3～4人」(16.3%)と続いています。

世帯構成別で見ると、「いない」の割合は【其他の高齢者】(42.8%)が最も高くなっています。

図表3-5-8 助けを求められることができるくらい親しく感じられる友人や知人の人数/世帯構成別



(3) 社会的孤立度

問11(1)～(6)の回答結果から、下記の方法で社会的孤立の状態について判定しました。

○問11(1)～(6)について、回答結果を下記の通り点数化して合計
 ※問11(1)-②、問11(4)-②は除外

いない……………0点
 1人……………1点
 2人……………2点
 3～4人…………3点
 5～8人…………4点
 9人以上…………5点

○合計点により社会的孤立の状態を判定

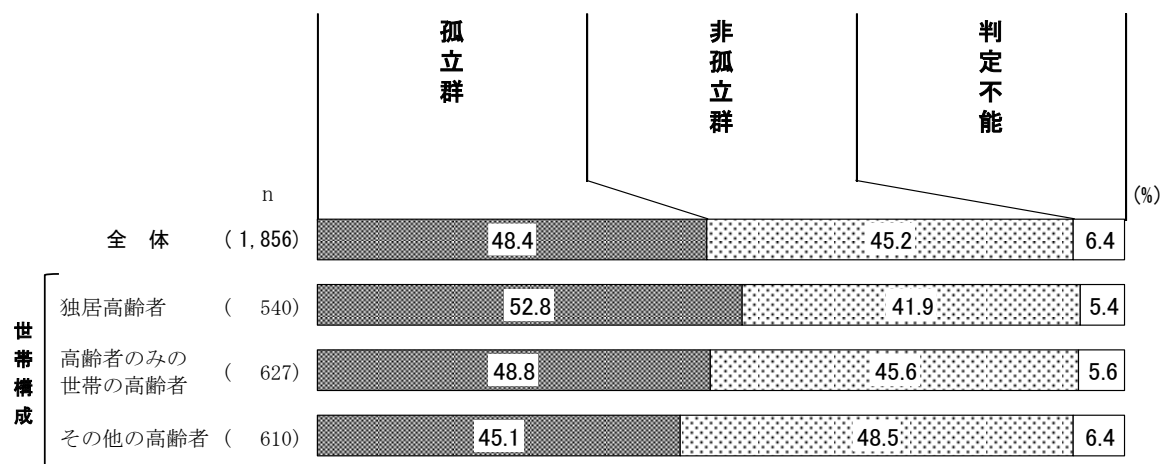
- ・孤立群：合計点12点未満
- ・非孤立群：合計点12点以上
- ・判定不能：無回答の項目があることにより判定不能

[参考] 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6)

社会的孤立の状態については、「孤立群」が48.4%、「非孤立群」が45.2%となっています。

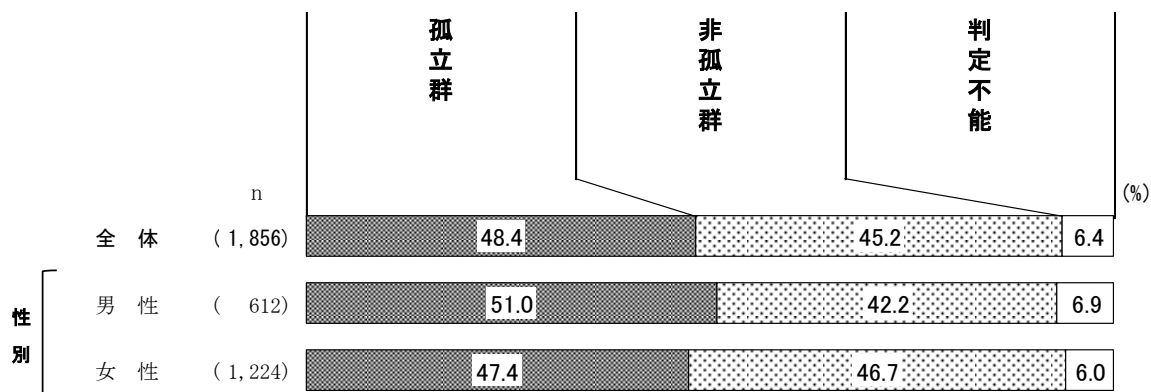
世帯構成別で見ると、「孤立群」の割合は【独居高齢者】が52.8%と、【高齢者のみの世帯の高齢者】(48.8%)、【その他の高齢者】(45.1%)と比べて高くなっています。

図表3-5-9 社会的孤立度/世帯構成別



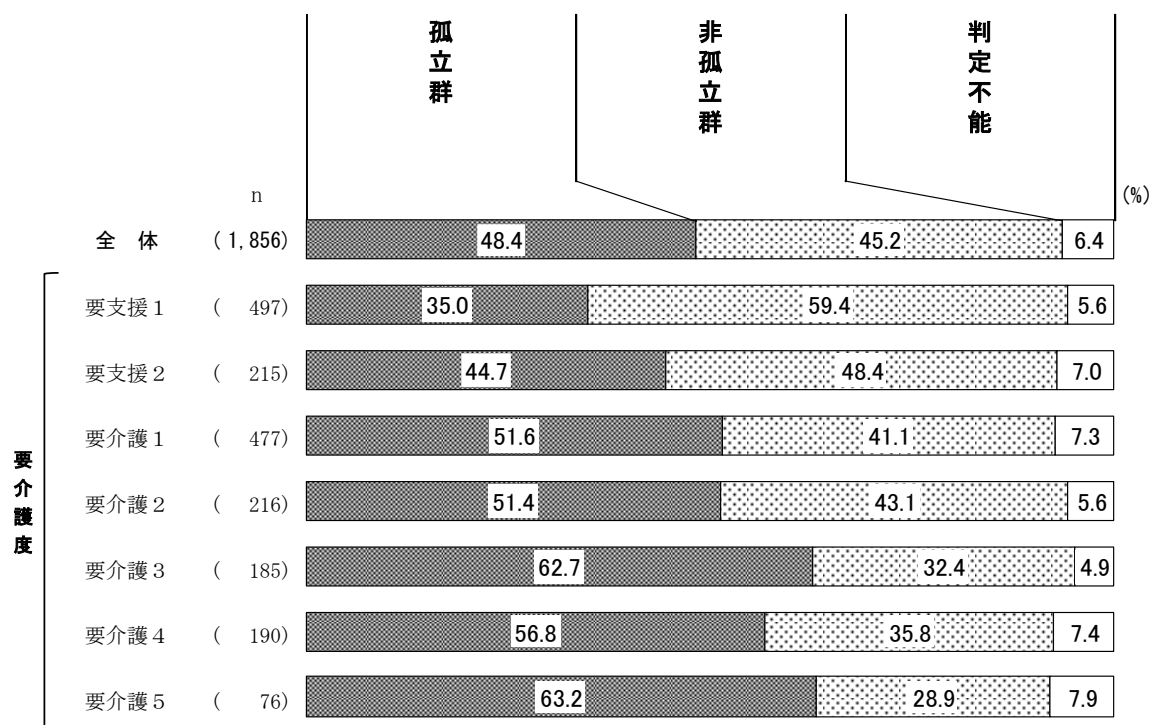
性別で見ると、「孤立群」は【男性】が51.0%と、【女性】(47.4%)と比べて高くなっています。

図表3-5-10 社会的孤立度／性別



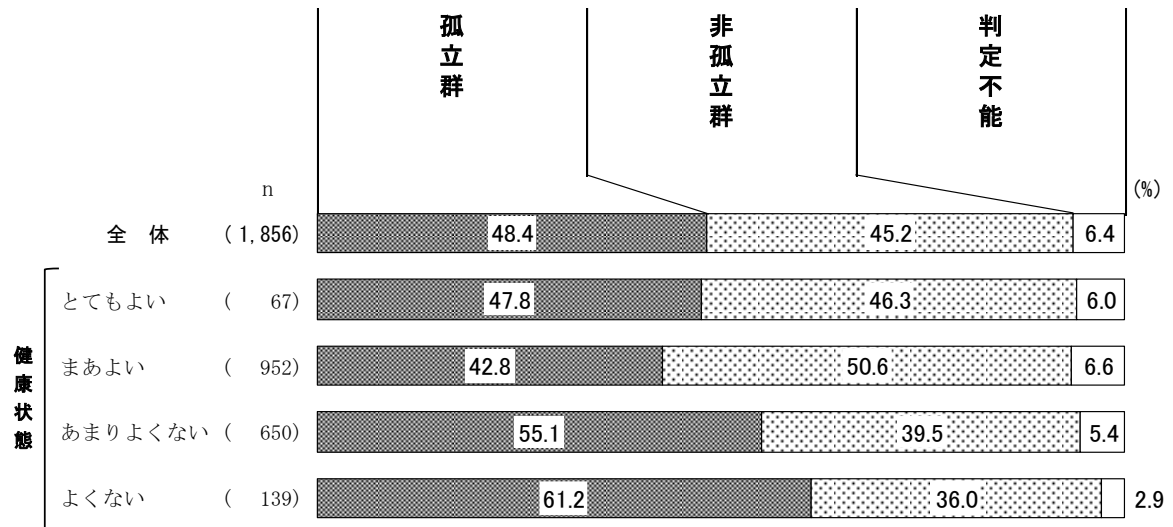
要介護度別で見ると、「孤立群」の割合は、【要介護3】と【要介護5】が6割を超えて高くなっています。

図表3-5-11 社会的孤立度／要介護度別



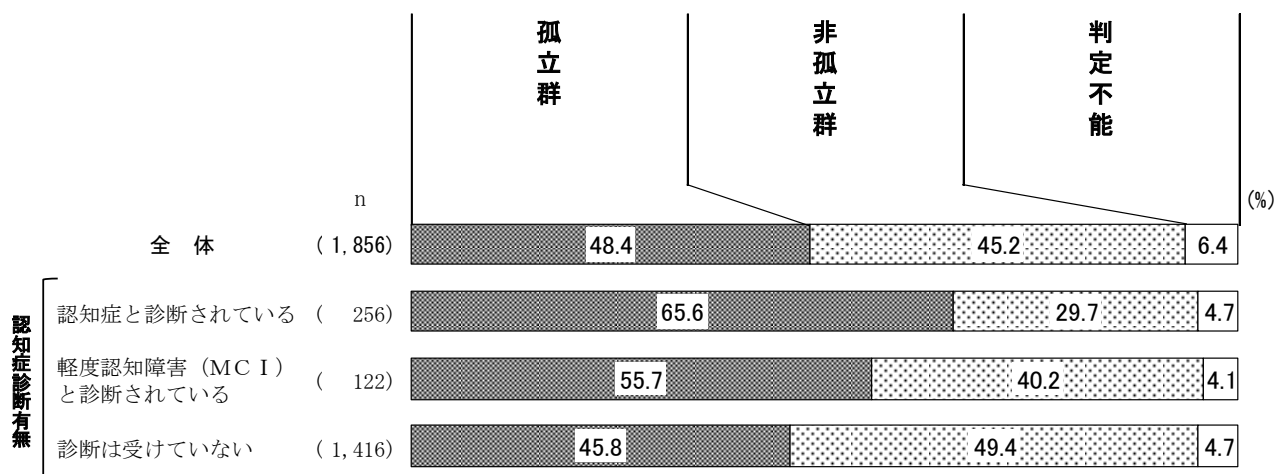
問6の健康状態別で見ると、「孤立群」の割合は健康状態が【あまりよくない】と回答した人が55.1%、【よくない】と回答した人が61.2%と、【とてもよい】、【まあよい】と回答した人と比べて高くなっています。

図表3-5-12 社会的孤立度／健康状態別



問10(7)の認知症診断有無別で見ると、「孤立群」の割合は【認知症と診断されている】と回答した人が65.6%、【軽度認知障害(MCI)と診断されている】と回答した人が55.7%と、【診断は受けていない】人と比べて高くなっています。

図表3-5-13 社会的孤立度／認知症診断有無別

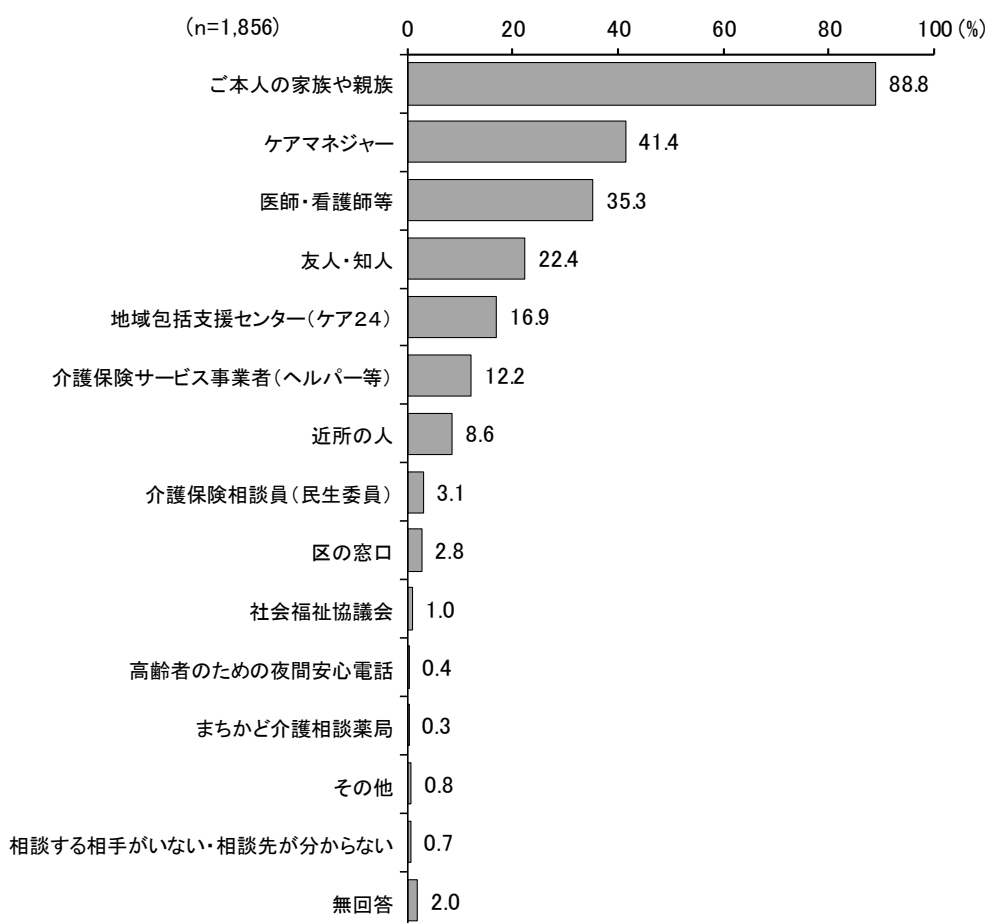


(4) 困った時等の相談先

問12 生活の中で困ったことや不安に思うことがあったとき、どなた（どこ）に相談しますか。
 (〇はいくつでも)

困った時等の相談先については、「ご本人の家族や親族」が88.8%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」(41.4%)、「医師・看護師等」(35.3%)、「友人・知人」(22.4%)と続いています。

図表3-5-14 困った時等の相談先



要介護度別で見ると、「ケアマネジャー」は【要介護2】～【要介護5】が5割を超えて高くなっています。「医師・看護師等」は【要介護3】～【要介護5】が4割を超えて高くなっています。「友人・知人」、「地域包括支援センター（ケア24）」、「近所の人」は【要支援1】と【要支援2】が高くなっています。

図表3-5-15 困った時等の相談先／要介護度別

		回答者数 (n)	(%)									
			ご本人の家族や親族	ケアマネジャー	医師・看護師等	友人・知人	地域包括支援センター（ケア24）	介護保険サービス事業者（ヘルパー等）	近所の人	介護保険相談員（民生委員）	区の窓口	社会福祉協議会
全体		1,856	88.8	41.4	35.3	22.4	16.9	12.2	8.6	3.1	2.8	1.0
要介護度	要支援1	497	89.7	25.2	31.6	34.4	28.0	4.2	11.7	3.2	3.2	1.0
	要支援2	215	83.7	32.1	32.1	33.5	29.8	9.8	11.6	4.7	4.7	1.4
	要介護1	477	89.9	46.1	34.0	17.2	9.6	13.6	9.2	3.1	1.9	1.5
	要介護2	216	87.5	52.8	36.6	14.8	10.6	14.4	7.4	2.3	1.9	0.5
	要介護3	185	90.8	50.8	42.2	10.3	9.2	21.1	3.8	1.6	3.2	0.5
	要介護4	190	88.4	53.7	40.5	16.3	10.0	17.4	3.2	3.2	2.1	0.5
	要介護5	76	90.8	59.2	43.4	11.8	7.9	22.4	3.9	3.9	3.9	1.3

		回答者数 (n)	高齢者のための夜間安心電話	まちかど介護相談薬局	その他	相談する相手がいない・相談先が分からない	無回答
全体			1,856	0.4	0.3	0.8	0.7
要介護度	要支援1	497	0.4	0.4	0.2	0.4	1.2
	要支援2	215	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	要介護1	477	0.4	-	0.2	0.6	2.3
	要介護2	216	0.5	0.5	0.9	1.4	3.7
	要介護3	185	0.5	0.5	2.7	1.1	2.2
	要介護4	190	-	-	1.6	0.5	3.2
	要介護5	76	1.3	-	1.3	1.3	2.6

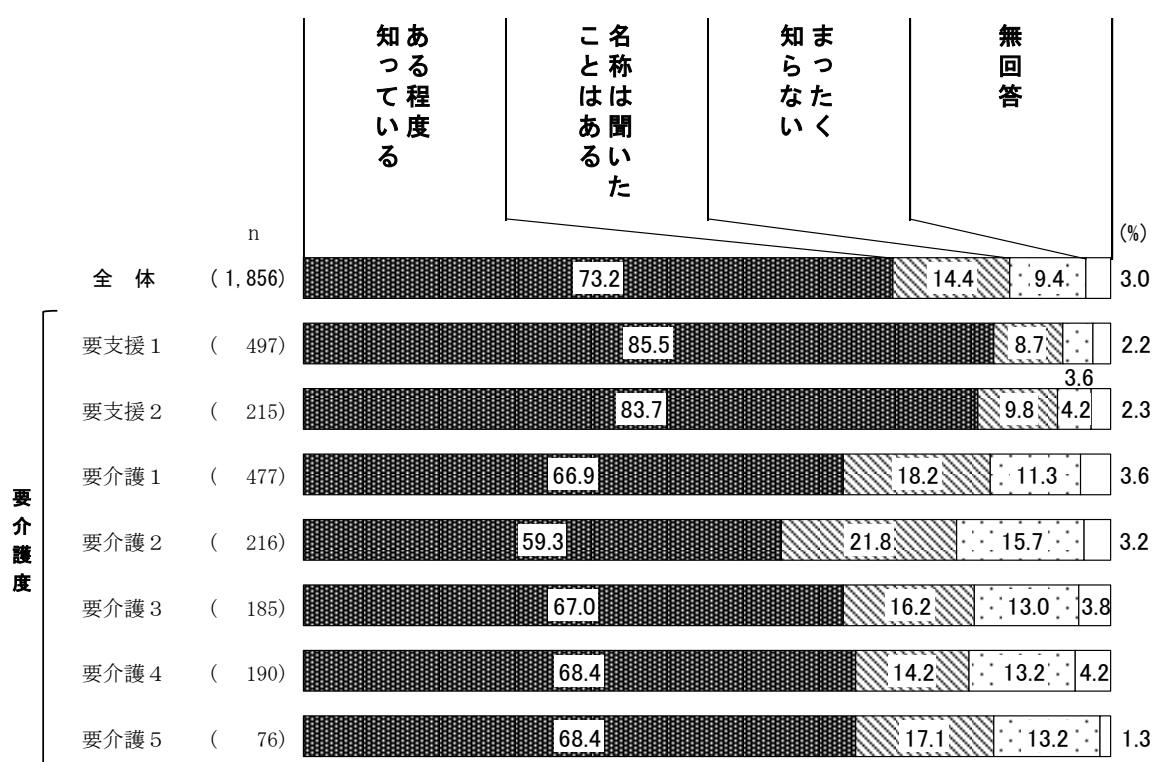
(5) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況

問13 高齢者の総合相談窓口として、区内20カ所に設置している「ケア24（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況については、「ある程度知っている」が73.2%、「名称は聞いたことはある」が14.4%、「まったく知らない」が9.4%となっています。

要介護度別で見ると、「ある程度知っている」の割合は、【要支援1】と【要支援2】が8割を超えて高くなっています。

図表3-5-16 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況／要介護度別



6. スマートフォン等の利用状況について

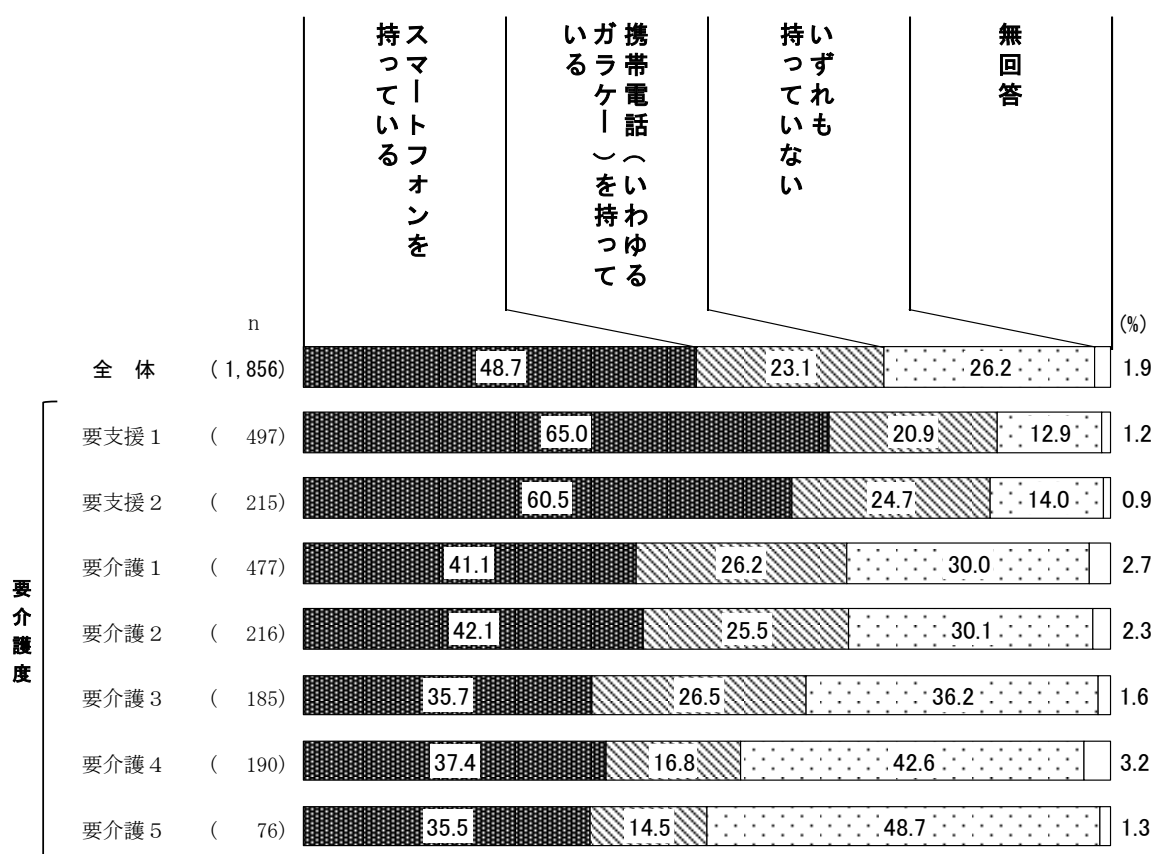
(1) スマートフォン等の所持状況

問 14 スマートフォン等の所持状況についてお答えください。(〇は1つ)

スマートフォン等の所持状況については、「スマートフォンを持っている」が48.7%、「いずれも持っていない」が26.2%、「携帯電話（いわゆるガラケー）を持っている」が23.1%となっています。

要介護度別で見ると、「スマートフォンを持っている」の割合は【要支援1】と【要支援2】が6割台と高く、【要介護1】と【要介護2】は4割台、【要介護3】～【要介護5】は3割台となっています。また、「いずれも持っていない」は【要介護4】と【要介護5】で4割を超えています。

図表3-6-1 スマートフォン等の所持状況／要介護度別

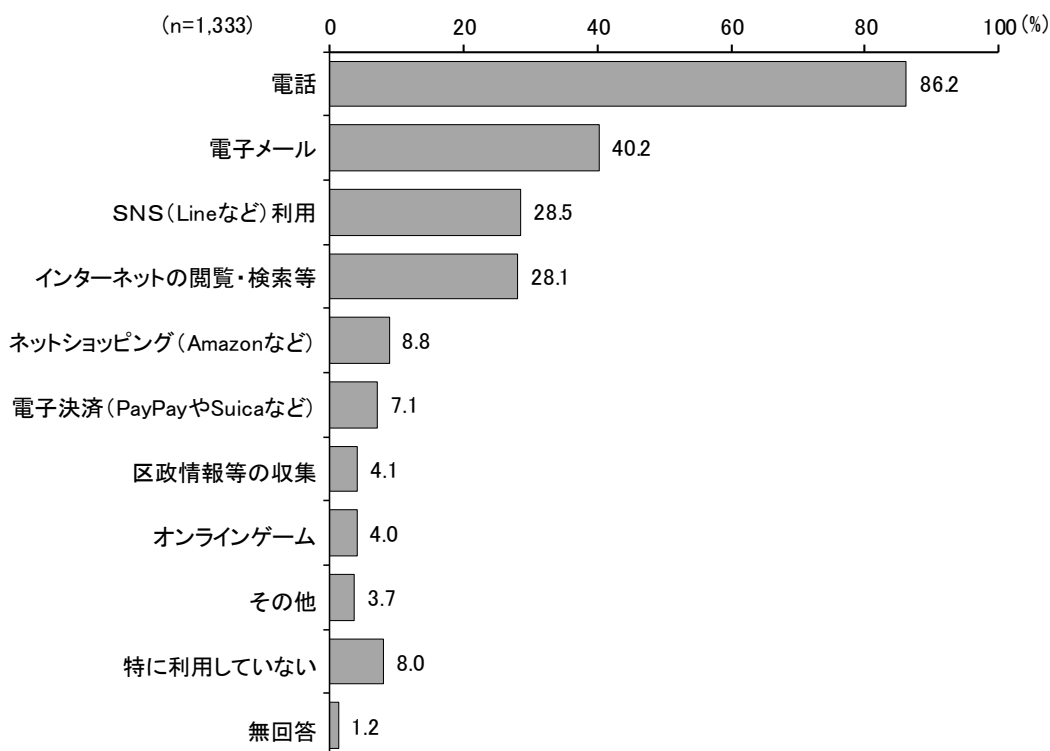


(2) スマートフォン等の利用状況

問 14-① スマートフォン等の利用状況をお答えください。(〇はいくつでも)

スマートフォン、携帯電話（いわゆるガラケー）を持っている人に利用状況についてたずねたところ、「電話」が86.2%で最も高く、次いで「電子メール」(40.2%)、「SNS（Line など）利用」(28.5%)と続いています。

図表 3-6-2 スマートフォン等の利用状況



年齢別で見ると、「電話」、「その他」、「特に利用していない」を除いた項目で、概ね年齢が下がるほど割合が高くなっています。

図表 3-6-3 スマートフォン等の利用状況／年齢別

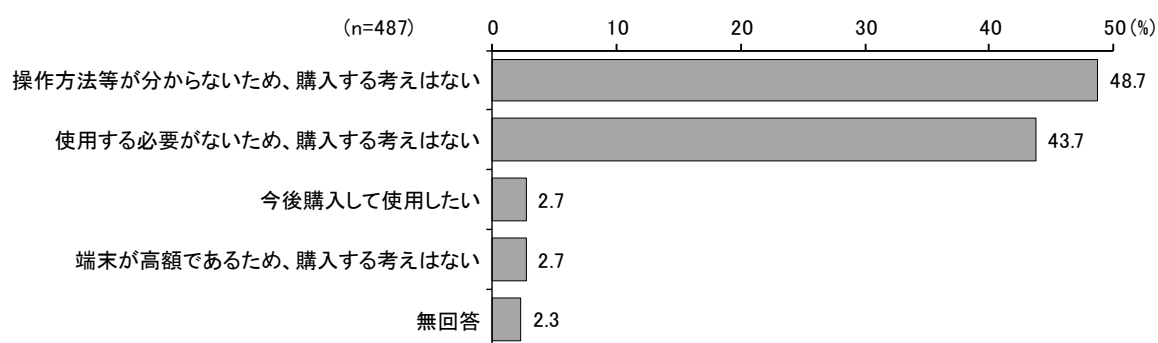
		回答者数 (n)	電話	電子メール	SNS (Lineなど) 利用	インターネットの閲覧・検索等	ネットショッピング (Amazonなど)	電子決済 (PayPayやSuicaなど)	区政情報等の収集	オンラインゲーム	その他	特に利用していない	無回答
全体		1,333	86.2	40.2	28.5	28.1	8.8	7.1	4.1	4.0	3.7	8.0	1.2
年齢	65～69歳	31	96.8	74.2	54.8	71.0	45.2	25.8	9.7	12.9	3.2	-	-
	70～74歳	94	86.2	54.3	51.1	58.5	24.5	18.1	8.5	12.8	5.3	5.3	-
	75～79歳	181	90.1	48.1	41.4	40.9	17.1	12.2	7.7	6.1	3.9	6.1	-
	80～84歳	311	90.0	46.6	33.4	32.5	7.4	8.4	4.5	2.6	3.2	5.5	1.3
	85～89歳	351	84.3	36.8	21.7	19.9	3.4	3.7	2.3	2.3	5.4	10.3	1.7
	90～94歳	269	82.9	30.5	19.0	15.6	4.8	3.0	1.9	3.0	1.5	9.7	1.5
	95～99歳	82	78.0	20.7	9.8	11.0	1.2	-	2.4	2.4	3.7	13.4	2.4
100歳以上	9	77.8	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-

(3) スマートフォン等の今後の使用意向等

問 14-② スマートフォン等の今後の使用意向等についてお答えください。(○は1つ)

スマートフォン、携帯電話（いわゆるガラケー）いずれも持っていない人に今後の使用意向についてたずねたところ、「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」が48.7%で最も高く、次いで「使用する必要がないため、購入する考えはない」（43.7%）、「今後購入して使用したい」・「端末が高額であるため、購入する考えはない」（共に2.7%）と続いています。

図表 3-6-4 スマートフォン等の今後の使用意向



性別で見ると、【男性】は「使用する必要がないため、購入する考えはない」が最も高く、【女性】は「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」は【75～79歳】が他の年齢層と比べ、最も高くなっています。また、割合は低いものの、80～94歳で「今後購入して使用したい」との回答が見られます。

図表 3-6-5 スマートフォン等の今後の使用意向／性別・年齢別

		回答者数 (n)	操作方法等が分からないため、購入する考えはない (%)	使用する必要がないため、購入する考えはない (%)	今後購入して使用したい (%)	端末が高額であるため、購入する考えはない (%)	無回答 (%)
全体		487	48.7	43.7	2.7	2.7	2.3
性別	男性	134	40.3	48.5	3.0	4.5	3.7
	女性	349	52.1	41.8	2.3	2.0	1.7
年齢	65～69歳	10	40.0	60.0	-	-	-
	70～74歳	9	22.2	66.7	-	11.1	-
	75～79歳	34	64.7	32.4	-	2.9	-
	80～84歳	71	40.8	45.1	5.6	4.2	4.2
	85～89歳	100	42.0	49.0	4.0	3.0	2.0
	90～94歳	170	49.4	42.4	2.9	2.4	2.9
	95～99歳	78	59.0	38.5	-	1.3	1.3
100歳以上	15	53.3	46.7	-	-	-	

7. エネルギー機器の使用状況について

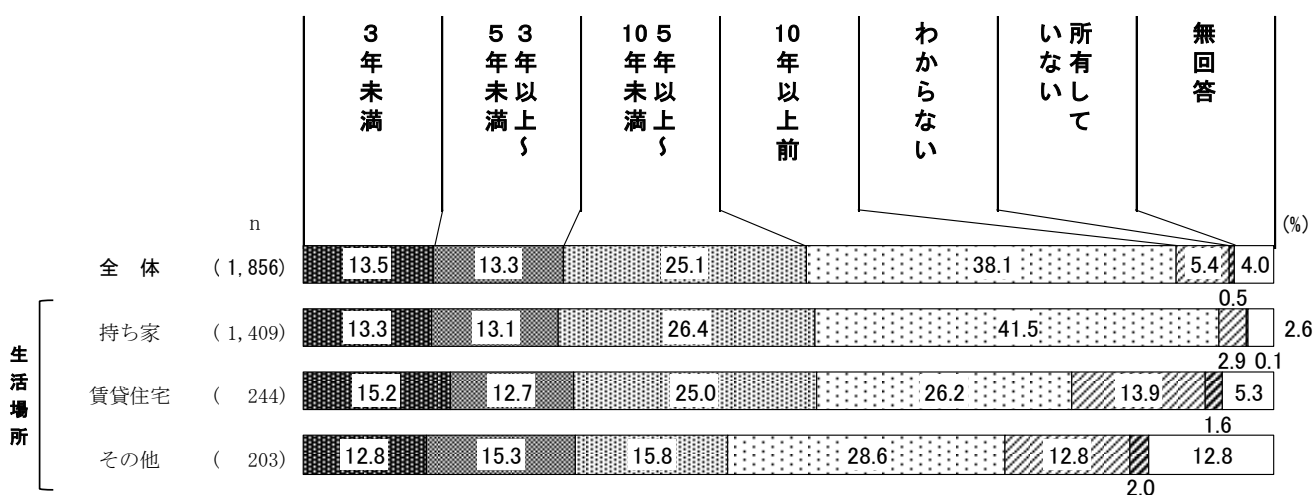
(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期

問15 現在、ご家庭で使用しているエアコン（一番古いもの）を購入したのはいつ頃ですか。
（〇は1つ）

家庭で使用しているエアコンの購入時期については、「10年以上前」が38.1%で最も高く、次いで「5年以上～10年未満」（25.1%）、「3年未満」（13.5%）と続いています。

問3の生活している場所別で見ると、【持ち家】の人は「10年以上前」（41.5%）の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表3-7-1 家庭で使用しているエアコンの購入時期／生活している場所別



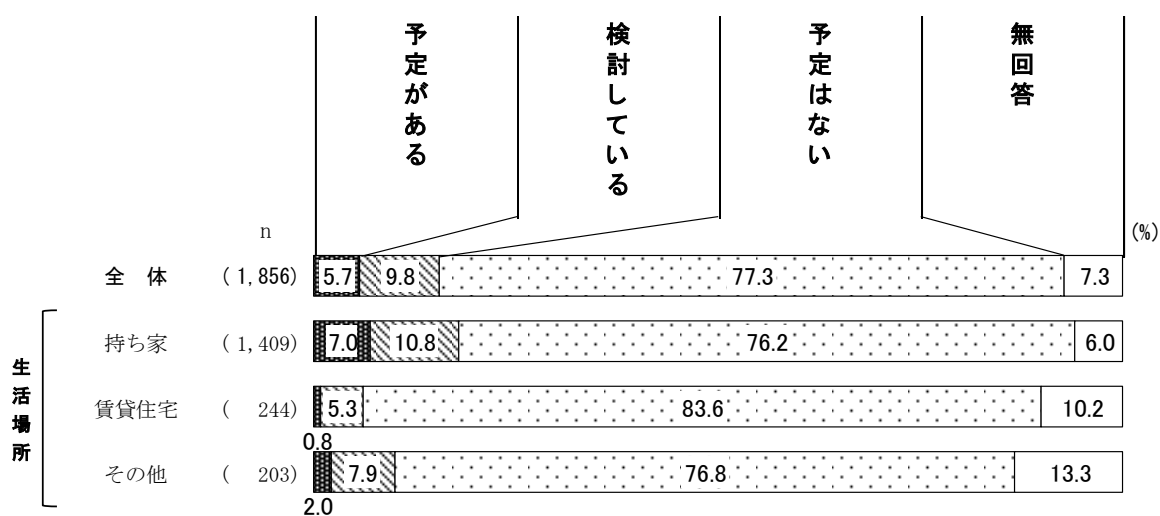
(2) エアコンの購入予定

問 16 おおむね 1 年以内にエアコンを買い替えまたは購入する予定はありますか。(○は 1 つ)

おおむね 1 年以内のエアコンの購入予定については、「予定はない」が 77.3% で最も高く、「検討している」が 9.8%、「予定がある」が 5.7% となっています。

問 3 の生活している場所別で見ると、【持ち家】の人は「予定がある」の割合が 7.0% と他の層と比べて高く、【賃貸住宅】の人は「予定はない」(83.6%) が他の層と比べて高くなっています。

図表 3-7-2 エアコンの購入予定／生活している場所別

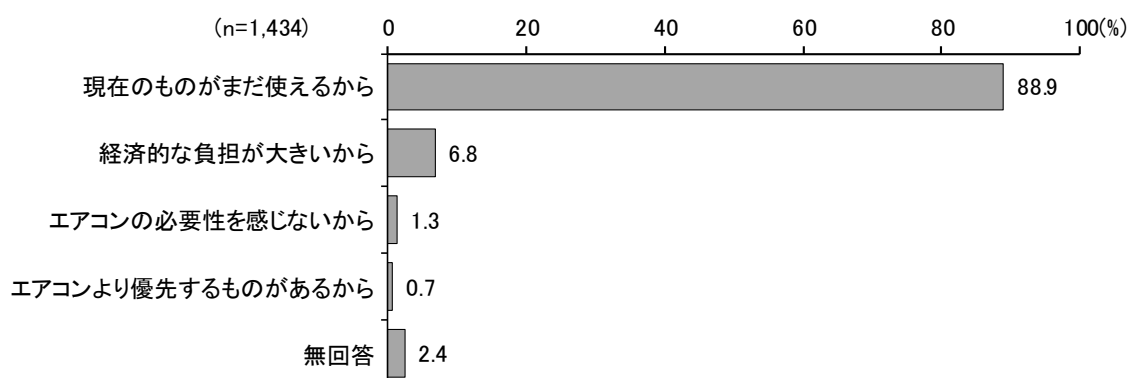


(3) エアコンの購入予定がない理由

問 16-① エアコンの買い替えまたは購入の予定がないとした最も大きな理由はなんですか。
(○は1つ)

おおむね1年以内のエアコンの購入予定がない人に、購入予定がない理由についてたずねたところ、「現在のものがまだ使えるから」(88.9%)が約9割を占めています。

図表 3-7-3 エアコンの購入予定がない理由



問3の生活している場所別で見ると、「経済的な負担が大きいから」の割合は【賃貸住宅】の人(13.2%)が他の層と比べて高くなっています。

図表 3-7-4 エアコンの購入予定がない理由／生活している場所別

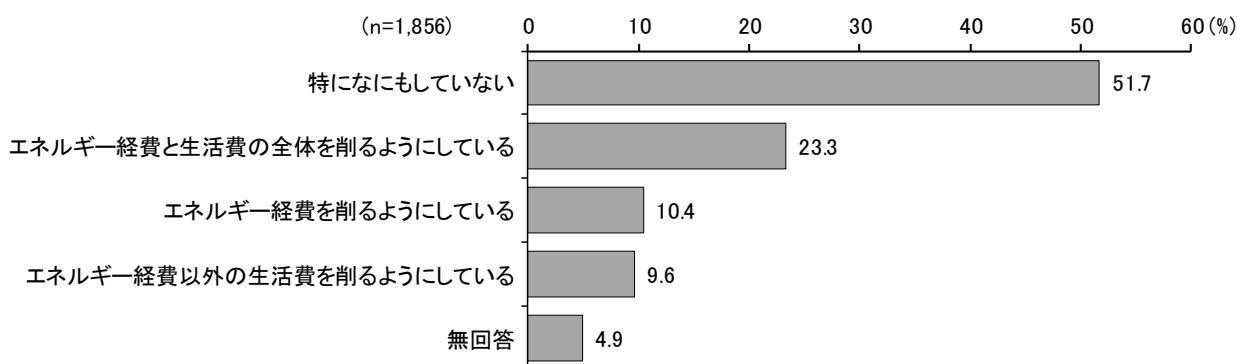
		回答者数 (n)	現在のものがまだ使えるから	経済的な負担が大きいから	エアコンの必要性を感じないから	エアコンより優先するものがあるから	無回答
全体		1,434	88.9	6.8	1.3	0.7	2.4
生活場所	持ち家	1,074	90.7	6.1	0.7	0.5	2.0
	賃貸住宅	204	80.4	13.2	1.5	2.0	2.9
	その他	156	87.8	3.2	4.5	0.6	3.8

(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無

問 17 エネルギー経費（電気、ガス、ガソリン代など）が家計の負担となっていて、エアコンやガスなどの使用を控えたり、その他の生活費（食費、服飾費、住居費など）を削減していますか。（○は1つ）

エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無については、「特になにもしていない」が51.7%で最も高く、次いで「エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている」（23.3%）、「エネルギー経費を削るようにしている」（10.4%）と続いています。

図表 3-7-5 エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無



問3の生活している場所別で見ると、【持ち家】と【その他】の人は「特になにもしていない」が最も高く、【賃貸住宅】の人は「エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている」が最も高くなっています。

図表 3-7-6 エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無／生活している場所別

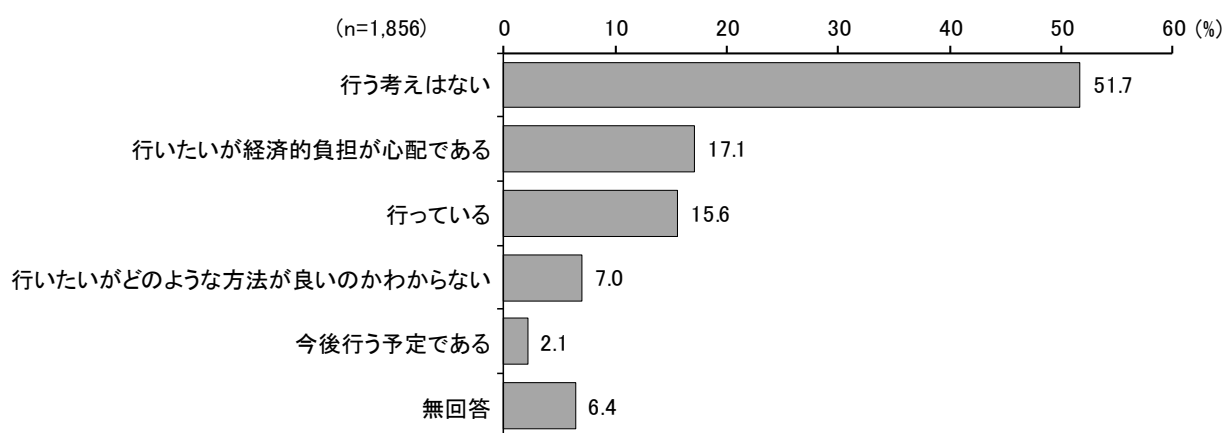
		回答者数 (n)	特になにもしていない (%)	エネルギー経費と生活費の全体を削るようにしている (%)	エネルギー経費を削るようにしている (%)	エネルギー経費以外の生活費を削るようにしている (%)	無回答 (%)
全体		1,856	51.7	23.3	10.4	9.6	4.9
生活場所	持ち家	1,409	53.8	22.2	10.6	9.7	3.7
	賃貸住宅	244	31.1	38.9	11.9	11.9	6.1
	その他	203	62.1	12.3	7.4	6.4	11.8

(5) エネルギー経費削減のためにしている対策

問 18 エネルギー経費削減のため、住宅の壁、床、屋根、窓などの断熱化や太陽光発電機器の導入などの対策を行っていますか。(○は1つ)

エネルギー経費削減のためにしている対策については、「行う考えはない」が51.7%で最も高く、次いで「行いたいが経済的負担が心配である」(17.1%)、「行っている」(15.6%)と続いています。

図表 3-7-7 エネルギー経費削減のためにしている対策



問3の生活している場所別で見ると、「行う考えはない」は【賃貸住宅】の人(62.3%)が他の層と比べて最も高くなっています。「行いたいが経済的負担が心配である」は【持ち家】の人(18.7%)が他の層と比べて最も高くなっています。

図表 3-7-8 エネルギー経費削減のためにしている対策/生活している場所別

		回答者数 (n)	行う考えはない	行いたい が経済的 負担が心 配である	行ってい る	行いたい がどのよ うな方法 が良いの かわから ない	今後行う 予定であ る	無回答
全体		1,856	51.7	17.1	15.6	7.0	2.1	6.4
生活場所	持ち家	1,409	49.5	18.7	17.4	7.5	2.4	4.5
	賃貸住宅	244	62.3	13.9	7.0	5.3	-	11.5
	その他	203	54.2	9.9	13.8	5.9	2.5	13.8

8. 住まいについて

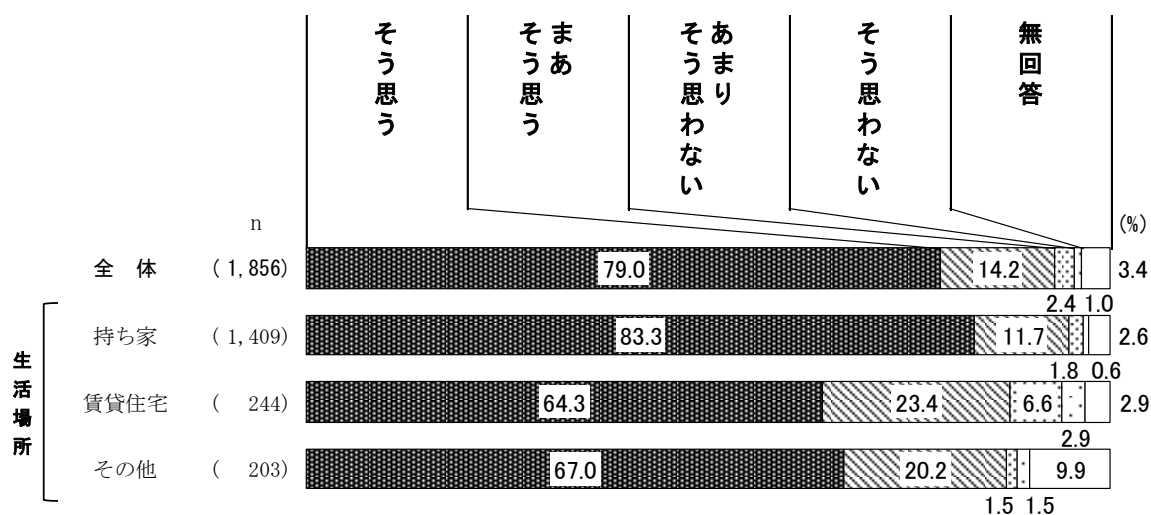
(1) 現在住んでいる地域への継続居住意向

問 19 今後も、現在住んでいる地域に住み続けたいですか。(○は1つ)

現在住んでいる地域への継続居住意向については、「そう思う」が79.0%で最も高く、「まあそう思う」が14.2%、「あまりそう思わない」が2.4%、「そう思わない」が1.0%となっています。

問3の生活している場所別で見ると、「そう思う」の割合は【持ち家】の人(83.3%)が最も高くなっています。

図表3-8-1 現在住んでいる地域への継続居住意向／生活している場所別

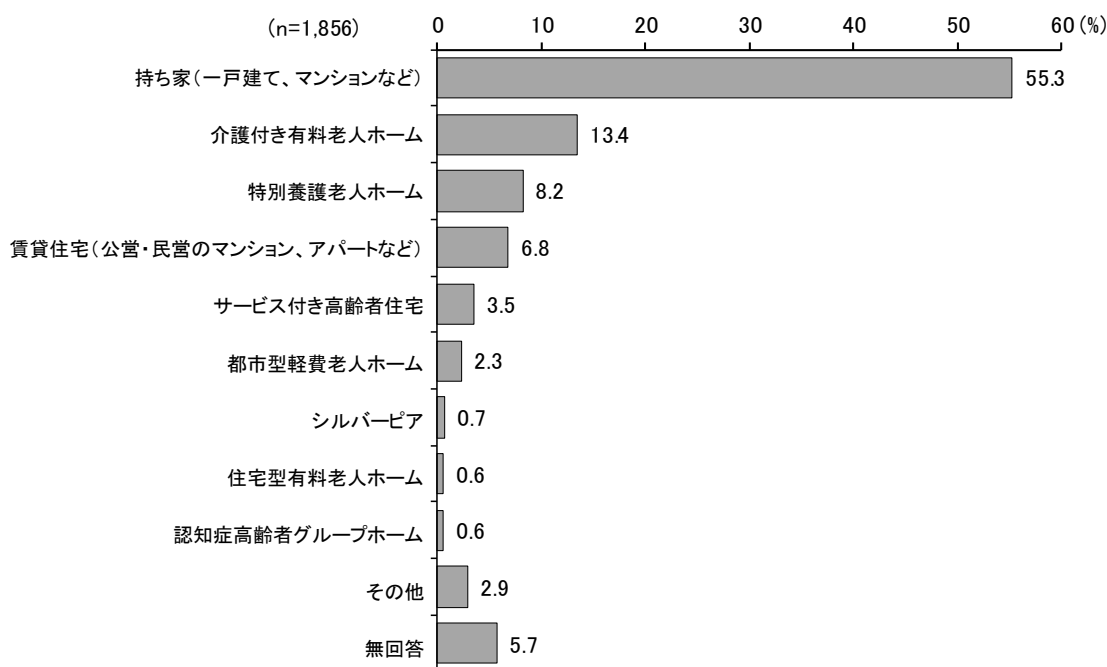


(2) 介護サービスを受けたい場所

問 20 今後、どこで介護を受けたいとお考えですか。(○は1つ)

介護サービスを受けたい場所については、「持ち家（一戸建て、マンションなど）」が55.3%で最も高く、次いで「介護付き有料老人ホーム」（13.4%）、「特別養護老人ホーム」（8.2%）と続いています。

図表 3-8-2 介護サービスを受けたい場所



問3の生活している場所別で見ると、【持ち家】、【賃貸住宅】の人は、現在生活している場所と同じ形態の場所が最も高く、【その他】の人は「介護付き有料老人ホーム」が最も高くなっています。

図表 3-8-3 介護サービスを受けたい場所／生活している場所別

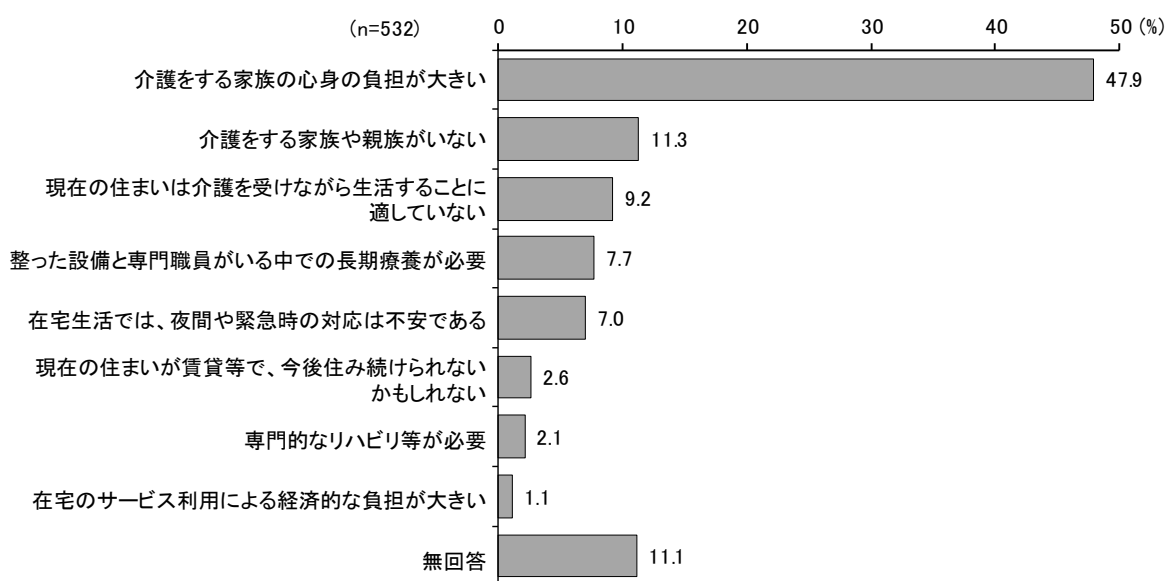
		回答者数 (n)	持ち家(一戸建て、マンションなど)	介護付き有料老人ホーム	特別養護老人ホーム	賃貸住宅(公営・民営のマンション、アパートなど)	サービス付き高齢者住宅	都市型軽費老人ホーム	シルバーピア	住宅型有料老人ホーム	認知症高齢者グループホーム	その他	無回答
全体		1,856	55.3	13.4	8.2	6.8	3.5	2.3	0.7	0.6	0.6	2.9	5.7
生活場所	持ち家	1,409	71.3	8.2	7.9	0.1	2.7	1.8	0.4	0.1	0.7	2.6	4.3
	賃貸住宅	244	2.9	7.4	12.3	50.0	7.0	6.1	1.6	0.8	0.8	2.5	8.6
	その他	203	6.9	56.7	5.9	1.5	4.9	1.5	2.0	3.4	-	5.4	11.8

(3) 施設等に入所したい理由

問 20-① 施設等へ入所したいとお考えの理由について、最も近いものを選んでください。
(○は1つ)

介護を受けたい場所として、「サービス付き高齢者住宅」、「都市型軽費老人ホーム」、「住宅型有料老人ホーム」、「介護付き有料老人ホーム」、「特別養護老人ホーム」、「認知症高齢者グループホーム」と回答した人に、施設等へ入所したい理由についてたずねたところ、「介護をする家族の心身の負担が大きい」が47.9%で最も高く、次いで「介護をする家族や親族がいない」(11.3%)、「現在の住まいは介護を受けながら生活することに適していない」(9.2%)と続いています。

図表 3-8-4 施設等に入所したい理由



問3の生活している場所別で見ると、「介護をする家族の心身の負担が大きい」は【持ち家】の人が最も高くなっています。「介護をする家族や親族がいない」、「現在の住まいは介護を受けながら生活することに適していない」、「現在の住まいが賃貸等で、今後住み続けられないかもしれない」は【賃貸住宅】の人が最も高くなっています。「整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要」は【その他】の人が最も高くなっています。

図表 3-8-5 施設等に入所したい理由／生活している場所別

		回答者数 (n)	介護をする家族の心身の負担が大きい	介護をする家族や親族がいない	現在の住まいは介護を受けながら生活することに適していない	整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要	在宅生活では、夜間や緊急時の対応は不安である	現在の住まいが賃貸等で、今後住み続けられないかもしれない	専門的なリハビリ等が必要	在宅のサービス利用による経済的な負担が大きい	無回答
全体		532	47.9	11.3	9.2	7.7	7.0	2.6	2.1	1.1	11.1
生活場所	持ち家	301	51.5	11.0	9.6	5.3	7.3	0.3	2.3	1.7	11.0
	賃貸住宅	84	33.3	16.7	11.9	2.4	6.0	15.5	2.4	1.2	10.7
	その他	147	49.0	8.8	6.8	15.6	6.8	-	1.4	-	11.6

9. 終活について

(1) 「人生会議（ACP）」認知状況

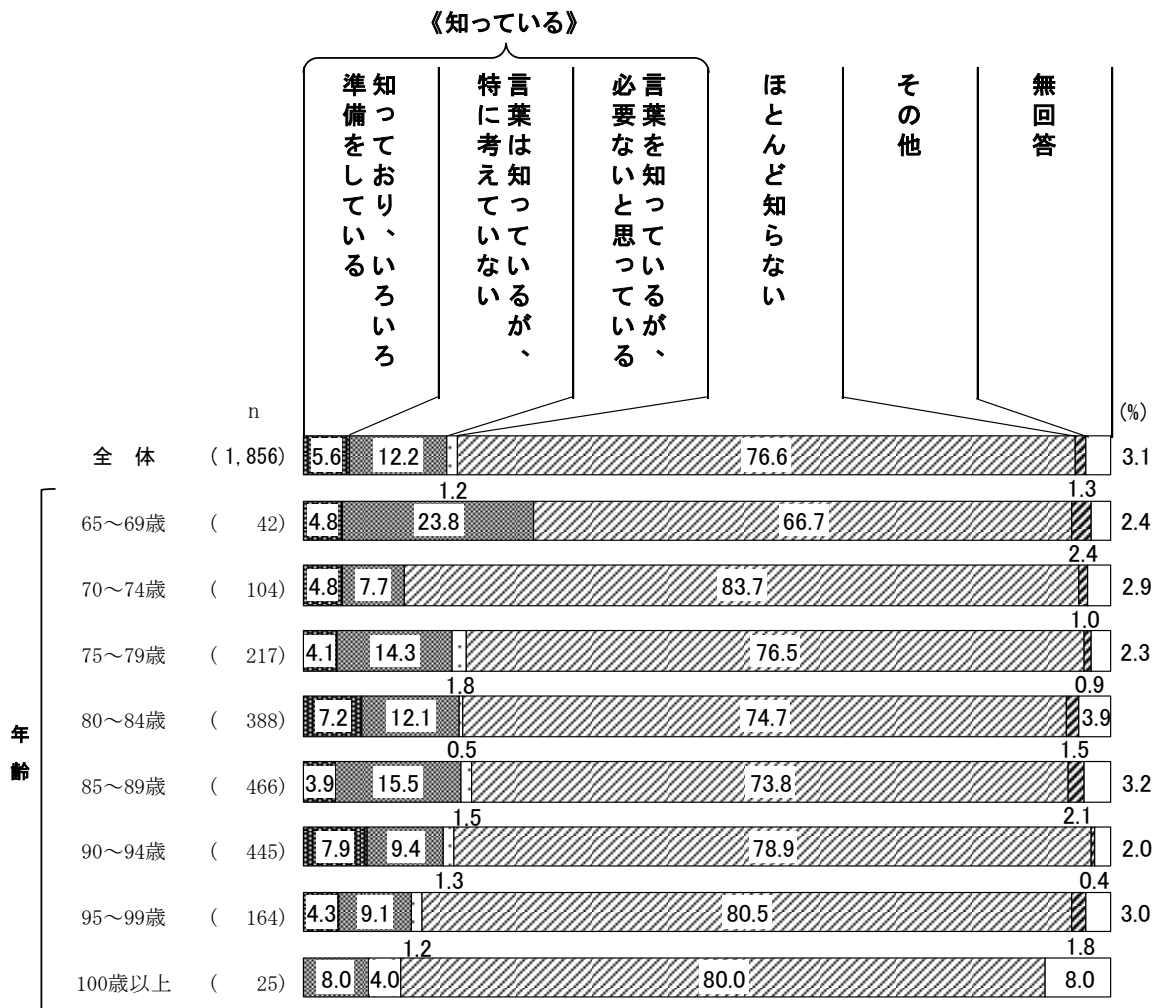
問 21 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）※を知っていますか。
 (○は1つ)

※人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）…万が一の時に備えて、本人が大切にしていることや希望、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、信頼する人たちで話し合ったりすること。

「人生会議（ACP）」認知状況については、「ほとんど知らない」が76.6%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、特に考えていない」(12.2%)、「知っており、いろいろ準備をしている」(5.6%)と続いています。

年齢別で見ると、「知っており、いろいろ準備をしている」、「言葉は知っているが、特に考えていない」、「言葉を知っているが、必要ないと思っている」を合計した《知っている》の割合は【65～69歳】(28.6%)が最も高くなっています。

図表3-9-1 「人生会議（ACP）」認知状況／年齢別



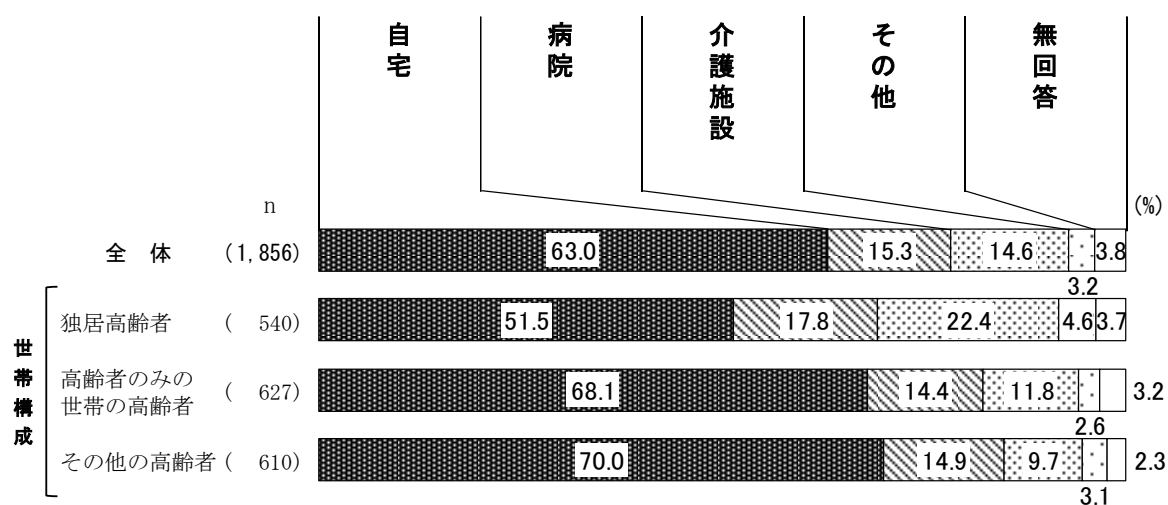
(2) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所

問 22 人生の最期や終末期を過ごしたい場所はどちらですか。(○は1つ)

人生の最期や終末期を過ごしたい場所については、「自宅」が63.0%で最も高く、次いで「病院」(15.3%)、「介護施設」(14.6%)と続いています。

世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は他の層と比べて「自宅」(51.5%)の割合が低く、「介護施設」(22.4%)の割合が高くなっています。

図表3-9-2 人生の最期や終末期を過ごしたい場所／世帯構成別



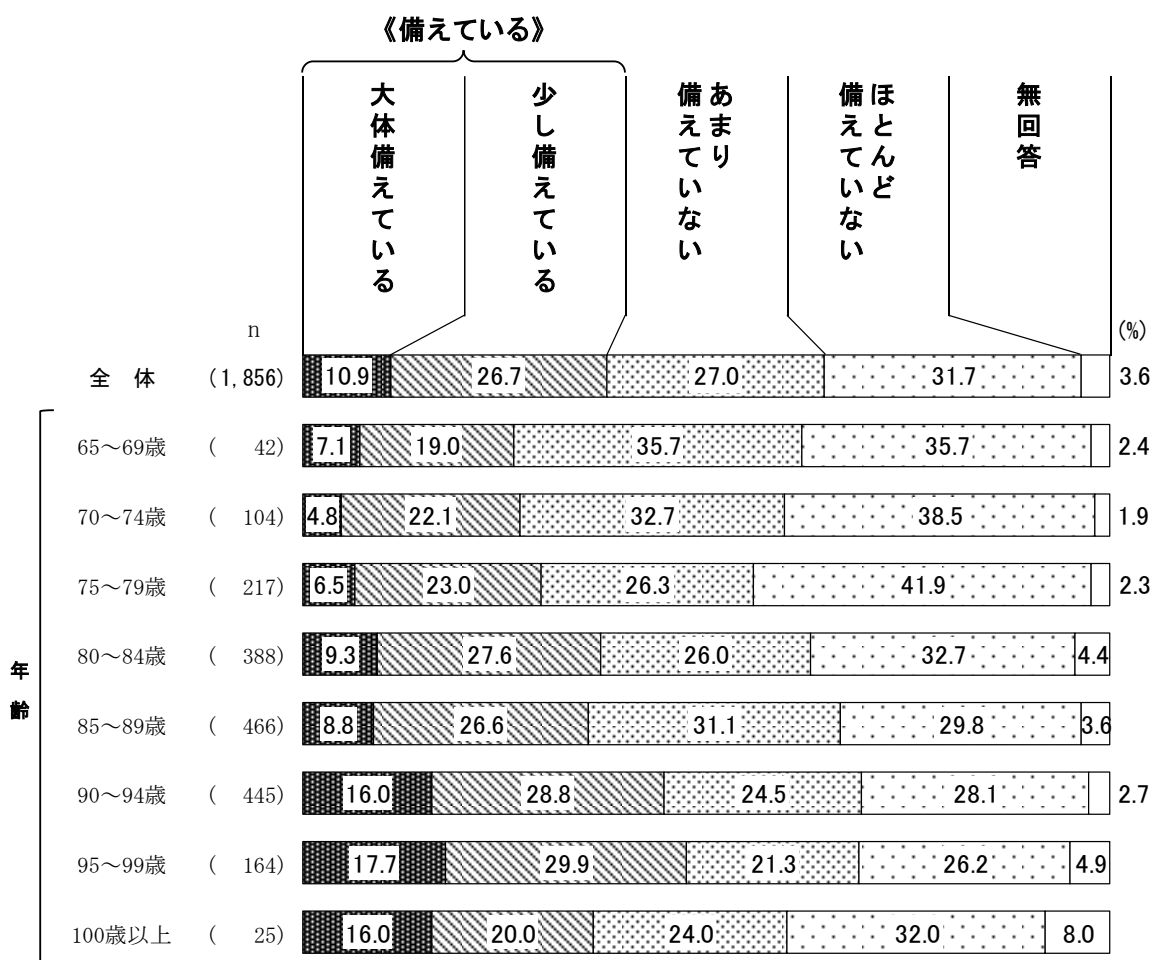
(3) 人生の最期や終末期に向けての備え

問 23 人生の最期や終末期に向けて備えていますか。(○は1つ)

人生の最期や終末期に向けての備えについては、「ほとんど備えていない」が31.7%で最も高く、次いで「あまり備えていない」(27.0%)、「少し備えている」(26.7%)と続いています。

年齢別で見ると、「大体備えている」と「少し備えている」を合計した《備えている》の割合は、70歳代以下が2割台、80歳代が3割台、90歳代が4割台となっています。

図表3-9-3 人生の最期や終末期に向けての備え／年齢別

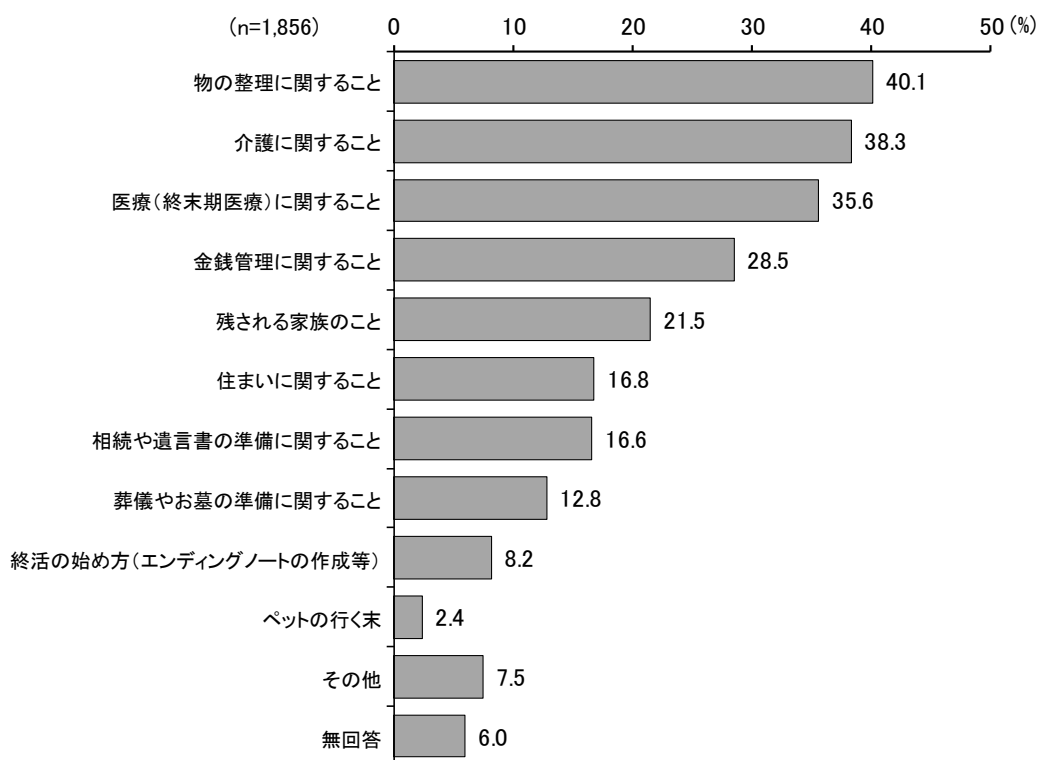


(4) 人生の最期や終末期に向けた心配事

問 24 人生の最期や終末期に向けた心配事はなんですか。(〇はいくつでも)

人生の最期や終末期に向けた心配事については、「物の整理に関すること」が40.1%で最も高く、次いで「介護に関すること」(38.3%)、「医療(終末期医療)に関すること」(35.6%)、「金銭管理に関すること」(28.5%)と続いています。

図表3-9-4 人生の最期や終末期に向けた心配事



世帯構成別で見ると、【独居高齢者】と【その他の高齢者】は「物の整理に関すること」が最も高く、【高齢者のみの世帯の高齢者】は「介護に関すること」が最も高くなっています。

図表3-9-5 人生の最期や終末期に向けた心配事/世帯構成別

		回答者数 (n)	物の整理に関すること	介護に関すること	医療(終末期医療)に関すること	金銭管理に関すること	残される家族のこと	住まいに関すること	相続や遺言書の準備に関すること	葬儀やお墓の準備に関すること	終活の始め方(エンディングノートの作成等)	ペットの行く末	その他	無回答
全体		1,856	40.1	38.3	35.6	28.5	21.5	16.8	16.6	12.8	8.2	2.4	7.5	6.0
世帯構成	独居高齢者	540	45.4	42.0	38.0	27.6	8.0	18.3	15.4	11.1	11.1	2.8	8.1	4.6
	高齢者のみの世帯の高齢者	627	36.2	39.4	35.1	30.9	26.5	17.9	18.0	13.4	8.3	2.2	6.7	6.7
	その他の高齢者	610	41.0	35.9	34.8	27.0	29.3	15.2	16.1	13.3	5.9	2.1	8.4	4.4

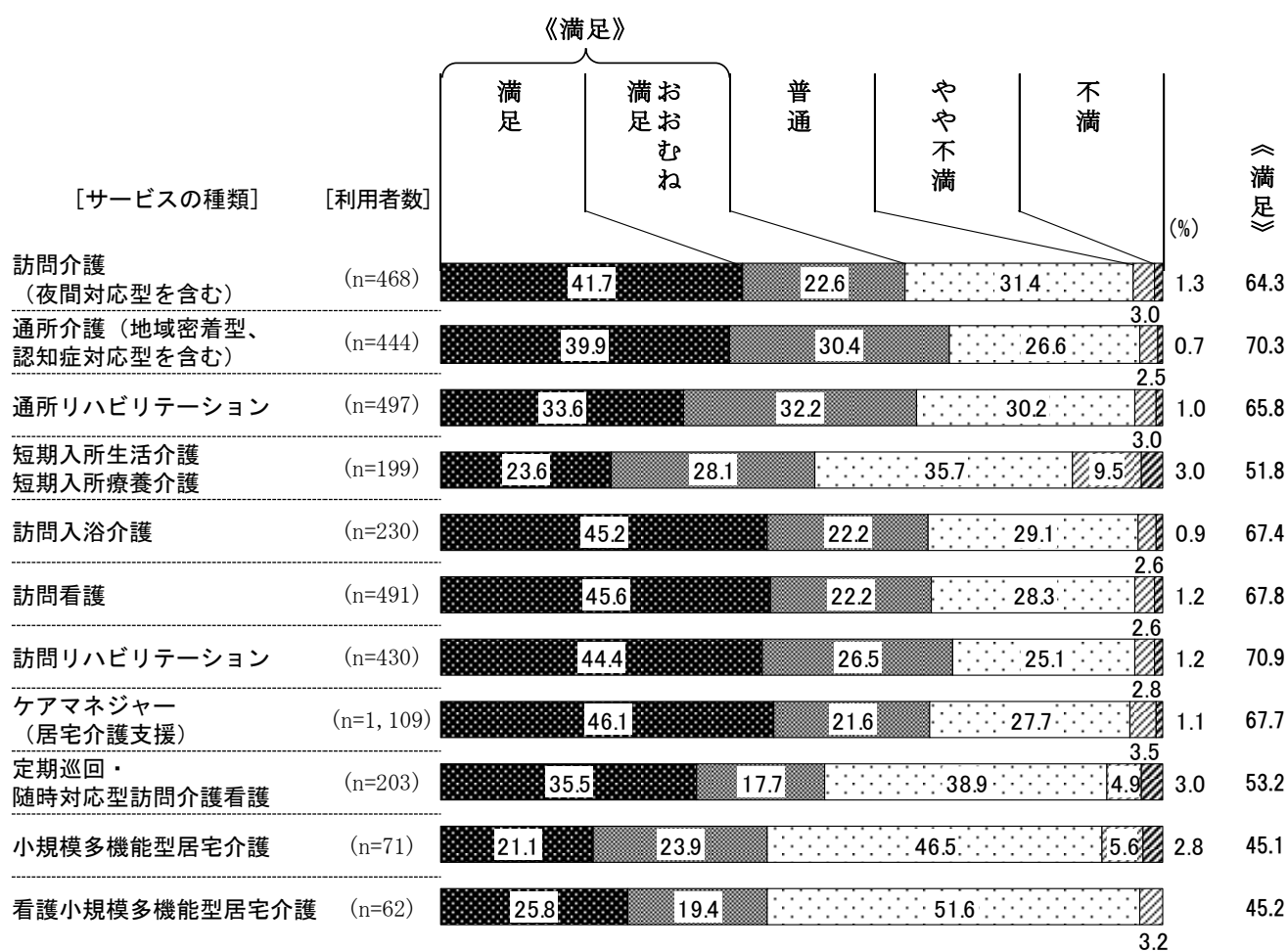
10. 介護保険や在宅サービスについて

(1) 介護保険サービスの満足度

問 25 令和7年8月に利用した介護保険サービスの満足度についてお伺いします。
 次の(1)～(11)について、最も近いものを1つずつ選んでください。
 (〇は1つずつ)

令和7年8月に利用した介護保険サービスの満足度について、利用者数を母数とした《満足》（「満足」と「おおむね満足」の合計）の割合は、[通所介護（地域密着型、認知症対応型を含む）]と[訪問リハビリテーション]が約7割、[訪問介護（夜間対応型含む）]、[通所リハビリテーション]、[訪問入浴介護]、[訪問看護]、[ケアマネジャー（居宅介護支援）]が6割台、[短期入所生活介護 短期入所療養介護]と[定期巡回・随時対応型訪問介護看護]が5割台、[小規模多機能型居宅介護]と[看護小規模多機能型居宅介護]が4割台となっています。

図表3-10-1 介護保険サービスの満足度



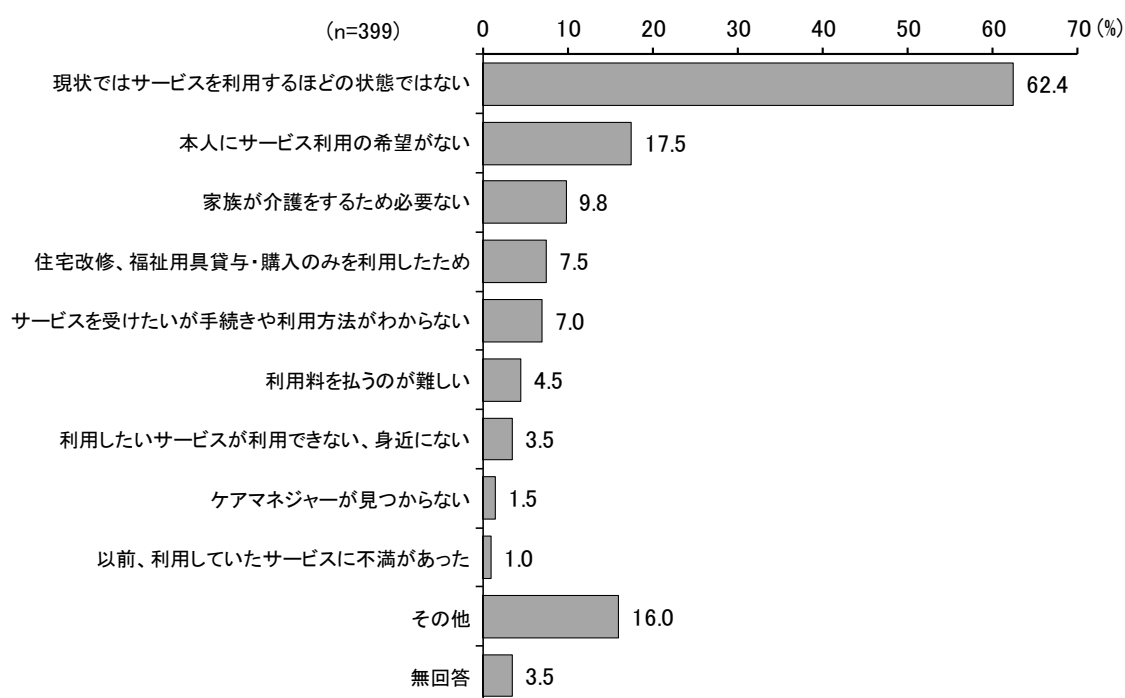
※回答者数から「利用なし」と無回答を除いた人数を「利用者数」としています。

(2) 介護保険サービスを利用していない理由

問 25-① 認定を受けていても介護保険サービスを利用しない理由について、お考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

介護保険サービスを利用していない人にその理由についてたずねたところ、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が62.4%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(17.5%)、「家族が介護をするため必要ない」(9.8%)、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用したため」(7.5%)と続いています。

図表3-10-2 介護保険サービスを利用していない理由



「その他」の回答内容 (上位5項目)	件数
介護施設に入所しているため	34
今後利用したい	5
他のサービスを利用している	5
施設で利用している	4
利用したいサービスがない	2

第3章 在宅介護高齢者実態調査

問10(7)の認知症診断有無別で見ると、【軽度認知障害(MCI)と診断されている】と【診断は受けていない】と回答した人は「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が最も高く、【認知症と診断されている】と回答した人は「本人にサービス利用の希望がない」が最も高くなっています。

図表3-10-3 介護保険サービスを利用していない理由／認知症診断有無別

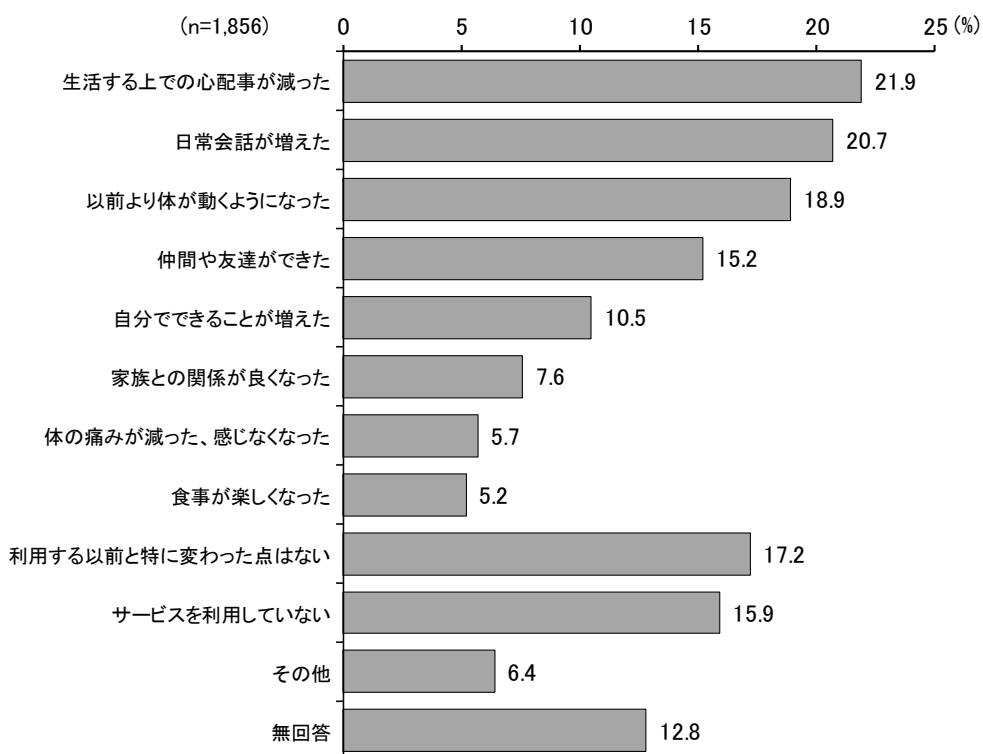
													(%)
		回答者数(n)	現状ではサービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用したため	サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない	利用料が難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	ケアマネジャーが見つからない	以前、利用していたサービスに不満があった	その他	無回答
全体		399	62.4	17.5	9.8	7.5	7.0	4.5	3.5	1.5	1.0	16.0	3.5
認知症診断有無	認知症と診断されている	25	40.0	44.0	8.0	-	-	4.0	-	-	4.0	32.0	8.0
	軽度認知障害(MCI)と診断されている	30	53.3	23.3	16.7	-	3.3	3.3	3.3	3.3	-	33.3	3.3
	診断は受けていない	337	65.0	15.1	9.5	8.9	8.0	4.7	3.9	1.5	0.9	13.1	3.3

(3) 介護保険サービスを利用するようになって変わったこと

問 26 介護保険サービスを利用するようになって変わったことはありますか。
(○はいくつでも)

介護保険サービスを利用するようになって変わったことについては、「生活する上での心配事が減った」が21.9%で最も高く、次いで「日常会話が増えた」(20.7%)、「以前より体が動くようになった」(18.9%)、「利用する以前と特に変わった点はない」(17.2%)と続いています。

図表 3-10-4 介護保険サービスを利用するようになって変わったこと



世帯構成別で見ると、【独居高齢者】は「生活する上での心配事が減った」が最も高く、【高齢者のみの世帯の高齢者】と【その他の高齢者】は「以前より体が動くようになった」が最も高くなっています。

図表 3-10-5 介護保険サービスを利用するようになって変わったこと／世帯構成別

		回答者数 (n)	生活する上での心配事が減った	日常会話が増えた	以前より体が動くようになった	仲間や友達ができ	自分でできることが増えた	家族との関係が良くなった	体の痛みが減った、感じなくなった	食事が楽しくなった	利用する以前と特に変わった点はない	サービスを利用していない	その他	無回答
全体		1,856	21.9	20.7	18.9	15.2	10.5	7.6	5.7	5.2	17.2	15.9	6.4	12.8
世帯構成	独居高齢者	540	28.5	22.8	12.4	13.9	7.8	4.1	4.4	4.6	15.2	18.7	6.1	13.5
	高齢者のみの世帯の高齢者	627	19.9	18.5	21.4	14.4	11.8	9.4	7.5	5.6	18.2	15.8	6.7	11.6
	その他の高齢者	610	17.4	22.0	23.1	17.5	11.8	9.0	5.1	5.1	18.0	15.1	6.6	10.3

第3章 在宅介護高齢者実態調査

要介護度別で見ると、【要介護1】は「日常会話が増えた」が最も高く、【要介護2】は「以前より体が動くようになった」が最も高く、【要介護3】～【要介護5】は「生活する上での心配事が減った」が最も高くなっています。

図表3-10-6 介護保険サービスを利用するようになって変わったこと／要介護度別

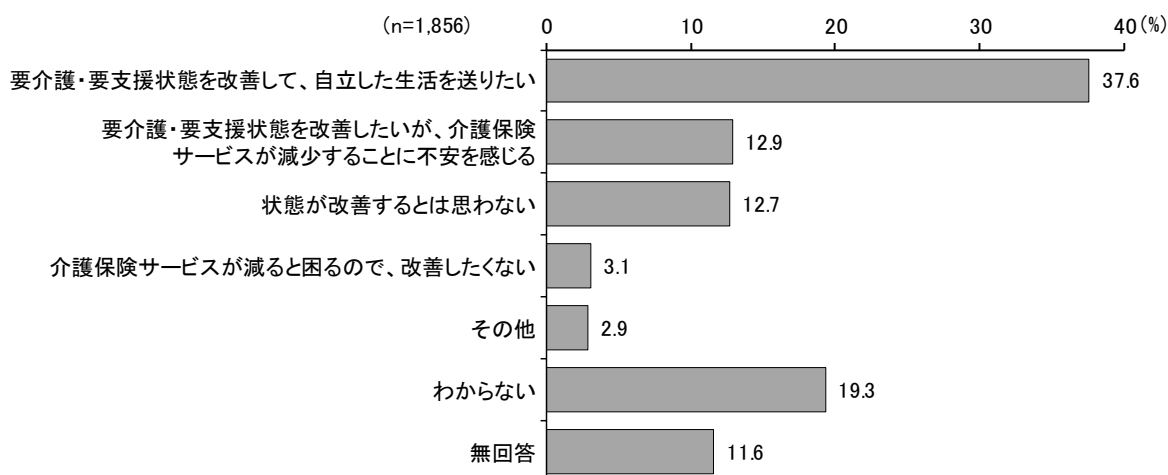
		(%)												
		回答者数 (n)	生活する上での心配事が減った	日常会話が増えた	以前より体が動くようになった	仲間や友達ができた	自分でできることが増えた	家族との関係が良くなった	体の痛みが減った、感じなくなった	食事が楽しくなった	利用する以前と特に変わった点はない	サービスを利用していない	その他	無回答
全体		1,856	21.9	20.7	18.9	15.2	10.5	7.6	5.7	5.2	17.2	15.9	6.4	12.8
要介護度	要支援1	497	15.3	11.3	14.7	13.7	8.0	3.2	3.2	2.0	14.5	29.2	4.8	16.3
	要支援2	215	14.0	15.3	19.1	14.9	10.2	4.2	8.4	2.8	13.0	22.3	7.0	15.3
	要介護1	477	17.8	22.0	17.6	17.6	11.7	7.8	4.6	4.0	20.8	13.2	5.2	14.3
	要介護2	216	23.1	27.3	27.8	15.3	12.5	8.3	6.0	5.1	21.8	7.4	4.6	8.3
	要介護3	185	38.4	34.6	19.5	18.9	8.6	11.9	9.2	11.4	16.2	5.9	5.4	9.2
	要介護4	190	34.2	25.3	21.6	13.7	12.1	15.8	6.3	10.5	15.3	3.7	13.2	9.5
	要介護5	76	38.2	26.3	19.7	6.6	13.2	11.8	9.2	11.8	19.7	6.6	11.8	2.6

(4) 要介護・要支援状態の改善についての考え

問 27 要介護・要支援状態になっても、リハビリなどのサービスを利用しながら、状態の改善を図ることは大切です。
 要介護・要支援状態が改善することについてお考えに最も近いものを選択してください。(○は1つ)

要介護・要支援状態の改善についての考えは、「要介護・要支援状態を改善して、自立した生活を送りたい」が37.6%で最も高く、次いで「わからない」(19.3%)、「要介護・要支援状態を改善したいが、介護保険サービスが減少することに不安を感じる」(12.9%)と続いています。

図表 3-10-7 要介護・要支援状態の改善についての考え



要介護度別で見ると、「要介護・要支援状態を改善して、自立した生活を送りたい」は【要支援1】と【要支援2】が4割台と、他の層と比べて高くなっています。また、「状態が改善するとは思わない」は【要支援1】と【要支援2】で1割を下回っていますが、【要介護2】～【要介護5】は2割近くを占めています。

図表 3-10-8 要介護・要支援状態の改善についての考え／要介護度別

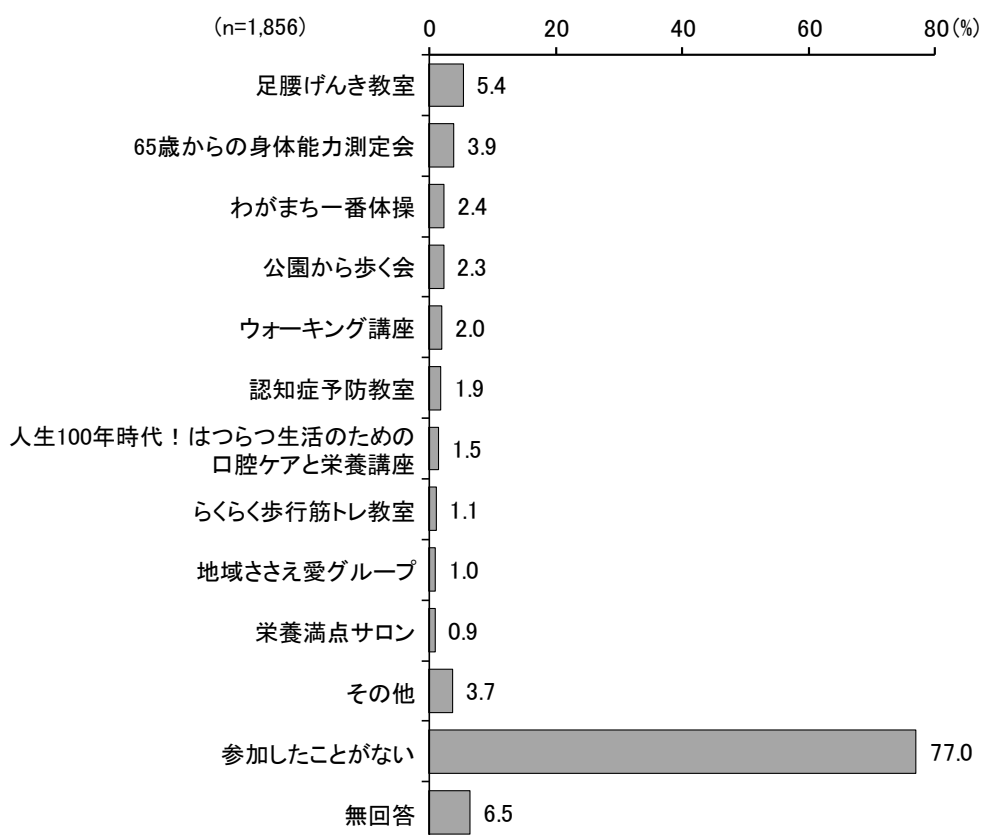
		回答者数 (n)	要介護・要支援状態を改善して、自立した生活を送りたい	要介護・要支援状態を改善したいが、介護保険サービスが減少することに不安を感じる	介護保険サービスが減ると困るので、改善したくない	状態が改善するとは思わない	その他	わからない	無回答
全体		1,856	37.6	12.9	3.1	12.7	2.9	19.3	11.6
要介護度	要支援1	497	41.9	9.1	2.2	7.2	2.8	22.7	14.1
	要支援2	215	47.4	11.6	1.9	5.6	3.7	17.7	12.1
	要介護1	477	35.0	12.6	3.4	12.6	1.7	21.4	13.4
	要介護2	216	32.9	15.3	4.6	19.0	2.8	16.2	9.3
	要介護3	185	29.2	22.2	2.7	18.4	2.2	17.8	7.6
	要介護4	190	36.8	11.6	5.3	19.5	4.2	14.7	7.9
要介護5	76	32.9	18.4	1.3	19.7	6.6	13.2	7.9	

(5) 参加したことがある介護予防事業

問 28 これまでに参加している・したことがある介護予防事業はありますか。
(○はいくつでも)

参加したことがある介護予防事業については、最も割合の高い「足腰げんき教室」(5.4%)でも1割を下回り、「参加したことがない」(77.0%)が7割以上を占めています。

図表 3-10-9 参加したことがある介護予防事業



いずれかの介護予防事業に参加している、または参加したことがあると回答した人について要介護度別で見ると、【要支援1】、【要支援2】、【要介護1】において「足腰げんき教室」が最も高くなっています（【要介護1】は「65歳からの身体能力測定会」と同率）。

図表3-10-10 参加したことのあある介護予防事業／要介護度別

		(%)												
		「参加している・したことがある」回答者数(n)	足腰げんき教室	65歳からの身体能力測定会	わがまち一番体操	公園から歩く会	ウォーキング講座	認知症予防教室	人生100年時代！はつらつ生活のための口腔ケアと栄養講座	らくらく歩行筋トレ教室	地域ささえ愛グループ	栄養満点サロン	その他	
全体		306	32.7	23.9	14.4	14.1	12.1	11.4	9.2	6.9	5.9	5.6	22.2	
要介護度	要支援1	123	36.6	22.8	17.1	14.6	13.0	14.6	9.8	4.1	6.5	5.7	26.0	
	要支援2	46	30.4	23.9	6.5	8.7	6.5	10.9	8.7	10.9	8.7	6.5	17.4	
	要介護1	68	29.4	29.4	11.8	23.5	13.2	8.8	11.8	11.8	5.9	8.8	16.2	
	要介護2	22	27.3	18.2	27.3	9.1	13.6	4.5	13.6	4.5	9.1	4.5	18.2	
	要介護3	22	22.7	27.3	13.6	4.5	18.2	13.6	4.5	-	-	-	31.8	
	要介護4	22	31.8	13.6	13.6	9.1	9.1	9.1	-	9.1	-	-	-	27.3
	要介護5	3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※回答者数から「参加したことがない」と無回答を除いた人数を「参加している・したことがある」回答者数としています。

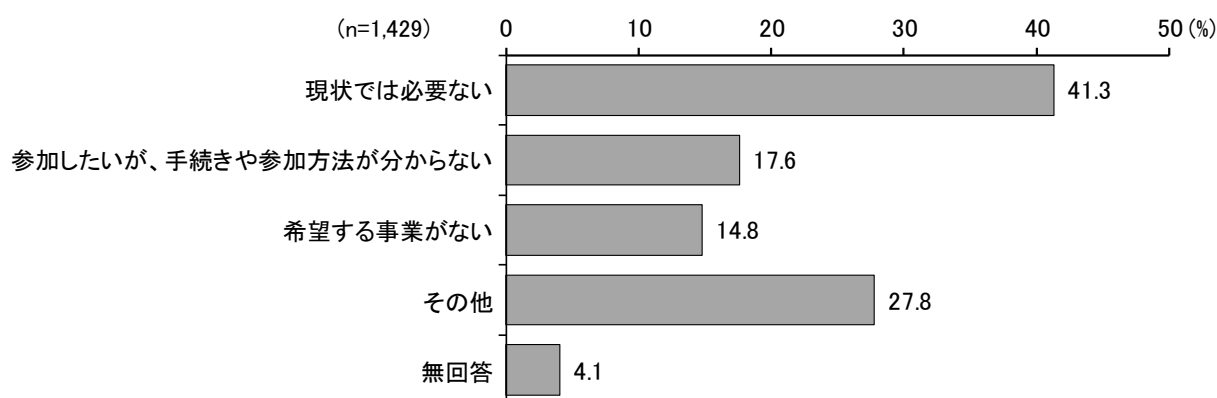
※【要介護2】～【要介護5】は「参加している・したことがある」回答者が少ないため、参考値としての掲載にとどめます。

(6) 介護予防事業に参加していない理由

問 28-① 介護予防事業に参加していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

介護予防事業に参加したことがない人に、その理由についてたずねたところ、「現状では必要ない」が41.3%で最も高く、次いで「その他」(27.8%)、「参加したいが、手続きや参加方法が分からない」(17.6%)と続いています。

図表 3-10-11 介護予防事業に参加していない理由



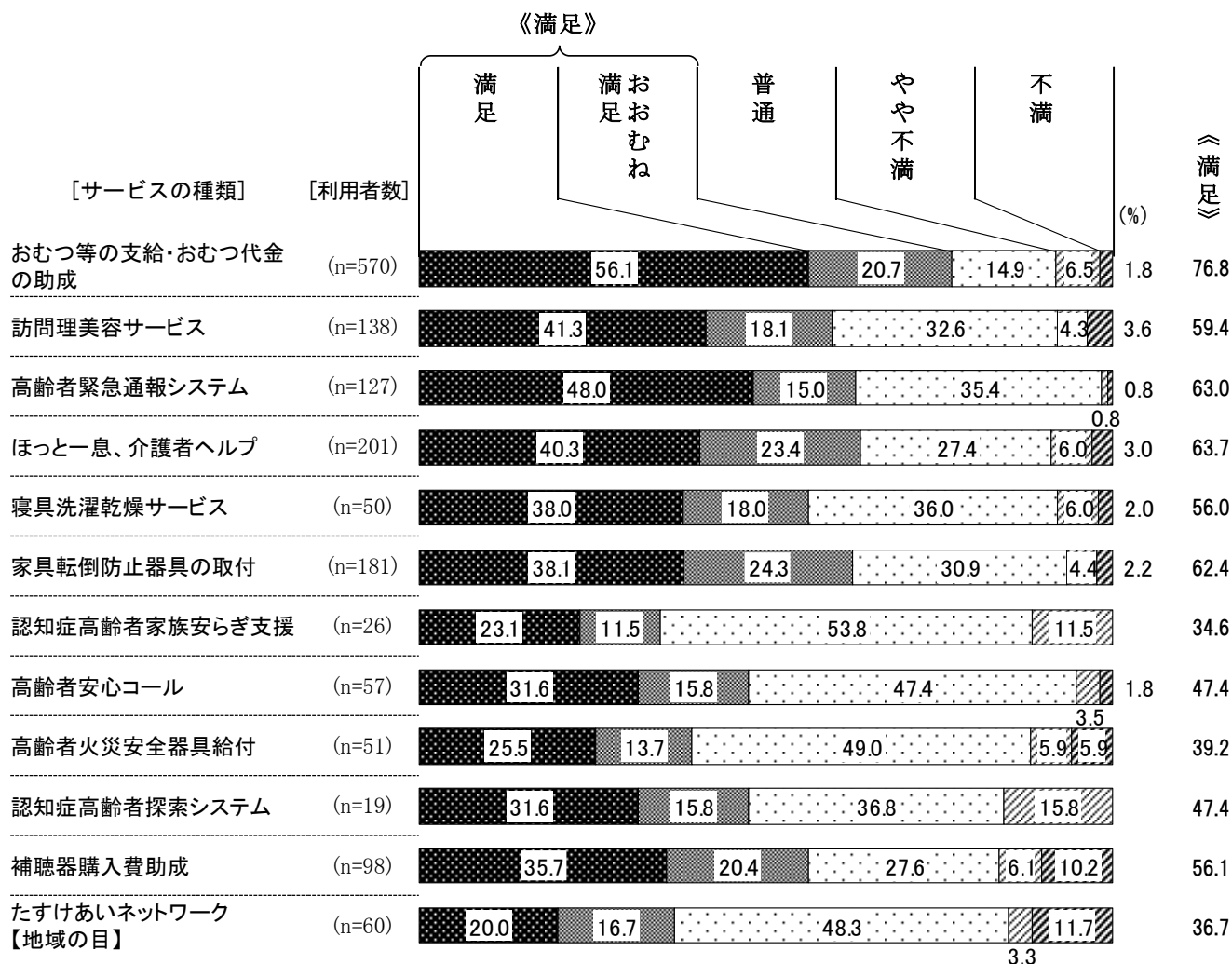
「その他」の回答内容 (上位 10 項目)	件数
体が不自由なため	75
事業を知らない・情報がない	41
参加できる状況でない	32
参加したいと思わない	26
他のサービス等を利用している	22
外出できない・したくない	21
団体行動や人と接するのが苦手	20
病気・体調不良・体の痛み	16
施設に入所しているため	15
体力がない	15

(7) 高齢者在宅サービスの満足度

問 29 これまでに利用した高齢者在宅サービス（区の独自サービス）の満足度についてお伺いします。次の（１）～（１２）について、最も近いものを１つずつ選んでください。（○は１つずつ）

これまでに利用した高齢者在宅サービスについて、利用者数を母数とした、《満足》（「満足」と「おおむね満足」の合計）の割合は、[おむつ等の支給・おむつ代金の助成]が7割台、[高齢者緊急通報システム]、[ほっと一息、介護者ヘルプ]、[家具転倒防止器具の取付]が6割台、[訪問理美容サービス]、[寝具洗濯乾燥サービス]、[補聴器購入費助成]が5割台、その他のサービスは4割台以下となっています。

図表 3-10-12 高齢者在宅サービスの満足度



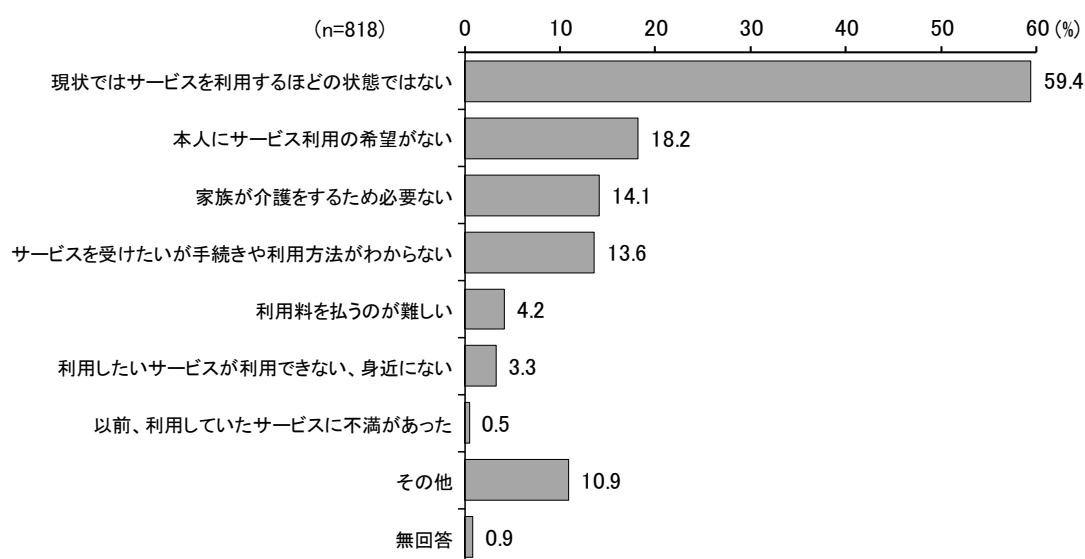
※回答者数から「利用なし」と無回答を除いた人数を「利用者数」としています。

(8) 高齢者在宅サービスを利用していない理由

問 29-① 高齢者在宅サービスを利用していない理由について、お考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

高齢者在宅サービスを利用していない人にその理由についてたずねたところ、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が59.4%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(18.2%)、「家族が介護をするため必要ない」(14.1%)、「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」(13.6%)と続いています。

図表 3-10-13 高齢者在宅サービスを利用していない理由



「その他」の回答内容 (上位5項目)	件数
施設に入所しているため	22
サービスを知らなかった	19
利用を検討中・今後利用したい	9
利用できるサービスがない	4
認定を受けたばかりなので	3

問10（7）の認知症診断有無別で見ると、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」は【診断は受けていない】と回答した人（62.6%）が6割を超え、他の層と比べて高くなっています。また、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」は【認知症と診断されている】と回答した人が他の層と比べて高くなっています。

図表3-10-14 高齢者在宅サービスを利用していない理由／認知症診断有無別

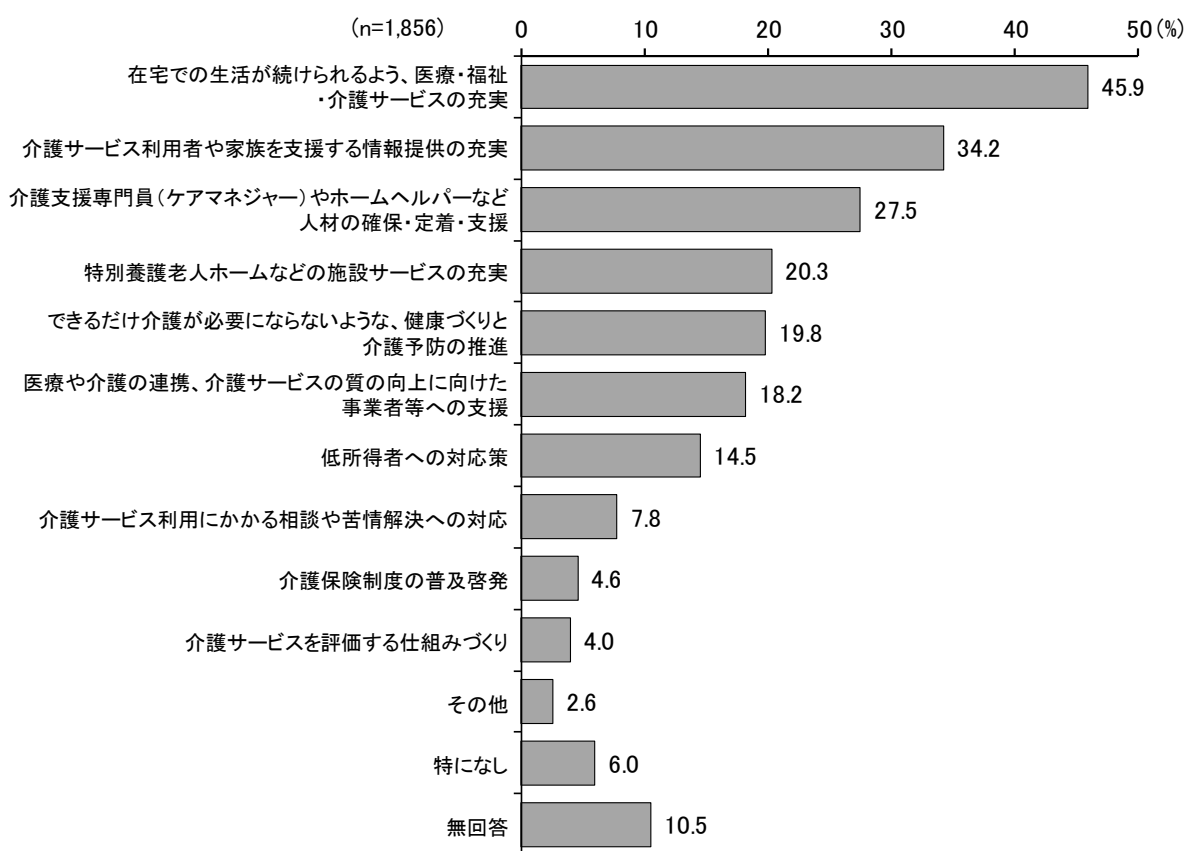
		回答者数 (n)	(%)								
			現状ではサービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない	利用料を払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	以前、利用していたサービスに不満があった	その他	無回答
全体		818	59.4	18.2	14.1	13.6	4.2	3.3	0.5	10.9	0.9
認知症診断有無別	認知症と診断されている	82	36.6	30.5	22.0	17.1	1.2	3.7	1.2	18.3	1.2
	軽度認知障害(MCI)と診断されている	50	52.0	28.0	12.0	8.0	4.0	2.0	0.0	18.0	2.0
	診断は受けていない	671	62.6	16.2	13.4	13.6	4.6	3.3	0.4	9.5	0.7

(9) 今後、区が力を入れていくべきこと

問 30 今後、区が力を入れていくべきと思うことはなんですか。(〇は3つまで)

今後、区が力を入れていくべきことについては、「在宅での生活が続けられるよう、医療・福祉・介護サービスの充実」が45.9%で最も高く、次いで「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」(34.2%)、「介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパーなど人材の確保・定着・支援」(27.5%)と続いています。

図表 3-10-15 今後、区が力を入れていくべきこと



要介護度別で見ると、「介護支援専門員（ケアマネジャー）やホームヘルパーなど人材の確保・定着・支援」は【要介護2】～【要介護5】が3割を超えて他の層と比べて高くなっています。また、「介護サービス利用にかかる相談や苦情解決への対応」は【要介護5】（13.2%）が他の層と比べて最も高くなっています。

図表3-10-16 今後、区が力を入れていくべきこと／要介護度別

		回答者数 (n)	(%)								
			在宅での生活が続けられるよう、医療・福祉・介護サービスの充実	介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実	介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパーなど人材の確保・定着・支援	特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実	できるだけ介護が必要にならないよう、健康づくりと介護予防の推進	医療や介護の連携、介護サービスの質の向上に向けた事業者等への支援	低所得者への対応策	介護サービス利用にかかる相談や苦情解決への対応	介護保険制度の普及啓発
全体		1,856	45.9	34.2	27.5	20.3	19.8	18.2	14.5	7.8	4.6
要介護度	要支援1	497	45.9	30.6	20.7	16.3	29.8	12.7	12.7	8.2	4.8
	要支援2	215	49.3	34.0	24.7	16.3	22.3	13.0	14.9	7.4	5.6
	要介護1	477	43.0	34.6	25.2	19.9	20.1	19.1	16.1	8.2	4.4
	要介護2	216	44.4	36.1	32.4	21.3	12.5	19.0	13.4	5.6	3.7
	要介護3	185	42.7	40.0	40.5	29.7	9.7	28.1	13.0	5.9	5.9
	要介護4	190	48.4	34.7	31.6	26.3	10.5	23.7	16.8	8.4	4.2
	要介護5	76	59.2	34.2	38.2	19.7	13.2	22.4	15.8	13.2	1.3
		回答者数 (n)	その他	特になし	無回答						
全体		1,856	2.6	6.0	10.5						
要介護度	要支援1	497	2.2	7.8	11.1						
	要支援2	215	1.9	2.8	15.8						
	要介護1	477	2.7	6.5	10.1						
	要介護2	216	1.9	6.9	11.1						
	要介護3	185	1.6	4.9	8.1						
	要介護4	190	4.7	4.2	7.9						
	要介護5	76	5.3	3.9	3.9						

11. 主な介護者について

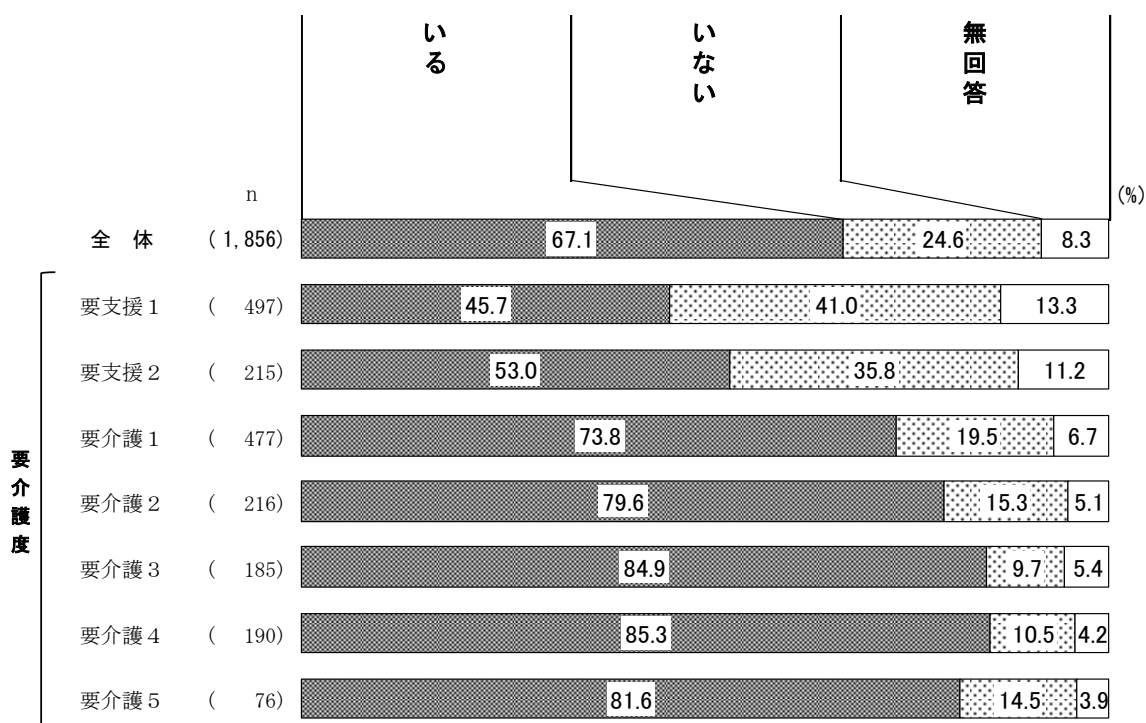
(1) 介護者の有無

問 31 ヘルパーやケアマネジャーを除き、あなたを介護している方はいらっしゃいますか。
(○は1つ)

ヘルパーやケアマネジャーを除いた介護者の有無については、「いる」が67.1%、「いない」が24.6%となっています。

要介護度別で見ると、「いる」の割合は【要支援1】と【要支援2】が4～5割台、【要介護1】と【要介護2】が7割台、【要介護3】～【要介護5】が8割台となっています。

図表3-11-1 介護者の有無/要介護度別



※介護者が「いない」、無回答の人(610人)はこの設問で終了。

世帯構成別で見ると、「いる」の割合は【高齢者のみの世帯の高齢者】と【その他の高齢者】は7割台となっていますが、【独居高齢者】(44.3%)は4割台と低くなっています。

図表3-11-2 介護者の有無/世帯構成別

		回答者数 (n)	(%)		
			いる	いない	無回答
全体		1,856	67.1	24.6	8.3
世帯構成	独居高齢者	540	44.3	44.8	10.9
	高齢者のみの世帯の高齢者	627	76.2	17.9	5.9
	その他の高齢者	610	79.8	14.4	5.7

(2) 主な介護者の性別・年齢

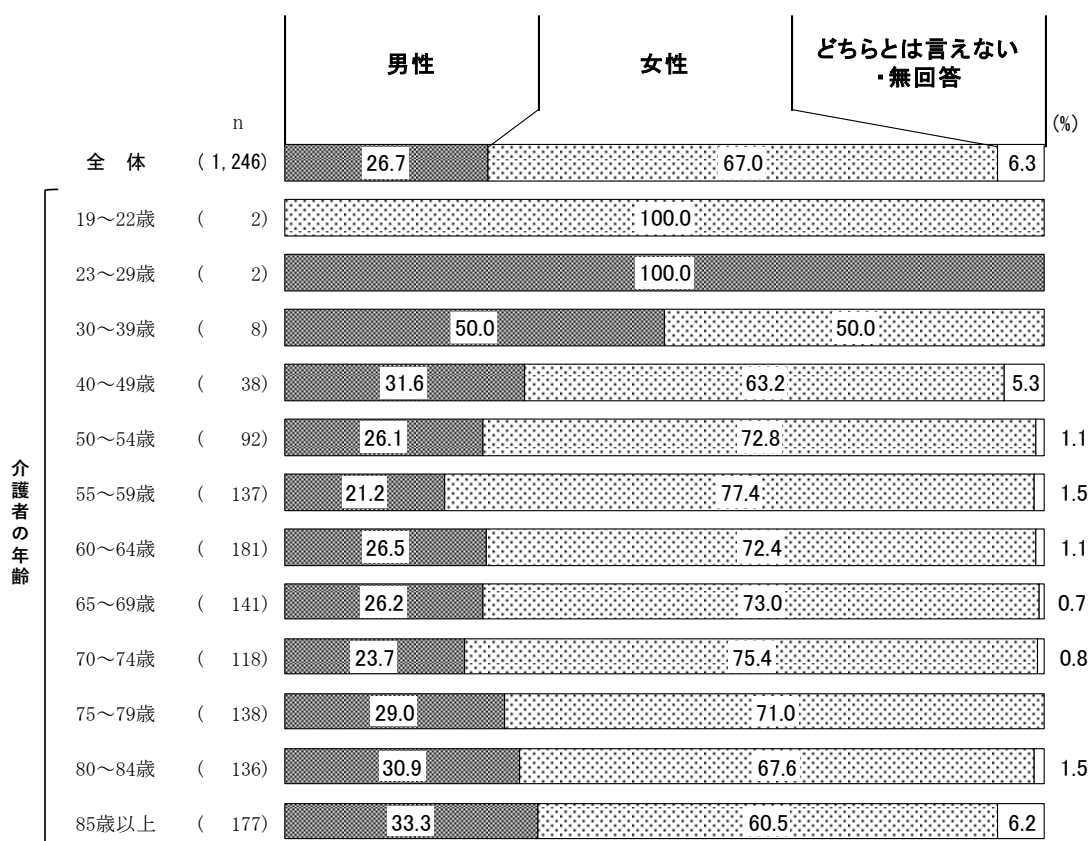
- 問 32 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)
 問 33 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

図表3-11-3 主な介護者の性別・年齢

(上段:人数、下段:構成比)

	全体	男性	女性	どちらとも言えない	無回答
18歳未満	-	-	-	-	-
19～22歳	2 100.0%	-	2 100.0%	-	-
23～29歳	2 100.0%	2 100.0%	-	-	-
30～39歳	8 100.0%	4 50.0%	4 50.0%	-	-
40～49歳	38 100.0%	12 31.6%	24 63.2%	-	2 5.3%
50～54歳	92 100.0%	24 26.1%	67 72.8%	1 1.1%	-
55～59歳	137 100.0%	29 21.2%	106 77.4%	2 1.5%	-
60～64歳	181 100.0%	48 26.5%	131 72.4%	-	2 1.1%
65～69歳	141 100.0%	37 26.2%	103 73.0%	-	1 0.7%
70～74歳	118 100.0%	28 23.7%	89 75.4%	-	1 0.8%
75～79歳	138 100.0%	40 29.0%	98 71.0%	-	-
80～84歳	136 100.0%	42 30.9%	92 67.6%	-	2 1.5%
85歳以上	177 100.0%	59 33.3%	107 60.5%	-	11 6.2%
無回答	76 100.0%	8 10.5%	12 15.8%	1 1.3%	55 72.4%
全体	1,246 100.0%	333 26.7%	835 67.0%	4 0.3%	74 5.9%

図表3-11-4 主な介護者の性別／主な介護者の年齢別



図表3-11-5 要介護度／主な介護者の年齢別

(上段:人数、下段:構成比)

	全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
18歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-
19～22歳	2 100.0%	2 100.0%	-	-	-	-	-	-
23～29歳	2 100.0%	-	-	1 50.0%	1 50.0%	-	-	-
30～39歳	8 100.0%	-	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	-
40～49歳	38 100.0%	8 21.1%	2 5.3%	15 39.5%	5 13.2%	2 5.3%	4 10.5%	2 5.3%
50～54歳	92 100.0%	11 12.0%	13 14.1%	26 28.3%	12 13.0%	9 9.8%	18 19.6%	3 3.3%
55～59歳	137 100.0%	22 16.1%	15 10.9%	39 28.5%	21 15.3%	14 10.2%	22 16.1%	4 2.9%
60～64歳	181 100.0%	21 11.6%	12 6.6%	52 28.7%	26 14.4%	32 17.7%	27 14.9%	11 6.1%
65～69歳	141 100.0%	18 12.8%	5 3.5%	42 29.8%	20 14.2%	25 17.7%	25 17.7%	6 4.3%
70～74歳	118 100.0%	11 9.3%	6 5.1%	29 24.6%	23 19.5%	20 16.9%	17 14.4%	12 10.2%
75～79歳	138 100.0%	26 18.8%	9 6.5%	42 30.4%	19 13.8%	19 13.8%	18 13.0%	5 3.6%
80～84歳	136 100.0%	23 16.9%	17 12.5%	41 30.1%	17 12.5%	14 10.3%	17 12.5%	7 5.1%
85歳以上	177 100.0%	57 32.2%	18 10.2%	44 24.9%	21 11.9%	18 10.2%	9 5.1%	10 5.6%
無回答	76 100.0%	28 36.8%	14 18.4%	20 26.3%	5 6.6%	3 3.9%	4 5.3%	2 2.6%
全体	1,246 100.0%	227 18.2%	114 9.1%	352 28.3%	172 13.8%	157 12.6%	162 13.0%	62 5.0%

図表3-11-6 対象者の年齢／主な介護者の年齢別

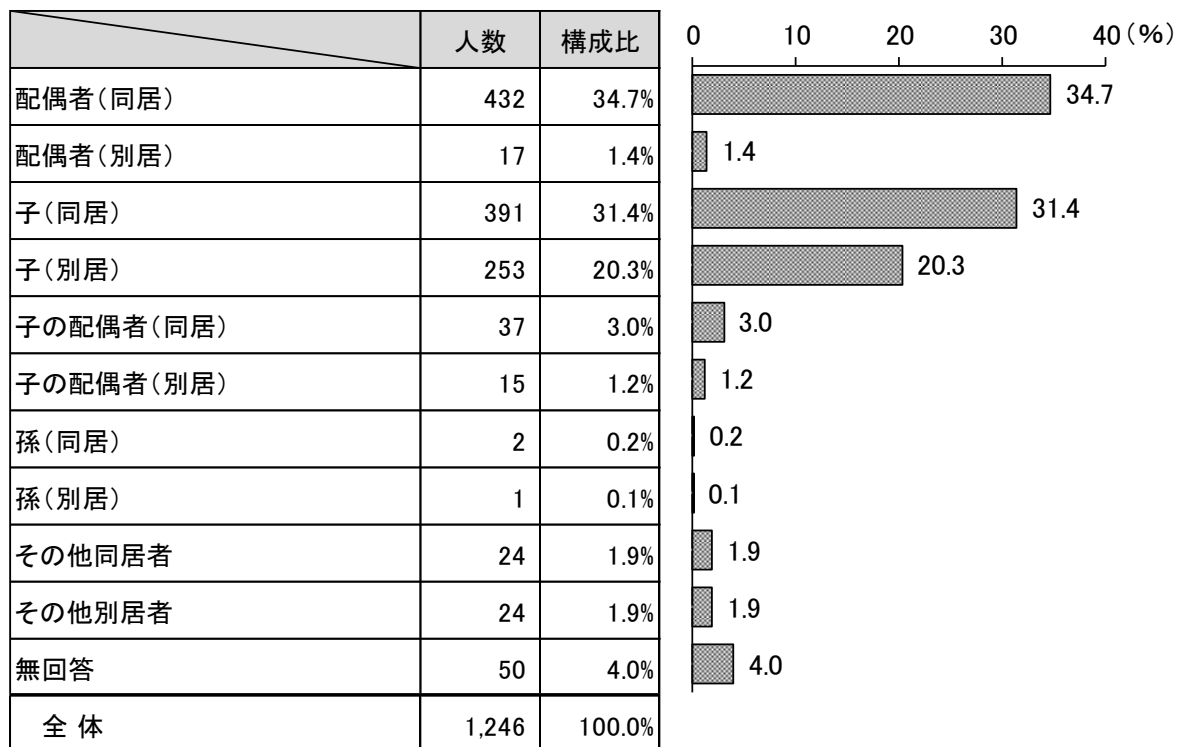
(上段:人数、下段:構成比)

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上
18歳未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19～22歳	2 100.0%	—	—	—	—	—	2 100.0%	—	—
23～29歳	2 100.0%	—	—	—	—	1 50.0%	1 50.0%	—	—
30～39歳	8 100.0%	1 12.5%	4 50.0%	1 12.5%	—	1 12.5%	1 12.5%	—	—
40～49歳	38 100.0%	—	8 21.1%	8 21.1%	13 34.2%	7 18.4%	1 2.6%	1 2.6%	—
50～54歳	92 100.0%	—	—	14 15.2%	36 39.1%	26 28.3%	14 15.2%	2 2.2%	—
55～59歳	137 100.0%	—	1 0.7%	1 0.7%	32 23.4%	65 47.4%	28 20.4%	10 7.3%	—
60～64歳	181 100.0%	6 3.3%	3 1.7%	6 3.3%	4 2.2%	57 31.5%	88 48.6%	17 9.4%	—
65～69歳	141 100.0%	9 6.4%	8 5.7%	3 2.1%	3 2.1%	11 7.8%	67 47.5%	38 27.0%	2 1.4%
70～74歳	118 100.0%	3 2.5%	23 19.5%	25 21.2%	10 8.5%	3 2.5%	14 11.9%	32 27.1%	8 6.8%
75～79歳	138 100.0%	2 1.4%	8 5.8%	58 42.0%	37 26.8%	14 10.1%	3 2.2%	11 8.0%	4 2.9%
80～84歳	136 100.0%	1 0.7%	4 2.9%	16 11.8%	67 49.3%	34 25.0%	13 9.6%	1 0.7%	—
85歳以上	177 100.0%	1 0.6%	—	—	15 8.5%	82 46.3%	56 31.6%	17 9.6%	3 1.7%
無回答	76 100.0%	1 1.3%	4 5.3%	7 9.2%	16 21.1%	20 26.3%	24 31.6%	4 5.3%	—
全体	1,246 100.0%	24 1.9%	63 5.1%	139 11.2%	233 18.7%	321 25.8%	312 25.0%	133 10.7%	17 1.4%

(3) 対象者との続柄

問 34 あて名のご本人からみた続柄をお答えください。(○は1つ)
 ※ 配偶者には事実婚の相手や同性パートナーを含みます。

図表 3-11-7 対象者との続柄



図表 3-11-8 対象者の年齢／対象者との続柄別

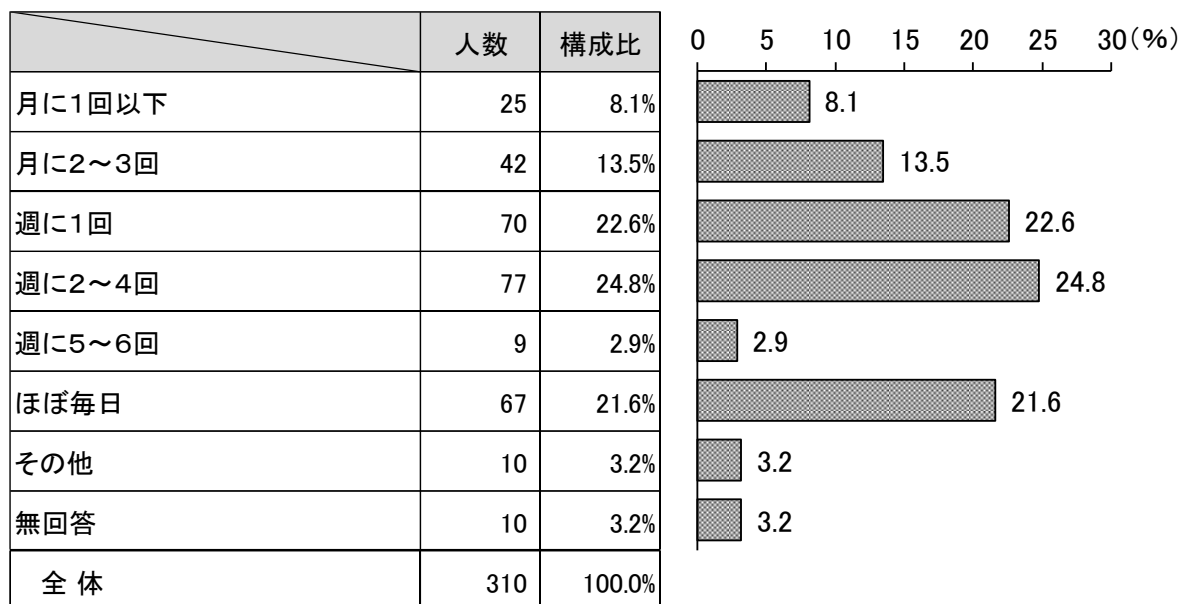
(上段:人数、下段:構成比)

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上
配偶者(同居)	432	16	39	98	108	104	51	11	2
	100.0%	3.7%	9.0%	22.7%	25.0%	24.1%	11.8%	2.5%	0.5%
配偶者(別居)	17	1	4	4	2	4	1	1	-
	100.0%	5.9%	23.5%	23.5%	11.8%	23.5%	5.9%	5.9%	-
子(同居)	391	-	11	18	52	114	120	67	9
	100.0%	-	2.8%	4.6%	13.3%	29.2%	30.7%	17.1%	2.3%
子(別居)	253	3	1	10	44	60	96	34	5
	100.0%	1.2%	0.4%	4.0%	17.4%	23.7%	37.9%	13.4%	2.0%
子の配偶者(同居)	37	-	-	-	5	7	18	6	1
	100.0%	-	-	-	13.5%	18.9%	48.6%	16.2%	2.7%
子の配偶者(別居)	15	-	-	-	2	5	5	3	-
	100.0%	-	-	-	13.3%	33.3%	33.3%	20.0%	-
孫(同居)	2	-	-	-	-	-	1	1	-
	100.0%	-	-	-	-	-	50.0%	50.0%	-
孫(別居)	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	100.0%	-	-	-	100.0%	-	-	-	-
その他同居者	24	2	4	1	6	3	5	3	-
	100.0%	8.3%	16.7%	4.2%	25.0%	12.5%	20.8%	12.5%	-
その他別居者	24	1	2	3	4	9	2	3	-
	100.0%	4.2%	8.3%	12.5%	16.7%	37.5%	8.3%	12.5%	-
無回答	50	1	2	5	9	15	13	4	-
	100.0%	2.0%	4.0%	10.0%	18.0%	30.0%	26.0%	8.0%	-
全体	1,246	24	63	139	233	321	312	133	17
	100.0%	1.9%	5.1%	11.2%	18.7%	25.8%	25.0%	10.7%	1.4%

(4) 介護に通っている頻度（別居の方のみ）

問 35 あて名のご本人のところにはどのくらいの頻度に通っていますか。（○は1つ）

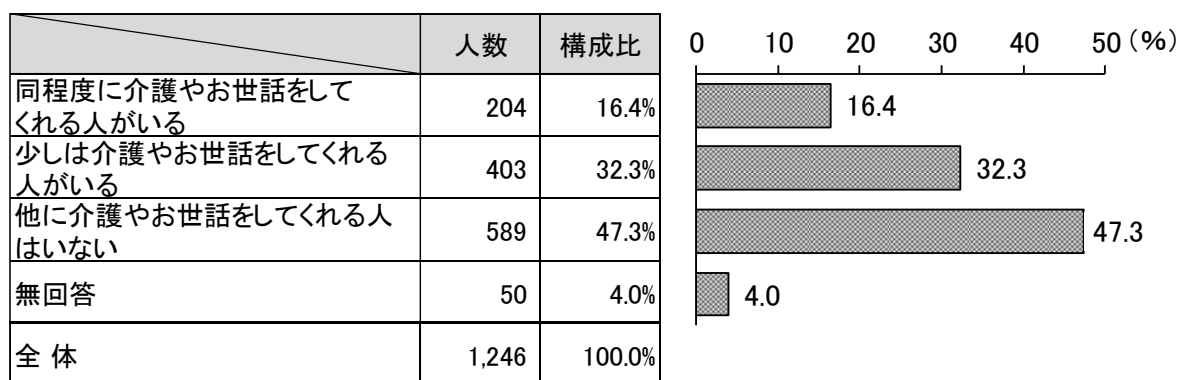
図表 3-11-9 介護に通っている頻度



(5) 主な介護者以外の介護者の有無

問 36 主に介護をしている方以外に、介護やお世話をする方（ヘルパーを除く）はいますか。（○は1つ）

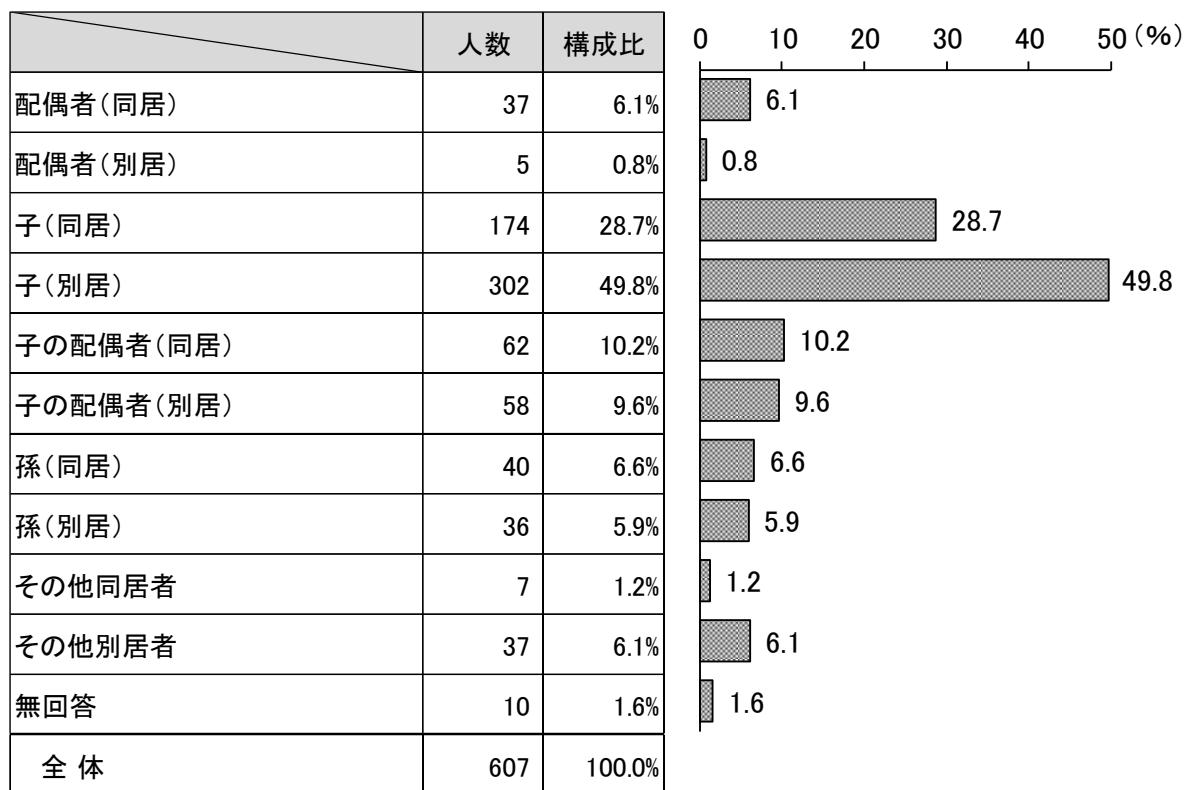
図表 3-11-10 主な介護者以外の介護者の有無



(6) 主な介護者以外の介護者の対象者との続柄

問 36-① その方のあて名のご本人からみた続柄をお答えください。(○はいくつでも)
 ※ 配偶者には事実婚の相手や同性パートナーを含みます。

図表 3-11-11 主な介護者以外の介護者の対象者との続柄



図表 3-11-12 対象者の年齢／主な介護者以外の介護者の対象者との続柄別

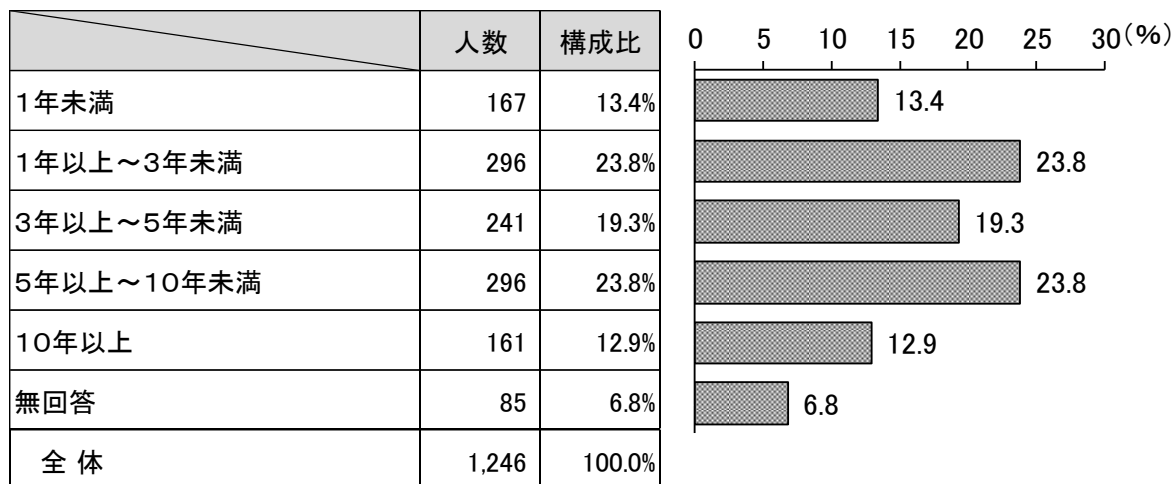
(上段:人数、下段:構成比)

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上
配偶者(同居)	37 100.0%	— —	3 8.1%	4 10.8%	11 29.7%	13 35.1%	5 13.5%	— —	1 2.7%
配偶者(別居)	5 100.0%	— —	— —	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	— —	1 20.0%	— —
子(同居)	174 100.0%	3 1.7%	6 3.4%	22 12.6%	40 23.0%	41 23.6%	45 25.9%	15 8.6%	1 0.6%
子(別居)	302 100.0%	5 1.7%	11 3.6%	30 9.9%	53 17.5%	75 24.8%	95 31.5%	29 9.6%	2 0.7%
子の配偶者(同居)	62 100.0%	— —	1 1.6%	3 4.8%	13 21.0%	17 27.4%	19 30.6%	9 14.5%	— —
子の配偶者(別居)	58 100.0%	— —	2 3.4%	3 5.2%	9 15.5%	22 37.9%	14 24.1%	7 12.1%	— —
孫(同居)	40 100.0%	— —	2 5.0%	2 5.0%	6 15.0%	14 35.0%	11 27.5%	5 12.5%	— —
孫(別居)	36 100.0%	— —	— —	1 2.8%	5 13.9%	9 25.0%	14 38.9%	5 13.9%	— —
その他同居者	7 100.0%	1 14.3%	— —	— —	3 42.9%	1 14.3%	2 28.6%	— —	— —
その他別居者	37 100.0%	2 5.4%	4 10.8%	3 8.1%	8 21.6%	10 27.0%	8 21.6%	2 5.4%	— —
無回答	10 100.0%	— —	— —	— —	1 10.0%	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%
全体	607 100.0%	10 1.6%	25 4.1%	55 9.1%	111 18.3%	159 26.2%	172 28.3%	67 11.0%	5 0.8%

(7) 介護の年数

問 37 介護の年数をお答えください。(○は1つ)

図表3-11-13 介護の年数

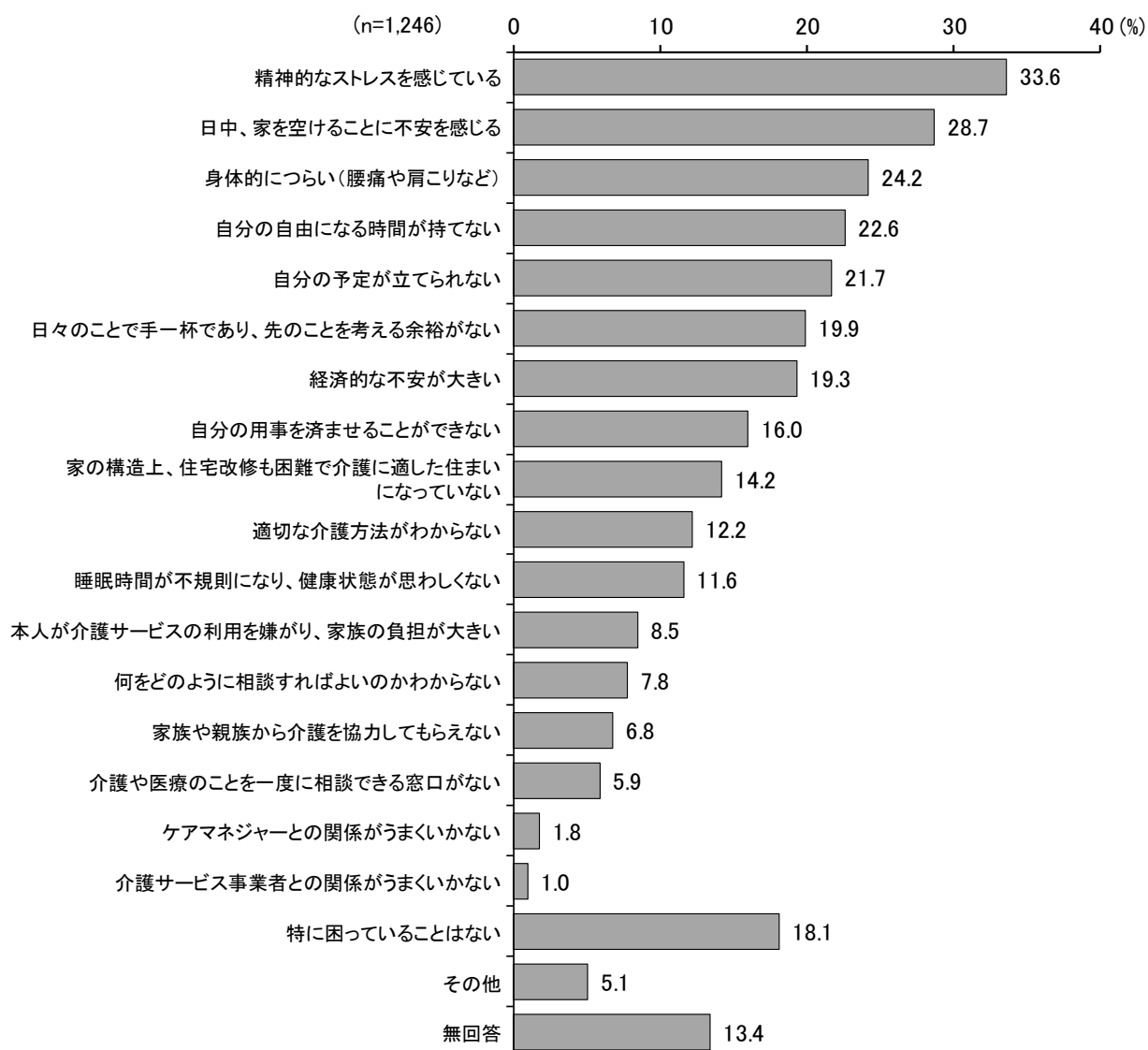


(8) 主な介護者が不安に感じること

問 38 現在行っている介護等で、不安に感じることはなんですか。(〇はいくつでも)

主な介護者が不安に感じることについては、「精神的なストレスを感じている」が33.6%で最も高く、次いで「日中、家を空けることに不安を感じる」(28.7%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(24.2%)と続いています。

図表 3-11-14 主な介護者が不安に感じること



要介護度別で見ると、【要介護1】と【要介護3】～【要介護5】は「精神的なストレスを感じている」が最も高く、【要介護2】は「日中、家を空けることに不安を感じる」が最も高くなっています。また、【要支援1】と【要支援2】は「特に困っていることはない」が最も高くなっています。

図表3-11-15 主な介護者が不安に感じること／要介護度別

		回答者数 (n)	精神的な ストレス を感じて いる	日中、家 を空ける ことに不 安を感じ る	身体的に つらい (腰痛や 肩こりな ど)	自分の自 由になる 時間が持 てない	自分の予 定が立て られない	日々のこ とで手一 杯であ り、先の ことを考 える余裕 がない	経済的な 不安が大 きい	自分の用 事を済ま せること ができな い	家の構造 上、住宅 改修も困 難で介護 に適した 住まいに なってい ない	(%) 適切な介 護方法が わからない
全体		1,246	33.6	28.7	24.2	22.6	21.7	19.9	19.3	16.0	14.2	12.2
要 介 護 度	要支援1	227	15.9	13.2	14.5	7.9	11.0	7.0	10.6	6.2	8.8	7.0
	要支援2	114	19.3	14.9	15.8	12.3	10.5	7.9	11.4	7.9	12.3	14.9
	要介護1	352	36.9	30.1	20.5	23.3	22.2	20.2	19.9	16.8	16.5	15.1
	要介護2	172	38.4	41.9	27.3	26.7	22.7	22.1	20.9	17.4	11.6	13.4
	要介護3	157	49.0	37.6	33.8	31.2	27.4	29.3	26.8	22.3	20.4	13.4
	要介護4	162	36.4	30.9	35.8	31.5	31.5	32.1	25.3	24.1	14.2	10.5
要介護5	62	46.8	37.1	32.3	35.5	35.5	25.8	22.6	21.0	16.1	8.1	
		回答者数 (n)	睡眠時間 が不規則 になり、 健康状態 が思わし くない	本人が介 護サービ スの利用 を嫌が り、家族 の負担が 大きい	何をどの ように相 談すれば よいのか わからない	家族や親 族から介 護を協力 してもら えない	介護や医 療のこと を一度に 相談でき る窓口が ない	ケアマネ ジャーと の関係が うまくい かない	介護サー ビス事業 者との関 係がうま くいかな い	特に困っ ているこ とはない	その他	無回答
全体		1,246	11.6	8.5	7.8	6.8	5.9	1.8	1.0	18.1	5.1	13.4
要 介 護 度	要支援1	227	2.2	4.4	6.2	4.0	3.5	0.4	0.9	25.6	2.2	23.3
	要支援2	114	2.6	8.8	9.6	1.8	5.3	-	-	23.7	5.3	22.8
	要介護1	352	9.1	11.6	11.4	6.8	6.5	1.4	0.9	17.6	4.8	11.6
	要介護2	172	11.0	11.0	5.8	5.8	6.4	3.5	1.7	11.6	5.8	8.7
	要介護3	157	17.8	7.0	7.0	12.1	5.1	3.2	0.6	12.7	7.6	7.0
	要介護4	162	24.1	6.8	5.6	5.6	7.4	2.5	1.2	19.1	7.4	8.0
要介護5	62	29.0	6.5	3.2	19.4	9.7	1.6	3.2	11.3	3.2	12.9	

第3章 在宅介護高齢者実態調査

介護者の年齢別で見ると、【40～49歳】～【80～84歳】は「精神的なストレスを感じている」が最も高く（【40～49歳】は「日々のことで手一杯であり、先のことを考える余裕がない」と同率）、【55～59歳】と【60～64歳】では4割を超えています。また、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」の割合は80歳以上で3割を超えています。

図表3-11-16 主な介護者が不安に感じること／介護者の年齢別

		回答者数 (n)	精神的な ストレス を感じて いる	日中、家 を空ける ことに不 安を感じ る	身体的に つらい (腰痛や 肩こりな ど)	自分の自 由になる 時間が持 てない	自分の予 定が立て られない	日々のこ とで手一 杯であ り、先の ことを考 える余裕 がない	経済的な 不安が大 きい	自分の用 事を済ま せること ができな い	家の構造 上、住宅 改修も困 難で介護 に適した 住まいに なってい ない	適切な介 護方法が わからない
全体		1,246	33.6	28.7	24.2	22.6	21.7	19.9	19.3	16.0	14.2	12.2
介護者の 年齢	19～22歳	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	23～29歳	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-
	30～39歳	8	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	-	12.5	25.0	-	12.5
	40～49歳	38	28.9	26.3	13.2	13.2	18.4	28.9	26.3	15.8	26.3	21.1
	50～54歳	92	31.5	30.4	14.1	27.2	23.9	25.0	29.3	18.5	14.1	16.3
	55～59歳	137	40.9	32.8	24.1	27.7	26.3	25.5	24.1	19.7	16.8	14.6
	60～64歳	181	43.1	34.3	24.9	33.7	35.9	24.9	21.5	24.3	15.5	14.4
	65～69歳	141	39.7	34.0	26.2	26.2	28.4	19.9	16.3	17.7	10.6	11.3
	70～74歳	118	38.1	34.7	20.3	26.3	20.3	17.8	18.6	16.1	12.7	5.1
	75～79歳	138	37.0	26.1	23.9	21.7	15.2	21.0	15.2	13.8	15.2	10.9
	80～84歳	136	32.4	30.1	30.9	24.3	19.1	16.2	21.3	14.0	18.4	11.8
85歳以上	177	22.6	22.6	30.5	9.0	13.6	16.9	13.6	9.6	10.7	13.0	

		回答者数 (n)	睡眠時間 が不規則 になり、 健康状態 が思わし くない	本人が介 護サービ スの利用 を嫌がり、 家族の 負担が大 きい	何をどの ように相 談すれば よいのか わからな い	家族や親 族から介 護を協力 してもら えない	介護や医 療のこと を一度に 相談でき る窓口が ない	ケアマネ ジャーと の関係が うまくい かない	介護サー ビス事業 者との関 係がうま いかない	特に困っ ているこ とはない	その他	無回答
全体		1,246	11.6	8.5	7.8	6.8	5.9	1.8	1.0	18.1	5.1	13.4
介護者の 年齢	19～22歳	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	23～29歳	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-
	30～39歳	8	-	12.5	12.5	-	-	-	-	50.0	25.0	12.5
	40～49歳	38	2.6	5.3	15.8	7.9	10.5	-	2.6	15.8	-	7.9
	50～54歳	92	17.4	10.9	7.6	9.8	4.3	2.2	1.1	16.3	7.6	15.2
	55～59歳	137	11.7	14.6	8.0	10.9	7.3	2.2	0.7	15.3	10.2	5.8
	60～64歳	181	14.9	9.9	9.9	8.3	8.8	2.8	1.7	16.0	8.3	5.0
	65～69歳	141	12.8	7.8	6.4	6.4	7.1	3.5	0.7	24.1	5.7	3.5
	70～74歳	118	8.5	13.6	5.9	8.5	4.2	-	2.5	19.5	4.2	8.5
	75～79歳	138	13.8	5.8	5.1	5.1	3.6	0.7	1.4	19.6	3.6	16.7
	80～84歳	136	16.2	9.6	5.9	5.1	4.4	0.7	0.7	14.0	3.7	18.4
85歳以上	177	6.8	3.4	8.5	4.0	5.1	1.7	-	18.6	1.7	22.0	

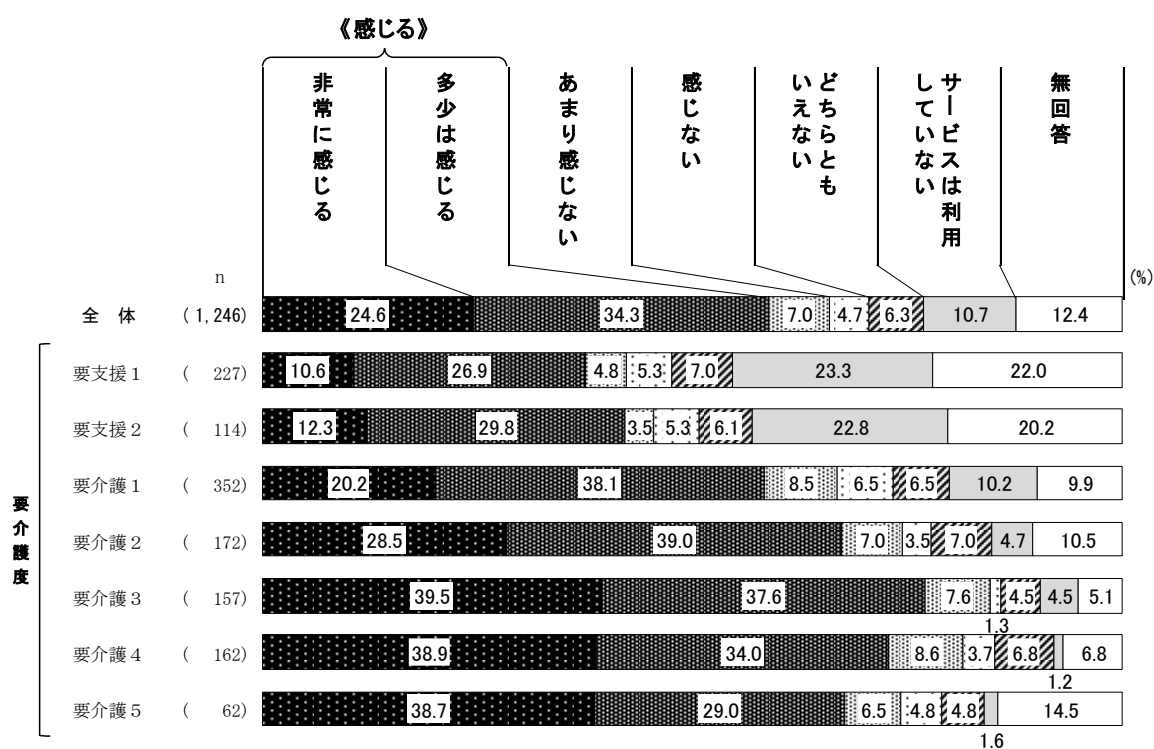
(9) 介護保険サービス利用による負担軽減

問 39 介護保険サービスを利用して、介護にかかる負担が軽減されたと感じることはありますか。(〇は1つ)

介護保険サービス利用による負担軽減については、「多少は感じる」が34.3%で最も高く、「非常に感じる」(24.6%)と合計した《感じる》の割合は59.0%となっています。

要介護度別で見ると、《感じる》の割合は、【要支援1】と【要支援2】が3～4割台で他の層と比べて低く、【要介護3】と【要介護4】が7割台で他の層と比べて高くなっています。

図表3-11-17 介護保険サービス利用による負担軽減／要介護度別

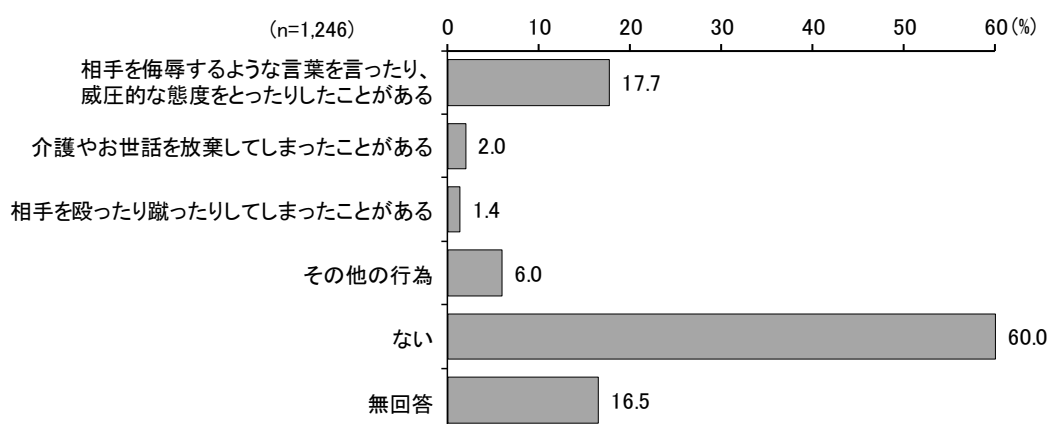


(10) 介護を原因とする対象者との衝突の有無

問40 最近6か月の間に、介護が原因であて名のご本人と衝突したことはありますか。
(○はいくつでも)

最近6か月間の介護を原因とする対象者との衝突の有無については、「ない」が60.0%で最も高く、次いで「相手を侮辱するような言葉を言ったり、威圧的な態度をとったりしたことがある」(17.7%)、「その他の行為」(6.0%)と続いています。

図表3-11-18 介護を原因とする対象者との衝突の有無



問37の介護の年数別で見ると、「相手を侮辱するような言葉を言ったり、威圧的な態度をとったりしたことがある」は介護の年数が5年以上の人で2割を超え、その他の層と比べて高くなっています。

図表3-11-19 介護を原因とする対象者との衝突の有無／介護の年数別

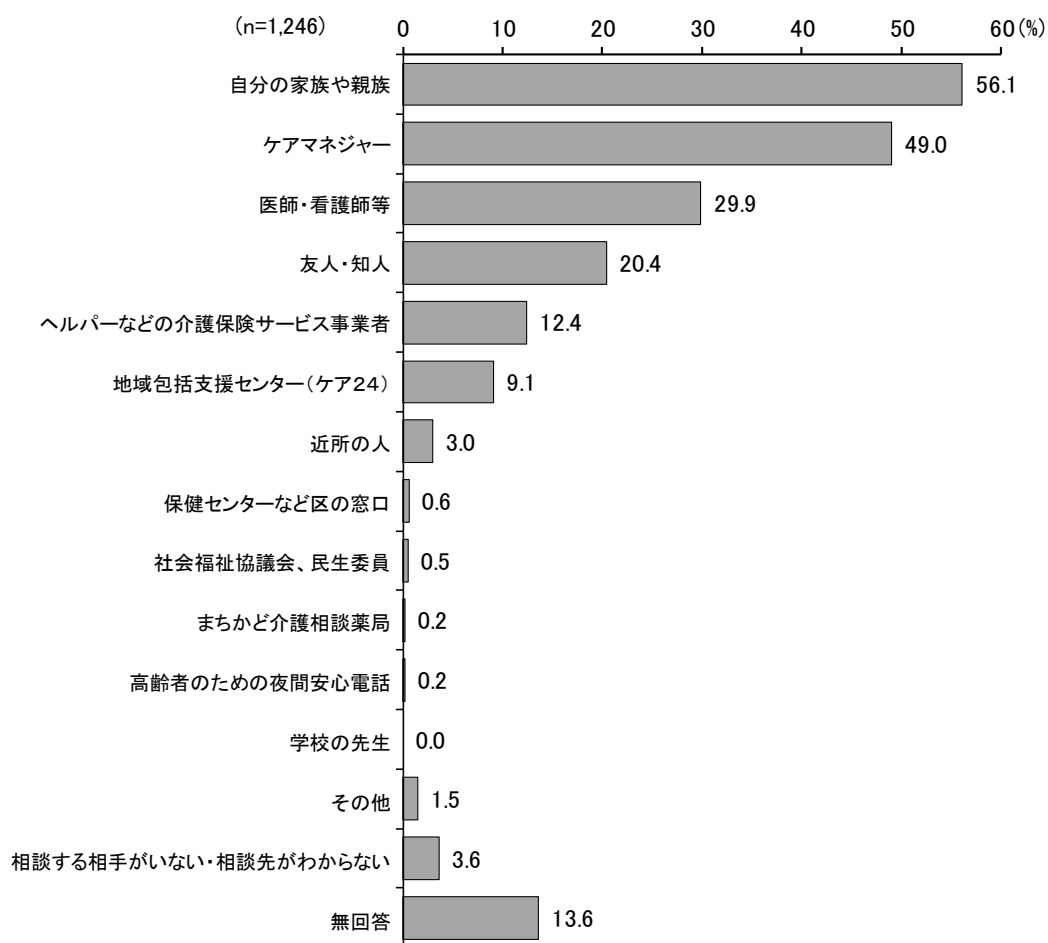
		回答者数 (n)	相手を侮辱するような言葉を言ったり、威圧的な態度をとったりしたことがある	介護やお世話を放棄してしまったりしたことがある	相手を殴ったり蹴ったりしてしまったりしたことがある	その他の行為	ない	無回答
全体		1,246	17.7	2.0	1.4	6.0	60.0	16.5
介護の年数	1年未満	167	10.2	1.2	-	3.6	69.5	16.8
	1年以上～3年未満	296	18.2	2.0	-	6.1	59.8	16.9
	3年以上～5年未満	241	16.2	2.5	2.5	7.5	66.0	9.5
	5年以上～10年未満	296	23.6	2.4	2.4	7.4	58.4	10.1
	10年以上	161	22.4	2.5	1.9	6.8	59.0	13.0

(11) 主な介護者の相談先

問 41 介護をしていて困ったり不安に思ったりしたとき、どなた（どこ）に相談していますか。（〇はいくつでも）

困った時等の相談先については、「自分の家族や親族」が56.1%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」（49.0%）、「医師・看護師等」（29.9%）、「友人・知人」（20.4%）と続いています。

図表 3-11-20 主な介護者の相談先



第3章 在宅介護高齢者実態調査

要介護度別で見ると、「ケアマネジャー」は【要支援1】と【要支援2】が2割台と他の層と比べて低く、【要介護1】～【要介護5】では5割を超えています。

図表3-11-21 主な介護者の相談先／要介護度別

		回答者数 (n)	自分の家族や親族	ケアマネジャー	医師・看護師等	友人・知人	ヘルパーなどの介護保険サービス事業者	地域包括支援センター(ケア24)	近所の人	保健センターなど区の窓口	社会福祉協議会、民生委員	まちかど介護相談薬局
全体		1,246	56.1	49.0	29.9	20.4	12.4	9.1	3.0	0.6	0.5	0.2
要介護度	要支援1	227	44.5	22.0	18.5	14.5	3.5	15.4	2.2	0.4	0.4	-
	要支援2	114	53.5	24.6	23.7	21.1	5.3	15.8	3.5	0.9	0.9	-
	要介護1	352	59.9	53.7	26.7	19.3	9.9	6.8	4.3	0.9	0.6	0.6
	要介護2	172	60.5	59.3	32.6	25.0	19.8	7.0	2.3	-	0.6	-
	要介護3	157	64.3	66.9	38.9	24.8	17.8	7.0	4.5	-	-	-
	要介護4	162	53.1	62.3	41.4	20.4	16.7	7.4	0.6	1.2	0.6	-
	要介護5	62	56.5	56.5	40.3	22.6	25.8	3.2	1.6	-	-	-

		回答者数 (n)	高齢者のための夜間安心電話	学校の先生	その他	相談する相手がいない・相談先がわからない	無回答
全体		1,246	0.2	-	1.5	3.6	13.6
要介護度	要支援1	227	-	-	1.3	4.0	28.2
	要支援2	114	-	-	-	6.1	18.4
	要介護1	352	0.6	-	1.7	3.7	10.8
	要介護2	172	-	-	1.7	2.9	9.9
	要介護3	157	-	-	1.9	2.5	7.0
	要介護4	162	-	-	1.2	3.7	7.4
	要介護5	62	1.6	-	3.2	1.6	9.7

介護者の年齢別で見ると、「自分の家族や親族」がすべての年齢層で5割以上となっています。「ケアマネジャー」は【55～59歳】～【65～69歳】が5割台後半～約6割で他の層と比べて高くなっています。

図表3-11-22 主な介護者の相談先／介護者の年齢別

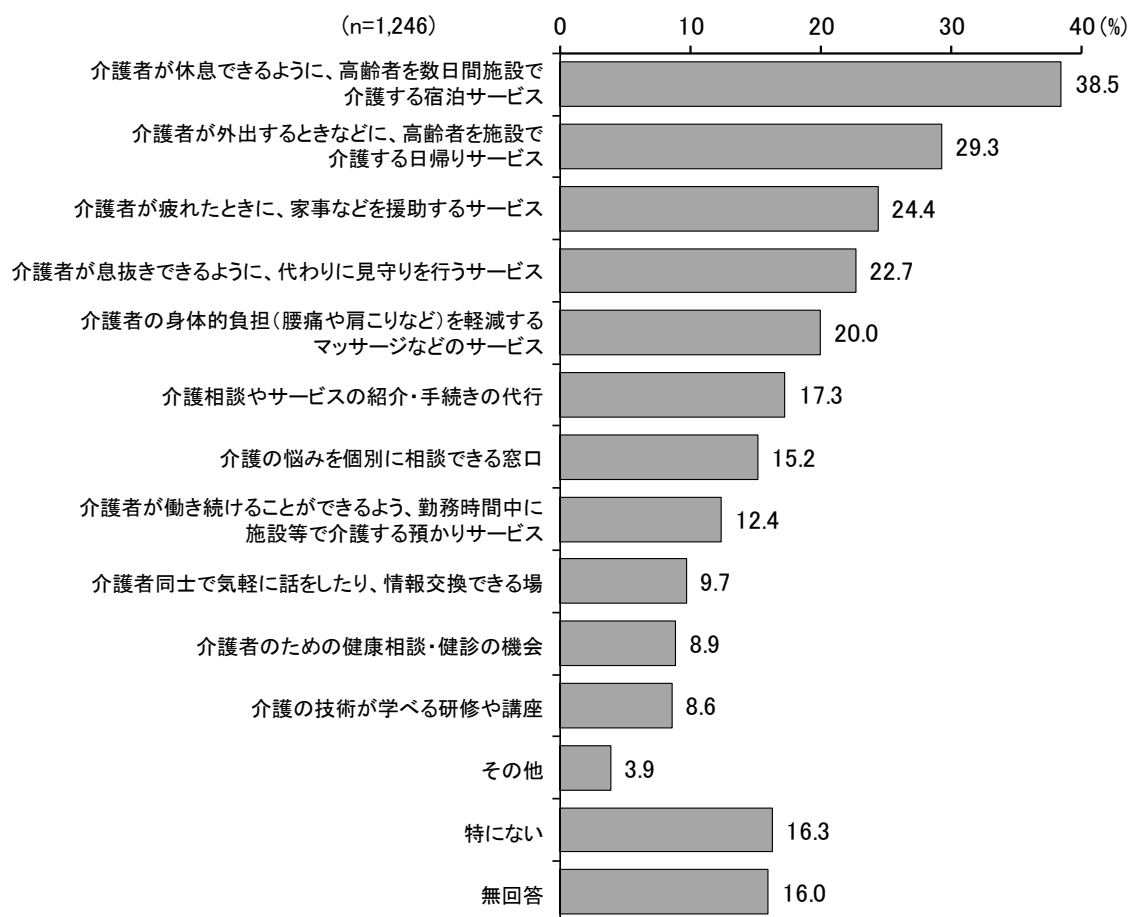
		(%)										
		回答者数 (n)	自分の家族や親族	ケアマネジャー	医師・看護師等	友人・知人	ヘルパーなどの介護保険サービス事業者	地域包括支援センター(ケア24)	近所の人	保健センターなどの窓口	社会福祉協議会、民生委員	まちかど介護相談薬局
全体		1,246	56.1	49.0	29.9	20.4	12.4	9.1	3.0	0.6	0.5	0.2
介護者の年齢	19～22歳	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	23～29歳	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	8	62.5	37.5	37.5	12.5	12.5	-	-	-	-	-
	40～49歳	38	65.8	42.1	28.9	15.8	13.2	7.9	-	2.6	-	-
	50～54歳	92	54.3	51.1	18.5	18.5	12.0	8.7	1.1	1.1	1.1	-
	55～59歳	137	59.9	61.3	36.5	30.7	16.8	10.2	2.2	0.7	-	0.7
	60～64歳	181	58.6	56.4	32.6	26.5	17.7	10.5	2.8	0.6	-	-
	65～69歳	141	61.0	61.7	39.0	29.1	16.3	7.1	5.7	0.7	1.4	0.7
	70～74歳	118	61.0	54.2	36.4	20.3	8.5	8.5	3.4	-	-	-
	75～79歳	138	50.7	44.9	28.3	18.1	10.9	9.4	5.8	-	-	-
80～84歳	136	53.7	45.6	34.6	16.9	5.9	13.2	3.7	0.7	1.5	-	
85歳以上	177	52.0	37.3	20.3	7.9	11.3	6.8	0.6	-	0.6	-	
		回答者数 (n)	高齢者のための夜間安心電話	学校の先生	その他	相談する相手がいない・相談先がわからない	無回答					
全体		1,246	0.2	-	1.5	3.6	13.6					
介護者の年齢	19～22歳	2	-	-	-	-	50.0					
	23～29歳	2	-	-	-	-	50.0					
	30～39歳	8	-	-	-	-	12.5					
	40～49歳	38	-	-	-	-	5.3					
	50～54歳	92	-	-	2.2	9.8	8.7					
	55～59歳	137	0.7	-	2.2	3.6	4.4					
	60～64歳	181	-	-	2.2	5.0	7.2					
	65～69歳	141	-	-	0.7	1.4	3.5					
	70～74歳	118	0.8	-	1.7	1.7	9.3					
	75～79歳	138	-	-	2.2	1.4	18.1					
80～84歳	136	-	-	0.7	7.4	16.9						
85歳以上	177	0.6	-	1.7	3.4	26.0						

(12) 今後の在宅生活継続に必要な支援・サービス

問 42 今後の在宅生活を継続していく上で、介護者ご自身が必要だと思う支援やサービスについて、お考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

今後の在宅生活継続に必要な支援・サービスについては、「介護者が休息できるように、高齢者を数日間施設で介護する宿泊サービス」が38.5%で最も高く、次いで「介護者が外出するときなどに、高齢者を施設で介護する日帰りサービス」(29.3%)、「介護者が疲れたときに、家事などを援助するサービス」(24.4%)、「介護者が息抜きできるように、代わりに見守りを行うサービス」(22.7%)と続いています。

図表 3-11-23 今後の在宅生活継続に必要な支援・サービス



問37の介護の年数別で見ると、「介護者が休息できるように、高齢者を数日間施設で介護する宿泊サービス」は介護の年数が3年以上の人で4割を超えて高くなっています。また、「介護者が外出するときなどに、高齢者を施設で介護する日帰りサービス」も介護の年数が3年以上の人で3割を超えて高くなっています。

図表3-11-24 今後の在宅生活継続に必要な支援・サービス／介護の年数別

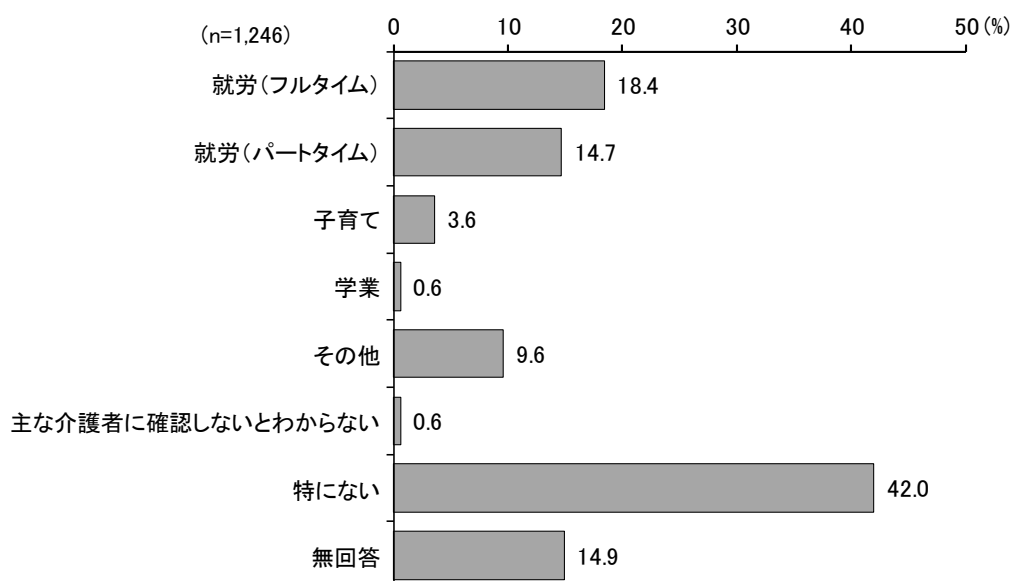
		回答者数 (n)	(%)									
			介護者が休息できるように、高齢者を数日間施設で介護する宿泊サービス	介護者が外出するときなどに、高齢者を施設で介護する日帰りサービス	介護者が疲れたときに、家事などを援助するサービス	介護者が息抜きできるように、代わりに見守りを行うサービス	介護者の身体的負担(腰痛や肩こりなど)を軽減するマッサージなどのサービス	介護相談やサービスの紹介・手続きの代行	介護の悩みを個別に相談できる窓口	介護者が働き続けることができるよう、勤務時間中に施設等で介護する預かりサービス	介護者同士で気軽に話したり、情報交換できる場	介護者のための健康相談・健診の機会
全体		1,246	38.5	29.3	24.4	22.7	20.0	17.3	15.2	12.4	9.7	8.9
介護の年数	1年未満	167	28.7	25.1	18.6	16.8	19.8	16.8	13.2	9.6	10.8	10.8
	1年以上～3年未満	296	36.1	28.0	21.3	22.3	15.2	17.9	12.5	11.8	10.1	5.1
	3年以上～5年未満	241	42.7	32.8	25.3	24.9	20.3	18.7	15.8	15.8	11.6	9.5
	5年以上～10年未満	296	47.6	35.1	29.4	26.7	23.6	20.3	20.9	14.5	10.8	11.1
	10年以上	161	43.5	30.4	34.8	28.0	28.0	15.5	16.1	13.0	6.2	13.0
		回答者数 (n)	介護の技術が学べる研修や講座	その他	特にない	無回答						
全体		1,246	8.6	3.9	16.3	16.0						
介護の年数	1年未満	167	9.0	3.6	21.6	12.6						
	1年以上～3年未満	296	8.1	2.7	18.9	16.9						
	3年以上～5年未満	241	8.3	4.1	16.2	10.4						
	5年以上～10年未満	296	11.1	4.7	13.5	9.8						
	10年以上	161	8.7	5.6	12.4	10.6						

(13) 介護や家事以外に行っていること

問 43 介護や家事以外に行っていることはありますか。(〇はいくつでも)

介護や家事以外に行っていることについては、「特にない」が42.0%で最も高く、次いで「就労(フルタイム)」(18.4%)、「就労(パートタイム)」(14.7%)と続いています。

図表3-11-25 介護や家事以外に行っていること



問33の介護者の年齢別で見ると、【30～39歳】～【60～64歳】の人は「就労(フルタイム)」が最も高く、65歳以上の人は「特にない」が最も高くなっています。

図表3-11-26 介護や家事以外に行っていること／介護者の年齢別

		回答者数 (n)	就労(フルタイム)	就労(パートタイム)	子育て	学業	その他	主な介護者に確認しないとわからない	特にない	無回答
全体		1,246	18.4	14.7	3.6	0.6	9.6	0.6	42.0	14.9
介護者の年齢	19～22歳	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	23～29歳	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	30～39歳	8	75.0	-	25.0	-	12.5	-	25.0	-
	40～49歳	38	50.0	10.5	15.8	-	2.6	-	23.7	10.5
	50～54歳	92	46.7	21.7	16.3	2.2	1.1	1.1	15.2	9.8
	55～59歳	137	41.6	21.9	7.3	0.7	10.9	0.7	20.4	2.2
	60～64歳	181	32.0	23.2	2.8	0.6	10.5	-	30.4	7.7
	65～69歳	141	12.1	27.0	1.4	1.4	19.9	-	36.9	4.3
	70～74歳	118	5.1	15.3	1.7	-	16.1	0.8	52.5	12.7
	75～79歳	138	4.3	6.5	0.7	-	10.1	1.4	60.9	15.9
	80～84歳	136	2.9	5.1	0.7	0.7	10.3	-	60.3	20.6
85歳以上	177	2.8	4.0	0.6	-	4.0	1.1	59.3	28.8	

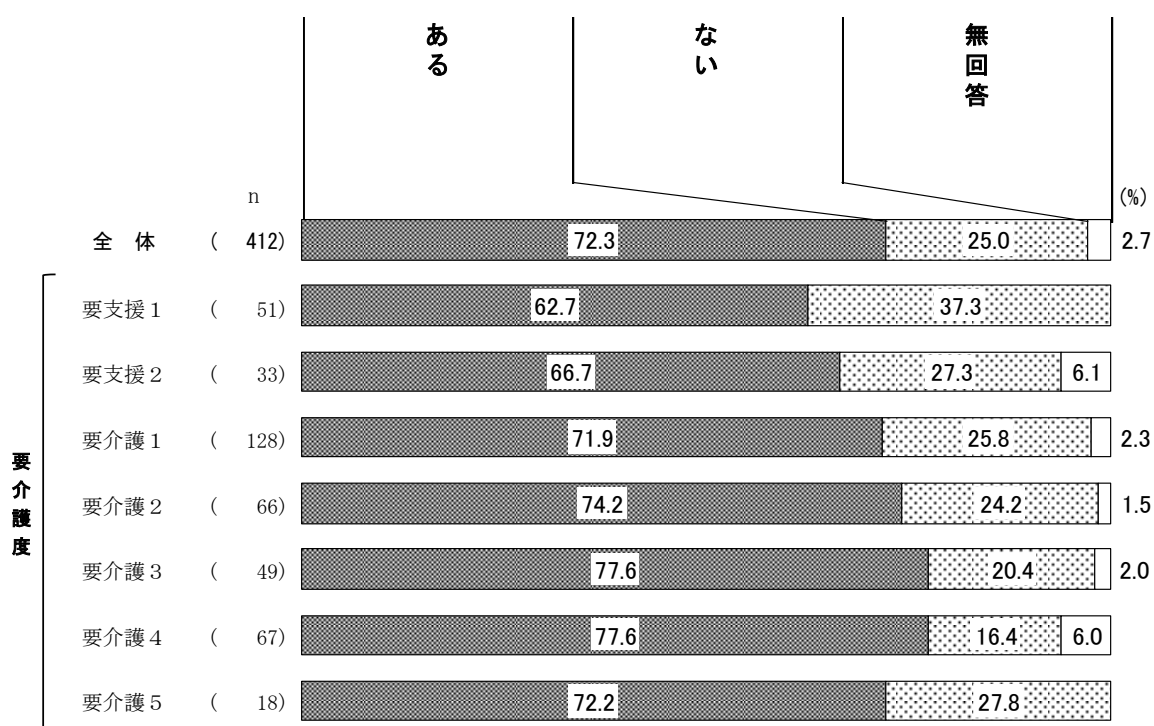
(14) 介護のために働き方を調整することの有無

問 43-① 介護のために、勤務時間を調整したりすることはありますか。(○は1つ)

介護や家事以外に「就労（フルタイム）」または「就労（パートタイム）」を行っていると回答した人に、介護のために働き方を調整することの有無についてたずねたところ、「ある」が72.3%、「ない」が25.0%となっています。

要介護度別で見ると、「ある」の割合は【要支援1】と【要支援2】は6割台、【要介護1】～【要介護5】は7割台となっています。

図表 3-11-27 介護のために働き方を調整することの有無／要介護度別



介護者の就労状況別で見ると、「ある」の割合は【フルタイム】(76.9%)の人の方が【パートタイム】(66.7%)の人よりも高くなっています。

図表 3-11-28 介護のために働き方を調整することの有無／介護者の就労状況別

		回答者数 (n)	(%)		
			ある	ない	無回答
全体		412	72.3	25.0	2.7
就労状況の	フルタイム	229	76.9	21.4	1.7
	パートタイム	183	66.7	29.5	3.8

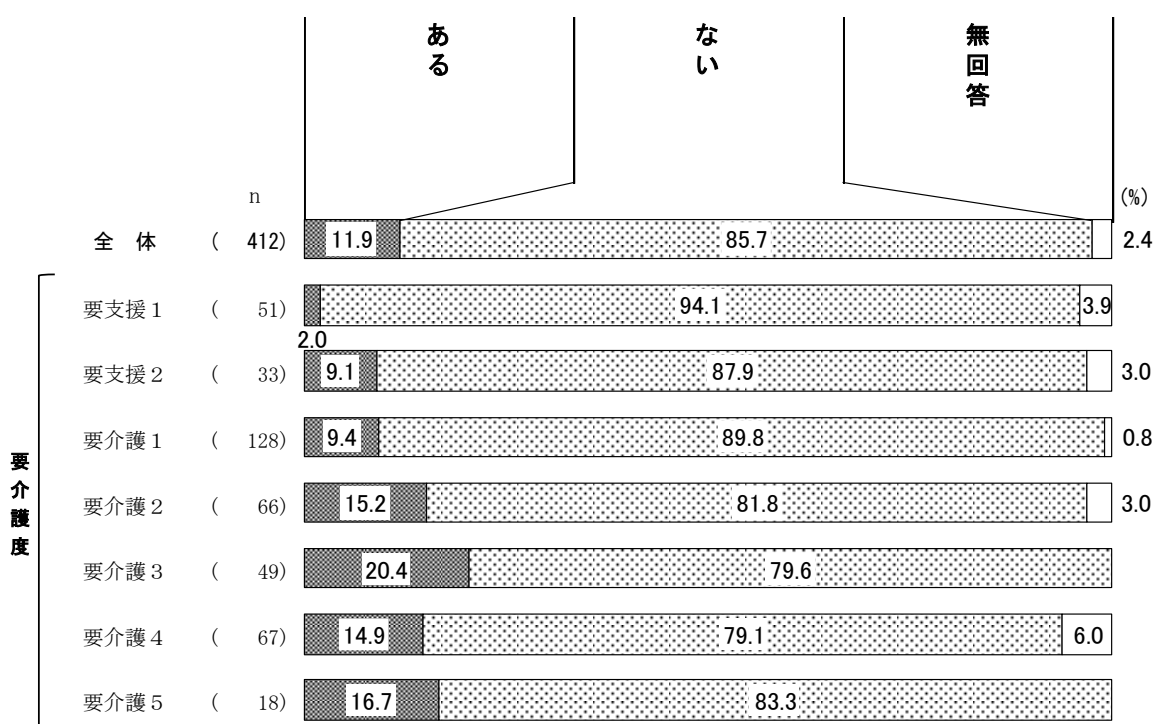
(15) 介護を理由とした離職経験の有無

問 43-② 介護を理由として離職した経験はありますか。(○は1つ)

介護や家事以外に「就労（フルタイム）」または「就労（パートタイム）」を行っているとは回答した人に、介護を理由とした離職経験の有無についてたずねたところ、「ない」が85.7%、「ある」が11.9%となっています。

要介護度別で見ると、「ある」の割合は【要支援1】、【要支援2】、【要介護1】は1割未満、【要介護2】～【要介護5】は1割台半ば～約2割とやや高くなっています。

図表 3-11-29 介護を理由とした離職経験の有無／要介護度別



介護者の就労状況別で見ると、「ある」の割合は【パートタイム】(19.7%) の人の方が【フルタイム】(5.7%) の人よりも高くなっています。

図表 3-11-30 介護を理由とした離職経験の有無／介護者の就労状況別

		回答者数 (n)	(%)		
			ある	ない	無回答
全体		412	11.9	85.7	2.4
就労状況	フルタイム	229	5.7	93.0	1.3
	パートタイム	183	19.7	76.5	3.8

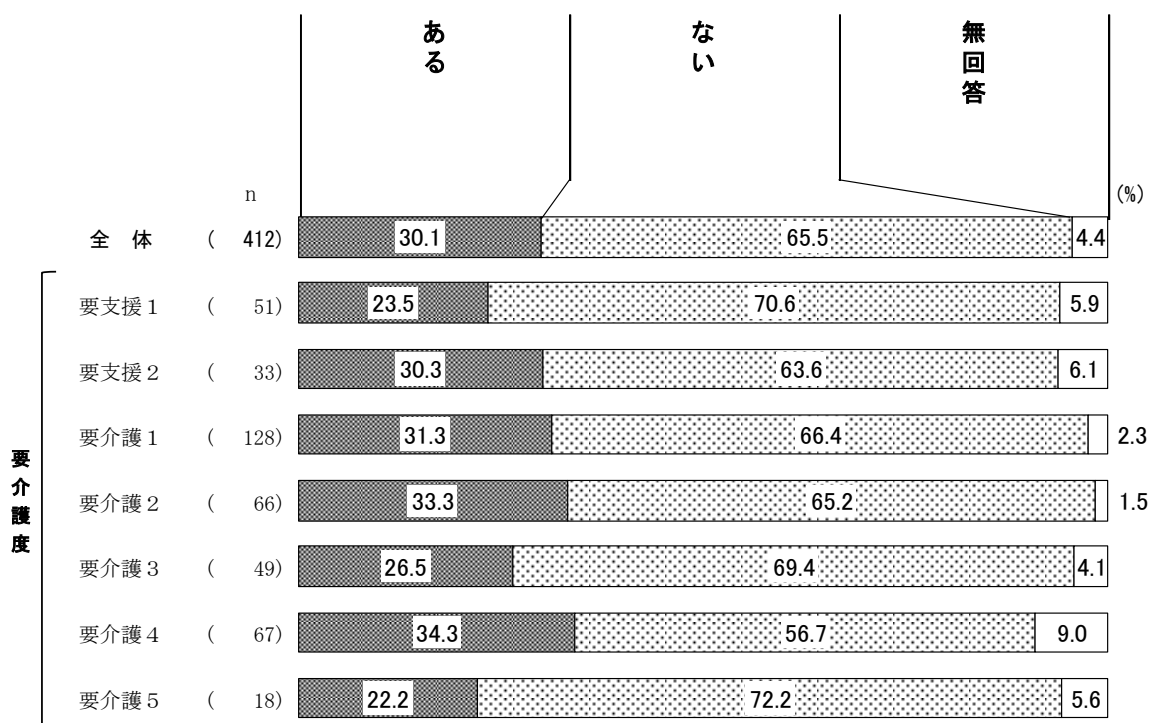
(16) 仕事と介護の両立のための勤務先からの支援

問 43-③ 仕事と介護の両立のため、介護休暇制度などの勤務先からの支援はありますか。
(○はいくつでも)

介護や家事以外に「就労（フルタイム）」または「就労（パートタイム）」を行っていると回答した人に、仕事と介護の両立のための勤務先からの支援の有無についてたずねたところ、「ない」が65.5%、「ある」が30.1%となっています。

要介護度別で見ると、「ある」の割合はいずれの層においても2割台～3割台半ばとなっており、【要介護4】(34.3%)が最も高くなっています。

図表 3-11-31 仕事と介護の両立のための勤務先からの支援／要介護度別



介護者の就労状況別で見ると、「ある」の割合は【フルタイム】(42.4%)の人の方が【パートタイム】(14.8%)の人よりも高くなっています。

図表 3-11-32 仕事と介護の両立のための勤務先からの支援／介護者の就労状況別

		回答者数 (n)	(%)		
			ある	ない	無回答
全体		412	30.1	65.5	4.4
就労状況の	フルタイム	229	42.4	54.6	3.1
	パートタイム	183	14.8	79.2	6.0

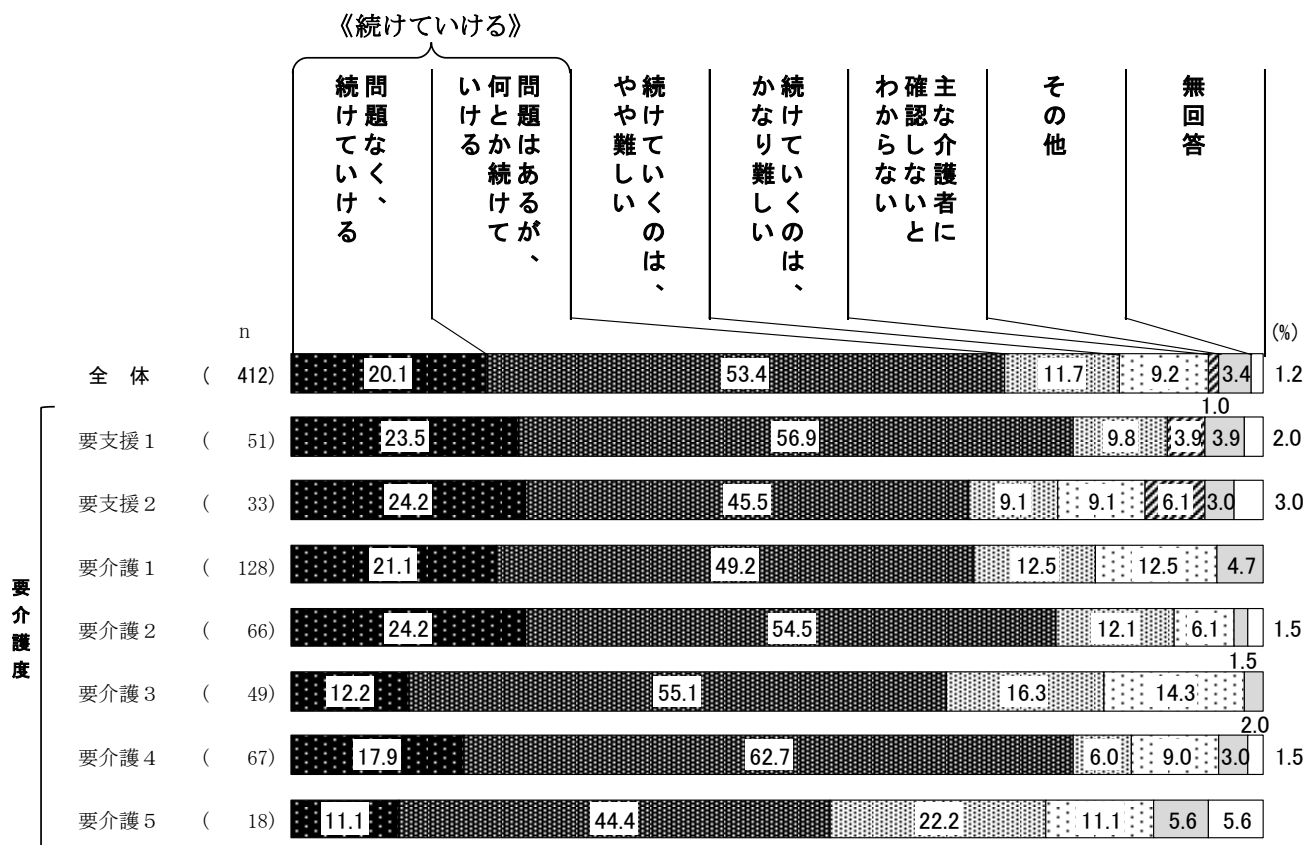
(17) 就労しながらの介護の継続

問 43-④ 今後も就労しながら介護を続けていけそうですか。(○は1つ)

介護や家事以外に「就労(フルタイム)」または「就労(パートタイム)」を行っているとは回答した人に、就労しながらの介護の継続についてたずねたところ、「問題なく、続けていける」(20.1%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(53.4%)を合計した《続けていける》の割合は73.5%となっています。

要介護度別で見ると、【要介護5】は《続けていける》の割合が最も低く、「続けていくのは、やや難しい」が最も高くなっています。

図表3-11-33 就労しながらの介護の継続／要介護度別



介護者の就労状況別で見ると、【フルタイム】、【パートタイム】のいずれにおいても《続けていける》が7割台前半と、大きな差は見られませんでした。

図表3-11-34 就労しながらの介護の継続／介護者の就労状況別

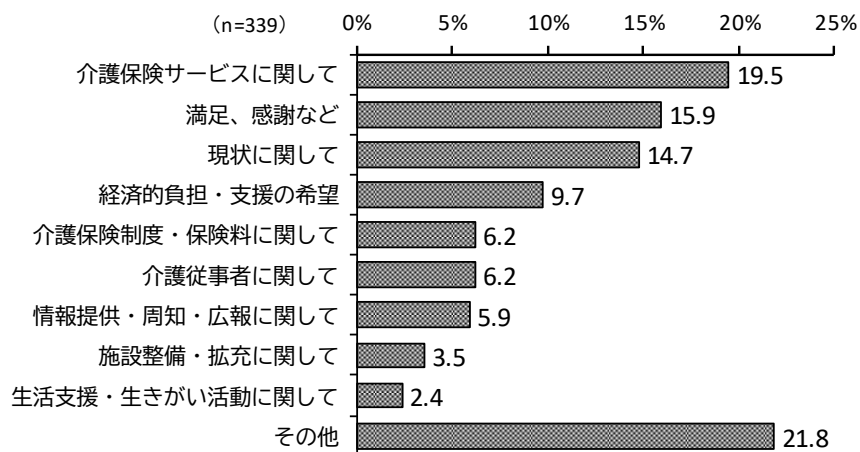
		回答者数 (n)	問題なく、 続けてい ける	問題はあ るが、何と か続けて いける	続けていく のは、や や難しい	続けていく のは、か なり難しい	主な介護 者に確認 しないとわ からない	その他	無回答
全体		412	20.1	53.4	11.7	9.2	1.0	3.4	1.2
就 労 状 況 の	フルタイム	229	20.1	54.6	10.5	9.6	0.4	4.8	-
	パートタイム	183	20.2	51.9	13.1	8.7	1.6	1.6	2.7

12. 自由意見

介護保険制度、高齢者福祉サービスなどについてのご意見・ご要望をご自由にお書きください。

(1) ご本人から

介護保険制度、高齢者福祉サービスなどについて、ご本人からとしては339人の方からご意見・ご要望をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、要介護度（要支援1・2、要介護1・2／要介護3～5）別に、内容別に件数が多かった上位5位の意見・要望を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

要支援1・2、要介護1・2

280人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 介護保険サービスに関して (51人/18.2%)

- ・要支援の認定を受け週1回通所しておりますが、とても楽しく身体を動かし同年代の方のおしゃべりも気兼ねなくできて、あっという間に半日が終わります。一人暮らしが増える傾向にありますので、認知になる前にどんどんこちらを増やして行ってほしいです。(80代後半、要支援1)
- ・住み慣れた自宅に住み続けたい。デイケアは楽しいので、現在要介護1で受けられる週3回のサービスをこれからも通い続けたい。(80代後半、要介護1)

◆ 現状に関して (48人/17.1%)

- ・現在85歳です。今のところ食事、洗濯、部屋の掃除などは自分1人でできますが、年齢的に用事(買物)ができなくなりました(歩くのがきつくなった)。体調も少々悪いので常に心配しています。知人が時々買物してくださるが遠慮もあります。(80代前半、要支援1)
- ・お部屋やお風呂に手すりをつけてもらえて、つたい歩きができて嬉しい。トイレにも1人で行けるようになった。(80代前半、要介護1)

◆ 満足、感謝など (39人/13.9%)

- ・現在 86 歳で 2 年前に料理中に火傷をし、左肩に植皮手術を受け、現在もリハビリ中です。夫が 87 歳で認知症になりました。自分のリハビリで痛みがある中で、困難なことが増えてきました。ケア 24 のケアマネジャーに支えられて日常生活ができるように回復し感謝しています。高齢者福祉サービスについて、気軽に相談できる窓口が広くできるように願います。(80 代後半、要支援 2)
- ・本人は高齢で、制度については全くわからず、全て私(介護者)が利用の判断などを行っています。訪問看護、リハビリ、訪問ヘルパーさんに対する意見や要望は特になく、満足しているようです。(90 代前半、要介護 2)

◆ 経済的負担・支援の希望に関して (27人/9.6%)

- ・高齢者が多くなり、医療費など大変なことはわかりますが、年齢・病気のため車の免許も返納し、足腰も弱ったために最寄り駅に行くにもタクシーを呼ぶ生活をしている今、若い頃には考えもしなかったところで出費がある。(70 代後半、要介護 1)
- ・おむつ等の支給・おむつ代金の助成は、要支援であっても適用をお願いします。(80 代前半、要支援 2)

◆ 介護保険制度・保険料に関して/情報提供・周知・広報に関して (各 19人/6.8%)

- ・介護保険制度は、利用者が保険料を払っている上に、利用の際、更に保険料がかかるのが難点です。2重払いの印象を受けます。(70 代前半、要支援 1)
- ・在宅サービスや福祉サービスを自分が利用できるのかを、どのように調べるのかわかりません。サービスの種類があることをアピールした方がよい。(70 代後半、要支援 2)

要介護 3～5

59 人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 介護保険サービスに関して (15人/25.4%)

- ・色々な介護サービスがあることを初めて知ったので、ケアマネさんを通じて、大切なサービスなど教えてもらえるとありがたい。(90 代前半、要介護 3)
- ・ベッドから起きられないので、家でお風呂に入れるのは本当に嬉しい。寝ながら散髪してくれるのがとても有難い。お医者様、看護師さん、ヘルパーさんが来てくれるので安心。歯医者さんが来てくれるので有難い。(90 代前半、要介護 5)

◆ 満足、感謝など (15人/25.4%)

- ・制度、福祉サービスを利用させてもらい、ありがたいと思いました。利用者としては良い点が多く、これからも維持できる様お願いします。(70 代後半、要介護 3)
- ・圧迫骨折(胸骨)で1ヶ月半入院したため、足腰が弱り、現在1人暮らしなので福祉サービスを使わせていただいております。暑くて外出もできず、足腰も弱るばかり。色々デイサービスを使わせていただき、だんだん以前の生活に戻りつつあるが、出来ない事がまだ

まだある。できない事は子供にやってもらう事も増えてきているが、日常生活は何とかできている。(90代前半、要介護4)

◆ 経済的負担・支援の希望に関して (6人/10.2%)

- ・個人的にリハビリに通っていますが、専門的な場所が少ないように思います。交通費、主にタクシー利用、少し補助があれば嬉しいです。手すり等の補助ありがとうございました。(70代後半、要介護4)
- ・物価が高騰し、オムツを支給してもらっているが、それだけでは足りず、他で購入していて、他にも衛生用品など負担が重く生活が苦しくなっている。限度額を上げてもらえるとありがたい。それが無理なら、必要な分は注文できるようになり、限度額を超えた分は自費でも注文できるようにしてほしい。(90代前半、要介護5)

◆ 介護従事者に関して (6人/10.2%)

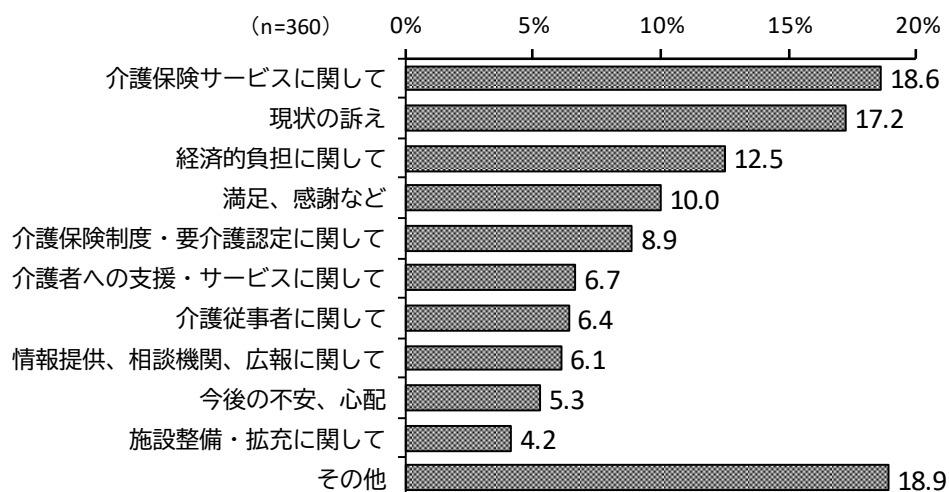
- ・介護をする方(ヘルパー、看護師)の人数をもっと増やしてほしい。そして彼らに十分な報酬を与えるべき。(90代前半、要介護3)
- ・長い間、親身に相談にのっていただいたケアマネさんが交代しました。何とかずっと同じケアマネさんをお願いしたかったです。(90代後半、要介護4)

◆ 現状に関して/介護保険制度・保険料に関して (各2人/3.4%)

- ・今年の暑さもあり年齢も90代に入り、老化が進んでいると実感しているが、何とか1人暮らしで自分の面倒は自分でみていると感じる。公的書類は理解力が低下していて難しくなっている。できない事は子供にやってもらう事も増えてきている。(90代前半、要介護4)
- ・介護申請してからサービス利用できるまでが長すぎる。(80代前半、要介護5)

(2) 主な介護者から

介護保険制度、高齢者福祉サービスなどについて、主な介護者からとしては360人の方からご意見・ご要望をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、被介護者の要介護度（要支援1・2、要介護1・2／要介護3～5）別に、内容別に件数が多かった上位5位の項目について主な意見・要望を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

要支援1・2、要介護1・2

211人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 現状の訴え（47人／22.3%）

- ・介護を開始して6年経ちました。認知症が進み、見当識障害があるため、昼夜問わず落ち着かない日々です。仕事も介護と両立できず離職しています。デイサービスのない日は外出もできません。介護者を支援するサービスがもっとできれば嬉しいです。（介護者：50代後半、被介護者：要介護1）
- ・子育てについては社会の理解も深まりつつあるが、介護については実態が十分に理解されていないのではないかと感じる。今後どのようなようになるのか、どれだけの期間世話をすることになるのかも分からない。そのうちに自分の体調も悪くなり、介護してもらわなければならない状況にもなりかねない。社会全体のシステムとして持続可能な方策を早急に整える必要があると考える。（介護者：60代前半、被介護者：要介護1）

◆ 介護保険サービスに関して（34人／16.1%）

- ・まだ本人はなんとか自立していますのでサービス利用は少ないですが、今回の調査を通じて相談窓口やサービスが多くあることを知り安心致しました。高齢者は突然体調悪化しやすいことを感じておりますので、今後のケアマネさんとの連携で本人の状態に見合ったサービスを受けつつ、おだやかに過ごしていけるようにしたいと思います。（介護者：60代前半、被介護者：要介護1）
- ・介護サービス事業所の数が多すぎて、選択のしようがないです。各事業所の特色が客観的にわかると良いです。デイサービスなども、内容や時間などにもっとバリエーションがあると利用しやすいです。（介護者：60代後半、被介護者：要介護1）

◆ 経済的負担に関して（22人／10.4%）

- ・サービスが3割負担で今後サービスを増やしていく。デイサービスで午前中、週2のトレーニングではどんどん体力が落ちている。（介護者：70代前半、被介護者：要介護1）
- ・介護サービスが皆安心して使えるように、国の支出を大きく増やしてほしい。介護職員も事業者も、今大変厳しい状況になっています。その中で必要なサービスをうまく受けることのできない人や家族も厳しいことになっています。保険料を取るならば、安心してサービスを使えるようにしてほしい。（介護者：60代後半、被介護者：要介護2）

◆ 満足、感謝など（21人／10.1%）

- ・本制度をフルに利用させていただき感謝しています。私も本人も満足しています。ただ本人は自分に終末があることを実感できていないので用意もない。終末までの生活費は何とかあり、

問題はない。ケアマネの指導がよく安心して介護できています。(介護者：80代前半、被介護者：要介護2)

- ・介護サービスがあり、経済的と精神面で助けられています。ありがとうございます。高齢者政策の充実はさらに希望しますが、全世代の政策との平等なバランスのよい杉並区になるようお願いいたします。(介護者：50代後半、被介護者：要介護1)

◆ 介護保険制度・要介護認定に関して (16人/7.6%)

- ・介護認定が厳しすぎ、受けられるサービスが限られている。なるべく在宅で最後まで過ごさせてあげたいと思うが、少し元気になるとすぐ介護度が下がり、せっかく元気になってもまたリハビリがおろそかになる。これでは希望がない。せめて現状維持ができるよう、一度上がった介護度を下げてもサービスは減らさないでほしい。(介護者：60代後半、被介護者：要介護2)
- ・介護認定の方はその場の状態しか見ていません。本人は見栄を張ります(普段できないのにその場ではできたり)。家族が伝えてもあまり聞く耳をもってくれません。認定員の方はもう少し普段の様子を周りから聞き入れてください。(介護者：70代後半、被介護者：要介護2)

要介護3～5

149人の方からご意見・ご要望をいただきました。

◆ 介護保険サービスに関して (33人/22.1%)

- ・サービスは色々あっても介護度によって、使用制限(点数?)があって使いづらい面があります。結局、在宅には限界が出てきて施設に頼ることになる。根本的に、国が介護に対する予算を使わないことが問題だという気がします。(介護者：60代後半、被介護者：要介護3)
- ・自身も区外特養に長く勤務していて深刻な人材不足を把握しており、手のかかる重度の認知症がある人の受け入れが難しいことも理解はしていますが、どの施設も同様に一番必要としている重度の人をお断りして、手のかからない人だけを入所させているのでは不公平と感じます。利用する側が、多少手のかからない人より多く支払ってでも間口を広げたり、そういった人たちの受け皿となる場所がなければ、家族もつぶれてしまいます。(介護者：50代前半、被介護者：要介護4)

◆ 経済的負担に関して (23人/15.4%)

- ・おむつの値上がりで支給の量が減り、自費が増加し困っている。(介護者：60代前半、被介護者：要介護3)
- ・介護保険サービスを利用でき大変助かっていますが、利用料金がもう少し安価になればと思います。年金での生活なので、サービス料金にほとんど費用をとられてしまうので生活が不安になります。(介護者：70代後半、被介護者：要介護4)

◆ 介護保険制度・要介護認定に関して (16人/10.7%)

- ・歩けなくなり、外出できないなら仕方ないが、ケアマネ、介護認定の場所が必ず自宅はフルタイムなのできつい。片づけをして、また人をプライベートの空間に招き入れるのは労力を使う

ので。歩けるうちは、デイサービスや近くの区民センターなどでの面談や介護認定も可能にしてほしい。(介護者：50代後半、被介護者：要介護4)

- ・現在、要介護3で認定を受けていますが、住宅型の介護施設において身体的なハンデの方に比べてサポートが足りないように感じています。また、介護認定も自立歩行がかりうじて可能のため要介護3です。エアコンの操作も難しいため、本来は要介護4レベルと感じています。認知症の介護のレベルをもう少し検討いただきたいです。(介護者：年齢無回答、被介護者：要介護3)

◆ 現状の訴え (15人/10.1%)

- ・介護者は20年あまり母と叔母を合わせて介護しております。たくさんのサービスをしてもらい、助かっておりますが、やはり本人と介護者が同居するのはつらいです。自分の身内でもつらいです。かと言って自分ももっと高齢になって施設に入って介護を受けるのはどうも考えにくく、自宅に居続けたいと考えてしまいます。高齢になるということは大変なことと考えてしまいます。(介護者：60代後半、被介護者：要介護5)
- ・認知症が進んでいるので、カメラを複数台設置して、見守り、会話をしています。テレビや照明も遠隔操作して1日のリズムを作っています。認知症による攻撃性でヘルパーさんとぶつかることも多いので、ヘルパーさんがいる間もカメラで様子を見て、仲介に入ることもあります。通信環境を整える方法や補助があるとよいです。(介護者：60代前半、被介護者：要介護3)

◆ 満足、感謝など (15人/10.1%)

- ・現実にはいろいろな希望や細かな不満があるにせよ、制度そのものには助けられており、感謝しています。ありがとうございます。(介護者：70代後半、被介護者：要介護4)
- ・在宅介護をしていることから、介護保険制度があり助けられているので、ありがたいと思います。多くの方が制度を自分に合った形で利用していけるようPRも必要だと思います。(介護者：60代後半、被介護者：要介護4)

第4章 共通質問の比較

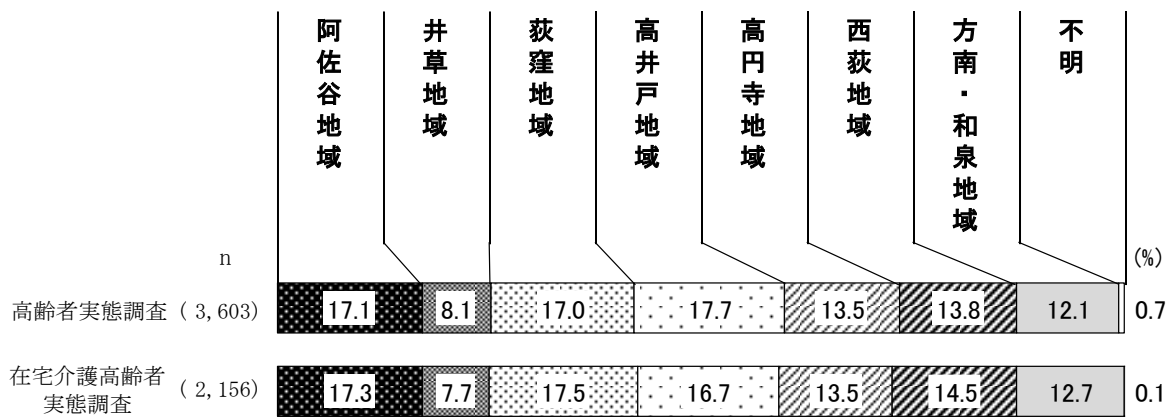
第4章では、「高齢者実態調査」と「在宅介護高齢者実態調査」における共通の質問について、回答結果を比較します。

各調査の属性
 ①高齢者実態調査（65歳以上／要介護認定なし）
 ②在宅介護高齢者実態調査（65歳以上／要支援1～要介護5）

1. 回答者の属性

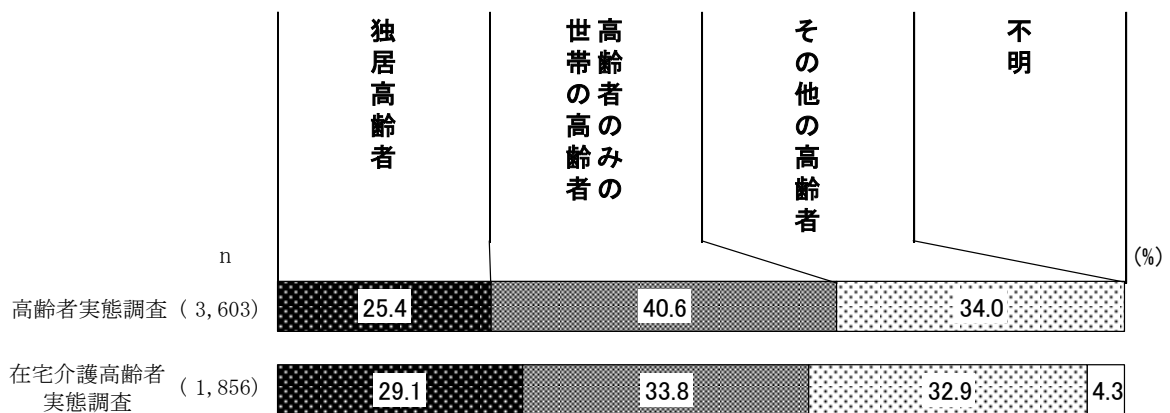
(1) 圏域

図表4-1-1 圏域



(2) 世帯構成

図表4-1-2 世帯構成



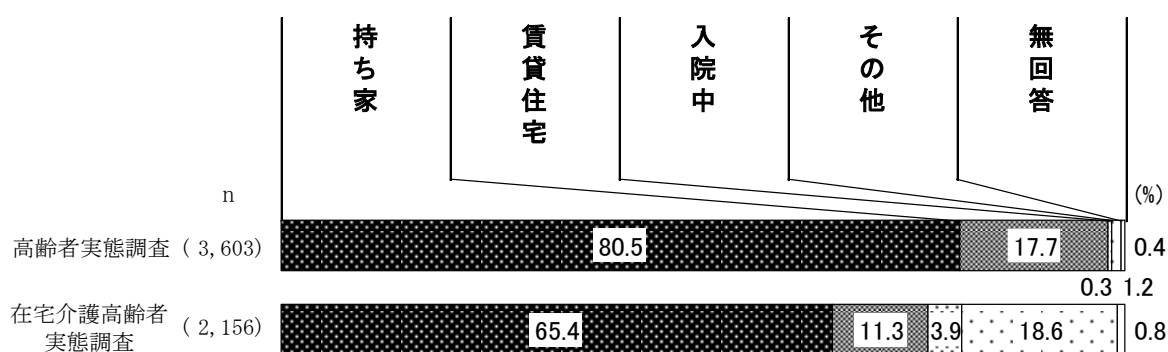
第4章 共通質問の比較

(3) 生活している場所

問 あなたが現在、生活している場所について教えてください。(〇は1つ)

現在、生活している場所については、どちらも「持ち家」の割合が最も高く、【高齢者実態調査】が80.5%、【在宅介護高齢者実態調査】が65.4%となっています。また、【在宅介護高齢者実態調査】は《その他》が18.6%となっています。

図表4-1-3 生活している場所



※在宅介護高齢者実態調査は、「シルバーピア」、「サービス付き高齢者住宅」、「都市型軽費老人ホーム」、「住宅型有料老人ホーム」、「介護付き有料老人ホーム」、「特別養護老人ホーム」、「認知症高齢者グループホーム」、「その他」を合計して《その他》としました。

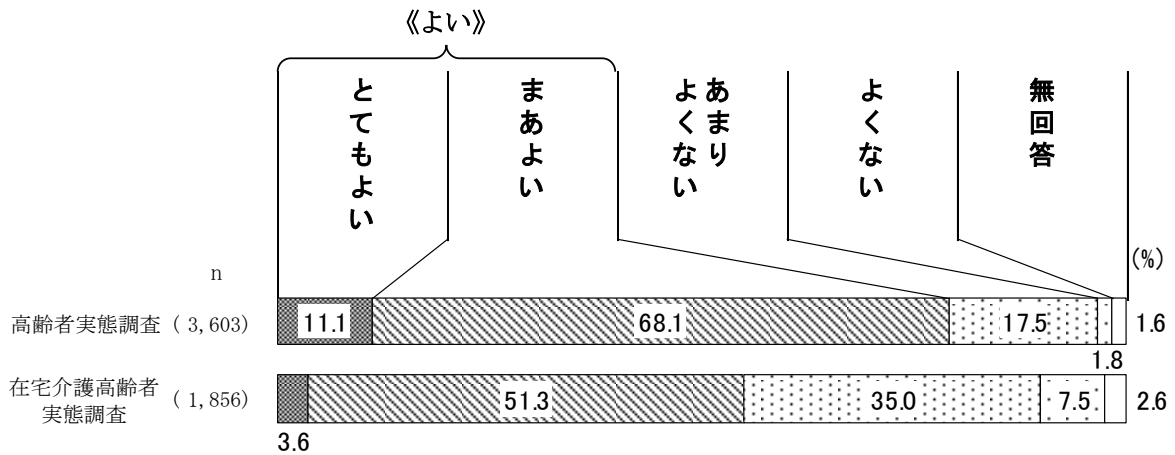
2. 健康状態について

(1) 現在の健康状態

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

現在の健康状態について、「とてもよい」と「まあよい」を合計した《よい》の割合は、【高齢者実態調査】が79.2%、【在宅介護高齢者実態調査】が54.9%となっています。

図表 4-2-1 現在の健康状態



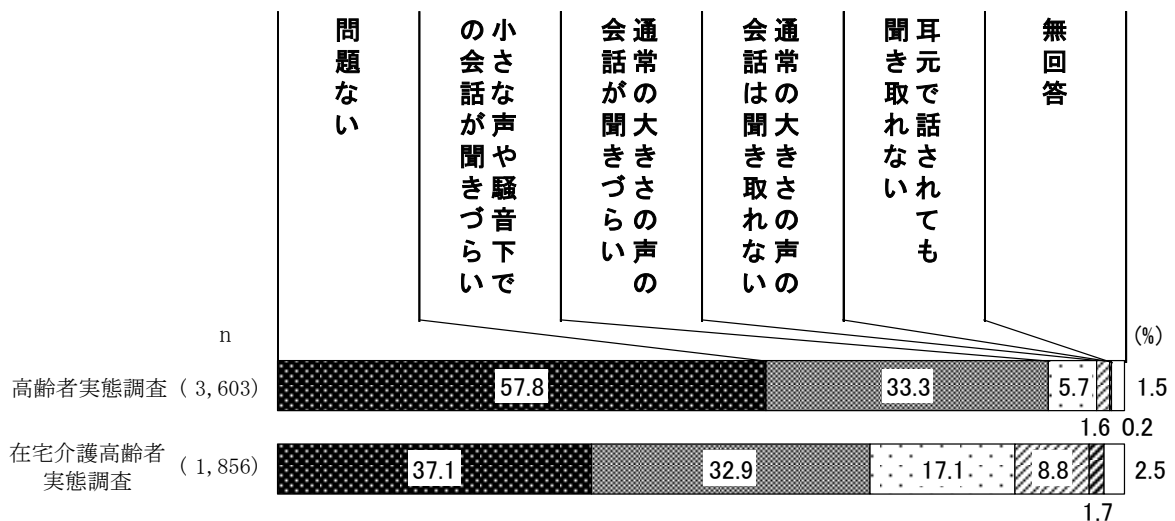
(2) 耳の聞こえの状態

問 現在の耳の聞こえの状態はいかがですか。(○は1つ)

※ 普段から補聴器を使用している方は使用した状態でお願いします。

耳の聞こえの状態について、「問題ない」の割合は、【高齢者実態調査】が57.8%で、【在宅介護高齢者実態調査】(37.1%)と比べて高くなっています。また、「通常の大きさの声の会話が聞きづらい」は、【在宅介護高齢者実態調査】が17.1%で、【高齢者実態調査】(5.7%)と比べて高くなっています。

図表 4-2-2 耳の聞こえの状態

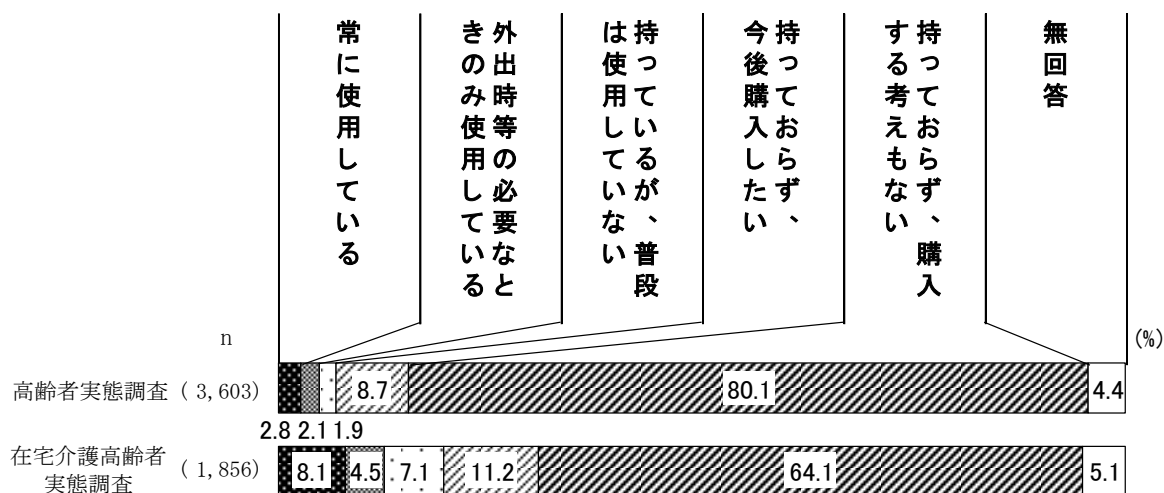


(3) 補聴器の使用状況

問 現在、補聴器を使用していますか。(○は1つ)

補聴器の使用状況については、どちらも「持っておらず、購入する考えもない」の割合が最も高く、【高齢者実態調査】が80.1%、【在宅介護高齢者実態調査】が64.1%となっています。また、「常に使用している」は【在宅介護高齢者実態調査】が8.1%で、【高齢者実態調査】(2.8%)と比べて高くなっています。

図表4-2-3 補聴器の使用状況



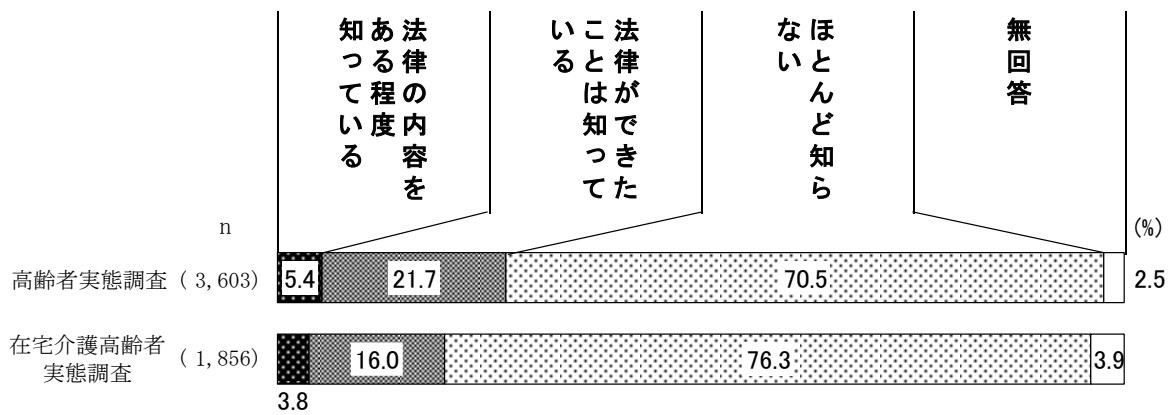
3. 認知症について

(1) 認知症についての知識・印象など

問 令和6年1月1日に「認知症基本法」が施行されたことを知っていますか。
(〇は1つ)

「認知症基本法」については、どちらも「ほとんど知らない」の割合が7割以上を占めています。

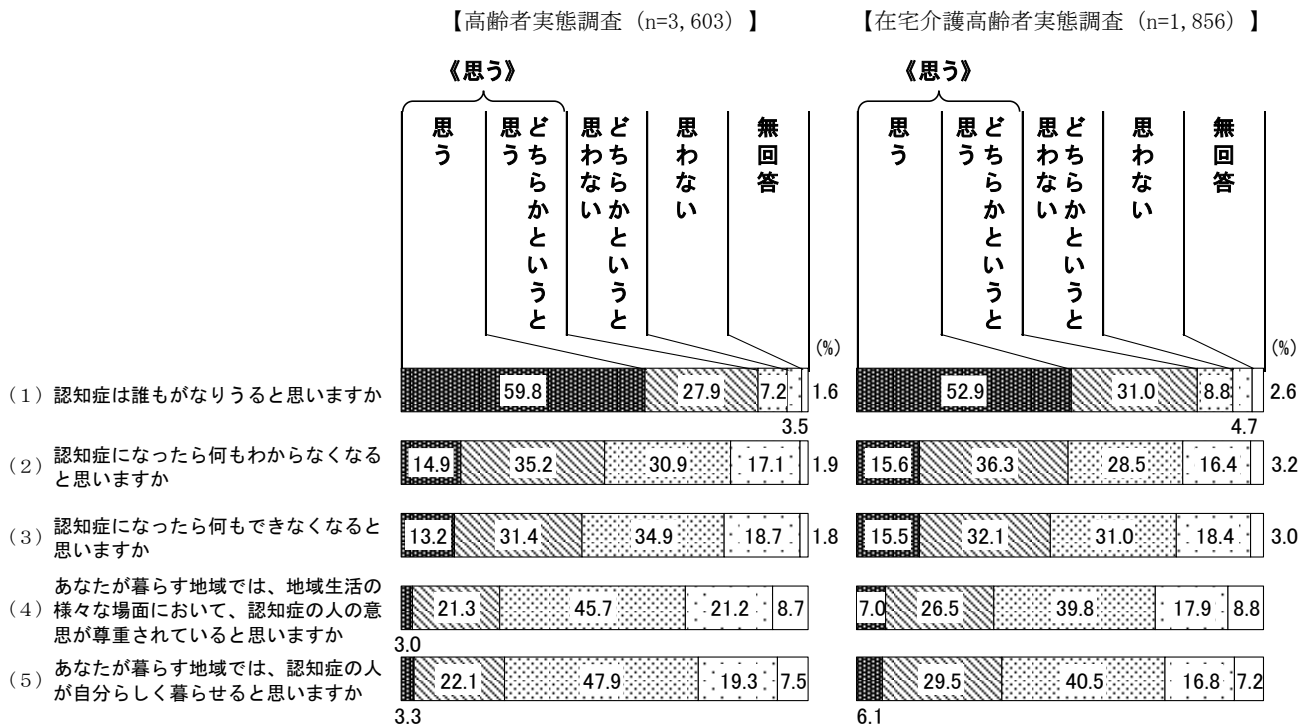
図表4-3-1 「認知症基本法」について



問 次の質問について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。(○は1つずつ)

認知症についての印象は、「あなたが暮らす地域では、地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されていると思いますか」と「あなたが暮らす地域では、認知症の人が自分らしく暮らせると思いますか」において、【在宅介護高齢者実態調査】の方が「思う」と「どちらかというと思う」を合計した《思う》の割合が高くなっています。

図表4-3-2 認知症についての印象

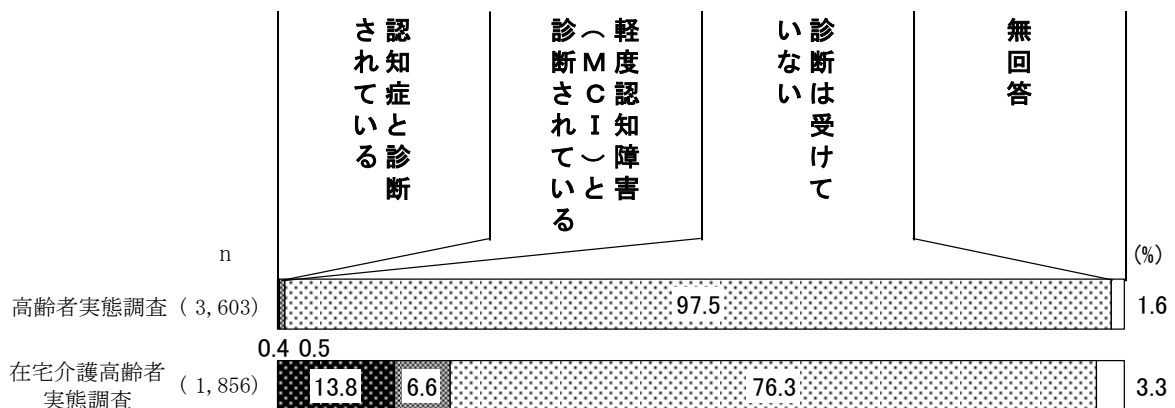


(2) 認知症の診断有無

問 認知症等の診断を受けていますか。(○は1つ)

【在宅介護高齢者実態調査】は「認知症と診断されている」が13.8%、「軽度認知障害(MCI)と診断されている」が6.6%で、【高齢者実態調査】と比べて高くなっています。

図表4-3-3 認知症等の診断有無



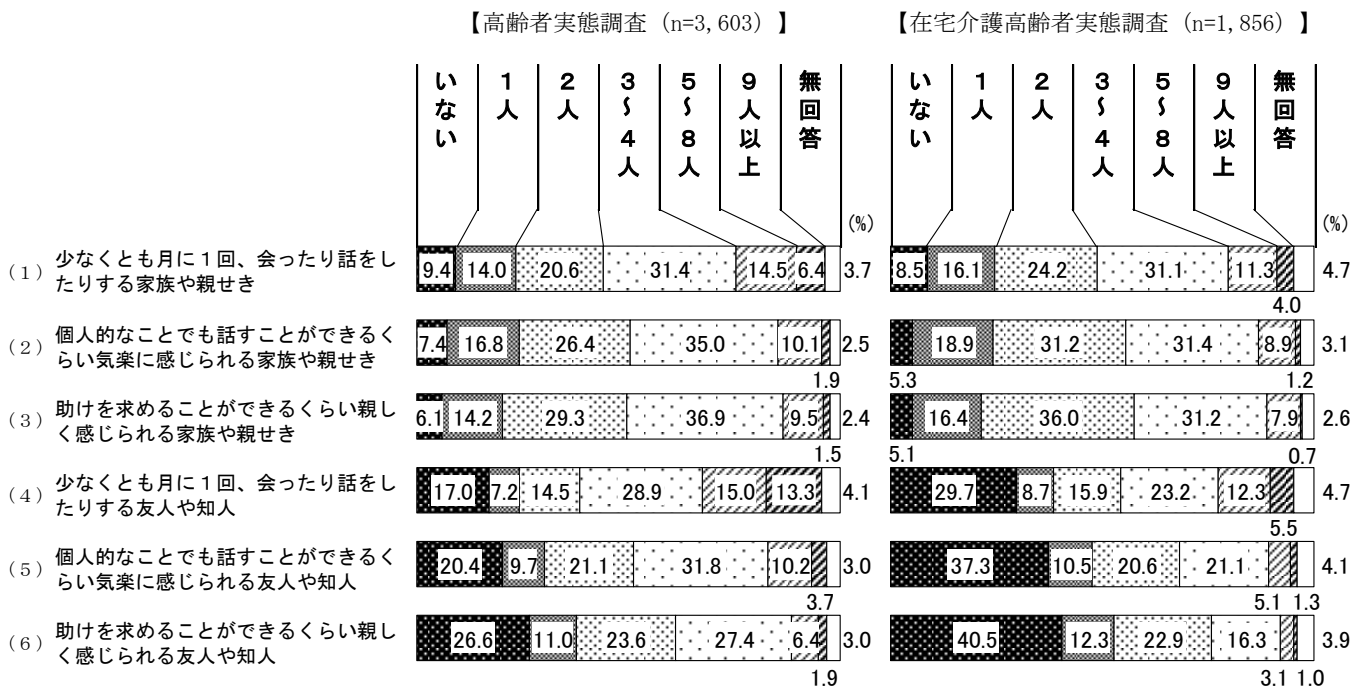
4. 社会的なつながり

(1) 家族・親せき、友人・知人とのつきあい

問 (1)～(6)について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。
(○は1つずつ)

(1)～(3)の「家族や親せき」についての質問では大きな差は見られませんが、(4)～(6)の「友人・知人」についての質問では、【在宅介護高齢者実態調査】の方が「いない」の割合が高くなっています。

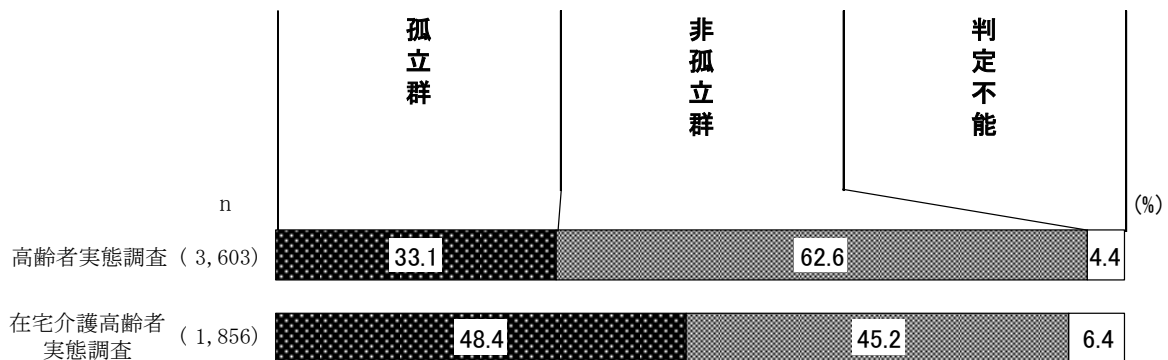
図表4-4-1 家族・親戚、友人・知人とのつきあい



(2) 社会的孤立度

上記(1)～(6)の回答結果から判定した「社会的孤立度」については、「孤立群」が【在宅介護高齢者実態調査】で48.4%と、【高齢者実態調査】(33.1%)と比べて高くなっています。

図表4-4-2 社会的孤立度



※「社会的孤立度」の判定方法については、48ページまたは105ページをご参照ください。

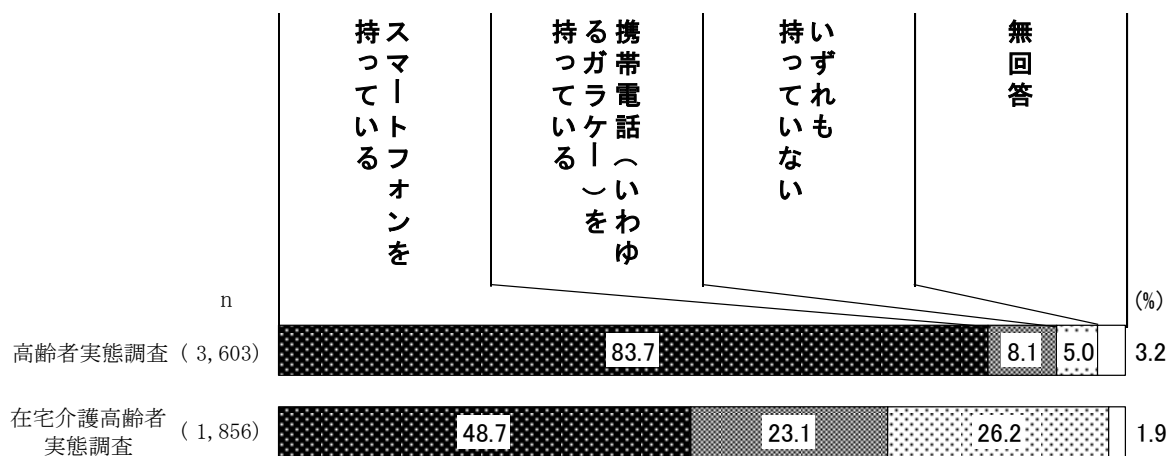
5. スマートフォン等の利用状況について

(1) スマートフォン等の所持状況

問 スマートフォン等の所持状況についてお答えください。(○は1つ)

スマートフォン等の所持状況について、【高齢者実態調査】は「スマートフォンを持っている」(83.7%)が8割を超えていますが、【在宅介護高齢者実態調査】では「スマートフォンを持っている」(48.7%)は5割を下回り、「いずれも持っていない」(26.2%)が約4分の1を占めています。

図表4-5-1 スマートフォン等の所持状況

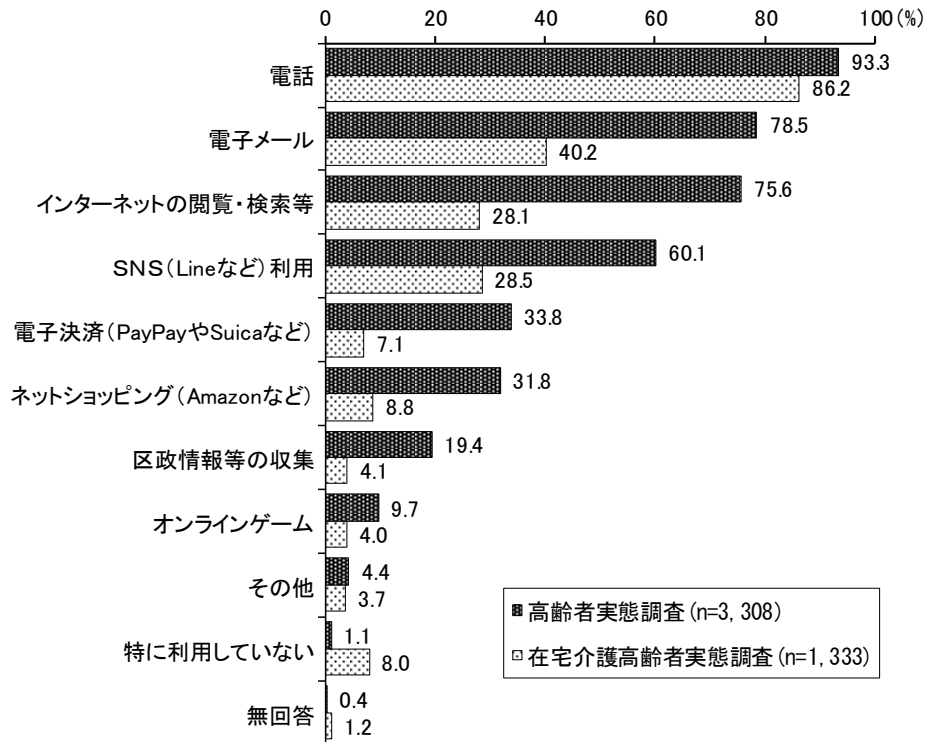


(2) スマートフォン等の利用状況

問 スマートフォン等の利用状況をお答えください。(○はいくつでも)

スマートフォン等の利用状況については、「電子メール」、「インターネットの閲覧・検索等」、「SNS (Line など) 利用」、「電子決済 (PayPay や Suica など)」、「ネットショッピング (Amazon など)」の5項目で、【高齢者実態調査】の方が20ポイント以上高くなっています。

図表 4-5-2 スマートフォン等の利用状況

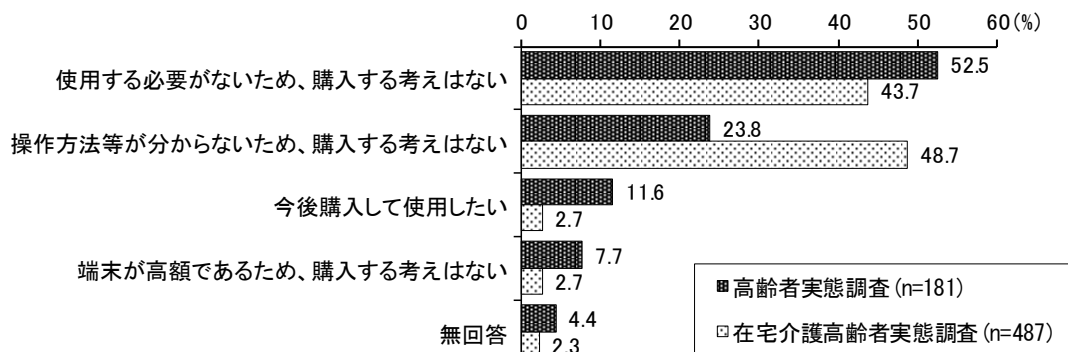


(3) スマートフォン等の今後の使用意向

問 スマートフォン等の今後の使用意向等についてお答えください。(○は1つ)

【高齢者実態調査】は「使用する必要がないため、購入する考えはない」が52.5%で最も高く、【在宅介護高齢者実態調査】は「操作方法等が分からないため、購入する考えはない」が48.7%で最も高くなっています。

図表 4-5-3 スマートフォン等の今後の使用意向



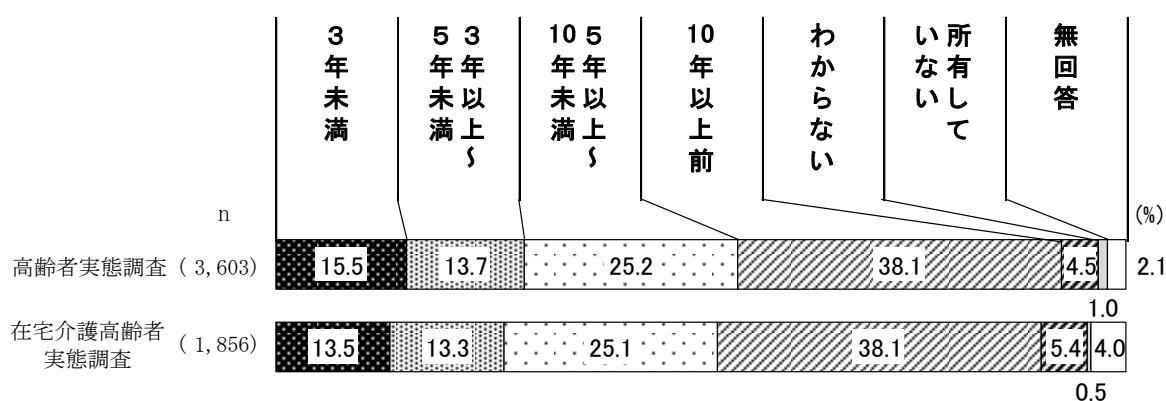
6. エネルギー機器の使用状況について

(1) 家庭で使用しているエアコンの購入時期

問 現在、ご家庭で使用しているエアコン（一番古いもの）を購入したのはいつ頃ですか。（〇は1つ）

家庭で使用しているエアコンで一番古いものを購入した時期については、どちらも「10年以上前」の割合が最も高く、回答結果に大きな差は見られません。

図表4-6-1 家庭で使用しているエアコンの購入時期

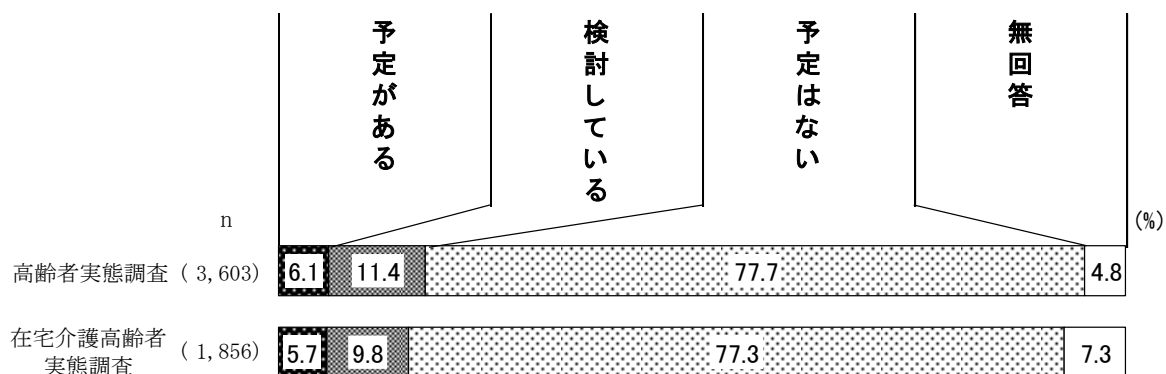


(2) エアコンの購入予定

問 おおむね1年以内にエアコンを買い替えまたは購入する予定はありますか。（〇は1つ）

おおむね1年以内のエアコン購入予定については、どちらも「予定はない」が7割台後半となっており、回答結果に大きな差は見られません。

図表4-6-2 エアコンの購入予定

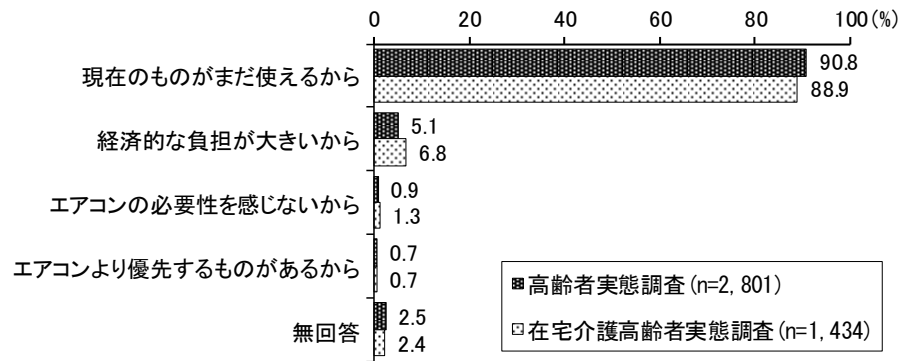


(3) エアコンの購入予定がない理由

問 現在、エアコンの買い替えまたは購入の予定がないとした最も大きな理由はなんですか。
(○は1つ)

エアコンの購入予定がない理由については、どちらも「現在のものがまだ使えるから」の割合が最も高く、回答結果に大きな差は見られません。

図表4-6-3 エアコンの購入予定がない理由

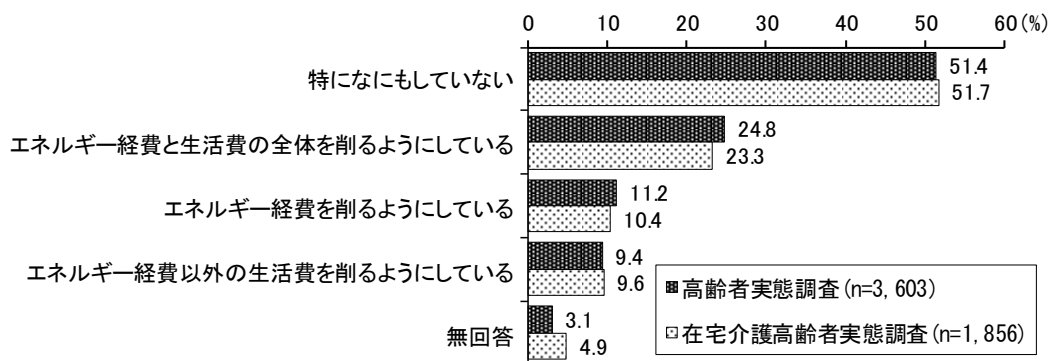


(4) エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無

問 エネルギー経費（電気、ガス、ガソリン代など）が家計の負担となっていて、エアコンやガスなどの使用を控えたり、その他の生活費（食費、服飾費、住居費など）を削減していますか。(○は1つ)

どちらも「特になにもしていない」の割合が最も高く、回答結果に大きな差は見られません。

図表4-6-4 エネルギー経費が負担になっていることによる生活費削減の有無

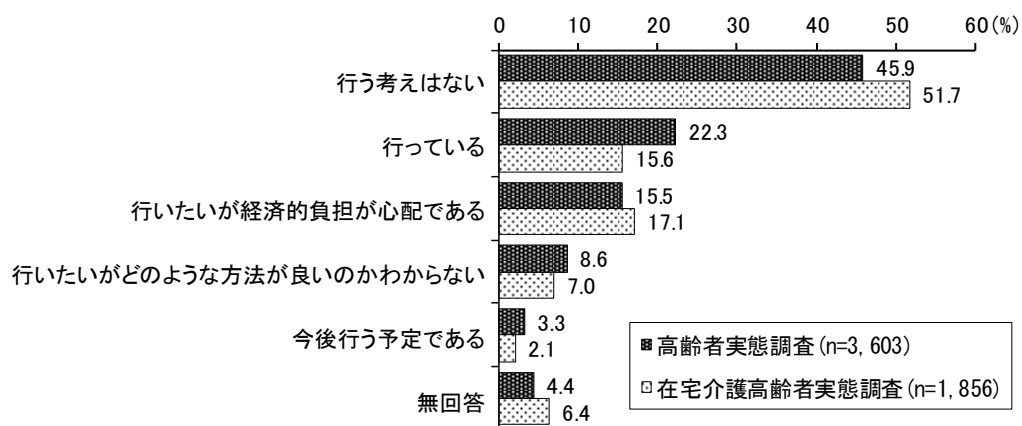


(5) エネルギー経費削減のためにしている対策

問 現在、エネルギー経費削減のため、住宅の壁、床、屋根、窓などの断熱化や太陽光発電機器の導入などの対策を行っていますか。(○は1つ)

エネルギー経費削減のためにしている対策について、「行う考えはない」の割合は【在宅介護高齢者実態調査】の方が高く、「行っている」の割合は【高齢者実態調査】の方が高くなっています。

図表4-6-5 エネルギー経費削減のためにしている対策



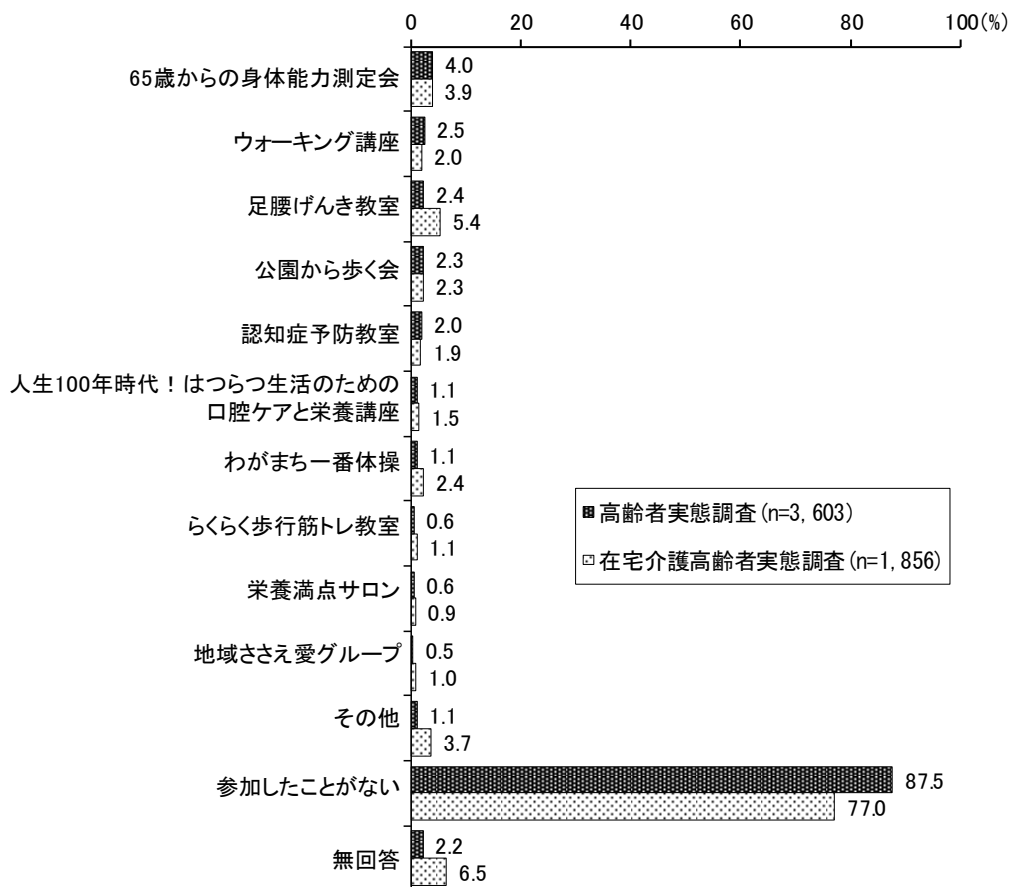
7. 介護予防や福祉サービスについて

(1) 参加したことがある介護予防事業

問 これまでに参加している・したことがある介護予防事業はありますか。
(○はいくつでも)

参加したことがある介護予防事業については、どちらも「参加したことがない」の割合が最も高くなっていますが、【高齢者実態調査】では87.5%と、【在宅介護高齢者実態調査】(77.0%)よりも高くなっています。

図表4-7-1 参加したことがある介護予防事業

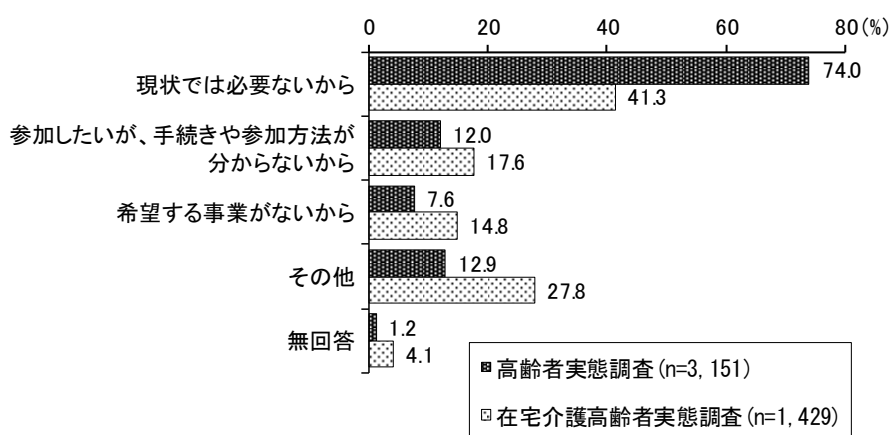


(2) 介護予防事業に参加していない理由

問 介護予防事業に参加していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

介護予防事業に参加していない理由については、どちらも「現状では必要ないから」の割合が最も高くなっていますが、【高齢者実態調査】で74.0%と、【在宅介護高齢者実態調査】(41.3%)よりも30ポイント以上高くなっています。また、「参加したいが、手続きや参加方法が分からないから」、「希望する事業がないから」、「その他」は【在宅介護高齢者実態調査】の方が高くなっています。

図表4-7-2 介護予防事業に参加していない理由

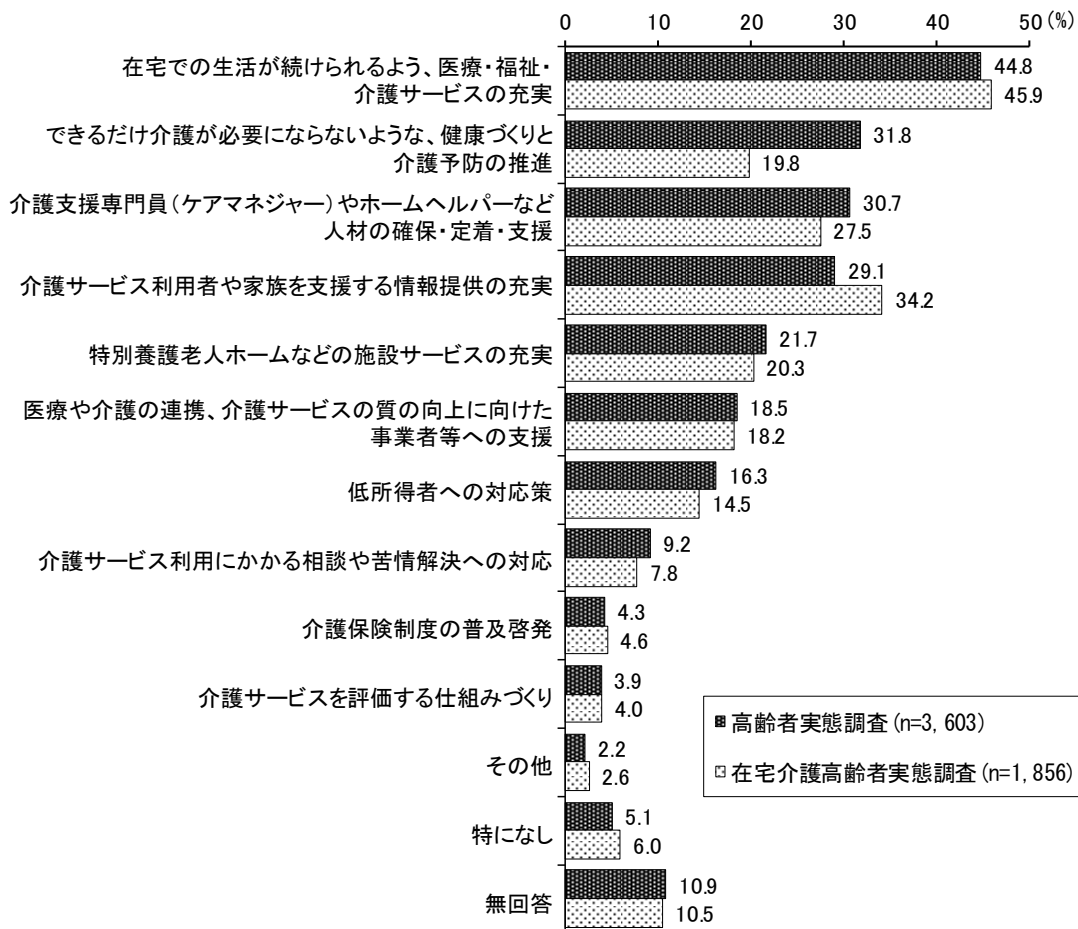


(3) 今後、区が力を入れていくべきこと

問 今後、区が力を入れていくべきと思うことはなんですか。(〇は3つまで)

今後、区が力を入れていくべきことについては、どちらも「在宅での生活が続けられるよう、医療・福祉・介護サービスの充実」の割合が最も高くなっています。また、「できるだけ介護が必要にならないような、健康づくりと介護予防の推進」は【高齢者実態調査】が31.8%と、【在宅介護高齢者実態調査】(19.8%)より10ポイント以上高くなっています。

図表4-7-3 今後、区が力を入れていくべきこと



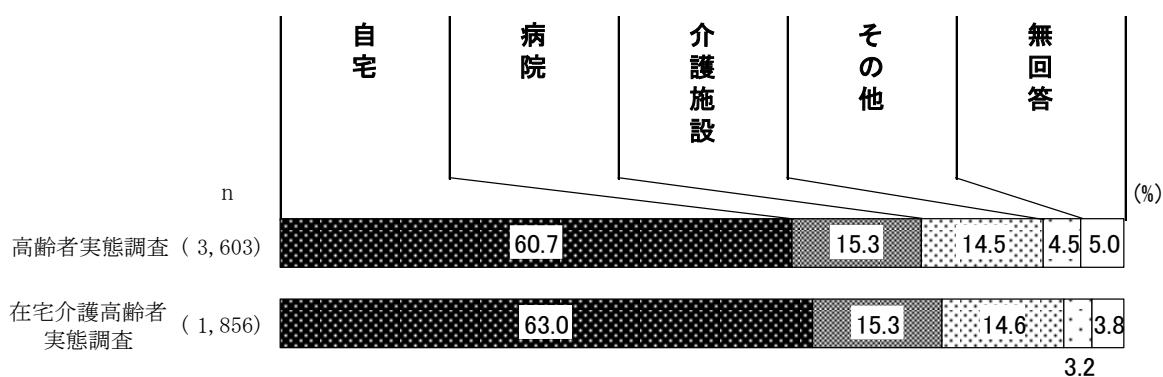
8. 終活について

(1) 人生の最期や終末期を過ごしたい場所

問 人生の最期や終末期を過ごしたい場所はどちらですか。(○は1つ)

人生の最期や終末期を過ごしたい場所については、どちらも「自宅」の割合が最も高く、回答結果に大きな差は見られません。

図表4-8-1 人生の最期や終末期を過ごしたい場所

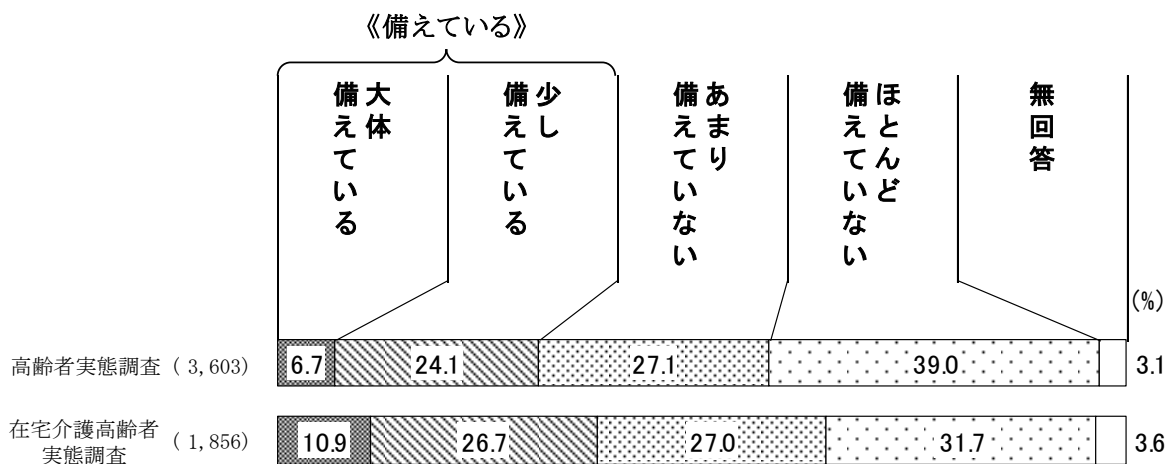


(2) 人生の最期や終末期に向けての備え

問 人生の最期や終末期に向けて備えていますか。(○は1つ)

人生の最期や終末期に向けての備えについて、「大体備えている」と「少し備えている」を合計した《備えている》の割合は、【高齢者実態調査】が30.8%、【在宅介護高齢者実態調査】が37.7%となっています。

図表4-8-2 人生の最期や終末期に向けての備え

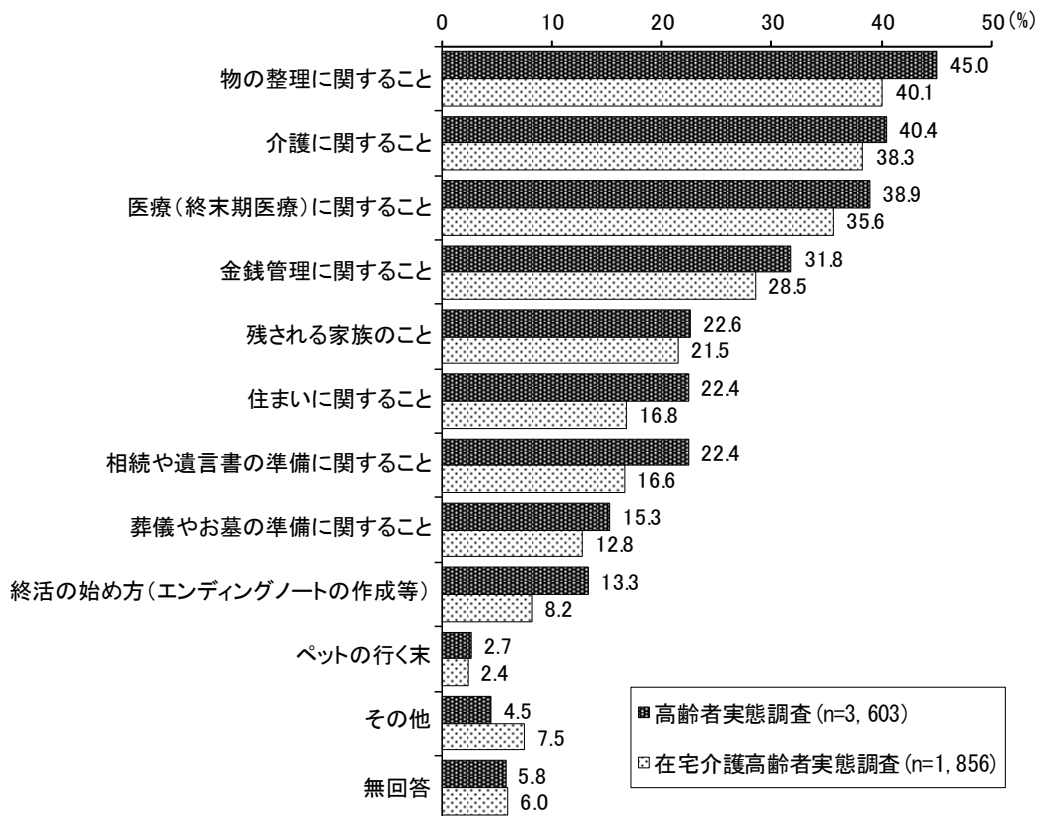


(3) 人生の最期や終末期に向けた心配事

問 人生の最期や終末期に向けて備えていますか。(○は1つ)

人生の最期や終末期に向けた心配事については、どちらも「物の整理に関すること」の割合が最も高くなっています。また、「住まいに関すること」、「相続や遺言書の準備に関すること」、「終活の始め方（エンディングノートの作成等）」の3項目は、【高齢者実態調査】の方が5ポイント以上高くなっています。

図表4-8-3 人生の最期や終末期に向けた心配事



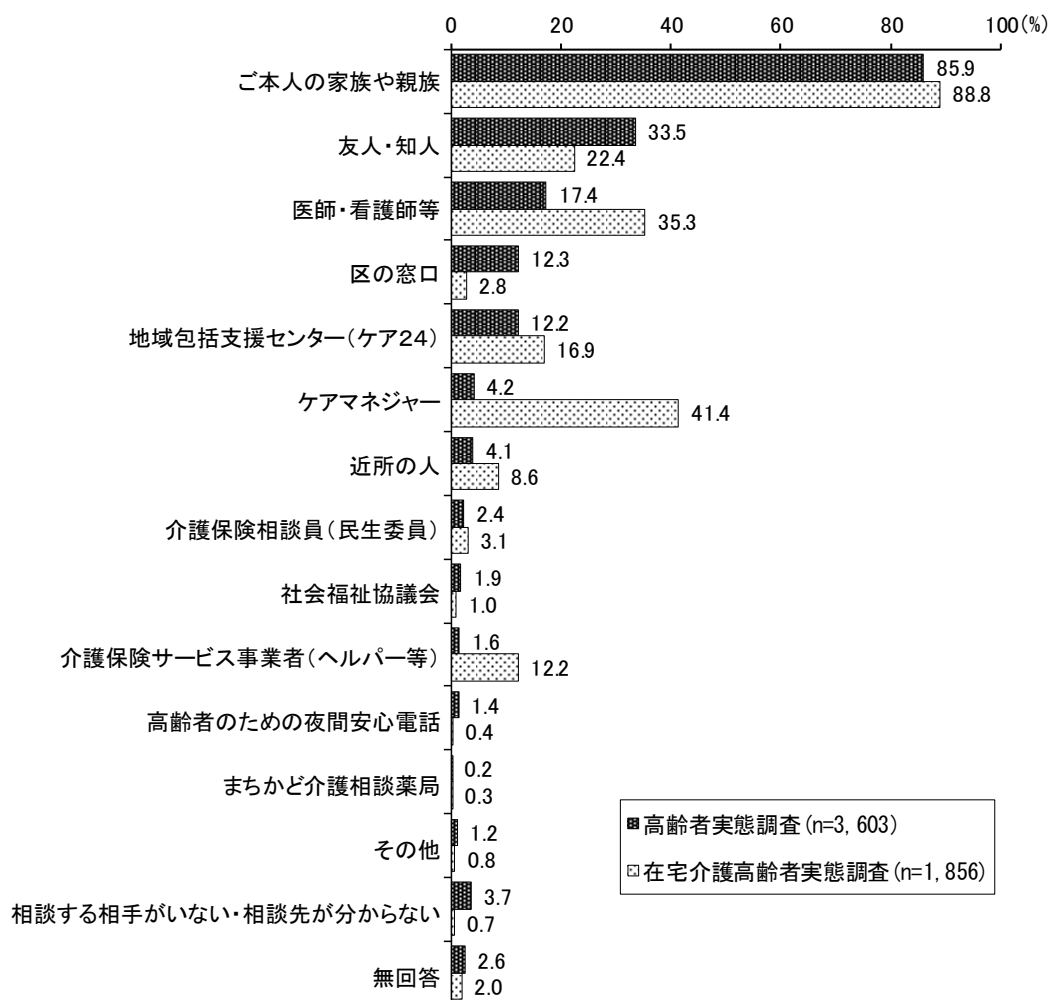
9. 困った時等の相談先について

(1) 困った時等の相談先

問 生活の中で困ったことや不安に思うことがあったとき、どなた（どこ）に相談しますか。
 (〇はいくつでも)

困った時等の相談先については、どちらも「ご本人の家族や親族」の割合が最も高くなっています。また、「医師・看護師等」、「ケアマネジャー」、「介護保険サービス事業者（ヘルパー等）」の3項目は、【在宅介護高齢者実態調査】の方が10ポイント以上高くなっています。「友人・知人」は【高齢者実態調査】が33.5%と【在宅介護高齢者実態調査】(22.4%)より10ポイント以上高くなっています。

図表4-9-1 困った時等の相談先

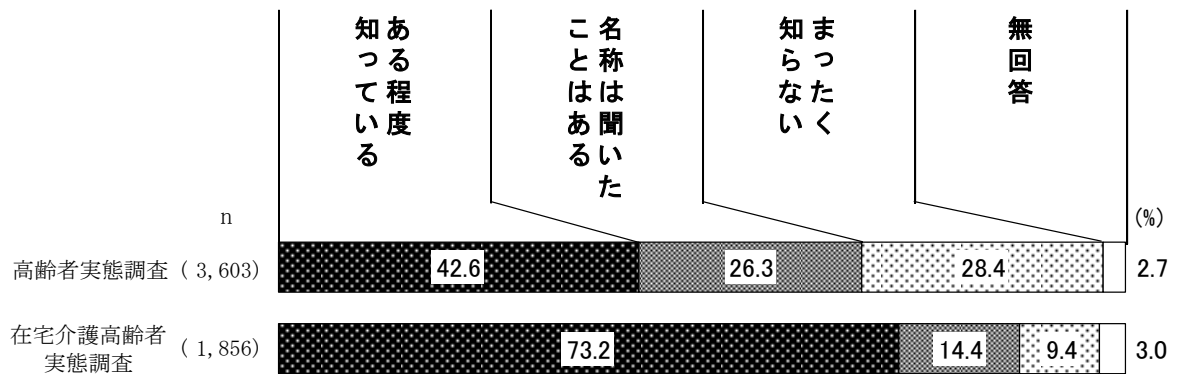


(2) 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況

問 高齢者の総合相談窓口として、区内20カ所に設置している「ケア24（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

「ケア24」の認知状況について、「ある程度知っている」の割合は【在宅介護高齢者実態調査】が73.2%と、【高齢者実態調査】（42.6%）よりも約30ポイント高くなっています。

図表4-9-2 「ケア24（地域包括支援センター）」の認知状況



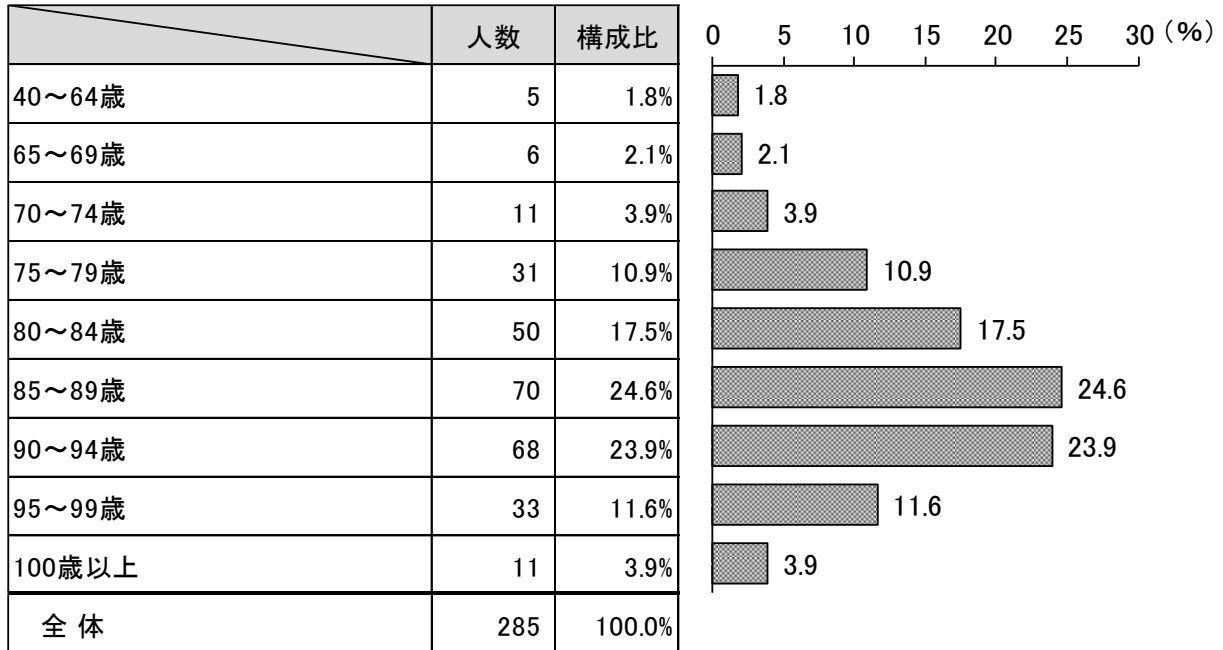
第5章 特別養護老人ホーム入所申込者 実態調査

1. 回答者の属性

(1) 年齢

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

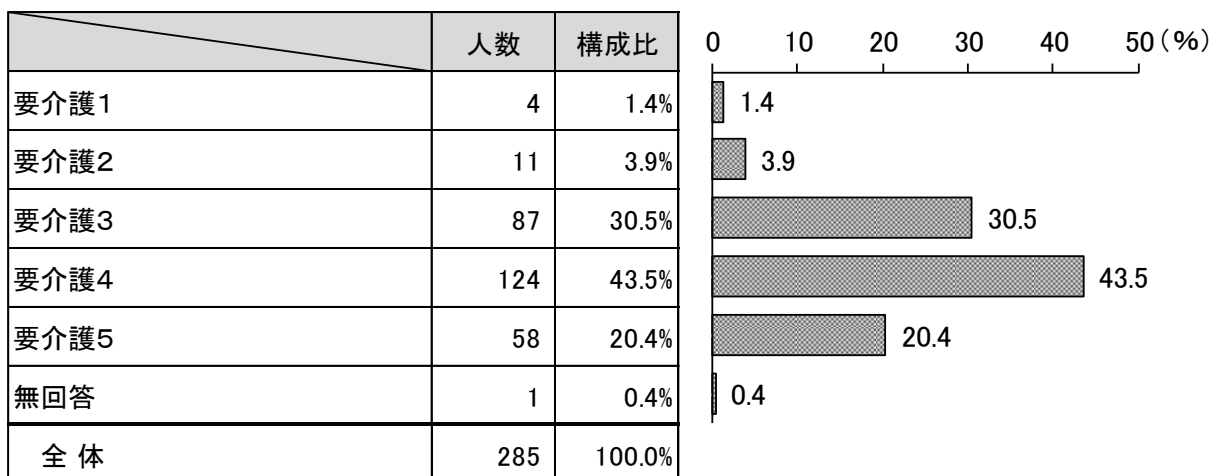
図表5-1-1 年齢



(2) 要介護度

問2 現在のあなたの要介護度を教えてください。(○は1つ)

図表5-1-2 要介護度



※特別養護老人ホームは、原則要介護度3以上の方が入所できる施設ですが、要介護1・2の方も「やむを得ない事情により特別養護老人ホーム以外での生活が著しく困難と認められる方」は申込みできます。

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

年齢別で見ると、【95～99歳】を除き、「要介護4」と「要介護5」が6割以上となっています。

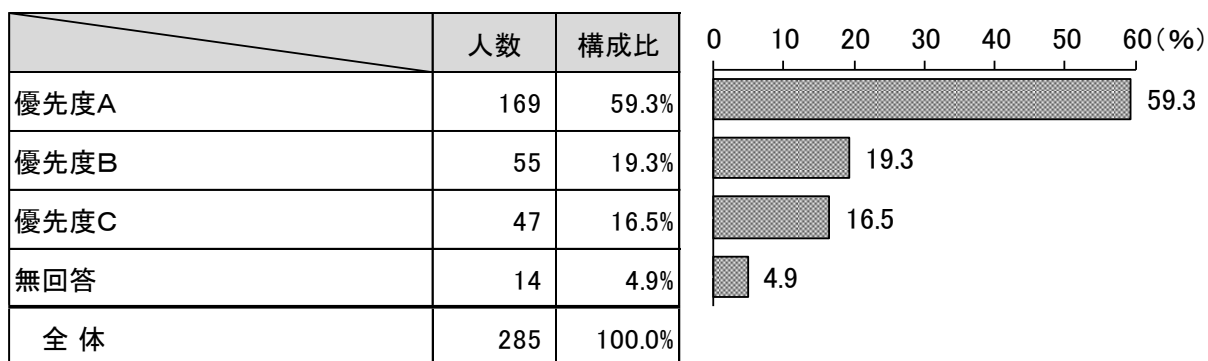
図表5-1-3 要介護度／年齢別

		回答者数 (n)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体		285	1.4	3.9	30.5	43.5	20.4	0.4
年齢	40～64歳	5	-	20.0	20.0	40.0	20.0	-
	65～69歳	6	-	-	16.7	66.7	16.7	-
	70～74歳	11	9.1	9.1	18.2	36.4	27.3	-
	75～79歳	31	3.2	-	12.9	64.5	19.4	-
	80～84歳	50	2.0	2.0	32.0	42.0	22.0	-
	85～89歳	70	-	2.9	34.3	37.1	25.7	-
	90～94歳	68	-	5.9	32.4	50.0	11.8	-
	95～99歳	33	3.0	6.1	39.4	21.2	27.3	3.0
	100歳以上	11	-	-	36.4	54.5	9.1	-

(3) 区の第一次評価（入所の優先度）

問3 特別養護老人ホームへの入所申込み時のあなたの第一次評価（入所の優先度）を教えてください。(○は1つ)

図表5-1-4 第一次評価（入所の優先度）



※区では第一次評価を行い、入所の優先度（緊急度）を判定しております。

優先度A：優先度が高い、優先度B：優先度が中程度、優先度C：優先度が低い

図表5-1-5 要介護度／第一次評価（入所の優先度）別

		回答者数 (n)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体		285	1.4	3.9	30.5	43.5	20.4	0.4
第一次評価	優先度A	169	0.6	1.2	24.3	47.9	25.4	0.6
	優先度B	55	1.8	9.1	40.0	41.8	7.3	-
	優先度C	47	4.3	8.5	42.6	29.8	14.9	-
	無回答	14	-	-	28.6	42.9	28.6	-

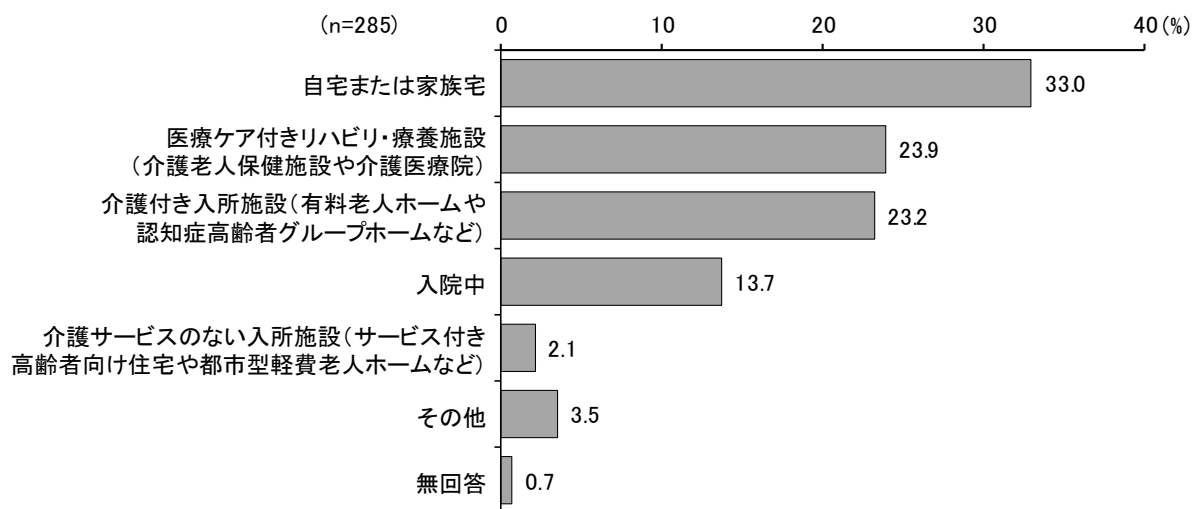
2. 家族や生活の状況について

(1) 生活している場所

問4 現在、生活している場所について教えてください。(〇は1つ)

現在、生活している場所については、「自宅または家族宅」が33.0%で最も高く、次いで「医療ケア付きリハビリ・療養施設（介護老人保健施設や介護医療院）」(23.9%)、「介護付き入所施設（有料老人ホームや認知症高齢者グループホームなど）」(23.2%)と続いています。

図表5-2-1 生活している場所



要介護度別で見ると、【要介護1】～【要介護3】は「自宅または家族宅」が最も高くなっています。【要介護4】は「医療ケア付きリハビリ・療養施設（介護老人保健施設や介護医療院）」が最も高く、【要介護5】は「介護付き入所施設（有料老人ホームや認知症高齢者グループホームなど）」が最も高くなっています。

図表5-2-2 生活している場所／要介護度別

		(%)							
		自宅または 家族宅	医療ケア付 きリハビリ・ 療養施設 (介護老人 保健施設や 介護医療 院)	介護付き入 所施設(有 料老人ホ ームや認 知症高 齢者グ ループホ ームなど)	入院中	介護サー ビスの ない入 所施設 (サー ビス 付き高 齢者 向け住 宅や 都市 型軽 費老 人ホ ーム など)	その他	無回答	
全体		285	33.0	23.9	23.2	13.7	2.1	3.5	0.7
要 介 護 度	要介護1	4	50.0	-	-	25.0	-	25.0	-
	要介護2	11	45.5	9.1	9.1	18.2	-	18.2	-
	要介護3	87	48.3	17.2	24.1	5.7	2.3	1.1	1.1
	要介護4	124	25.8	30.6	21.8	16.1	2.4	2.4	0.8
	要介護5	58	20.7	24.1	29.3	19.0	1.7	5.2	-
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

第一次評価（入所の優先度）別で見ると、【優先度A】と【優先度C】は「自宅または家族宅」が最も高く、【優先度B】は「医療ケア付きリハビリ・療養施設（介護老人保健施設や介護医療院）」と「介護付き入所施設（有料老人ホームや認知症高齢者グループホームなど）」が同率で最も高くなっています。

図表5-2-3 生活している場所／第一次評価（入所の優先度）別

(%)

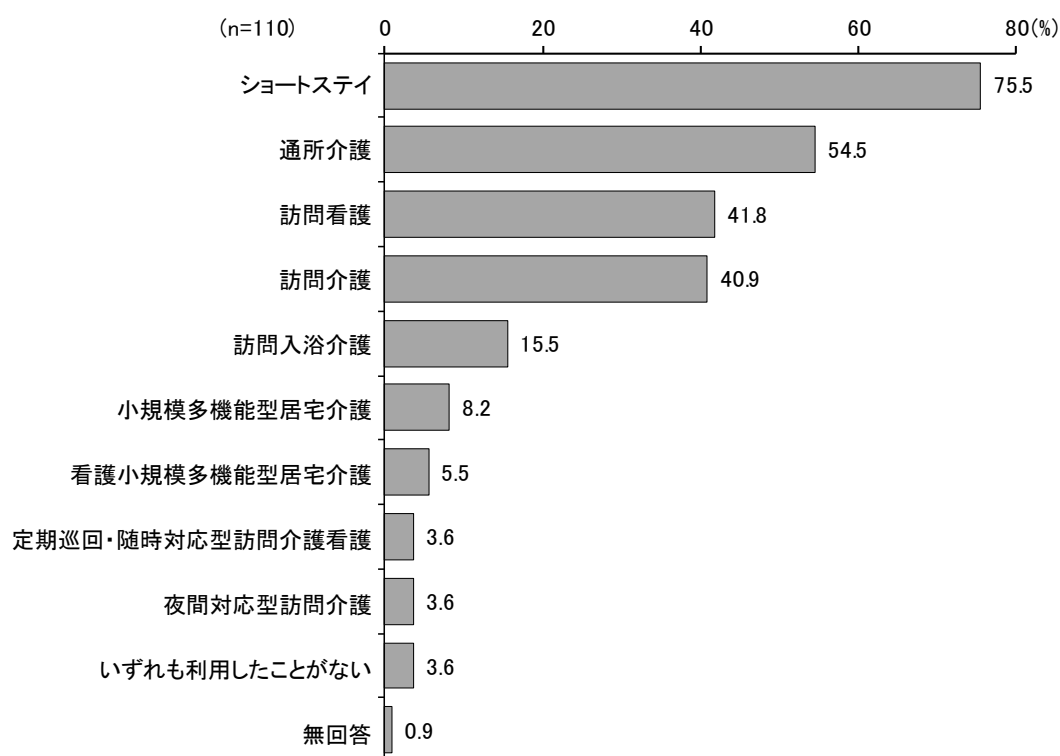
		回答者数 (n)	自宅または 家族宅	医療ケア付 きリハビリ・ 療養施設 (介護老人 保健施設や 介護医療 院)	介護付き入 所施設(有 料老人ホー ムや認知症 高齢者グ ープホー ムなど)	入院中	介護サービ スのない入 所施設 (サービス 付き高齢者 向け住宅や 都市型軽費 老人ホーム など)	その他	無回答
全体		285	33.0	23.9	23.2	13.7	2.1	3.5	0.7
第 一 次 評 価	優先度A	169	34.3	23.7	20.1	13.6	3.0	4.1	1.2
	優先度B	55	25.5	29.1	29.1	14.5	1.8	-	-
	優先度C	47	38.3	17.0	27.7	12.8	-	4.3	-
	無回答	14	28.6	28.6	21.4	14.3	-	7.1	-

(2) 利用中・利用したことがある介護サービス

問5 次の中で、現在利用している、または利用したことがある介護サービスはありますか。
(〇はいくつでも)

問4の生活している場所について、「自宅または家族宅」、「介護サービスのない入所施設（サービス付き高齢者向け住宅や都市型軽費老人ホームなど）」、「その他」と回答した人に利用中・利用したことがある介護サービスについてたずねたところ、「ショートステイ」が75.5%で最も高く、次いで「通所介護」（54.5%）、「訪問看護」（41.8%）と続いています。

図表5-2-4 利用中・利用したことがある介護サービス

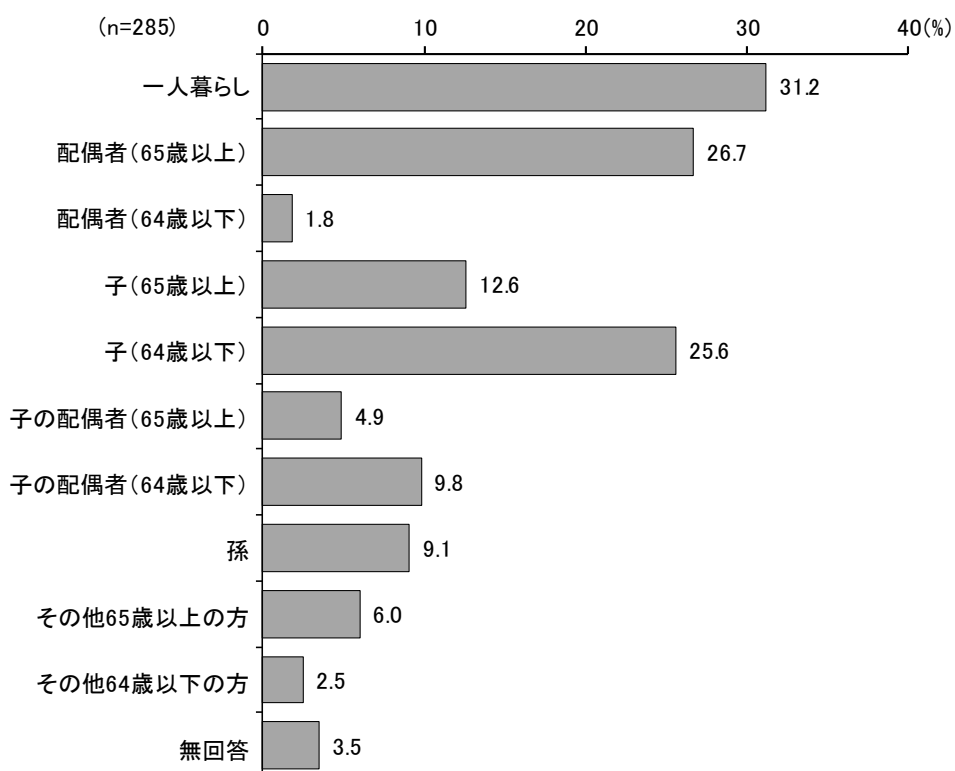


(3) 同居家族

問6 現在、一緒に暮らしている（2世帯住宅を含む）ご家族を教えてください。
 （一人暮らし以外の場合、○はいくつでも）
 ※ 配偶者には事実婚の相手や同性パートナーを含みます。

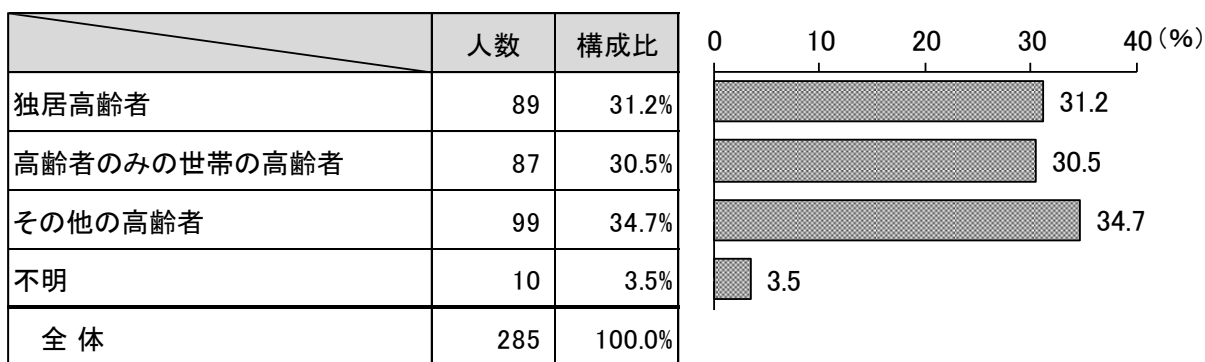
同居家族については、「一人暮らし」が31.2%で最も高く、次いで「配偶者（65歳以上）」（26.7%）、「子（64歳以下）」（25.6%）、「子（65歳以上）」（12.6%）と続いています。

図表5-2-5 同居家族



問6の回答を基に、「独居高齢者」、「高齢者のみの世帯の高齢者」、「その他の高齢者」の3層に集約した結果は下表のとおりです。

図表5-2-6 世帯構成



※「高齢者のみの世帯の高齢者」は、高齢者のみ2人以上の世帯を指します。

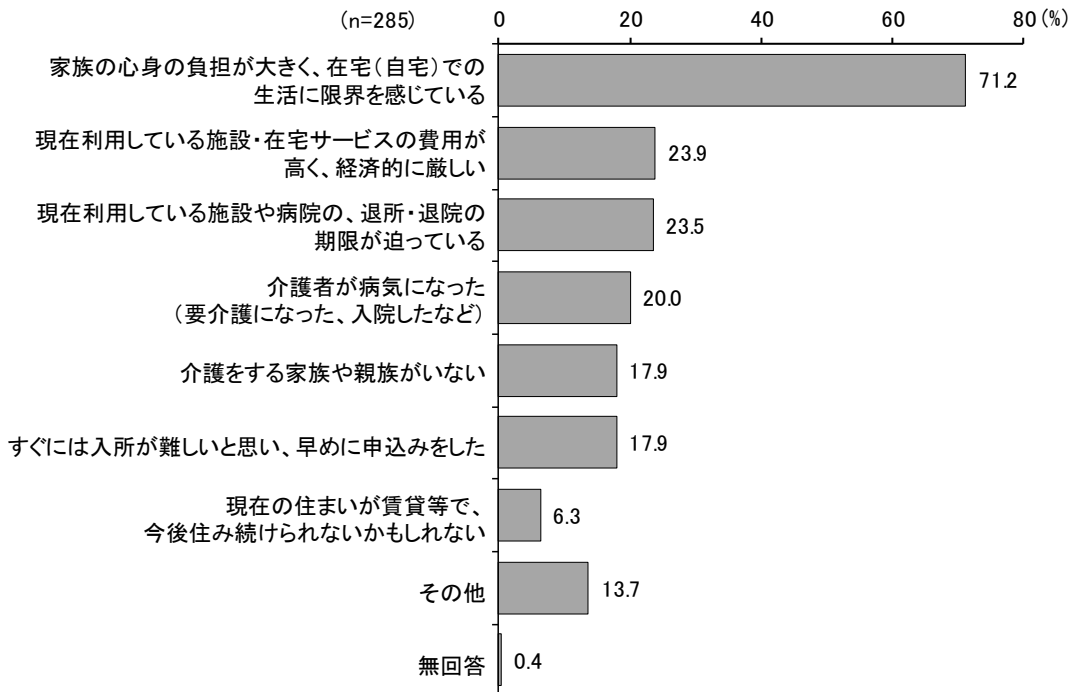
3 特別養護老人ホームへの入所申込みに関することについて

(1) 入所申込み理由

問7 特別養護老人ホームに入所申込みをした理由を教えてください。(〇はいくつでも)

特別養護老人ホームに入所申込みをした理由については、「家族の心身の負担が大きく、在宅（自宅）での生活に限界を感じている」が71.2%で最も高く、次いで「現在利用している施設・在宅サービスの費用が高く、経済的に厳しい」(23.9%)、「現在利用している施設や病院の、退所・退院の期限が迫っている」(23.5%)、「介護者が病気になった（要介護になった、入院したなど）」(20.0%)と続いています。

図表5-3-1 入所申込み理由



「その他」の回答内容(上位7項目)	件数
要介護度・病気の進行	11
自宅にエレベーターがない	3
自宅では病状等に対応できず、生活が困難	3
民間の施設より経済的負担が少ない	2
医療処置に対応してもらえない	2
一人暮らしで生活が困難	2
入所している施設から申込みを勧められた	2

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

要介護度別で見ると、【要介護4】と【要介護5】は「現在利用している施設や病院の、退所・退院の期限が迫っている」、「介護をする家族や親族がない」が他の層と比べて高く、「すぐには入所が難しいと思いい、早めに申込みをした」が他の層と比べて低くなっています。

図表5-3-2 入所申込み理由／要介護度別

(%)

	回答者数 (n)	家族の心身の負担 が大きく、在宅 (自宅)での生活に 限界を感じている	現在利用 している 施設・在 宅サービ スの費用 が高く、 経済的に 厳しい	現在利用 している 施設や病 院の、退 所・退院 の期限が 迫ってい る	介護者が 病気に なった (要介護 になっ た、入院 したなど)	介護をす る家族や 親族がい ない	すぐには 入所が難 しいと思 い、早め に申込み をした	現在の住 まいが賃 貸等で、 今後住み 続けられ ないかも しれない	その他	無回答
全体	285	71.2	23.9	23.5	20.0	17.9	17.9	6.3	13.7	0.4
要 介 護 度	要介護1	4	100.0	-	-	-	25.0	-	25.0	-
	要介護2	11	72.7	27.3	-	18.2	9.1	27.3	9.1	27.3
	要介護3	87	71.3	24.1	17.2	19.5	13.8	26.4	6.9	14.9
	要介護4	124	71.8	21.8	27.4	20.2	21.0	15.3	7.3	10.5
	要介護5	58	67.2	29.3	31.0	22.4	20.7	8.6	3.4	13.8
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0

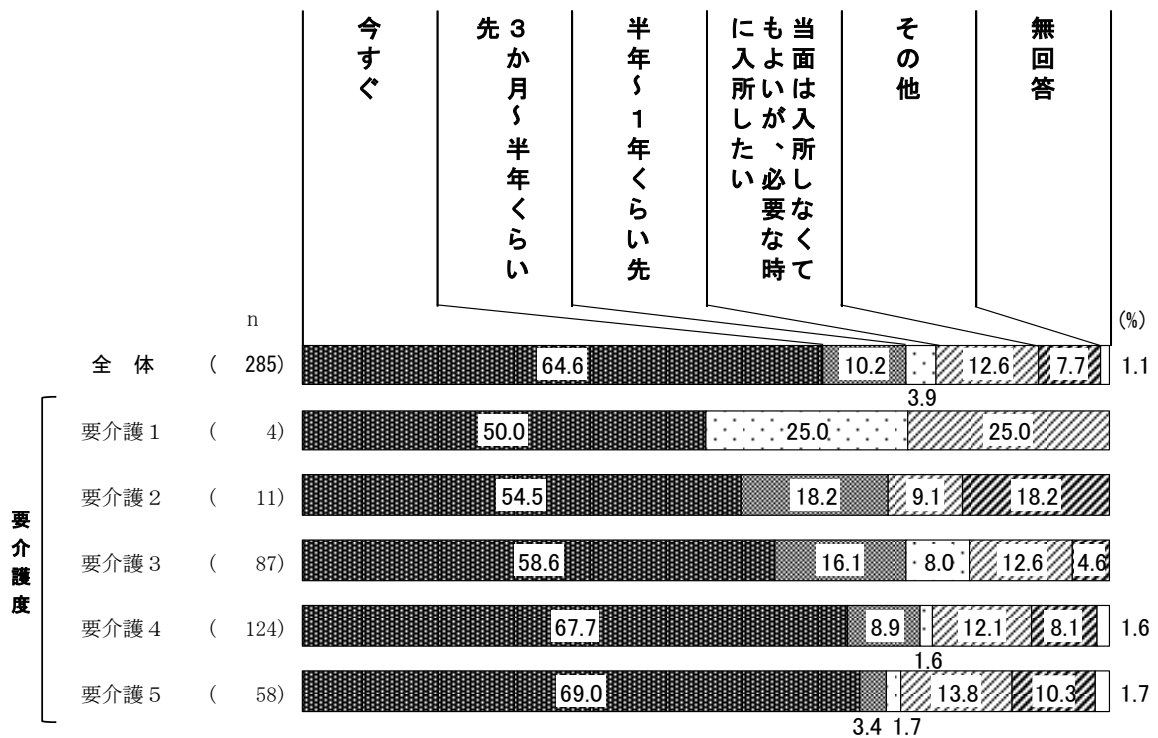
(2) 入所希望時期

問8 特別養護老人ホームに入所したい時期を教えてください。(○は1つ)

特別養護老人ホームに入所したい時期については、「今すぐ」が64.6%で最も高く、次いで「当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい」(12.6%)、「3か月～半年くらい先」(10.2%)と続いています。

要介護度別で見ると、「今すぐ」の割合は要介護度が上がるほど高くなっています。

図表5-3-3 入所希望時期／要介護度別

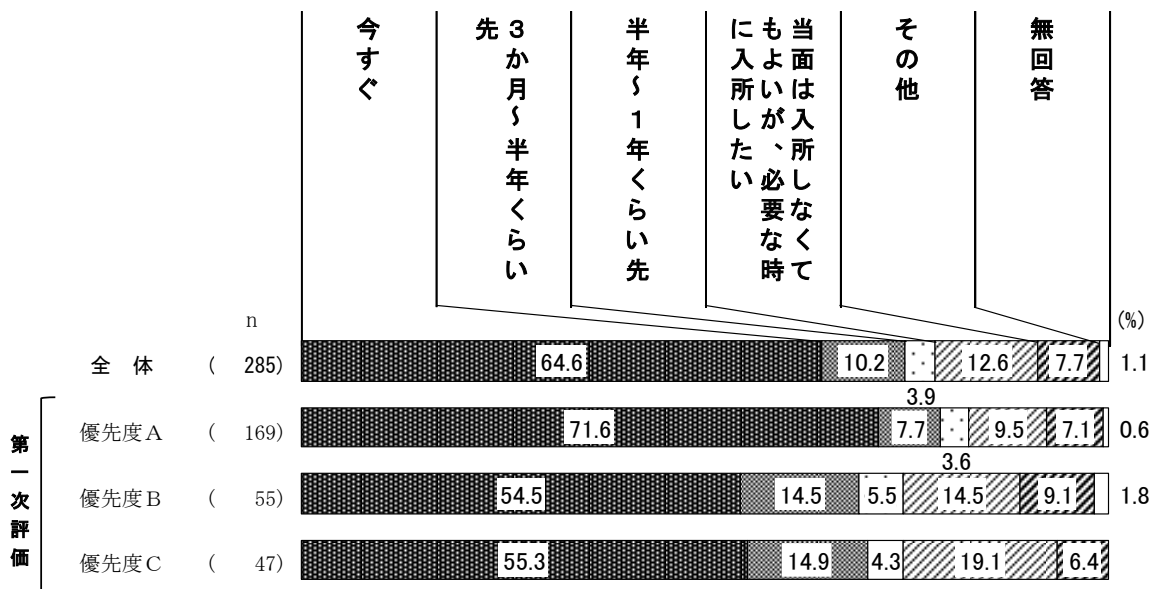


「その他」の回答内容 (上位4項目)	件数
病状の回復や機能面が向上したら	6
他の入所施設へ入所済み	6
老健の退所基準である3か月以内	4
経済的にすぐ入れない	2

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

第一次評価（入所の優先度）別で見ると、「今すぐ」の割合は【優先度A】が71.6%で、他の層と比べて高くなっています。

図表5-3-4 入所希望時期／第一次評価（入所の優先度）別



生活している場所別で見ると、いずれの生活場所においても「今すぐ」の割合が最も高くなっています。また、【自宅または家族宅】と【介護付き入所施設（有料老人ホームや認知症高齢者グループホームなど）】は「当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい」の割合が他の層と比べて高くなっています。

図表5-3-5 入所希望時期／生活している場所別

		回答者数 (n)	今すぐ	3か月〜半年くらい先	半年〜1年くらい先	当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい	その他	無回答
全体		285	64.6	10.2	3.9	12.6	7.7	1.1
生活場所	自宅または家族宅	94	63.8	12.8	4.3	18.1	1.1	-
	入院中	39	56.4	7.7	-	5.1	23.1	7.7
	医療ケア付きリハビリ・療養施設	68	70.6	11.8	4.4	4.4	8.8	-
	介護付き入所施設	66	62.1	7.6	4.5	18.2	7.6	-
	介護サービスのない入所施設	6	83.3	-	-	-	16.7	-
	その他	10	70.0	-	10.0	20.0	-	-
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-

世帯構成別で見ると、いずれの層においても「今すぐ」の割合が6割を超えて最も高いですが、その中でも【独居高齢者】(67.4%)が最も高くなっています。また、「当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい」は【その他の高齢者】(13.1%)が最も高くなっています。

図表5-3-6 入所希望時期／世帯構成別

		回答者数 (n)	今すぐ	3か月～ 半年くらい 先	半年～1 年くらい先	当面は入 所しなくて もよいが、 必要な時 に入所し たい	その他	無回答
全体		285	64.6	10.2	3.9	12.6	7.7	1.1
世帯 構成	独居高齢者	89	67.4	10.1	4.5	10.1	7.9	-
	高齢者のみの世帯の高齢者	87	62.1	10.3	6.9	12.6	8.0	-
	その他の高齢者	99	64.6	10.1	1.0	13.1	8.1	3.0
	不明	10	60.0	10.0	-	30.0	-	-

問7の入所申込み理由別で見ると、【現在利用している施設や病院の、退所・退院の期限が迫っている】と回答した人は「今すぐ」の割合が80.6%と、他の層と比べて高くなっています。また、【すぐには入所が難しいと思い、早めに申込みをした】と回答した人は、「当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい」の割合が29.4%と、他の層と比べて高くなっています。

図表5-3-7 入所希望時期／入所申込み理由別

		回答者数 (n)	今すぐ	3か月～ 半年くらい 先	半年～1 年くらい先	当面は入 所しなくて もよいが、 必要な時 に入所し たい	その他	無回答
全体		285	64.6	10.2	3.9	12.6	7.7	1.1
入所 申込み 理由	家族の心身の負担が大きく、在宅(自宅)での生活に限界を感じている	203	65.0	11.3	4.4	11.8	6.4	1.0
	介護者が病気になった(要介護になった、入院したなど)	57	71.9	12.3	7.0	5.3	3.5	-
	介護をする家族や親族がいない	51	72.5	9.8	2.0	7.8	7.8	-
	現在利用している施設や病院の、退所・退院の期限が迫っている	67	80.6	9.0	-	3.0	7.5	-
	現在利用している施設・在宅サービスの費用が高く、経済的に厳しい	68	75.0	7.4	2.9	10.3	4.4	-
	現在の住まいが賃貸等で、今後住み続けられないかもしれない	18	77.8	-	5.6	5.6	11.1	-
	すぐには入所が難しいと思い、早めに申込みをした	51	41.2	13.7	7.8	29.4	7.8	-
	その他	39	69.2	5.1	2.6	10.3	12.8	-
無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	

(3) 希望する施設形態

問9 次の中で、最も入所を希望する施設を教えてください。(〇は1つ)

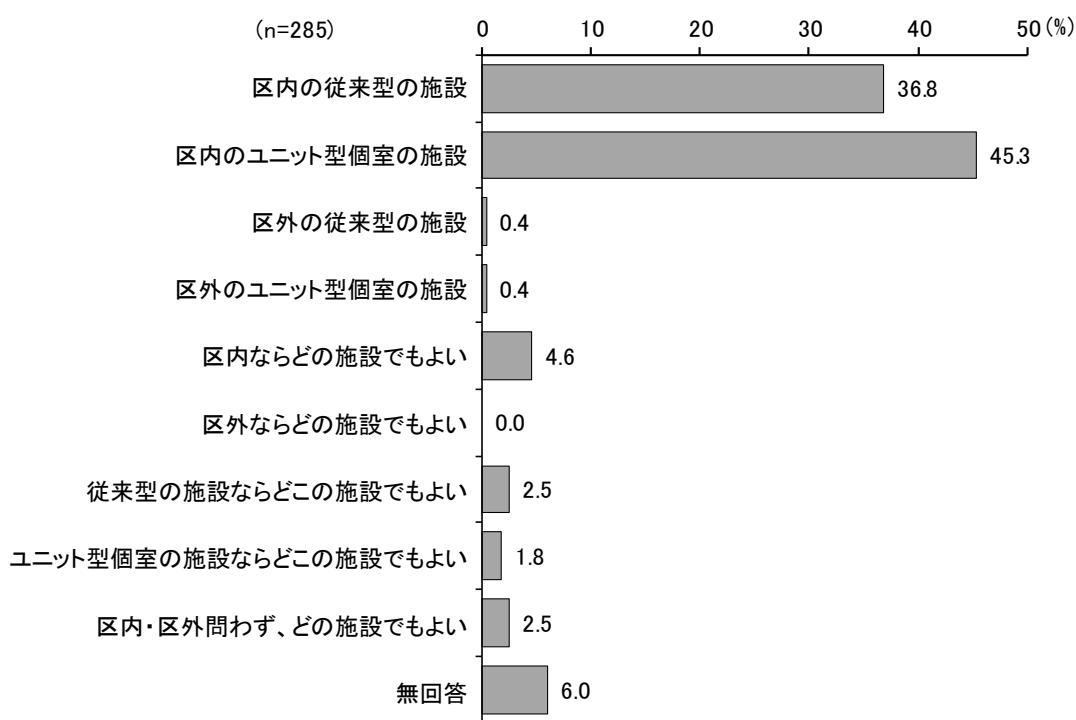
* 【特別養護老人ホームの種類】

- ・従来型…主に4人部屋中心の施設(約102,000～146,000円)
- ・ユニット型個室…個室の施設(約135,000円～201,000円)

※ () 内の金額は、1割負担・要介護5の場合の料金月額目安です。

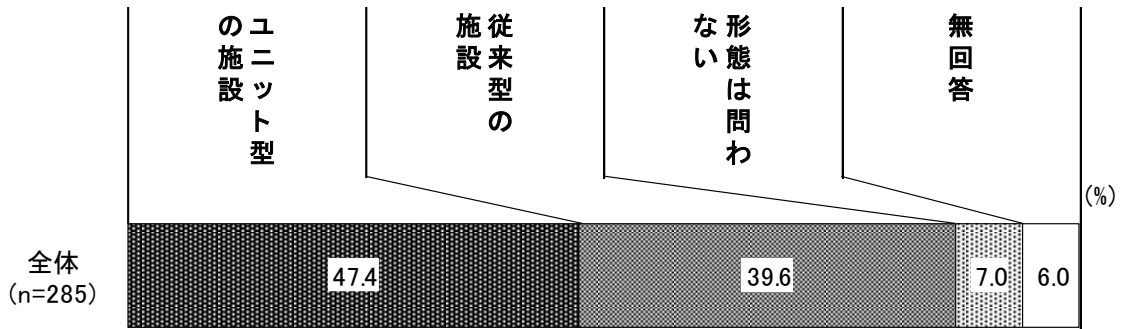
希望する施設形態については、「区内のユニット型個室の施設」が45.3%で最も高く、次いで「区内の従来型の施設」(36.8%)、「区内ならどの施設でもよい」(4.6%)と続いています。

図表5-3-8 希望する施設形態



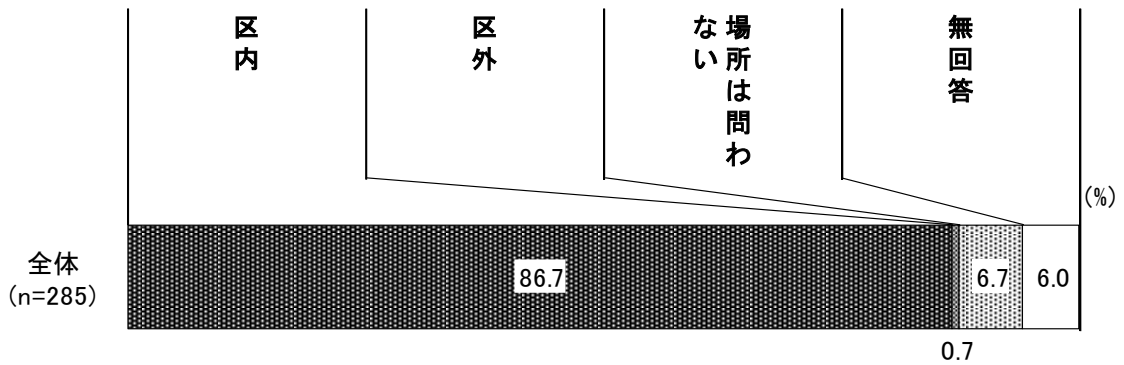
施設の形態について《ユニット型の施設》、《従来型の施設》、《形態は問わない》に集約すると、《ユニット型の施設》が47.4%、《従来型の施設》が39.6%、《形態は問わない》が7.0%となっています。

図表5-3-9 希望する施設の形態



施設の場所について《区内》、《区外》、《場所は問わない》に集約すると、《区内》が86.7%、《区外》が0.7%、《場所は問わない》が6.7%となっています。

図表5-3-10 希望する施設の場所

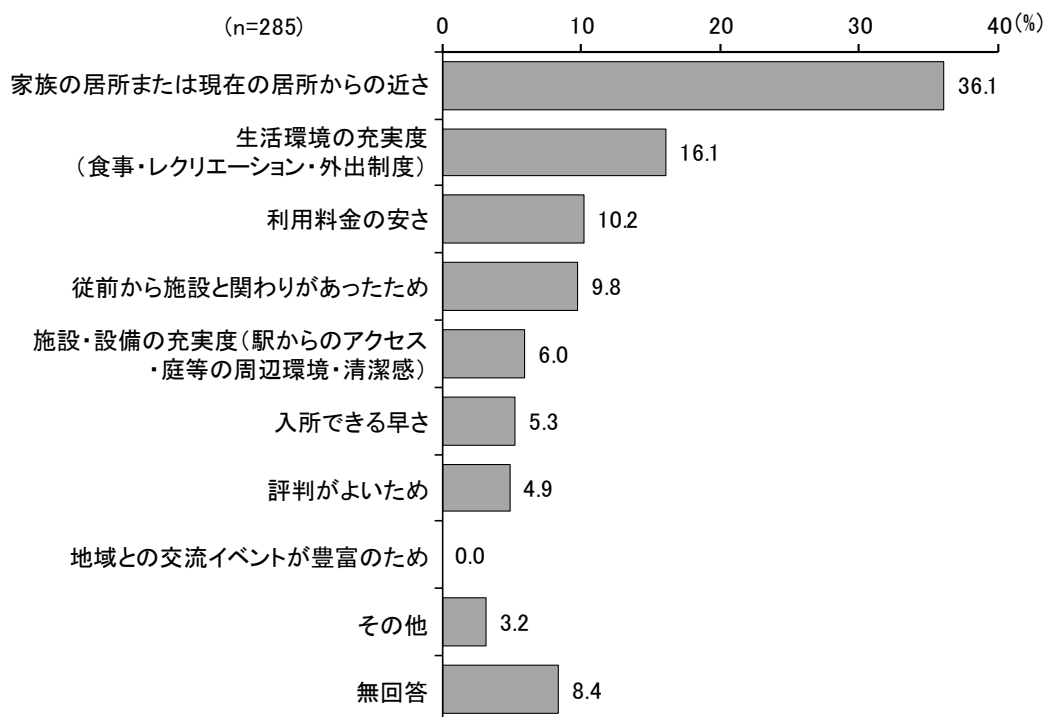


(4) 入所先を選ぶ際に重視すること

問10 入所先の施設を選ぶ時に、あなたが最も重視することを教えてください。(〇は1つ)

入所先を選ぶ際に重視することについては、「家族の居所または現在の居所からの近さ」が36.1%で最も高く、次いで「生活環境の充実度(食事・レクリエーション・外出制度)」(16.1%)、「利用料金の安さ」(10.2%)、「従前から施設と関わりがあったため」(9.8%)と続いています。

図表5-3-11 入所先を選ぶ際に重視すること



問9の希望する施設形態別で見ると、【ユニット型の施設】を希望する人、【従来型の施設】を希望する人、いずれも「家族の居所または現在の居所からの近さ」の割合が最も高くなっていますが、2番目に高い項目は、【ユニット型の施設】を希望する人は「生活環境の充実度（食事・レクリエーション・外出制度）」、【従来型の施設】を希望する人は「利用料金の安さ」となっています。

図表5-3-12 入所先を選ぶ際に重視すること／希望する施設形態別

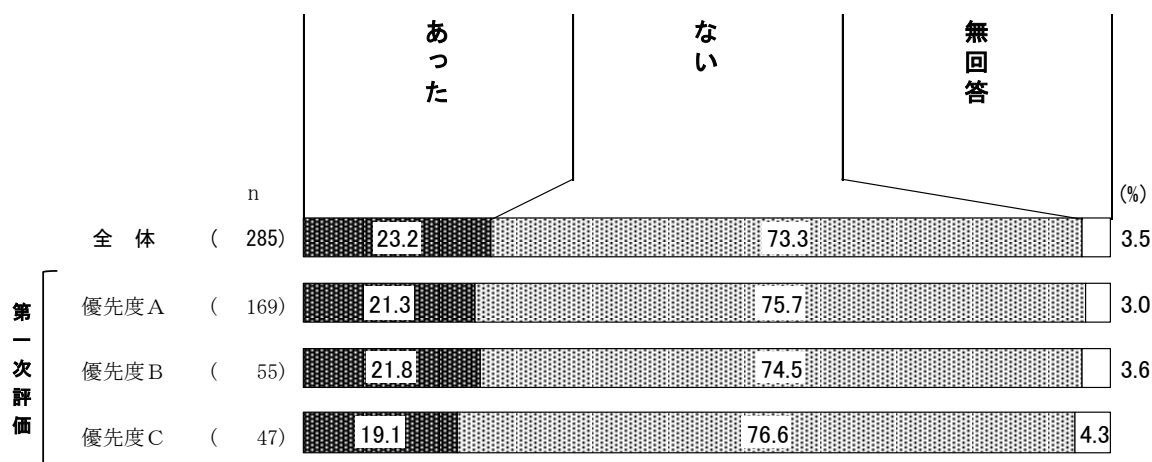
			家族の居所または現在の居所からの近さ	生活環境の充実度（食事・レクリエーション・外出制度）	利用料金の安さ	従前から施設と関わりがあったため	施設・設備の充実度（駅からのアクセス・庭等の周辺環境・清潔感）	入所できる早さ	評判がよいため	地域との交流イベントが豊富のため	その他	無回答	
		回答者数 (n)	(%)										
全体		285	36.1	16.1	10.2	9.8	6.0	5.3	4.9	-	3.2	8.4	
施設形態	希望する	ユニット型の施設	135	42.2	21.5	4.4	8.9	5.9	3.0	4.4	-	4.4	5.2
		従来型の施設	113	32.7	10.6	15.9	12.4	7.1	7.1	7.1	-	1.8	5.3
		形態は問わない	20	20.0	20.0	15.0	10.0	5.0	15.0	-	-	5.0	10.0
		無回答	17	29.4	5.9	11.8	-	-	-	-	-	-	52.9

(5) 入所に関する連絡の有無

問11 入所に関する連絡はありましたか。連絡があった方は、回数も教えてください。
(○は1つ)

入所に関する連絡の有無については、「ない」が73.3%、「あった」が23.2%となっています。
第一次評価（入所の優先度）別で見ると、「あった」の割合はいずれの層でも2割程度となっています。

図表5-3-13 入所に関する連絡の有無／第一次評価（入所の優先度）別



問8の入所希望時期別で見ると、「あった」の割合は、【当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい】と回答した人が33.3%、【今すぐ】と回答した人が21.2%となっています。

図表5-3-14 入所に関する連絡の有無／入所希望時期別

		回答者数 (n)	あった (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体		285	23.2	73.3	3.5
入所希望時期	今すぐ	184	21.2	76.1	2.7
	3か月～半年くらい先	29	20.7	79.3	-
	半年～1年くらい先	11	-	100.0	-
	当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい	36	33.3	61.1	5.6
	その他	22	31.8	54.5	13.6
	無回答	3	66.7	33.3	-

連絡の回数は「1回」の割合が57.6%で最も高く、「2回」(24.2%)、「3回」(7.6%)と続いています。

図表5-3-15 連絡の回数

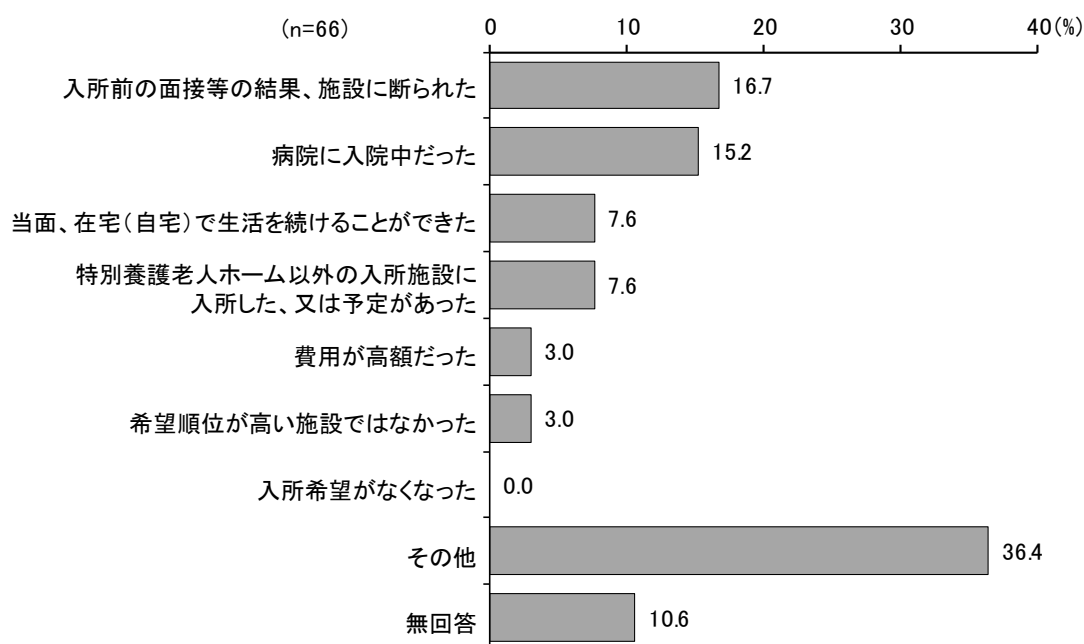
回答者数 (n)	1回 (%)	2回 (%)	3回 (%)	4回 (%)	5回 (%)	6回 (%)	無回答 (%)
66	57.6	24.2	7.6	1.5	-	1.5	7.6

(6) 入所を見合わせた理由

問12 入所に関しての連絡があったが、入所しなかった理由を教えてください。(○は1つ)

問11で入所に関しての連絡があった人に入所を見合わせた理由についてたずねたところ、「その他」を除くと、「入所前の面接等の結果、施設に断られた」が16.7%で最も高く、次いで「病院に入院中だった」(15.2%)、「当面、在宅(自宅)で生活が続けることができた」・「特別養護老人ホーム以外の入所施設に入所した、又は予定があった」(共に7.6%)と続いています。

図表5-3-16 入所を見合わせた理由



「その他」の回答内容(上位2項目)		件数
連絡はあったが、即入所できるような連絡ではなく、空きが出るのを待っている		12
施設のサービスや設備等に不満があり、入所を見合わせた		7

第5章 特別養護老人ホーム入所申込者実態調査

第一次評価（入所の優先度）別で見ると、【優先度A】は「その他」を除くと「病院に入院中だった」（16.7%）の割合が最も高くなっています。

図表5-3-17 入所を見合わせた理由／第一次評価（入所の優先度）別

			(%)								
		回答者数 (n)	入所前の 面接等の 結果、施 設に断ら れた	病院に入 院中だっ た	当面、在 宅(自宅) で生活 を続ける ことが できた	特別養護 老人ホー ム以外 の入所 施設に 入所し た、又 は予定 があっ た	費用が高 額だっ た	希望順位 が高い 施設 ではな かった	入所希望 がなく なっ た	その他	無回答
全体		66	16.7	15.2	7.6	7.6	3.0	3.0	-	36.4	10.6
第 一 次 評 価	優先度A	36	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	2.8	-	44.4	8.3
	優先度B	12	25.0	8.3	16.7	8.3	-	8.3	-	33.3	-
	優先度C	9	33.3	11.1	-	11.1	-	-	-	22.2	22.2
	無回答	9	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-	-	22.2	22.2

連絡回数別で見ると、【1回】の人は「その他」を除くと「病院に入院中だった」（13.2%）が最も高く、【2回以上】の人は「その他」を除くと「入所前の面接等の結果、施設に断られた」（26.1%）が最も高くなっています。

図表5-3-18 入所を見合わせた理由／連絡回数別

			(%)								
		回答者数 (n)	入所前の 面接等の 結果、施 設に断ら れた	病院に入 院中だっ た	当面、在 宅(自宅) で生活 を続ける ことが できた	特別養護 老人ホー ム以外 の入所 施設に 入所し た、又 は予定 があっ た	費用が高 額だっ た	希望順位 が高い 施設 ではな かった	入所希望 がなく なっ た	その他	無回答
全体		66	16.7	15.2	7.6	7.6	3.0	3.0	-	36.4	10.6
連 絡 回 数	1回	38	10.5	13.2	10.5	7.9	2.6	-	-	42.1	13.2
	2回以上	23	26.1	13.0	4.3	4.3	4.3	8.7	-	30.4	8.7
	無回答	5	20.0	40.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-

問8の入所希望時期別で見ると、【今すぐ】と回答した人は「その他」を除くと「入所前の面接等の結果、施設に断られた」(20.5%)が最も高く、【当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい】と回答した人は「特別養護老人ホーム以外の入所施設に入所した、又は予定があった」(41.7%)が最も高くなっています。

図表5-3-19 入所を見合わせた理由／入所希望時期別

(%)

		回答者数 (n)	入所前の 面接等の 結果、施 設に断ら れた	病院に入 院中だっ た	当面、在 宅(自宅) で生活を 続けるこ とができ た	特別養護 老人ホー ム以外の 入所施設 に入所し た、又は 予定があ った	費用が高 額だった	希望順位 が高い施 設ではな かった	入所希望 がなく なった	その他	無回答
全体		66	16.7	15.2	7.6	7.6	3.0	3.0	-	36.4	10.6
入所 希望 時期	今すぐ	39	20.5	7.7	7.7	-	2.6	5.1	-	46.2	10.3
	3か月～半年くらい先	6	-	16.7	16.7	-	-	-	-	50.0	16.7
	半年～1年くらい先	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	当面は入所しなくてもよいが、必要な時に入所したい	12	16.7	8.3	8.3	41.7	-	-	-	16.7	8.3
	その他	7	14.3	42.9	-	-	14.3	-	-	14.3	14.3
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

問9の希望する施設形態別で見ると、【ユニット型の施設】を希望する人は「その他」を除くと「病院に入院中だった」が最も高く、【従来型の施設】を希望する人と【形態は問わない】人は「その他」を除くと「入所前の面接等の結果、施設に断られた」が最も高くなっています。

図表5-3-20 入所を見合わせた理由／希望する施設形態別

(%)

		回答者数 (n)	入所前の 面接等の 結果、施 設に断ら れた	病院に入 院中だっ た	当面、在 宅(自宅) で生活を 続けるこ とができ た	特別養護 老人ホー ム以外の 入所施設 に入所し た、又は 予定があ った	費用が高 額だった	希望順位 が高い施 設ではな かった	入所希望 がなく なった	その他	無回答
全体		66	16.7	15.2	7.6	7.6	3.0	3.0	-	36.4	10.6
施 設 希 望 形 態	ユニット型の施設	33	9.1	21.2	12.1	9.1	-	-	-	39.4	9.1
	従来型の施設	18	27.8	-	5.6	11.1	-	11.1	-	33.3	11.1
	形態は問わない	8	25.0	12.5	-	-	-	-	-	62.5	-
	無回答	7	14.3	28.6	-	-	28.6	-	-	-	28.6

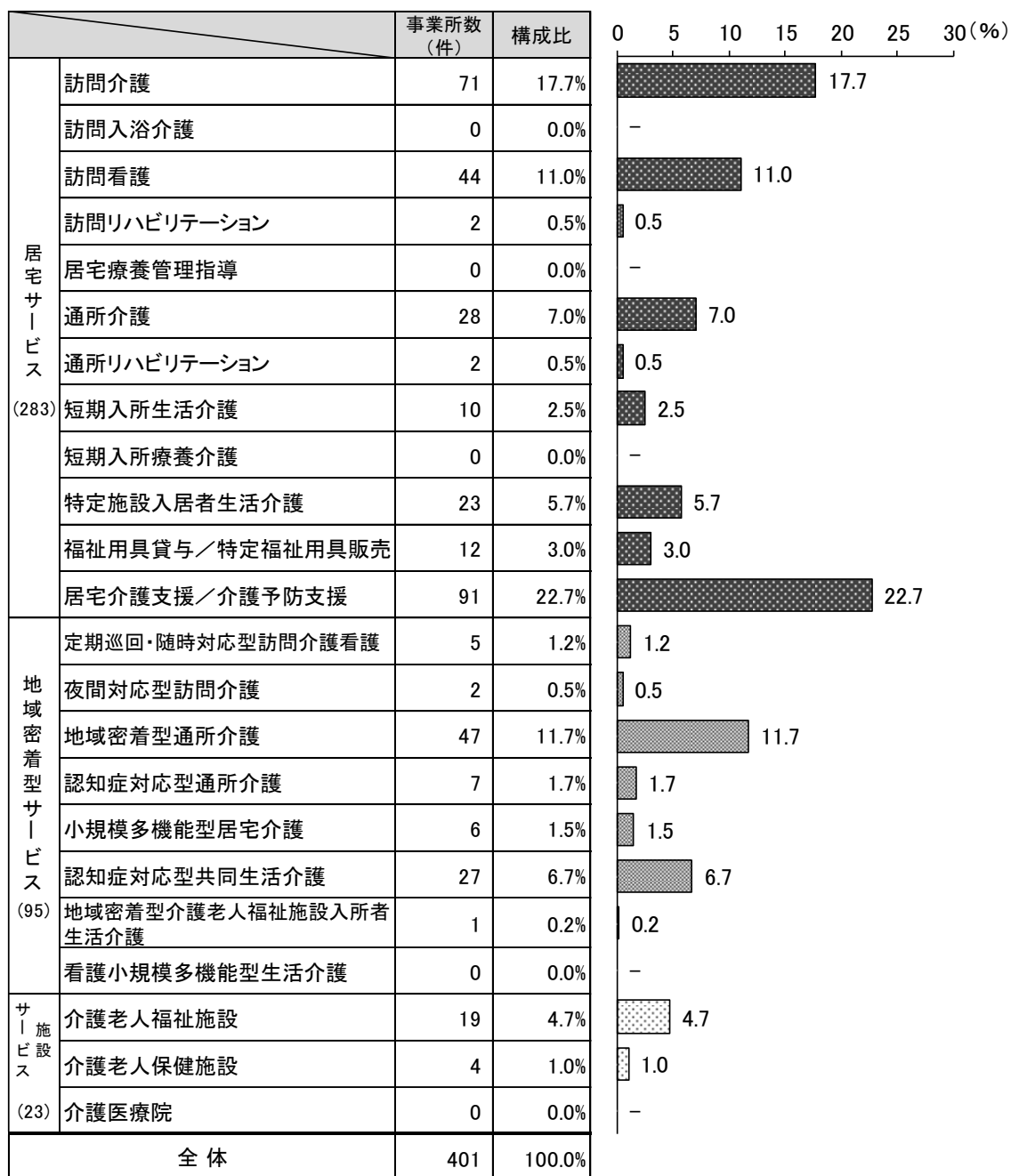
第6章 介護サービス事業所等実態調査

1 回答事業所・施設の概要

(1) サービス種別

問1 貴事業所・施設のサービス種別を次の中から選んでください。(回答は1つ)

図表6-1-1 サービス種別

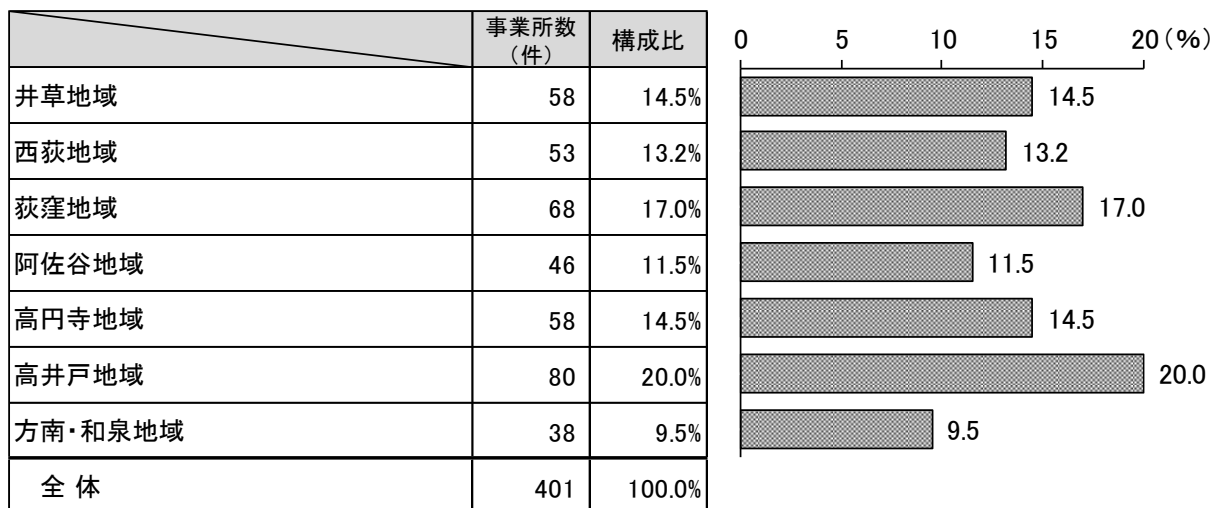


※ () は事業所数です。

(2) 圏域

問2 貴事業所・施設の圏域をお答えください。(回答は1つ)

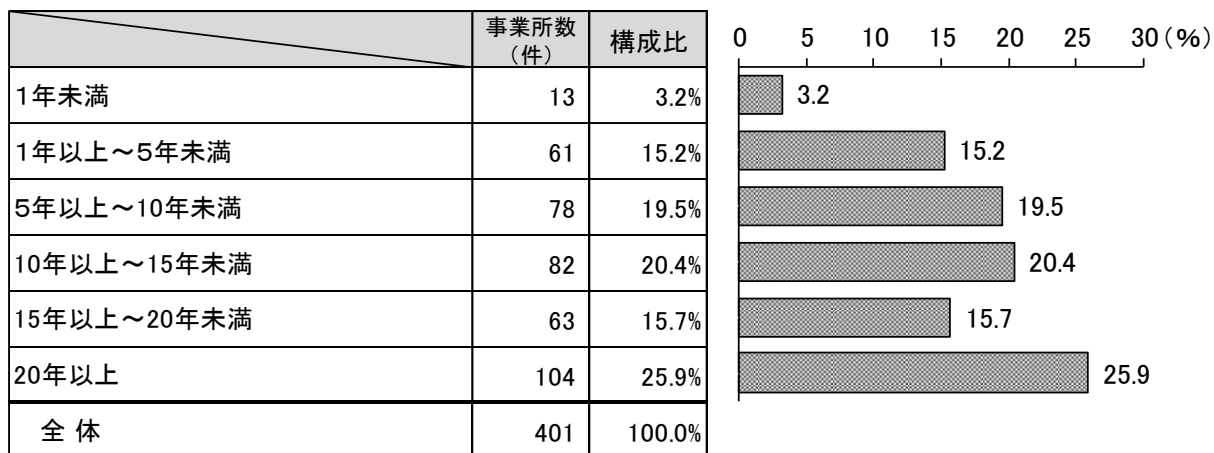
図表6-1-2 圏域



(3) 開設から現在までの実年数

問3 貴事業所・施設の開設から現在までの実年数をお答えください。(回答は1つ)

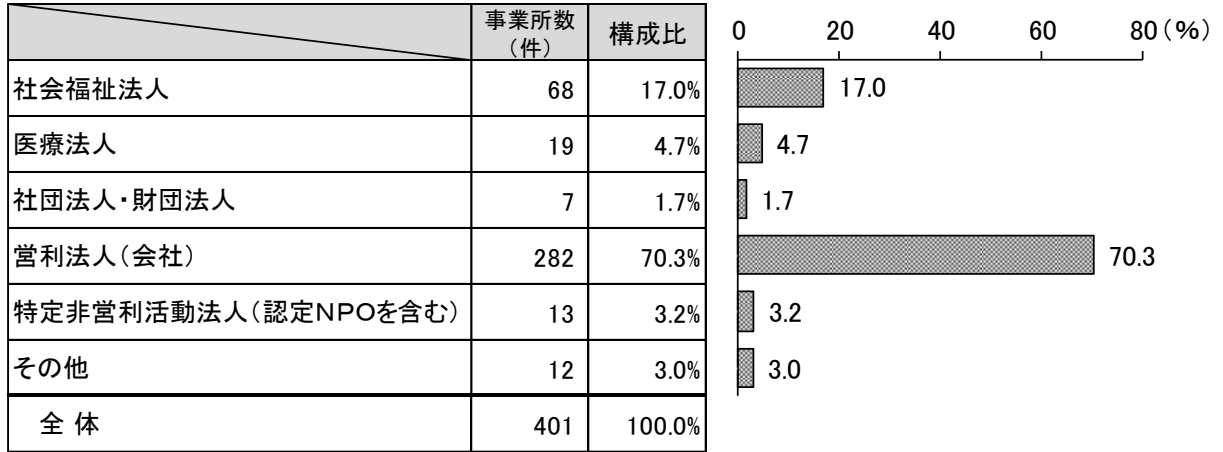
図表6-1-3 開設から現在までの実年数



(4) 法人形態

問4 貴事業所・施設の法人形態をお答えください。(回答は1つ)

図表6-1-4 法人形態

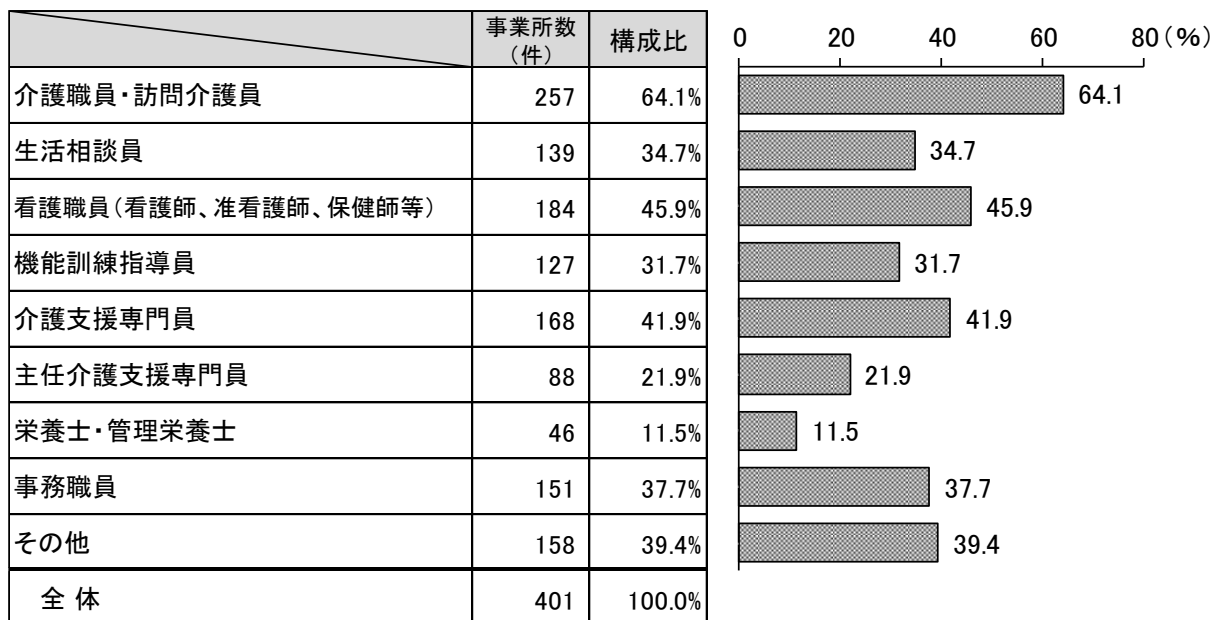


2 従業員について

(1) 現在配置されている従業員の職種

問5 貴事業所・施設において現在配置されている従業員の職種をお答えください。
(回答はいくつでも)

図表6-2-1 現在配置されている従業員の職種



図表6-2-2 現在配置されている従業員の職種／サービス種別

(上段:事業所数、下段:構成比)

	全体	介護職員・ 訪問介護員	生活相談員	看護職員 (看護師、 准看護師、 保健師等)	機能訓練 指導員	介護支援 専門員	主任介護 支援専門 員	栄養士・管 理栄養士	事務職員	その他
居宅サービス	283 100.0%	139 49.1%	60 21.2%	109 38.5%	59 20.8%	110 38.9%	86 30.4%	17 6.0%	107 37.8%	88 31.1%
地域密着型 サービス	95 100.0%	95 100.0%	57 60.0%	52 54.7%	45 47.4%	35 36.8%	1 1.1%	6 6.3%	21 22.1%	49 51.6%
施設サービス	23 100.0%	23 100.0%	22 95.7%	23 100.0%	23 100.0%	23 100.0%	1 4.3%	23 100.0%	23 100.0%	21 91.3%
全体	401 100.0%	257 64.1%	139 34.7%	184 45.9%	127 31.7%	168 41.9%	88 21.9%	46 11.5%	151 37.7%	158 39.4%

(2) 従業員数

問6 貴事業所・施設における、勤務形態・年代別及び在職年数別の従業員数（派遣職員・無資格の介護補助員・ボランティアは除く）を教えてください。（数値記入）

※問5で現在配置されている従業員がいると回答した職種についてたずねました。

従業員数についてサービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は「1～4人」、【地域密着型サービス】事業所は「15～19人」、【施設サービス】事業所は「50人以上」が最も高くなっています。

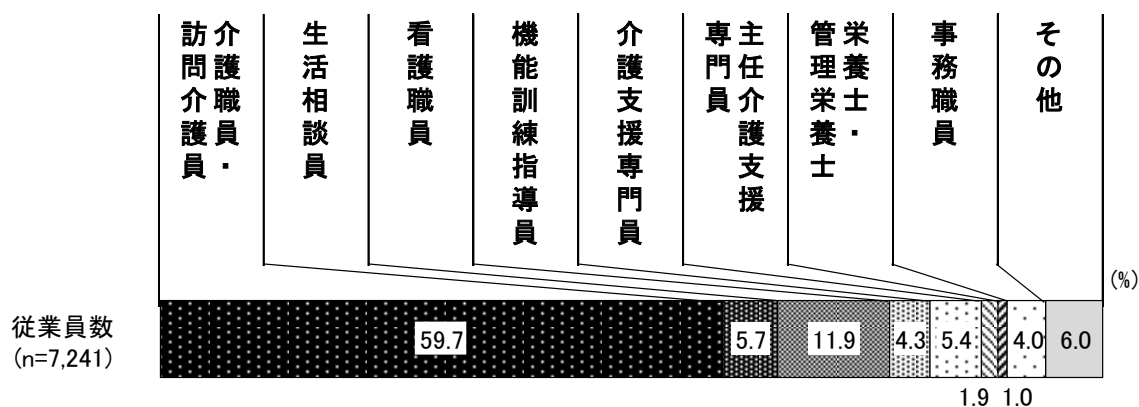
図表6-2-3 従業員数／サービス種別

	事業所数 (n)	1～4人	5～9人	10～14 人	15～19 人	20～29 人	30～39 人	40～49 人	50人以上
全体	401	18.2	20.7	19.2	16.2	11.2	5.5	3.2	5.7
居宅サービス	283	25.8	23.7	17.7	11.3	11.7	4.9	2.5	2.5
訪問介護	71	5.6	26.8	28.2	19.7	12.7	5.6	-	1.4
訪問看護	44	11.4	36.4	27.3	15.9	4.5	2.3	2.3	-
訪問リハビリテーション	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
通所介護	28	-	7.1	25.0	21.4	28.6	10.7	3.6	3.6
通所リハビリテーション	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-
短期入所生活介護	10	-	-	10.0	10.0	-	10.0	30.0	40.0
特定施設入居者生活介護	23	4.3	-	4.3	4.3	52.2	21.7	8.7	4.3
福祉用具貸与／特定福祉用具販売	12	50.0	33.3	8.3	-	8.3	-	-	-
居宅介護支援／介護予防支援	91	61.5	27.5	6.6	3.3	1.1	-	-	-
地域密着型サービス	95	-	16.8	28.4	34.7	12.6	5.3	1.1	1.1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	5	-	-	20.0	60.0	-	20.0	-	-
夜間対応型訪問介護	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-
地域密着型通所介護	47	-	25.5	29.8	29.8	10.6	2.1	2.1	-
認知症対応型通所介護	7	-	14.3	14.3	57.1	14.3	-	-	-
小規模多機能型居宅介護	6	-	16.7	50.0	33.3	-	-	-	-
認知症対応型共同生活介護	27	-	7.4	25.9	33.3	18.5	11.1	-	3.7
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-
施設サービス	23	-	-	-	-	-	13.0	21.7	65.2
介護老人福祉施設	19	-	-	-	-	-	15.8	26.3	57.9
介護老人保健施設	4	-	-	-	-	-	-	-	100.0

第6章 介護サービス事業所等実態調査

全従業員（7,241人）の職種別割合については、「介護職員・訪問介護員」が59.7%で最も高く、次いで「看護職員（看護師、准看護師、保健師等）」（11.9%）、「その他（管理者、医師、歯科医師、薬剤師、福祉用具専門相談員など）」（6.0%）と続いています。

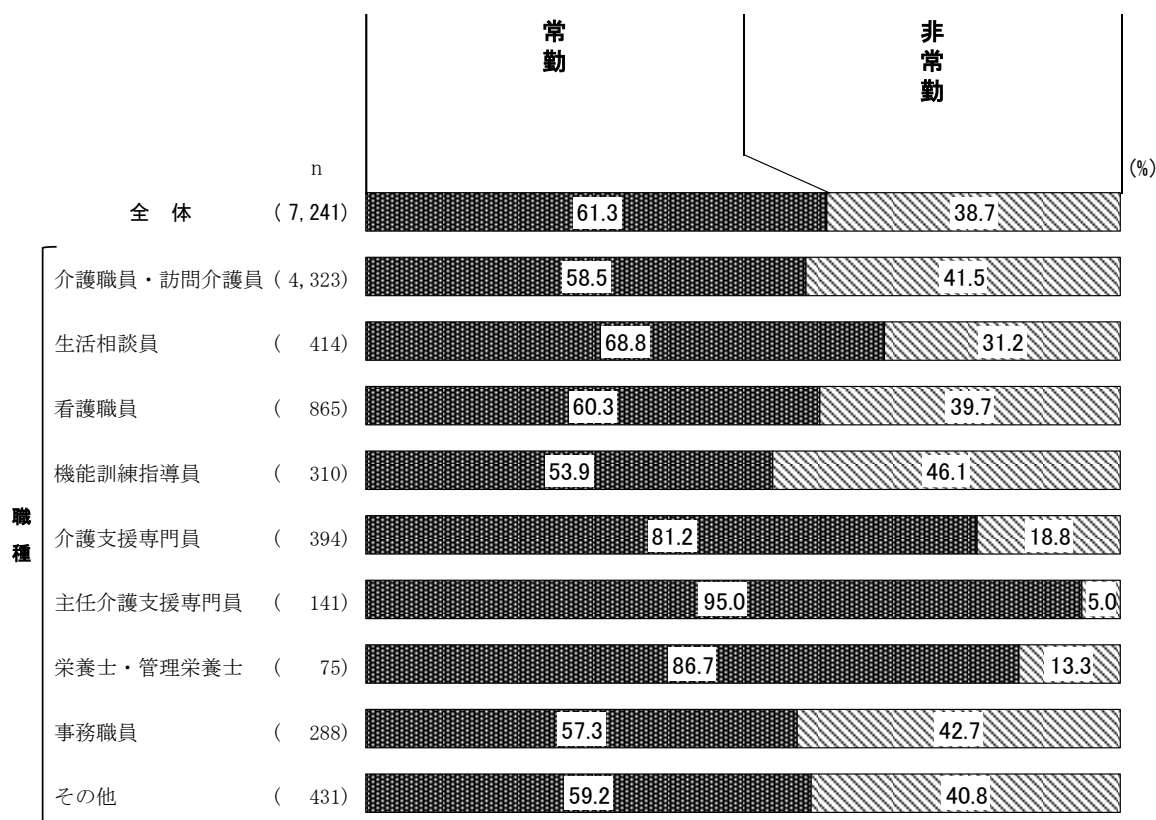
図表6-2-4 全従業員の職種別割合



全従業員（7,241人）の勤務形態別割合については、「常勤」が61.3%、「非常勤」が38.7%となっています。

職種別で見ると、「常勤」の割合は【主任介護支援専門員】が95.0%で最も高く、【栄養士・管理栄養士】（86.7%）、【介護支援専門員】（81.2%）も8割を超えています。

図表6-2-5 全従業員の勤務形態別割合／職種別



全従業員（7,241人）の年齢別割合については、「50～59歳」が25.5%で最も高く、次いで「40～49歳」（23.0%）、「60～69歳」（17.0%）、「30～39歳」（15.7%）と続いています。

職種別で見ると、【栄養士・管理栄養士】は40歳未満の割合が49.3%で、他の職種と比べて高くなっています。

図表6-2-6 全従業員の年齢別割合／職種別

		従業員数 (n)	(%)						
			29歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70歳以上	年齢不明
全体		7,241	11.0	15.7	23.0	25.5	17.0	7.3	0.4
職種	介護職員・訪問介護員	4,323	13.3	16.6	20.5	24.5	16.9	8.0	0.1
	生活相談員	414	6.3	13.0	30.0	26.3	18.4	6.0	-
	看護職員	865	10.3	17.9	24.3	27.3	14.6	4.6	1.0
	機能訓練指導員	310	13.5	23.2	26.8	19.7	12.3	3.9	0.6
	介護支援専門員	394	-	6.9	26.9	33.0	23.4	7.9	2.0
	主任介護支援専門員	141	-	2.8	26.2	36.2	26.2	7.1	1.4
	栄養士・管理栄養士	75	21.3	28.0	30.7	13.3	2.7	1.3	2.7
	事務職員	288	4.9	12.2	31.3	26.4	19.4	5.9	-
	その他	431	7.4	12.5	25.1	25.8	17.6	11.1	0.5

全従業員（7,241人）の在職年数別割合については、「10年以上」が26.7%で最も高く、次いで「1年以上3年未満」（23.4%）、「5年以上10年未満」（19.9%）と続いています。

職種別で見ると、3年未満の職員は、【看護職員（看護師、准看護師、保健師等）】が51.1%で最も高く、【栄養士・管理栄養士】（42.7%）も4割を超えています。一方で、「10年以上」の職員は【主任介護支援専門員】が46.8%で最も高く、【生活相談員】（40.3%）も4割を超えています。

図表6-2-7 全従業員の在職年数別割合／職種別

		従業員数 (n)	(%)				
			1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
全体		7,241	14.7	23.4	15.3	19.9	26.7
職種	介護職員・訪問介護員	4,323	14.9	23.5	16.0	19.4	26.1
	生活相談員	414	7.7	17.6	13.3	21.0	40.3
	看護職員	865	20.8	30.3	18.0	17.6	13.3
	機能訓練指導員	310	14.2	24.8	15.2	24.5	21.3
	介護支援専門員	394	10.9	19.5	9.6	20.6	39.3
	主任介護支援専門員	141	11.3	12.1	4.3	25.5	46.8
	栄養士・管理栄養士	75	20.0	22.7	8.0	33.3	16.0
	事務職員	288	10.8	20.1	15.6	22.6	30.9
	その他	431	13.7	22.0	13.9	19.0	31.3

(3) 採用者数

問7 令和6年4月1日以降、令和7年7月1日までの貴事業所・施設における、勤務形態・年代別の採用者数（派遣職員・無資格の介護補助員・ボランティアは除く）を教えてください。（数値記入）

※問5で現在配置されている従業員がいると回答した職種についてたずねました。

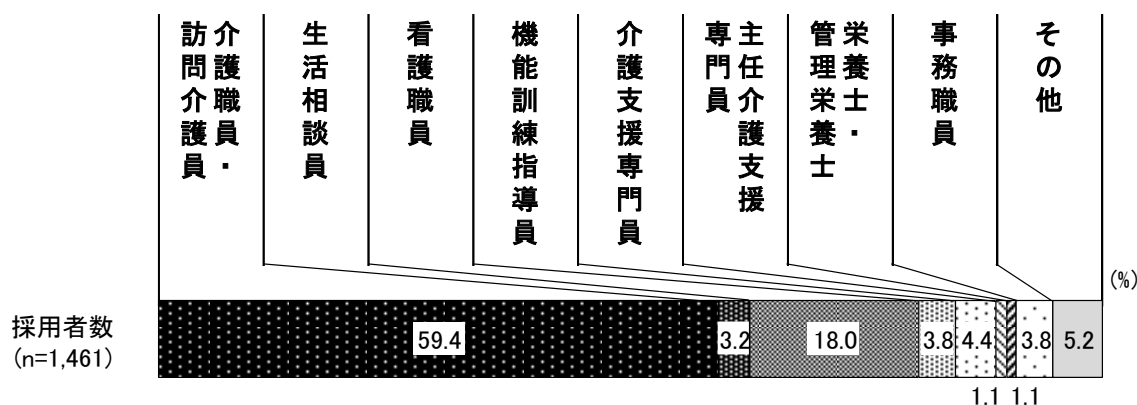
採用者数についてサービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は「0人」、【地域密着型サービス】事業所は「1～3人」、【施設サービス】事業所は「10人以上」が最も高くなっています。

図表6-2-8 採用者数／サービス種別

		(%)				
	事業所数 (n)	0人	1～3人	4～6人	7～9人	10人以上
全体	401	31.2	38.4	15.0	6.7	8.7
居宅サービス	283	38.5	33.9	15.2	6.7	5.7
訪問介護	71	45.1	33.8	14.1	5.6	1.4
訪問看護	44	13.6	50.0	20.5	11.4	4.5
訪問リハビリテーション	2	100.0	-	-	-	-
通所介護	28	17.9	17.9	35.7	17.9	10.7
通所リハビリテーション	2	50.0	50.0	-	-	-
短期入所生活介護	10	-	20.0	20.0	10.0	50.0
特定施設入居者生活介護	23	4.3	21.7	34.8	17.4	21.7
福祉用具貸与／特定福祉用具販売	12	58.3	33.3	8.3	-	-
居宅介護支援／介護予防支援	91	60.4	36.3	3.3	-	-
地域密着型サービス	95	15.8	56.8	14.7	7.4	5.3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	5	20.0	60.0	-	20.0	-
夜間対応型訪問介護	2	-	100.0	-	-	-
地域密着型通所介護	47	19.1	55.3	14.9	4.3	6.4
認知症対応型通所介護	7	28.6	71.4	-	-	-
小規模多機能型居宅介護	6	16.7	50.0	33.3	-	-
認知症対応型共同生活介護	27	7.4	55.6	18.5	11.1	7.4
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	-	-	-	100.0	-
施設サービス	23	4.3	17.4	13.0	4.3	60.9
介護老人福祉施設	19	-	15.8	15.8	5.3	63.2
介護老人保健施設	4	25.0	25.0	-	-	50.0

全採用者（1,461人）の職種別割合については、「介護職員・訪問介護員」が59.4%で最も高く、次いで「看護職員（看護師、准看護師、保健師等）」（18.0%）、「その他（管理者、医師、歯科医師、薬剤師、福祉用具専門相談員など）」（5.2%）と続いています。

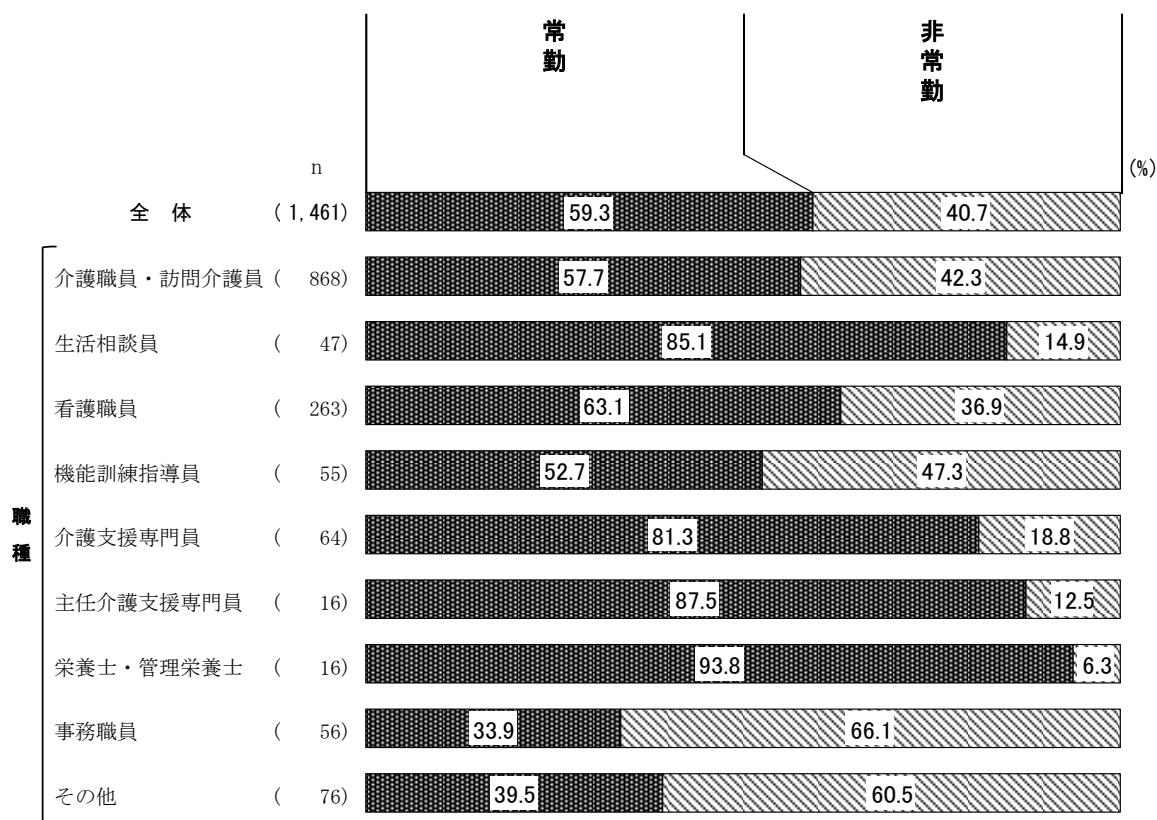
図表6-2-9 全採用者の職種別割合



全採用者（1,461人）の勤務形態別割合については、「常勤」が59.3%、「非常勤」が40.7%となっています。

職種別で見ると、「常勤」の割合は【栄養士・管理栄養士】が93.8%で最も高く、【主任介護支援専門員】（87.5%）、【生活相談員】（85.1%）、【介護支援専門員】（81.3%）も8割を超えています。

図表6-2-10 全採用者の勤務形態別割合／職種別



第6章 介護サービス事業所等実態調査

全採用者（1,461人）の年齢別割合については、「29歳以下」が23.1%で最も高く、次いで「50～59歳」（21.9%）、「30～39歳」（20.5%）、「40～49歳」（18.8%）と続いています。

職種別で見ると、40歳未満の割合は、【機能訓練指導員】（58.2%）と【介護職員・訪問介護員】で5割を超え、他の職種と比べて高くなっています。

図表6-2-11 全採用者の年齢別割合／職種別

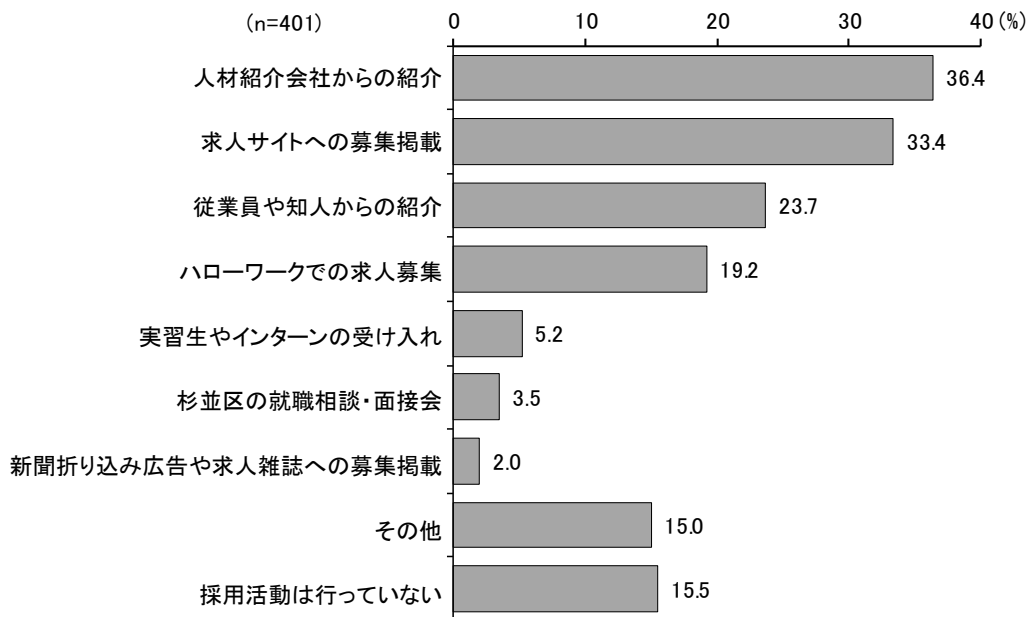
		(%)							
		採用者数 (n)	29歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70歳以上	年齢不明
全体		1,461	23.1	20.5	18.8	21.9	12.3	3.4	0.1
職種	介護職員・訪問介護員	868	27.5	23.7	16.8	17.9	9.9	4.1	-
	生活相談員	47	19.1	4.3	25.5	29.8	21.3	-	-
	看護職員	263	20.5	20.2	21.7	25.9	11.0	0.8	-
	機能訓練指導員	55	25.5	32.7	14.5	14.5	12.7	-	-
	介護支援専門員	64	-	6.3	23.4	42.2	23.4	3.1	1.6
	主任介護支援専門員	16	-	-	25.0	31.3	31.3	12.5	-
	栄養士・管理栄養士	16	18.8	18.8	37.5	25.0	-	-	-
	事務職員	56	14.3	3.6	28.6	33.9	17.9	1.8	-
	その他	76	13.2	14.5	14.5	26.3	23.7	7.9	-

(4) 従業員採用で効果的だった取組

問8 令和6年4月1日以降の従業員採用で効果的だった取組についてお答えください。
(回答はいくつでも)

従業員採用で効果的だった取組については、「人材紹介会社からの紹介」が36.4%で最も高く、次いで「求人サイトへの募集掲載」(33.4%)、「従業員や知人からの紹介」(23.7%)、「ハローワークでの求人募集」(19.2%)と続いています。

図表6-2-12 従業員採用で効果的だった取組



「その他」の回答内容 (上位5項目)	件数
効果的な取組はない	17
ホームページ・SNS	12
チラシ・ポスター	6
法人内異動	4
本社対応のため該当なし	4

第6章 介護サービス事業所等実態調査

サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【施設サービス】事業所は「人材紹介会社からの紹介」が最も高く、【地域密着型サービス】事業所は「求人サイトへの募集掲載」（47.4%）が最も高くなっています。また、【居宅サービス】事業所は「採用活動は行っていない」（20.5%）が他のサービス種別と比べて高く、【施設サービス】事業所は「ハローワークでの求人募集」、「実習生やインターンの受け入れ」が他のサービス種別と比べて高くなっています。

図表6-2-13 従業員採用で効果的だった取組／サービス種別

		事業所数 (n)	人材紹介 会社から の紹介	求人サイ トへの募 集掲載	従業員や 知人から の紹介	ハロー ワークで の求人募 集	実習生や インターン の受け入 れ	杉並区 の就職相 談・面接 会	新聞折り 込み広告 や求人雑 誌への募 集掲載	その他	採用活動 は行って いない
全体		401	36.4	33.4	23.7	19.2	5.2	3.5	2.0	15.0	15.5
サ ー ビ ス 種 別	居宅サービス	283	35.7	29.7	22.6	15.5	3.5	3.2	2.1	14.5	20.5
	地域密着型サービス	95	31.6	47.4	26.3	20.0	6.3	4.2	1.1	14.7	4.2
	施設サービス	23	65.2	21.7	26.1	60.9	21.7	4.3	4.3	21.7	-

事業所規模（従業員数）別で見ると、従業員数が5人～39人の事業所では「求人サイトへの募集掲載」が最も高く、【40人以上】の事業所は「人材紹介会社からの紹介」（69.4%）が最も高くなっています。また、【1～4人】の事業所は「採用活動は行っていない」（45.2%）が他の層と比べて高くなっています。

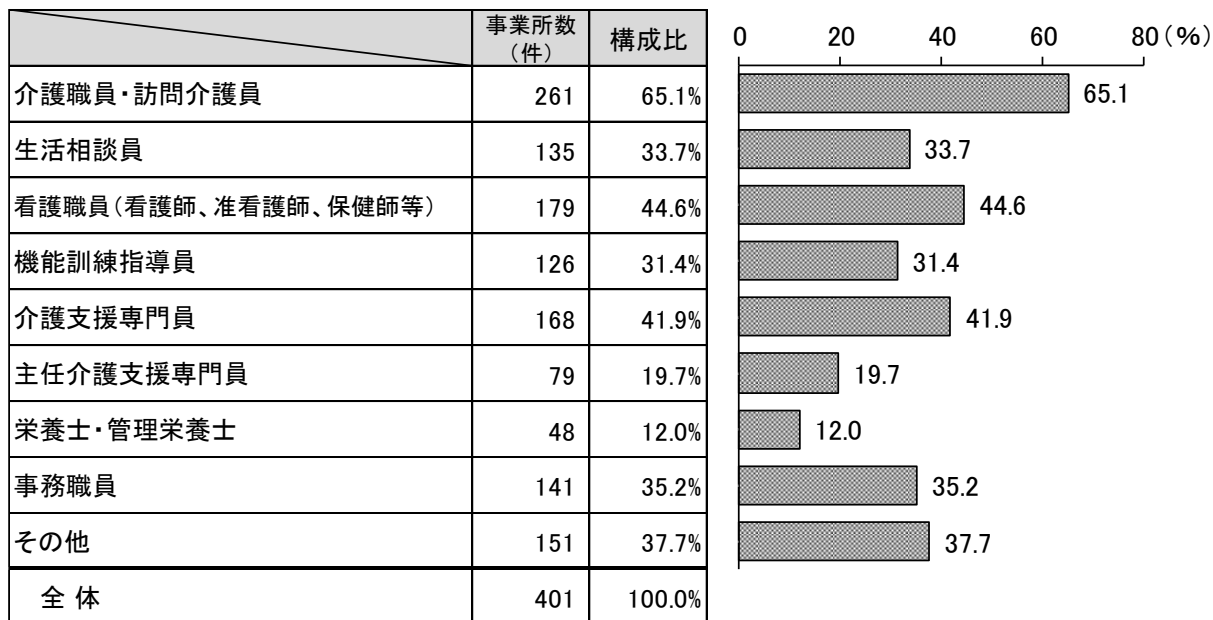
図表6-2-14 従業員採用で効果的だった取組／事業所規模（従業員数）別

		事業所数 (n)	人材紹介 会社から の紹介	求人サイ トへの募 集掲載	従業員や 知人から の紹介	ハロー ワークで の求人募 集	実習生や インターン の受け入 れ	杉並区 の就職相 談・面接 会	新聞折り 込み広告 や求人雑 誌への募 集掲載	その他	採用活動 は行って いない
全体		401	36.4	33.4	23.7	19.2	5.2	3.5	2.0	15.0	15.5
従 業 員 数	1～4人	73	16.4	16.4	19.2	8.2	1.4	-	-	15.1	45.2
	5～9人	83	31.3	33.7	13.3	10.8	3.6	-	1.2	14.5	22.9
	10～19人	142	35.9	37.3	26.1	20.4	4.9	2.8	1.4	13.4	6.3
	20～39人	67	47.8	50.7	29.9	26.9	3.0	10.4	7.5	17.9	1.5
	40人以上	36	69.4	19.4	36.1	41.7	22.2	8.3	-	16.7	-

(5) 令和7年6月30日以前に配置されていた従業員の職種

問9 令和7年6月30日以前に貴事業所・施設において配置されていた従業員の職種をお答えください。(回答はいくつでも)

図表6-2-15 令和7年6月30日以前に配置されていた従業員の職種



図表6-2-16 令和7年6月30日以前に配置されていた従業員の職種／サービス種別

(上段:事業所数、下段:構成比)

	全体	介護職員・ 訪問介護員	生活相談員	看護職員 (看護師、 准看護師、 保健師等)	機能訓練 指導員	介護支援 専門員	主任介護 支援専門 員	栄養士・管 理栄養士	事務職員	その他
居宅サービス	283 100.0%	143 50.5%	60 21.2%	106 37.5%	60 21.2%	113 39.9%	76 26.9%	19 6.7%	100 35.3%	85 30.0%
地域密着型 サービス	95 100.0%	95 100.0%	53 55.8%	50 52.6%	43 45.3%	32 33.7%	1 1.1%	6 6.3%	18 18.9%	46 48.4%
施設サービス	23 100.0%	23 100.0%	22 95.7%	23 100.0%	23 100.0%	23 100.0%	2 8.7%	23 100.0%	23 100.0%	20 87.0%
全体	401 100.0%	261 65.1%	135 33.7%	179 44.6%	126 31.4%	168 41.9%	79 19.7%	48 12.0%	141 35.2%	151 37.7%

第6章 介護サービス事業所等実態調査

(6) 離職者数

問10 令和6年4月1日以降令和7年6月30日までの、貴事業所・施設における、勤務形態・年代別及び在職年数別の離職者数（派遣職員・無資格の介護補助員・ボランティアは除く）を教えてください。（数値記入）

※問9で令和7年6月30日以前に配置されていた従業員がいたと回答した職種についてたずねました。

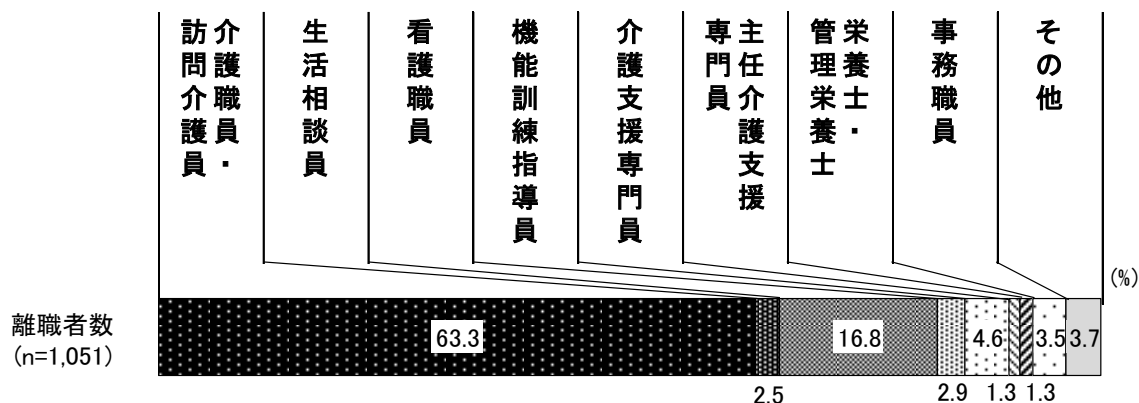
離職者数についてサービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は「0人」、【地域密着型サービス】事業所は「1～3人」、【施設サービス】事業所は「10人以上」が最も高くなっています。

図表6-2-17 離職者数／サービス種別

		(%)				
	事業所数 (n)	0人	1～3人	4～6人	7～9人	10人以上
全体	401	39.4	37.9	13.0	3.5	6.2
居宅サービス	283	46.6	34.6	11.0	3.5	4.2
訪問介護	71	43.7	42.3	11.3	-	2.8
訪問看護	44	40.9	36.4	13.6	6.8	2.3
訪問リハビリテーション	2	50.0	50.0	-	-	-
通所介護	28	25.0	46.4	17.9	10.7	-
通所リハビリテーション	2	50.0	50.0	-	-	-
短期入所生活介護	10	-	30.0	10.0	-	60.0
特定施設入居者生活介護	23	-	43.5	34.8	13.0	8.7
福祉用具貸与／特定福祉用具販売	12	75.0	25.0	-	-	-
居宅介護支援／介護予防支援	91	71.4	23.1	3.3	1.1	1.1
地域密着型サービス	95	27.4	51.6	16.8	3.2	1.1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	5	40.0	40.0	-	-	20.0
夜間対応型訪問介護	2	-	100.0	-	-	-
地域密着型通所介護	47	34.0	42.6	19.1	4.3	-
認知症対応型通所介護	7	28.6	71.4	-	-	-
小規模多機能型居宅介護	6	-	66.7	16.7	16.7	-
認知症対応型共同生活介護	27	22.2	55.6	22.2	-	-
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	-	100.0	-	-	-
施設サービス	23	-	21.7	21.7	4.3	52.2
介護老人福祉施設	19	-	21.1	21.1	5.3	52.6
介護老人保健施設	4	-	25.0	25.0	-	50.0

全離職者（1,051人）の職種別割合については、「介護職員・訪問介護員」が63.3%で最も高く、次いで「看護職員（看護師、准看護師、保健師等）」（16.8%）、「介護支援専門員」（4.6%）と続いています。

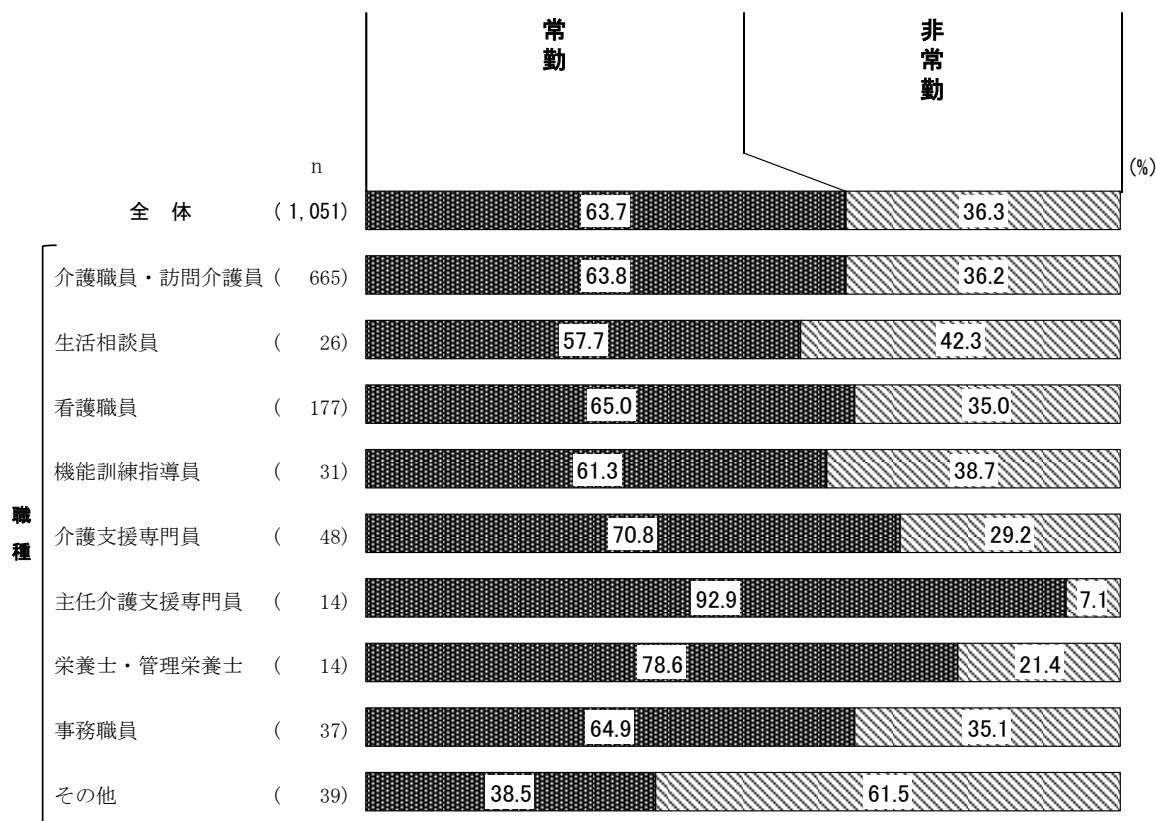
図表6-2-18 全離職者の職種別割合



全離職者（1,051人）の勤務形態別割合については、「常勤」が63.7%、「非常勤」が36.3%となっています。

職種別で見ると、「常勤」の割合は【主任介護支援専門員】が92.9%で最も高く、【栄養士・管理栄養士】（78.6%）と【介護支援専門員】（70.8%）も7割を超えています。

図表6-2-19 全離職者の勤務形態別割合／職種別



第6章 介護サービス事業所等実態調査

全離職者（1,051人）の年齢別割合については、「50～59歳」が23.6%で最も高く、次いで「40～49歳」（23.1%）、「30～39歳」（20.6%）、「29歳以下」（14.5%）と続いています。

職種別で見ると、40歳未満の割合は【栄養士・管理栄養士】（57.1%）、【機能訓練指導員】（48.4%）、【看護職員（看護師、准看護師、保健師等）】（40.7%）で4割を超え、他の職種と比べて高くなっています。

図表6-2-20 全離職者の年齢別割合／職種別

		離職者数 (n)	29歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70歳以上	年齢不明
全体		1,051	14.5	20.6	23.1	23.6	12.6	5.2	0.4
職種	介護職員・訪問介護員	665	14.9	22.6	23.2	22.7	11.4	5.1	0.2
	生活相談員	26	3.8	3.8	30.8	34.6	26.9	-	-
	看護職員	177	17.5	23.2	19.2	27.1	9.6	3.4	-
	機能訓練指導員	31	25.8	22.6	16.1	16.1	12.9	6.5	-
	介護支援専門員	48	-	6.3	27.1	41.7	14.6	6.3	4.2
	主任介護支援専門員	14	-	-	35.7	21.4	35.7	7.1	-
	栄養士・管理栄養士	14	35.7	21.4	35.7	-	-	7.1	-
	事務職員	37	5.4	10.8	40.5	18.9	18.9	2.7	2.7
	その他	39	15.4	20.5	10.3	12.8	23.1	17.9	-

全離職者（1,051人）の在職年数別割合については、「1年未満」が32.5%で最も高く、次いで「1年以上3年未満」（31.0%）、「5年以上10年未満」（14.4%）と続いています。

職種別で見ると、3年未満の割合は【看護職員（看護師、准看護師、保健師等）】（69.5%）、【生活相談員】（65.4%）、【介護職員・訪問介護員】（64.8%）で6割を超え、他の職種と比べて高くなっています。

図表6-2-21 全離職者の在職年数別割合／職種別

		離職者数 (n)	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
全体		1,051	32.5	31.0	11.8	14.4	10.3
職種	介護職員・訪問介護員	665	32.5	32.3	10.5	15.2	9.5
	生活相談員	26	30.8	34.6	3.8	19.2	11.5
	看護職員	177	33.3	36.2	13.0	9.0	8.5
	機能訓練指導員	31	29.0	29.0	9.7	29.0	3.2
	介護支援専門員	48	39.6	18.8	12.5	10.4	18.8
	主任介護支援専門員	14	-	14.3	14.3	50.0	21.4
	栄養士・管理栄養士	14	35.7	21.4	42.9	-	-
	事務職員	37	32.4	16.2	24.3	10.8	16.2
	その他	39	35.9	23.1	10.3	10.3	20.5

(7) 採用率・離職率

下記の方法により、採用率と離職率を算出しました。

・採用率の算出方法
 「令和6年4月1日～令和7年7月1日までの採用者数（問7）」
 \div 「令和6年4月1日時点の従業員数[※]」 $\times 100$

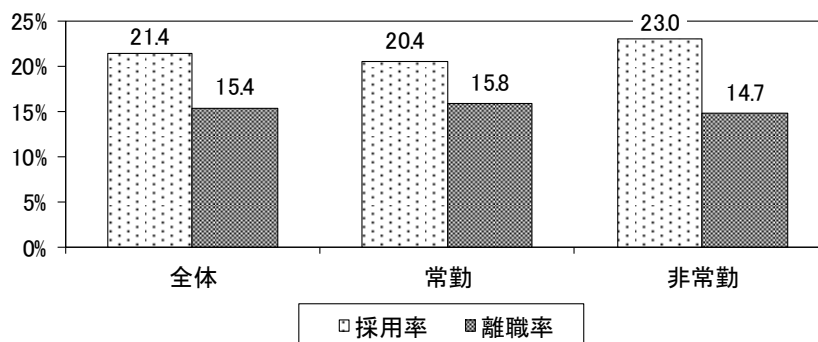
・離職率の算出方法
 「令和6年4月1日～令和7年6月30日までの離職者数（問10）」
 \div 「令和6年4月1日時点の従業員数[※]」 $\times 100$

※「令和6年4月1日時点の従業員数」は当調査でたずねていないため、
 「従業員数（問6）」－「採用者数（問7）」＋「離職者数（問10）」で算出しています。

全体では、採用率は21.4%、離職率は15.4%となっています。

勤務形態別で見ると、採用率は「非常勤」（23.0%）の方が高く、離職率は「常勤」（15.8%）の方が高くなっています。

図表6-2-22 採用率・離職率／勤務形態別



圏域別で見ると、採用率は「荻窪」（29.7%）が最も高く、「高円寺」（16.4%）が最も低くなっています。離職率は「荻窪」（21.8%）が最も高く、「西荻」（9.1%）が最も低くなっています。

図表6-2-23 採用率・離職率／圏域別

	全体	井草	西荻	荻窪	阿佐谷	高円寺	高井戸	方南・和泉
採用率	21.4	24.9	16.7	29.7	19.3	16.4	21.4	18.9
離職率	15.4	17.7	9.1	21.8	16.5	13.2	12.8	18.6

第6章 介護サービス事業所等実態調査

職種別で見ると、採用率は「看護職員（看護師、准看護師、保健師等）」（33.8%）が最も高く、「主任介護支援専門員」（11.5%）が最も低くなっています。離職率は「看護職員（看護師、准看護師、保健師等）」（22.7%）が最も高く、「生活相談員」（6.6%）が最も低くなっています。

図表6-2-24 採用率・離職率／職種別

	全体	介護職員・訪問介護員	生活相談員	看護職員	機能訓練指導員	介護支援専門員	主任介護支援専門員	栄養士・管理栄養士	事務職員	その他
採用率	21.4	21.1	12.0	33.8	19.2	16.9	11.5	21.9	20.8	19.3
離職率	15.4	16.1	6.6	22.7	10.8	12.7	10.1	19.2	13.8	9.9

年齢別で見ると、採用率は「29歳以下」（55.2%）が最も高く、「年齢不明」を除くと「70歳以上」（9.1%）が最も低くなっています。離職率は「29歳以下」（24.9%）が最も高く、「70歳以上」（10.2%）が最も低くなっています。

図表6-2-25 採用率・離職率／年齢別

	全体	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
採用率	21.4	55.2	28.3	16.8	18.0	15.2	9.1	3.0
離職率	15.4	24.9	20.5	14.8	14.0	11.1	10.2	12.1

サービス種別で見ると、採用率、離職率共に「居宅サービス」事業所が最も高く、「地域密着型サービス」事業所が最も低くなっています。

図表6-2-26 採用率・離職率／サービス種別

	全体	居宅サービス									
		訪問介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	特定施設入居者生活介護	福祉用具貸与／特定福祉用具販売	居宅介護支援／介護予防支援	
採用率	21.4	23.3	15.5	31.5	0.0	31.0	13.6	28.1	25.7	19.1	14.4
離職率	15.4	16.3	10.7	19.3	9.1	13.5	13.6	23.9	17.5	7.4	18.0

	地域密着型サービス	地域密着型サービス						
		定期巡回・随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
採用率	18.2	14.3	6.3	19.4	10.0	19.5	18.7	50.0
離職率	13.1	15.3	6.3	13.2	7.3	24.4	12.1	18.8

	施設サービス	施設サービス	
		介護老人福祉施設	介護老人保健施設
採用率	20.0	23.3	7.1
離職率	15.4	16.9	9.8

事業所規模（従業員数）別で見ると、採用率は従業員数が「20～39人」（23.4％）の事業所が最も高く、「1～4人」（16.5％）の事業所が最も低くなっています。離職率は「1～4人」（29.4％）の事業所が最も高く、「20～39人」（11.8％）の事業所が最も低くなっています。

図表6-2-27 採用率・離職率／事業所規模（従業員数）別

		(%)				
	全体	1～4人	5～9人	10～19人	20～39人	40人以上
採用率	21.4	16.5	22.6	20.5	23.4	21.0
離職率	15.4	29.4	15.4	15.3	11.8	16.5

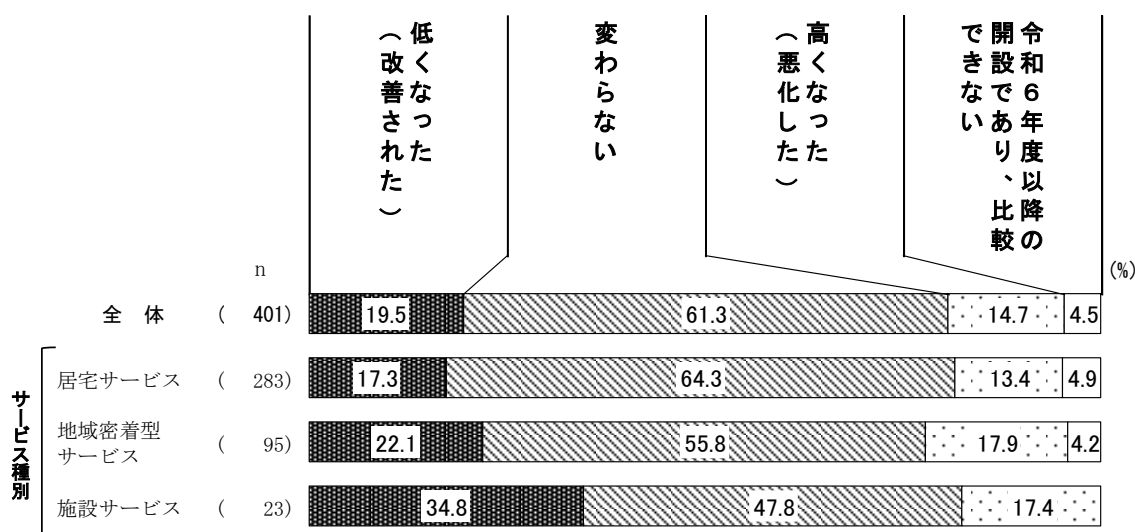
(8) 前年度と比較した離職率の状況

問 11 令和6年度の離職率は前年度（令和5年度）と比べていかがでしたか。（回答は1つ）

前年度と比較した離職率の状況については、「変わらない」が61.3%で最も高く、次いで「低くなった（改善された）」（19.5%）、「高くなった（悪化した）」（14.7%）となっています。

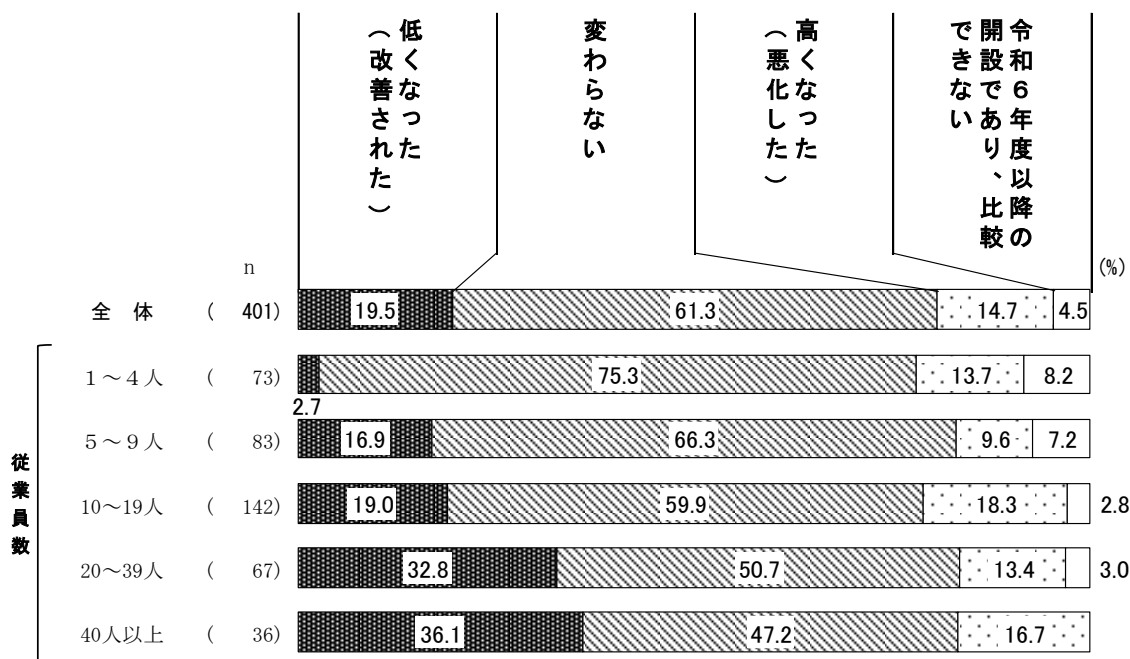
サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は「低くなった（改善した）」が17.3%と他のサービス種別と比べて低くなっています。一方、【施設サービス】事業所は「低くなった（改善した）」が34.8%と他のサービス種別と比べて高くなっています。

図表6-2-28 前年度と比較した離職率の状況／サービス種別



事業所規模（従業員数）別で見ると、「低くなった（改善した）」の割合は規模が大きい事業所ほど高くなっています。

図表6-2-29 前年度と比較した離職率の状況／事業所規模（従業員数）別

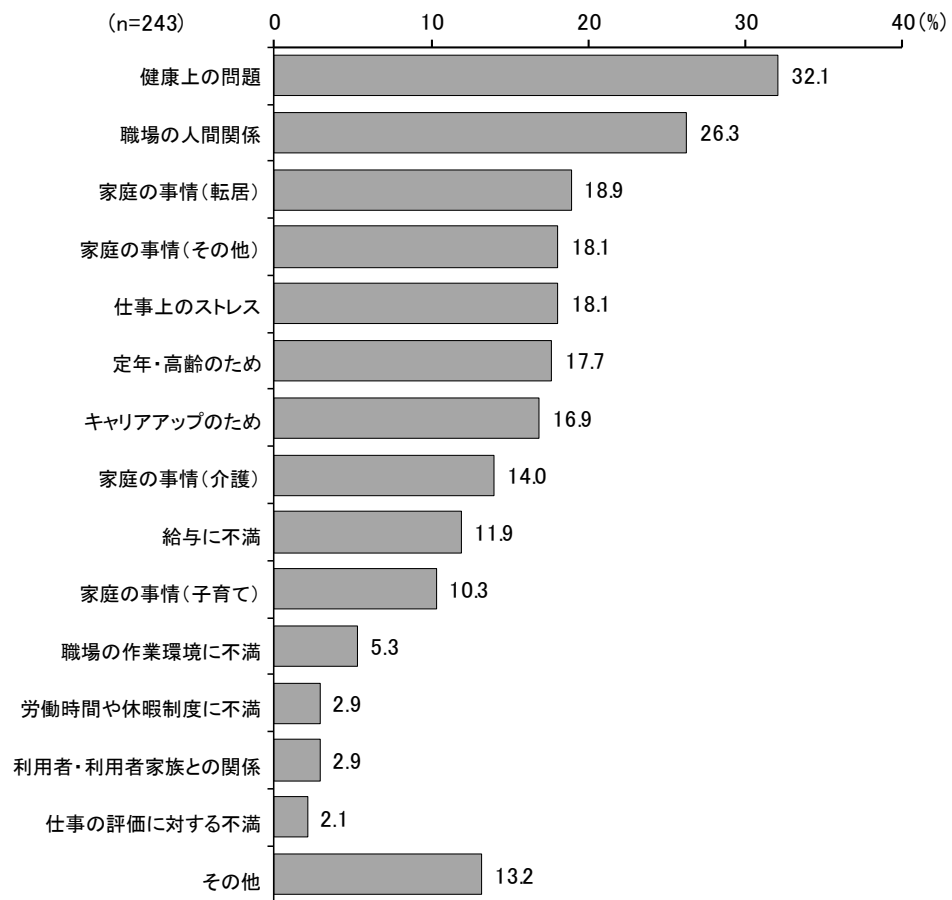


(9) 離職の理由として考えられること

問12 離職の主な理由として考えられることはどんなことですか。(回答は3つまで)

離職の理由として考えられることについては、「健康上の問題」が32.1%で最も高く、次いで「職場の人間関係」(26.3%)、「家庭の事情(転居)」(18.9%)、「家庭の事情(その他)」・「仕事上のストレス」(共に18.1%)と続いています。

図表6-2-30 離職の理由として考えられること



※離職者数が「0人」の事業所を除いて集計しています。

「その他」の回答内容(上位5項目)	件数
転職	8
ダブルワークが忙しくなった	3
メンタル不調	3
能力不足	3
引越し	2

第6章 介護サービス事業所等実態調査

サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【地域密着型サービス】事業所は「健康上の問題」が最も高くなっています。【施設サービス】事業所は「職場の人間関係」が最も高くなっています。

図表6-2-31 離職の理由として考えられること／サービス種別

		事業所数(n)	健康上の問題	職場の人間関係	家庭の事情(転居)	家庭の事情(その他)	仕事上のストレス	定年・高齢のため	キャリアアップのため	家庭の事情(介護)	給与に不満	家庭の事情(子育て)
全体		243	32.1	26.3	18.9	18.1	18.1	17.7	16.9	14.0	11.9	10.3
サービス種別	居宅サービス	151	31.1	24.5	17.9	13.2	20.5	23.2	13.2	15.9	10.6	11.3
	地域密着型サービス	69	34.8	21.7	18.8	21.7	13.0	4.3	18.8	11.6	18.8	10.1
	施設サービス	23	30.4	52.2	26.1	39.1	17.4	21.7	34.8	8.7	-	4.3

		事業所数(n)	職場の作業環境に不満	労働時間や休暇制度に不満	利用者・利用者家族との関係	仕事の評価に対する不満	その他
全体		243	5.3	2.9	2.9	2.1	13.2
サービス種別	居宅サービス	151	6.0	1.3	2.6	2.6	12.6
	地域密着型サービス	69	2.9	7.2	1.4	1.4	14.5
	施設サービス	23	8.7	-	8.7	-	13.0

事業所規模（従業員数）別で見ると、従業員数が5人～39人の事業所は「健康上の問題」が最も高く、【40人以上】の事業所は「職場の人間関係」（47.1%）が最も高くなっています。

図表6-2-32 離職の理由として考えられること／事業所規模（従業員数）別

		事業所数(n)	健康上の問題	職場の人間関係	家庭の事情(転居)	家庭の事情(その他)	仕事上のストレス	定年・高齢のため	キャリアアップのため	家庭の事情(介護)	給与に不満	家庭の事情(子育て)
全体		243	32.1	26.3	18.9	18.1	18.1	17.7	16.9	14.0	11.9	10.3
従業員数	1～4人	19	15.8	15.8	5.3	21.1	15.8	26.3	15.8	26.3	10.5	10.5
	5～9人	38	36.8	34.2	10.5	10.5	18.4	18.4	18.4	2.6	13.2	5.3
	10～19人	99	31.3	17.2	24.2	17.2	16.2	16.2	11.1	19.2	15.2	8.1
	20～39人	53	35.8	28.3	15.1	13.2	22.6	11.3	20.8	7.5	13.2	17.0
	40人以上	34	32.4	47.1	26.5	35.3	17.6	26.5	26.5	14.7	-	11.8

		事業所数(n)	職場の作業環境に不満	労働時間や休暇制度に不満	利用者・利用者家族との関係	仕事の評価に対する不満	その他
全体		243	5.3	2.9	2.9	2.1	13.2
従業員数	1～4人	19	-	5.3	-	-	15.8
	5～9人	38	-	-	2.6	2.6	10.5
	10～19人	99	7.1	5.1	4.0	2.0	11.1
	20～39人	53	5.7	1.9	-	3.8	17.0
	40人以上	34	8.8	-	5.9	-	14.7

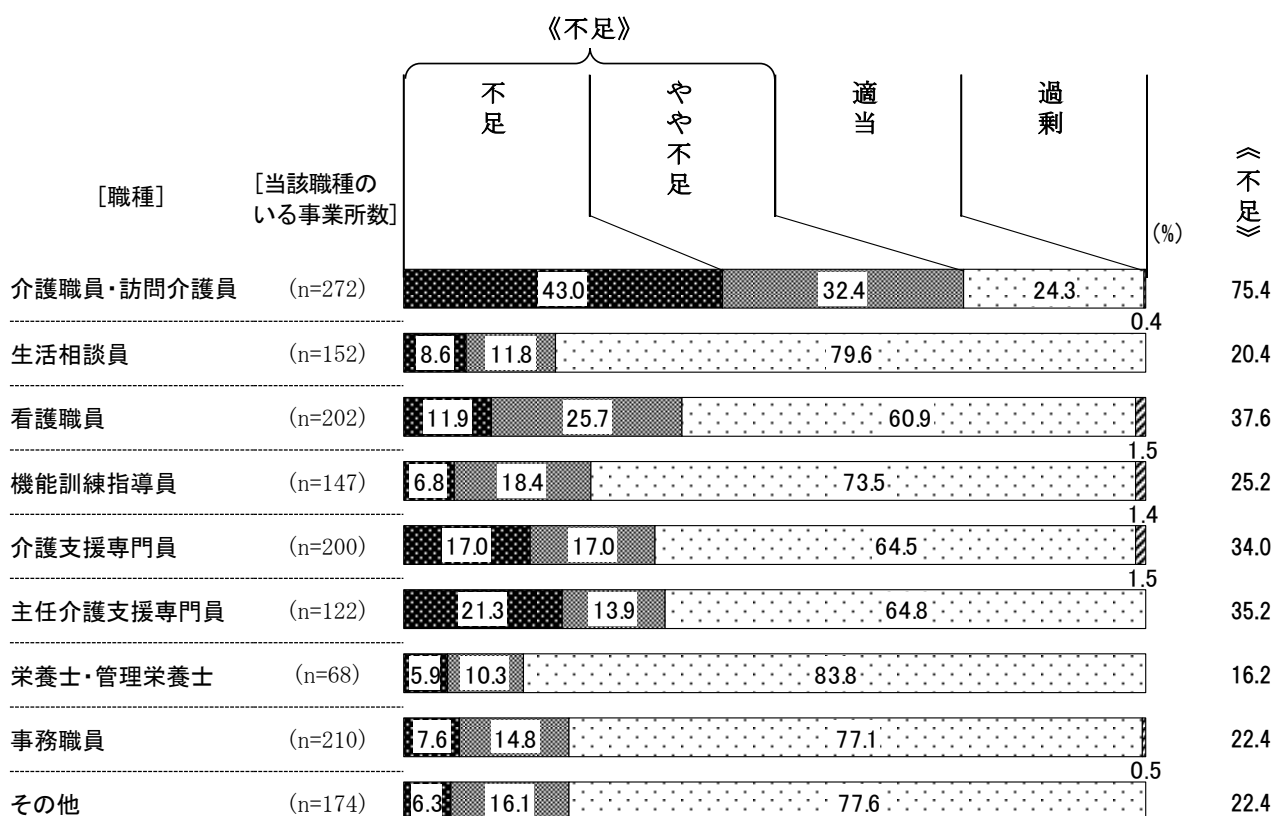
3 人材の充足状況・人材確保等について

(1) 人材の充足状況

問13 貴事業所・施設における人材の充足状況について、職種ごとにあてはまるものをお答えください。(回答はそれぞれ1つずつ)

人材の充足状況について、当該職種のいる事業所数を母数とした《不足》(「不足」と「やや不足」の合計)の割合は、[介護職員・訪問介護員]が75.4%で最も高くなっています。その他の職種では、[看護職員(看護師、准看護師、保健師等)]、[介護支援専門員]、[主任介護支援専門員]が3割台、[生活相談員]、[機能訓練指導員]、[栄養士・管理栄養士]、[事務職員]、[その他(管理者、医師、歯科医師、薬剤師、福祉用具専門相談員など)]は3割未満となっています。

図表6-3-1 人材の充足状況



※事業所数から「当該職種はいない」と回答した事業所を除いた数を「当該職種のいる事業所数」としています。

第6章 介護サービス事業所等実態調査

人材の充足状況について、当該職種のある事業所数を母数とした《不足》（「不足」と「やや不足」の合計）の割合をサービス種別で見ると、すべてのサービス種別で〔介護職員・訪問介護員〕の割合が最も高くなっています。また、【居宅サービス】事業所は〔生活相談員〕と〔機能訓練指導員〕以外の職種で《不足》の割合が他のサービス種別と比べて最も高くなっています。一方で、【施設サービス】事業所は〔看護職員（看護師、准看護師、保健師等）〕以外の職種で《不足》の割合が他のサービス種別と比べて最も低くなっています。

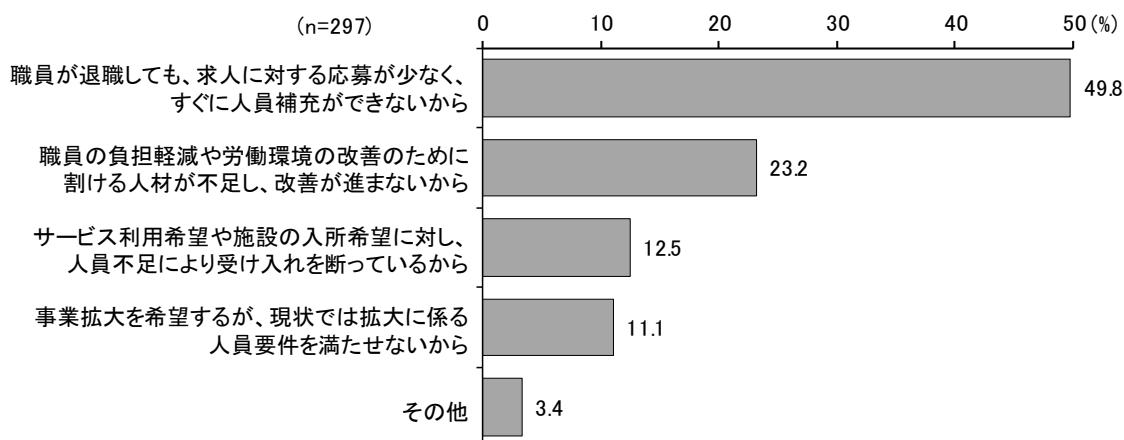
図表6-3-2 人材の充足状況（《不足》の割合）／サービス種別

		(%)								
		介護職員・ 訪問介護員	生活相談員	看護職員	機能訓練 指導員	介護支援 専門員	主任介護 支援 専門員	栄養士・ 管理栄養 士	事務職員	その他
全体		75.4	20.4	37.6	25.2	34.0	35.2	16.2	22.4	22.4
サ ー ビ ス 種 別	居宅サービス	81.8	23.2	39.5	23.3	40.6	37.5	22.6	24.8	28.4
	地域密着型サービス	68.4	23.3	33.3	35.3	29.5	36.4	21.4	20.6	17.6
	施設サービス	60.9	4.3	39.1	8.7	4.3	-	4.3	8.7	4.8

問13-1 問13で、貴事業所・施設における人材の充足状況について、「不足」、「やや不足」と回答した主な理由をお選びください。(回答は1つ)

人材の充足状況について、1つ以上の職種で「不足」または「やや不足」と回答した事業所にその理由をたずねたところ、「職員が退職しても、求人に対する応募が少なく、すぐに人員補充ができないから」が49.8%で最も高く、次いで「職員の負担軽減や労働環境の改善のために割ける人材が不足し、改善が進まないから」(23.2%)、「サービス利用希望や施設の入所希望に対し、人員不足により受け入れを断っているから」(12.5%)と続いています。

図表6-3-3 人材が不足している理由



サービス種別で見ると、【施設サービス】事業所は「職員が退職しても、求人に対する応募が少なく、すぐに人員補充ができないから」が他のサービス種別と比べて最も高く、【居宅サービス】事業所は「サービス利用希望や施設の入所希望に対し、人員不足により受け入れを断っているから」と「事業拡大を希望するが、現状では拡大に係る人員要件を満たせないから」が他のサービス種別と比べて最も高くなっています。

図表6-3-4 人材が不足している理由／サービス種別

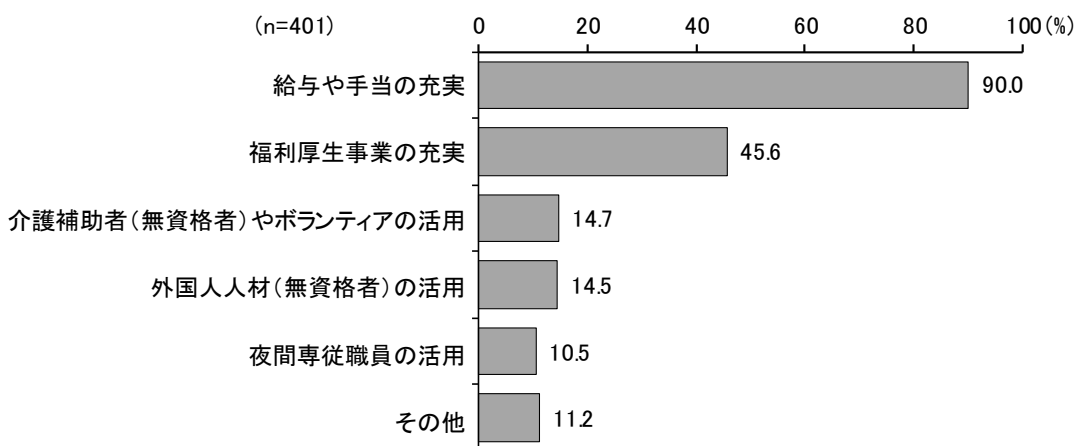
		事業所数 (n)	職員が退職しても、求人に対する応募が少なく、すぐに人員補充ができないから	職員の負担軽減や労働環境の改善のために割ける人材が不足し、改善が進まないから	サービス利用希望や施設の入所希望に対し、人員不足により受け入れを断っているから	事業拡大を希望するが、現状では拡大に係る人員要件を満たせないから	その他
全体		297	49.8	23.2	12.5	11.1	3.4
サービス種別	居宅サービス	206	47.1	20.9	16.0	12.1	3.9
	地域密着型サービス	74	54.1	29.7	4.1	9.5	2.7
	施設サービス	17	64.7	23.5	5.9	5.9	-

(2) 人材確保のために必要な取組

問14 今後の人材確保のために必要だと思われる取組をお答えください。(回答はいくつでも)

人材確保のために必要な取組については、「給与や手当の充実」が90.0%で最も高く、次いで「福利厚生事業の充実」(45.6%)、「介護補助者(無資格者)やボランティアの活用」(14.7%)と続いています。

図表6-3-5 人材確保のために必要な取組



「その他」の回答内容(上位5項目)	件数
介護職のイメージアップ	4
業務負担の軽減・簡略化	4
求人方法(媒体)の工夫	4
介護報酬の改訂	3
ケアマネの更新研修廃止	3

サービス種別で見ると、【施設サービス】事業所は、「給与や手当の充実」と「福利厚生事業の充実」が他のサービス種別と比べて低く、「介護補助者(無資格者)やボランティアの活用」、「外国人人材(無資格者)の活用」、「夜間専従職員の活用」が他のサービス種別と比べて高くなっています。

図表6-3-6 人材確保のために必要な取組/サービス種別

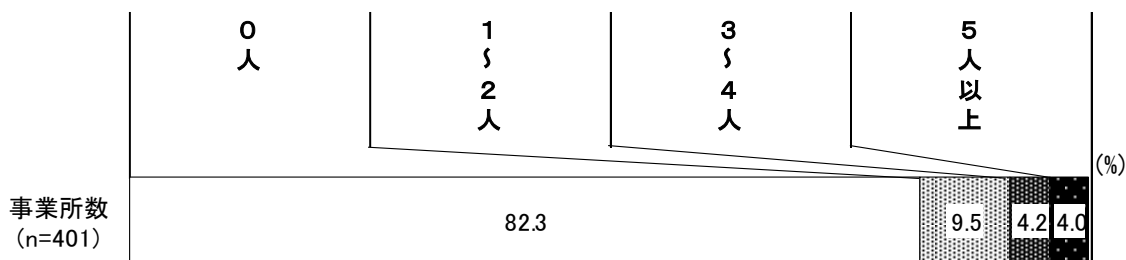
		事業所数 (n)	給与や手当の充実	福利厚生事業の充実	介護補助者(無資格者)やボランティアの活用	外国人人材(無資格者)の活用	夜間専従職員の活用	その他
全体		401	90.0	45.6	14.7	14.5	10.5	11.2
サービス種別	居宅サービス	283	90.5	47.0	10.2	10.2	8.5	12.7
	地域密着型サービス	95	94.7	46.3	21.1	18.9	11.6	8.4
	施設サービス	23	65.2	26.1	43.5	47.8	30.4	4.3

(3) 「介護補助者（無資格者）」の活用状況

問 15 令和6年度の貴事業所・施設における「介護補助者（無資格者）」の活用状況をお答えください。（数値記入）

「介護補助者（無資格者）」の活用状況については、「0人」が82.3%と最も高く、「1～2人」（9.5%）、「3～4人」（4.2%）、「5人以上」（4.0%）となっています。

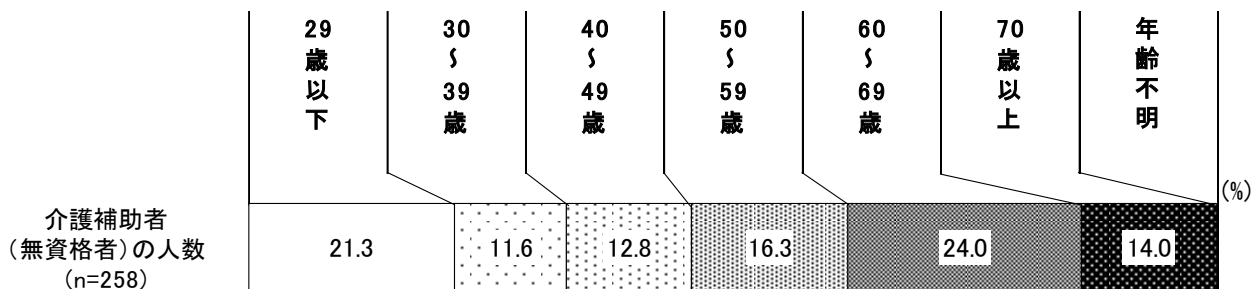
図表6-3-7 「介護補助者（無資格者）」の活用状況



「介護補助者（無資格者）」の活用人数は、全体で258人となっています。

年齢別で見ると、「60～69歳」が24.0%で最も高く、次いで「29歳以下」（21.3%）、「50～59歳」（16.3%）、「70歳以上」（14.0%）と続いています。

図表6-3-8 「介護補助者（無資格者）」の年齢別活用人数



第6章 介護サービス事業所等実態調査

事業所規模（従業員数）別で見ると、「介護補助者（無資格者）」を年齢問わず1人以上活用している割合は、従業員数が多い事業所ほど高くなっています。

図表6-3-9 「介護補助者（無資格者）」の活用状況・人数（計）／事業所規模（従業員数）別

			(%)			
		事業所数 (n)	0人	1~2人	3~4人	5人以上
全体		401	82.3	9.5	4.2	4.0
従業員数	1~4人	73	97.3	2.7	-	-
	5~9人	83	96.4	2.4	1.2	-
	10~19人	142	83.8	9.9	3.5	2.8
	20~39人	67	68.7	20.9	4.5	6.0
	40人以上	36	38.9	16.7	22.2	22.2

サービス種別で見ると、「介護補助者（無資格者）」を1人以上活用している割合は、【施設サービス】事業所が65.2%で最も高くなっています。

図表6-3-10 「介護補助者（無資格者）」の活用状況・人数（計）／サービス種別

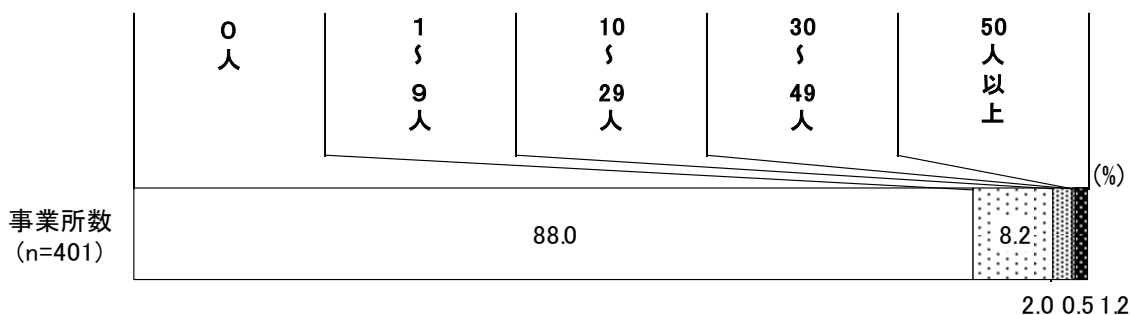
			(%)			
		事業所数 (n)	0人	1~2人	3~4人	5人以上
全体		401	82.3	9.5	4.2	4.0
サービス種別	居宅サービス	283	88.7	6.7	2.5	2.1
	地域密着型サービス	95	74.7	14.7	4.2	6.3
	施設サービス	23	34.8	21.7	26.1	17.4

(4)「ボランティア」の活用状況

問 16 令和6年度の貴事業所・施設における「ボランティア」の活用状況をお答えください。
(数値記入)

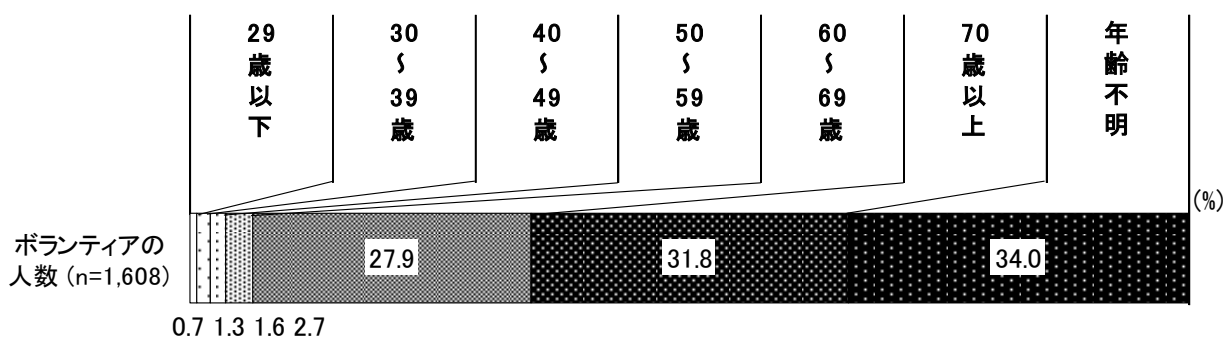
「ボランティア」の活用状況については、「0人」が88.0%で最も高く、「1～9人」(8.2%)、「10～29人」(2.0%)と続いています。

図表6-3-11 「ボランティア」の活用状況



「ボランティア」の活用人数は、全体で1,608人となっています。
年齢別で見ると、「年齢不明」が34.0%で最も高く、次いで「70歳以上」(31.8%)、「60～69歳」(27.9%)と続いています。

図表6-3-12 「ボランティア」の年齢別活用人数



第6章 介護サービス事業所等実態調査

事業所規模（従業員数）別で見ると、従業員数が9人以下の事業所では「ボランティア」の活用がなく、従業員数が【40人以上】の事業所では、5割以上の事業所で「ボランティア」を活用しています。

図表6-3-13 「ボランティア」の活用状況・人数（計）／事業所規模（従業員数）別

		事業所数 (n)	（％）				
			0人	1～9人	10～29人	30～49人	50人以上
全体		401	88.0	8.2	2.0	0.5	1.2
従業員数	1～4人	73	100.0	-	-	-	-
	5～9人	83	100.0	-	-	-	-
	10～19人	142	88.0	9.2	2.1	-	0.7
	20～39人	67	82.1	11.9	4.5	-	1.5
	40人以上	36	47.2	33.3	5.6	5.6	8.3

サービス種別で見ると、「ボランティア」を1人以上活用している割合は、【施設サービス】事業所が47.8%で最も高くなっています。

図表6-3-14 「ボランティア」の活用状況・人数（計）／サービス種別

		事業所数 (n)	（％）				
			0人	1～9人	10～29人	30～49人	50人以上
全体		401	88.0	8.2	2.0	0.5	1.2
サービス種別	居宅サービス	283	93.3	4.6	0.7	0.4	1.1
	地域密着型サービス	95	91.1	13.7	4.2	-	1.1
	施設サービス	23	52.2	30.4	8.7	4.3	4.3

問 16-1 ボランティアの主な活動内容について教えてください。（自由回答）

「ボランティア」の主な活動内容については、48事業所・施設から回答がありました。

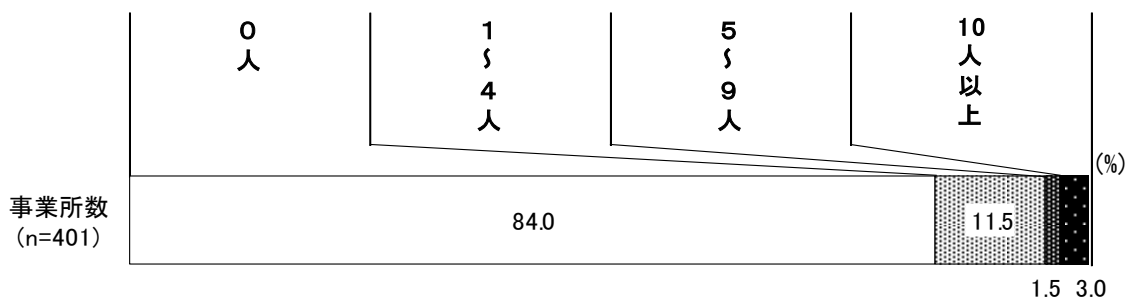
「ボランティア」の主な活動内容（上位10項目）	件数
傾聴・話し相手	28
プログラム・レクリエーション運営・補助	12
楽器演奏（ピアノなど）	12
園芸・庭園の手入れ	9
清掃・片付けなど	8
裁縫	7
囲碁・将棋	6
食事準備・お茶出し	6
書道	5
クラブ活動補助	5

(5) 外国人の受け入れ状況

問17 令和7年7月1日現在の外国人の受け入れ状況について種別ごとにお答えください。
(数値記入)

外国人の受け入れ状況については、「0人」が84.0%で最も高く、「1～4人」(11.5%)、「10人以上」(3.0%)と続いています。

図表6-3-15 外国人の受け入れ状況



外国人を受け入れている事業所数を母数として、種別ごとに受け入れ状況を見ると、【特定活動(EPA介護福祉士候補者)】以外の種別で「1～2人」の割合が最も高くなっています。また、「10人以上」受け入れのある種別は【特定技能1号】のみとなっています。

図表6-3-16 外国人の受け入れ状況／種別

		外国人を受け入れている事業所数 (n)	1～2人	3～4人	5～9人	10人以上
全体		64	46.9	25.0	9.4	18.8
種別	特定活動(EPA介護福祉士候補者)	6	-	50.0	50.0	-
	在留資格「介護」	36	75.0	22.2	2.8	-
	技能実習	9	44.4	22.2	33.3	-
	特定技能1号	35	51.4	20.0	17.1	11.4
	その他	13	84.6	7.7	7.7	-

第6章 介護サービス事業所等実態調査

事業所規模（従業員数）別で見ると、従業員数が【1～4人】の事業所では外国人の受け入れがなく、従業員数が【40人以上】の事業所では、7割以上の事業所で外国人を受け入れています。

図表6-3-17 外国人の受け入れ状況・全体／事業所規模（従業員数）別

		事業所数 (n)	(%)			
			0人	1～4人	5～9人	10人以上
全体		401	84.0	11.5	1.5	3.0
従業員数	1～4人	73	100.0	-	-	-
	5～9人	83	98.8	1.2	-	-
	10～19人	142	88.0	11.3	0.7	-
	20～39人	67	70.1	25.4	4.5	-
	40人以上	36	27.8	33.3	5.6	33.3

サービス種別で見ると、外国人を1人以上活用している割合は、【施設サービス】事業所が78.3%と最も高くなっています。

図表6-3-18 外国人の受け入れ状況・全体／サービス種別

		事業所数 (n)	(%)			
			0人	1～4人	5～9人	10人以上
全体		401	84.0	11.5	1.5	3.0
サービス種別	居宅サービス	283	91.5	7.1	0.4	1.1
	地域密着型サービス	95	76.8	21.1	2.1	-
	施設サービス	23	21.7	26.1	13.0	39.1

問 17-1 令和7年7月1日現在の外国人の受け入れ状況について、種別ごとに該当する職種をお選びください。(回答はそれぞれいくつでも)

外国人を受け入れている種別について該当する職種をたずねたところ、すべての種別で「介護職員・訪問介護員」が9割以上を占めています。

図表6-3-19 外国人を受け入れている職種

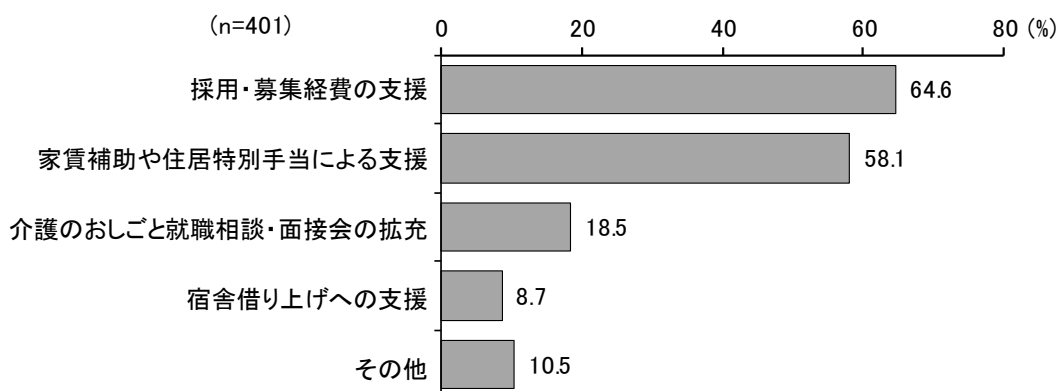
		(%)									
		事業所数 (n)	介護職員・ 訪問介護員	生活 相談員	看護 職員	機能 訓練 指導員	介護 支援 専門員	主任 介護 支援 専門員	栄養士・ 管理 栄養士	事務 職員	その他
種別	特定活動(EPA介護福祉士候補者)	6	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	在留資格「介護」	36	100.0	-	2.8	-	-	-	-	-	-
	技能実習	9	100.0	-	11.1	-	-	-	-	-	-
	特定技能1号	35	97.1	-	2.9	-	-	-	-	-	-
	その他	13	92.3	7.7	7.7	-	-	-	-	-	7.7

(6) 人材確保について区に望むこと

問 18 人材確保について区に望むことはなんですか。(回答は2つまで)

人材確保について区に望むことは、「採用・募集経費の支援」が64.6%で最も高く、次いで「家賃補助や住居特別手当による支援」(58.1%)、「介護のおしごと就職相談・面接会の拡充」(18.5%)と続いています。

図表6-3-20 人材確保について区に望むこと



「その他」の回答内容 (上位5項目)	件数
処遇改善のための支援	6
介護報酬の引き上げ	5
業務の負担軽減・簡素化	3
研修受講費用の支援	3
特になし	5

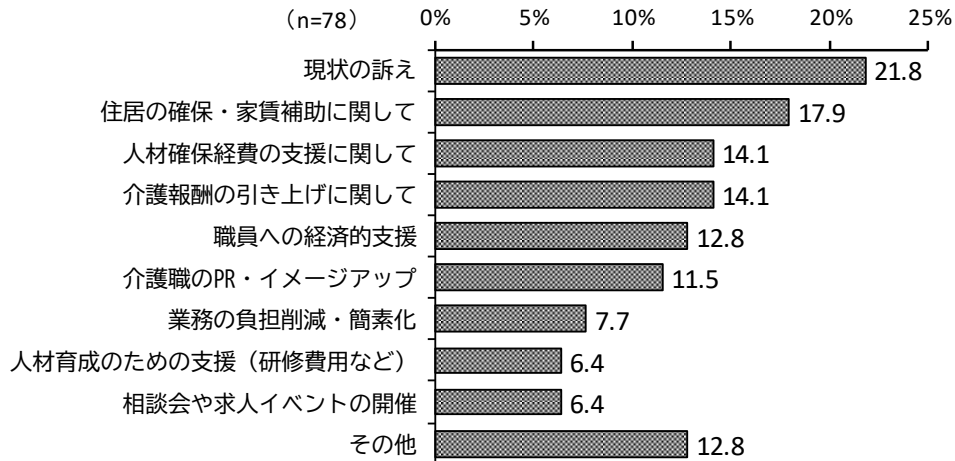
サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【施設サービス】事業所は「採用・募集経費の支援」が最も高く、【地域密着型サービス】事業所は「家賃補助や住居特別手当による支援」が最も高くなっています。また、【施設サービス】事業所は、他のサービス種別と比べて「家賃補助や住居特別手当による支援」が低く、「介護のおしごと就職相談・面接会の拡充」と「宿舍借り上げへの支援」が高くなっています。

図表6-3-21 人材確保について区に望むこと／サービス種別

		事業所数 (n)	採用・募集経費の支援	家賃補助や住居特別手当による支援	介護のおしごと就職相談・面接会の拡充	宿舍借り上げへの支援	その他
全体		401	64.6	58.1	18.5	8.7	10.5
サービス種別	居宅サービス	283	65.0	56.9	18.4	5.7	10.2
	地域密着型サービス	95	63.2	66.3	16.8	12.6	10.5
	施設サービス	23	65.2	39.1	26.1	30.4	13.0

問 18-1 問 18 でお答えいただいた支援等に関して、具体的なご意見がありましたらご記入ください。(自由回答)

人材確保について区に望む支援に関して、78事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、サービス種別（居宅サービス／地域密着型サービス／施設サービス）別に、内容別に件数が多かった主な意見を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

居宅サービス

47 事業所からご意見をいただきました。

◆ 現状の訴え (15 件／31.9%)

- ・訪問介護ヘルパーは近所に住む高齢のヘルパーが多い。若い人は施設勤務が多いのだろうか？福祉系の学校からの就職先は施設が多いと思うので、訪問介護での新卒につながるような斡旋を区としても力を入れて欲しい。
- ・東京都の施策のみでは全く充分ではなく、生活の為に他業種との競争には勝てないと思われる。特にケアマネは処遇改善からも外され続け、シャドーワークも常態化し、更に求められる事のみ増えている。更新研修もかなりの負担である。

◆ 介護職のPR・イメージアップ (6 件／12.8%)

- ・介護の仕事全般に言えることですが、社会貢献、自己成長に繋がる奥深い仕事であることをアピールしたい。これから人間でしかできない仕事は対人支援である。

◆ 住居の確保・家賃補助に関して (5 件／10.6%)

- ・杉並区在住、杉並区勤めの方に家賃補助が必要。杉並区は家賃が高く働き手がない。地方から通勤されると交通費が高くなり事業所負担が大きい。ハローワークでは人材が来なく、紹介会社からしか入ってこない。紹介会社の手数料が高く払えない。

◆ 介護報酬の引き上げに関して (5件/10.6%)

- ・介護報酬を上げて欲しい。処遇改善や家賃補助もありがたいが、根本が上がらないと事業所の赤字は改善できず事業を継続していけなくなる。

地域密着型サービス

25 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 住居の確保・家賃補助に関して (7件/28.0%)

- ・介護保険報酬から給与を支払っている所以他分野のように景気が良くなったからといって給与水準を引き上げることはできない。家賃補助は既存の職員に対して、宿舍借り上げは地方から上京してくる若手人材や外国人雇用などに有効かと思われる。
- ・都内の家賃は高く、少しでも支援があると新入社員を含め、既存スタッフもありがたい。採用面では、紹介会社を通じての採用では紹介料が非常に高く、利益の圧迫要因になっていて、既存スタッフへの還元も減少してしまうので、支援があると非常に助かる。

◆ 人材確保経費の支援に関して (6件/24.0%)

- ・Web 上での求人情報掲載にしても、各種紙面等への掲載にしても、費用が高いため利用できず、紹介派遣業者からの斡旋では契約成立とともに年収の 25~30%の紹介料が発生する。とても支払えません。
- ・介護保険利用料は毎月同じ金額の収入が見込めないので経費が高くなると経営が不安定になる。採用費用は高く、経営を圧迫している。

◆ 介護報酬の引き上げに関して (6件/24.0%)

- ・賃上げとともに介護報酬を上げてください。全市区町村で声をあげてください。小企業は店舗閉店の最悪の判断を迫られています。
- ・恐ろしい勢いで他業種との給料格差が広がっており、価格転嫁ができない業種である以上、これ以上会社としての努力のしようがありません。コストプッシュインフレにもう耐えられないのが現場の実情です。採用方法や経費支援が問題なのではなく、若者を中心に低賃金過酷労働とイメージされる介護業への就労が忌避されていることが問題です。報酬単価が上がらないことには何をやっても他業種と戦えません。

施設サービス

6 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 住居の確保・家賃補助に関して (2件/33.3%)

- ・就職相談や面接会はすでに企画・実施していただいておりますので、区に対しては、介護報酬が厳しい現状を踏まえ、家賃補助などの金銭的支援を特に望んでいます。また、宿舍借り上げ支援については、金銭面では東京都の補助金がありますので、外国人介護士の増加に伴い、不動産事業者と連携した仲介的支援があると望ましいと考えます。

◆ 人材確保経費の支援に関して（2件／33.3%）

- ・採用募集に関しては日本人、外国籍介護人材ともかなりの支出となります。補助等の支援があるとありがたいです。

◆ 職員への経済的支援（1件／16.7%）

- ・杉並区オリジナルで手当を出して頂けると嬉しいです。ただ、国や都は介護職限定のようなどころが多いため 全職種一律で手当を出して頂くと他の市区町村と差別化できるかと思います。

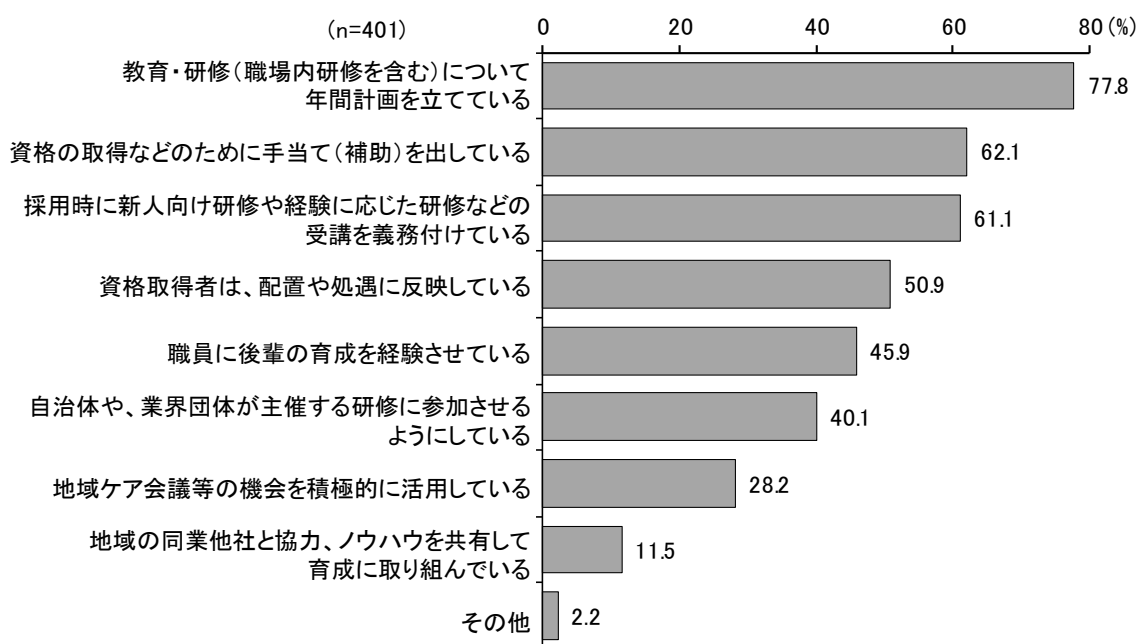
4 人材育成について

(1) 人材育成のためにとっている方策

問 19 人材育成のためにどのような方策をとっていますか。(回答はいくつでも)

人材育成のためにとっている方策については、「教育・研修（職場内研修を含む）について年間計画を立てている」が77.8%で最も高く、次いで「資格の取得などのために手当（補助）を出している」（62.1%）、「採用時に新人向け研修や経験に応じた研修などの受講を義務付けている」（61.1%）と続いています。

図表 6-4-1 人材育成のためにとっている方策



サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は「地域ケア会議等の機会を積極的に活用している」の割合が他のサービス種別と比べて高くなっています。また、【施設サービス】事業所は「資格の取得などのために手当（補助）を出している」、「地域ケア会議等の機会を積極的に活用している」、「その他」を除いた項目で、他のサービス種別と比べて高くなっています。

図表6-4-2 人材育成のためにとっている方策／サービス種別

(%)

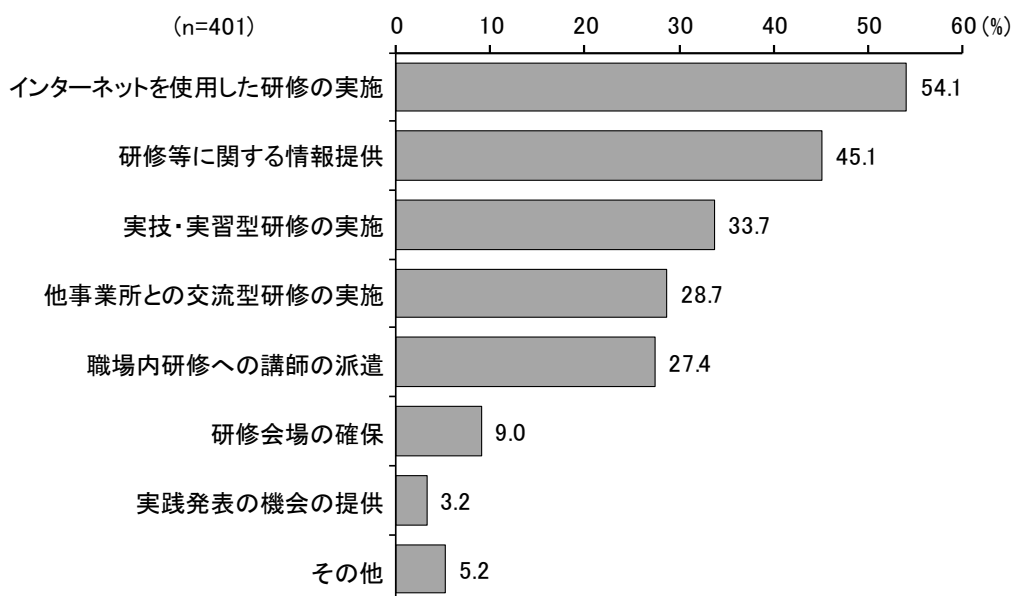
	事業所数 (n)	教育・研修(職場内研修を含む)について年間計画を立てている	資格の取得などのために手当(補助)を出している	採用時に新人向け研修や経験に応じた研修などの受講を義務付けている	資格取得者は、配置や処遇に反映している	職員に後輩の育成を経験させている	自治体や、業界団体が主催する研修に参加させるようにしている	地域ケア会議等の機会を積極的に活用している	地域の同業他社と協力、ノウハウを共有して育成に取り組んでいる	その他	
全体	401	77.8	62.1	61.1	50.9	45.9	40.1	28.2	11.5	2.2	
サービス種別	居宅サービス	283	77.7	60.4	59.0	46.3	42.4	44.2	31.8	11.3	2.8
	地域密着型サービス	95	75.8	67.4	61.1	58.9	50.5	22.1	23.2	8.4	1.1
	施設サービス	23	87.0	60.9	87.0	73.9	69.6	65.2	4.3	26.1	-

(2) 人材育成について区に望むこと

問 20 人材育成について、区に望むことはなんですか。(回答は3つまで)

人材育成について区に望むこととしては、「インターネットを使用した研修の実施」が54.1%で最も高く、次いで「研修等に関する情報提供」(45.1%)、「実技・実習型研修の実施」(33.7%)と続いています。

図表6-4-3 人材育成について区に望むこと



サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【地域密着型サービス】事業所は「インターネットを使用した研修の実施」が最も高く、【施設サービス】事業所は「職場内研修への講師の派遣」が最も高くなっています。

図表6-4-4 人材育成について区に望むこと／サービス種別

		事業所数 (n)	インターネットを使用した研修の実施	研修等に関する情報提供	実技・実習型研修の実施	他事業所との交流型研修の実施	職場内研修への講師の派遣	研修会場の確保	実践発表の機会の提供	その他
全体		401	54.1	45.1	33.7	28.7	27.4	9.0	3.2	5.2
サービス種別	居宅サービス	283	56.2	49.1	32.5	29.0	23.7	9.9	2.1	4.9
	地域密着型サービス	95	49.5	33.7	34.7	26.3	32.6	6.3	6.3	6.3
	施設サービス	23	47.8	43.5	43.5	34.8	52.2	8.7	4.3	4.3

問 20-1 問 20 でお答えいただいたことに関して、具体的なお意見がありましたらご記入ください。(自由回答)

人材育成について区に望むことに関しては、32事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類した上で、それぞれについて数件ずつ記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

◆ 研修の企画・実施に関して (14 件)

- ・区内事業所の介護サービス従事者の資質向上を図るために横断的な階層別研修や、同職種間研修の企画・運営を希望します。(施設サービス)
- ・職員を外部に派遣することが人員不足により難しいため、オンデマンドの研修を視聴できると助かります。他施設職員との交流も機会がないので離職防止に有効かと思えます。(地域密着型サービス)
- ・交流型研修は杉並施設長会にて、実践発表は法人にて既に企画実施しており、区に対してはまず研修そのもの企画実施を望みます。特に時間と場所のロスがないインターネットによる研修の企画実施を望みます。さらに施設内でリアルタイムの研修の企画にあたり、講師の派遣があるのも望ましいです。(施設サービス)

◆ オンライン研修の実施に関して (6 件)

- ・夜間のオンライン研修 (19時開始など) やオンデマンド型の研修を増やしていただけると、より研修の機会が増やせます。よろしくご検討のほどお願いいたします。(地域密着型サービス)
- ・会場に行っている研修は今の時代には合わなくなっていると思う。今後、オンライン・ZOOM が主となるようにしてほしい。(居宅サービス)

◆ 研修の内容の充実に関して (4 件)

- ・現場では仕事や業務、資格取得へ向けた試験対策は可能ですが、養成課程における基礎教育は無理です。例えば、経験年数だけで資格を取得した介護福祉士向けのリスキニング教育、養成校出身者向けのリカレント教育を行う機関や教育プログラムは必要だと思います。(施設サービス)
- ・同じ講師ばかりに偏りがちだと感じています。大学の講師、医師などのお話も聴きたいです。(居宅サービス)

5 経営・運営状況について

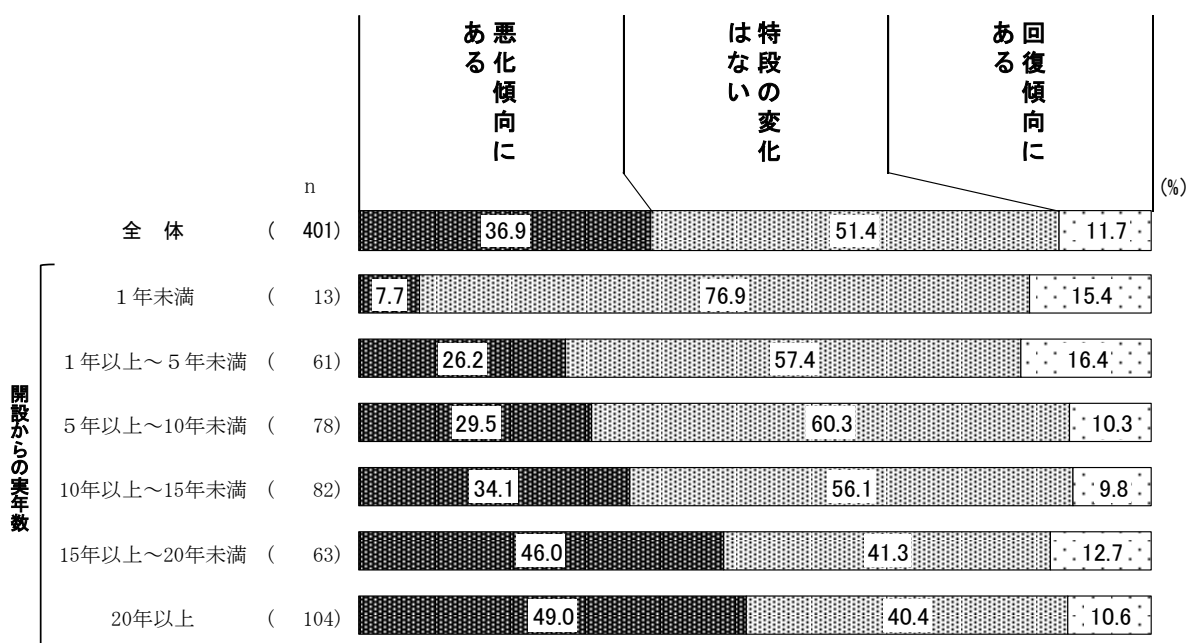
(1) 現在の経営状況

問 21 現在の経営状況についてお答えください。(回答は1つ)

現在の経営状況については、「特段の変化はない」が51.4%、「悪化傾向にある」が36.9%、「回復傾向にある」が11.7%となっています。

開設からの実年数別で見ると、「悪化傾向にある」の割合は開設年数が長くなるほど高くなっています。

図表 6-5-1 現在の経営状況／開設からの実年数別



事業所規模（従業員数）別で見ると、従業員数が39人以下の事業所では「特段の変化はない」の割合が最も高くなっていますが、【40人以上】の事業所は「悪化傾向にある」が最も高くなっています。

図表 6-5-2 現在の経営状況／事業所規模（従業員数）別

		事業所数 (n)	悪化傾向にある (%)	特段の変化はない (%)	回復傾向にある (%)
全体		401	36.9	51.4	11.7
従業員数	1～4人	73	31.5	60.3	8.2
	5～9人	83	41.0	53.0	6.0
	10～19人	142	36.6	52.8	10.6
	20～39人	67	31.3	46.3	22.4
	40人以上	36	50.0	33.3	16.7

サービス種別で見ると、「悪化傾向にある」の割合は【施設サービス】事業所が43.5%と最も高くなっています。

図表6-5-3 現在の経営状況／サービス種別

		(%)			
		事業所数 (n)	悪化傾向に ある	特段の変化 はない	回復傾向に ある
全体		401	36.9	51.4	11.7
サービス 種別	居宅サービス	283	35.7	53.4	11.0
	地域密着型サービス	95	38.9	47.4	13.7
	施設サービス	23	43.5	43.5	13.0

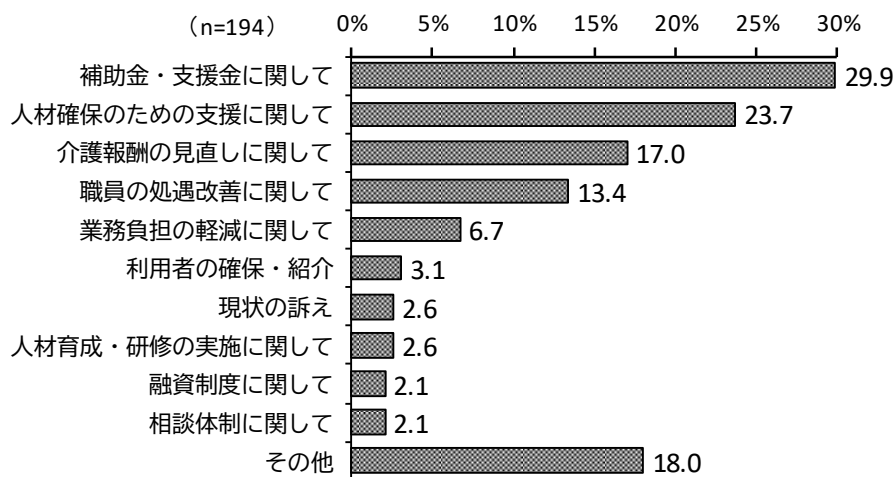
問21-1 問21でお答えいただいた理由をお答えください。(自由回答)

現在の経営状況についての回答の理由として、130事業所・施設から回答をいただきました。

「悪化傾向にある」と回答した理由（上位5項目）	件数
利用者（案件）の減少	24
人員不足	24
物価高騰	19
人件費の上昇	18
介護報酬の低下・上がらない	12
「特段の変化はない」と回答した理由（上位5項目）	件数
利用者数（案件）が安定している	7
人員が充足している	4
厳しい状況だが維持している	4
上がり下がりはあるが平均すると安定している	3
開設年数が短いのでまだわからない	2
「回復傾向にある」と回答した理由（上位4項目）	件数
利用者数（案件）が増えつつある	11
人員増加により受け入れ拡大できた	4
売上が上昇した	4
黒字化した	2

問 22 今後、サービス提供を続けていく上で必要と考える経営支援等について、ご記入ください。(自由回答)

サービス提供を続けていく上で必要と考える経営支援等について、194事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、サービス種別（居宅サービス／地域密着型サービス／施設サービス）別に、内容別に多かった主な意見を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

居宅サービス

134 事業所からご意見をいただきました。

◆ 人材確保のための支援に関して (35 件／26.1%)

- ・人材確保、育成、定着への様々な助成、補助、支援を総合的に行っていただきたいです。
- ・求人の際に現状では有料で求人を出すか、紹介料を払って紹介してもらわないと職員を集めるのが大変になってきているが、中小で経営しているところはその費用対効果も考えながら経営していかないといけないため、杉並区でそのような求人の場があれば費用を抑えることで職員への還元も可能になると思います。

◆ 補助金・支援金に関して (34 件／25.4%)

- ・物価・光熱水費の高騰に対しての補助の増額拡充、人材確保対策・人材定着対策の更なる拡充。
- ・介護報酬のアップ。物価高に追いついていないと感じます。処遇改善をケアマネにも付けてほしいです。研修費用の補助金は助かっています、続けて下さい。東京都の月1万円の手当も助かっていますので継続してください。

◆ 介護報酬の見直しに関して (21 件／15.7%)

- ・介護報酬を上げる事を区からも働きかけて欲しいです。
- ・物価高騰に見合った、報酬改定を考え、事業者へも必要以上の書類作成・報告提出の負担を軽減することにより、経営が安定し、従業員の報酬も上げられるので、そのような施策を考えて欲しい。

◆ 職員の処遇改善に関して（18件／13.4%）

- ・他の職種に比べ給料が低いので職員の処遇改善をもう少し出来ると良いと思います。
- ・良いサービスを行うには、良い職員が必要となります。良い人材を集めるための求人費コストの軽減が必要と感じております。給与水準を引き上げることでより良い人材の確保、離職率の低下等に関連してきますので給与水準の引き上げの必要性を感じています。

◆ 業務負担の軽減に関して（9件／6.7%）

- ・物価上昇に伴った報酬改定や経営運営上の書類作成や報告等の提出を減らすことで、安定して経営が行えることにより、職員への対価も反映できるようなことを考える必要がある。
- ・帳票類の書式の統一化（自治体ごとにバラバラな為、複数自治体で事業所運営をしている当社にとっては不便）。

地域密着型サービス

45 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 補助金・支援金に関して（13件／28.9%）

- ・物価高騰、時給アップなどにより人件費の負担増に対して補助金などの支援が欲しい。
- ・求人にかかる費用の支援、物価高騰による支援。

◆ 介護報酬の見直しに関して（11件／24.4%）

- ・物価高により経営のコストも上がっているので、職員の処遇改善加算だけではなく介護報酬における基本報酬についても迅速な見直しが必要と思います。
- ・報酬改定を毎年に行ってください。

◆ 人材確保のための支援に関して（8件／17.8%）

- ・人材確保のための金銭的な支援。

◆ 職員の処遇改善に関して（8件／17.8%）

- ・介護職員の処遇の改善（まだまだ魅力的なものとはなっていないので他業種に人が流れていく）。

◆ 業務負担の軽減に関して（3件／6.7%）

- ・請求事務の簡略化を望みます。

施設サービス

15 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 補助金・支援金に関して（11件／73.3%）

- ・物価高騰、物価と見合わない介護報酬の地域加算への上乗せ支給など、補助金等の財政的支援が必要です。
- ・設備の老朽化が著しく、東京都等の補助金だけでは修繕費を賄うことができない。

第6章 介護サービス事業所等実態調査

◆ 人材確保のための支援に関して（3件／20.0%）

- ・人材確保対策・人材定着対策の更なる拡充。

◆ 介護報酬の見直しに関して（1件／6.7%）

- ・世間の最低賃金が上がっても、介護報酬は3年に一度しか見直しがいないため、やりくりが大変。

◆ 業務負担の軽減に関して（1件／6.7%）

- ・加算や処遇改善等における書類や現場の負担軽減。介護の人材確保が難しいにも関わらず、現場の負担が増えている。

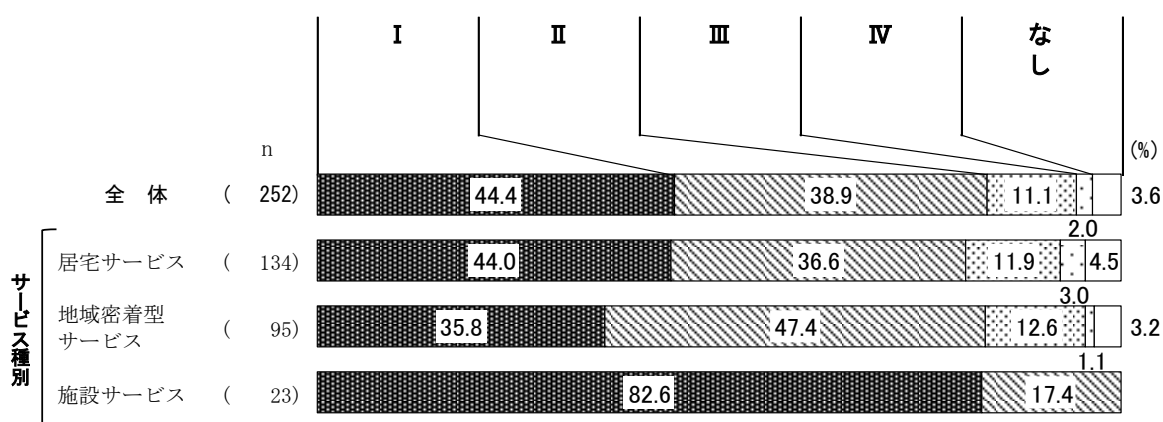
(2) 「介護職員等処遇改善加算」の取得状況

問23 事業所で算定している「介護職員等処遇改善加算」の取得状況についてお答えください。
(回答は1つ)

「介護職員等処遇改善加算」の取得状況については、「Ⅰ」が44.4%で最も高く、次いで「Ⅱ」(38.9%)、「Ⅲ」(11.1%)と続いています。

サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【施設サービス】事業所は「Ⅰ」が最も高く、【地域密着型サービス】事業所は「Ⅱ」(47.4%)が最も高くなっています。また、【施設サービス】事業所は、「Ⅰ」(82.6%)の割合が8割以上となっています。

図表6-5-4 「介護職員等処遇改善加算」の取得状況／サービス種別



※上図は「介護職員等処遇改善加算」の対象外である、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」、「居宅療養管理指導」、「福祉用具貸与／特定福祉用具販売」、「居宅介護支援／介護予防支援」を除いて集計しています。

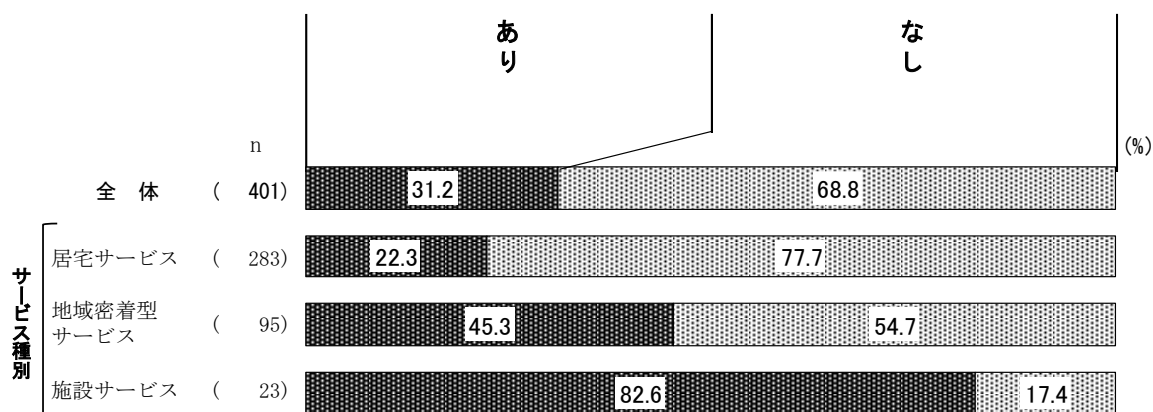
(3) 「介護人材確保・職場環境改善等事業」の申請の有無

問 24 事業所で算定している「介護人材確保・職場環境改善等事業」の申請の有無についてお答えください。(回答は1つ)

「介護人材確保・職場環境改善等事業」の申請の有無については、「なし」が68.8%、「あり」が31.2%となっています。

サービス種別で見ると、「あり」の割合は【居宅サービス】事業所が22.3%で最も低くなっています。

図表6-5-5 「介護人材確保・職場環境改善等事業」の申請の有無／サービス種別



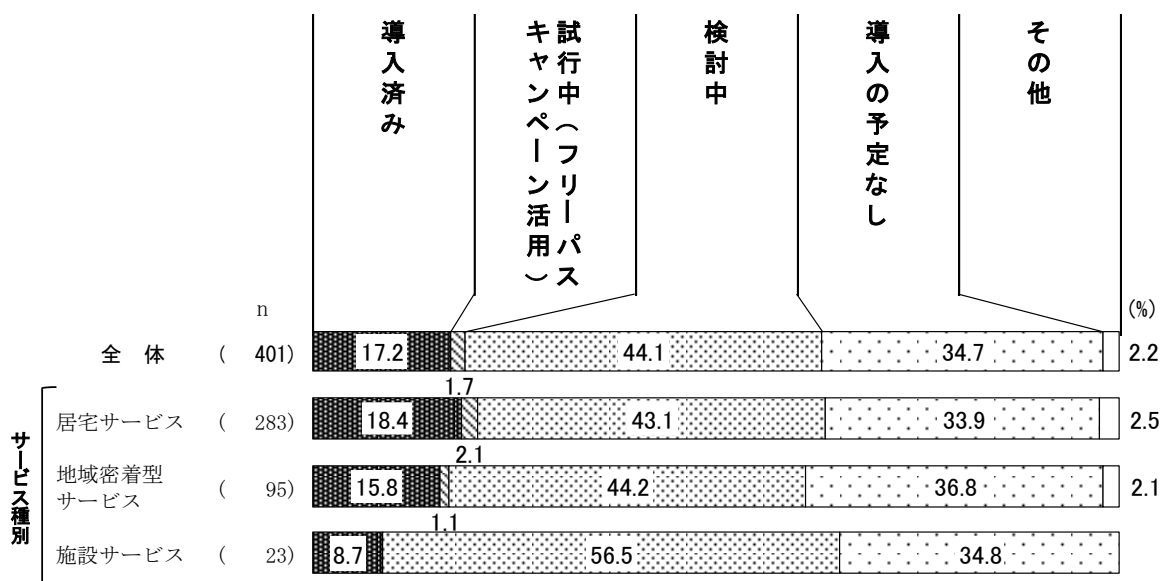
(4) ケアプランデータ連携システムの導入状況

問 25 ケアプランデータ連携システムの導入状況についてお答えください。(回答は1つ)

ケアプランデータ連携システムの導入状況については、「検討中」が44.1%で最も高く、次いで「導入の予定なし」(34.7%)、「導入済み」(17.2%)と続いています。

サービス種別で見ると、「導入済み」の割合は【居宅サービス】事業所が18.4%で最も高く、「検討中」の割合は【施設サービス】事業所が56.5%で最も高くなっています。

図表6-5-6 ケアプランデータ連携システムの導入状況／サービス種別



問 25-1 ケアプランデータ連携システムに関して、ご意見がありましたらご記入ください。
(自由回答)

ケアプランデータ連携システムに関して、48事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類した上で、それぞれについて数件ずつ記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

◆ 導入している事業所が少ない (19件)

- ・システムを導入している事業所が少ない段階では、払う労力に対して得られる利便性が少ない。そのため様子を見ている。今後導入事業者を増やしていくためには、利用料金を下げるとともに、ケアマネジャー全体の高齢化を考えると導入後のシステム操作についてのサポートも必要ではないか。(居宅サービス)
- ・全ての事業所が加入しないと効果はない。ランニングコスト補助や導入支援を行って初めて検討したいと考えている。(地域密着型サービス)
- ・とても業務効率化になるシステムなので利用したいと考えている。現在杉並区は利用件数が低く、来年度から料金の発生があるかも知れないため踏み切れない。しかし利用率100%であれば料金を払っても利用に踏み切れると考える。なので、杉並区としての方針をもっと強く打ち出してほしい。(居宅サービス)

◆ 利用料金が負担である (9件)

- ・ケアプランデータ連携システムに料金がかかること。これこそ、区として使用料の補助を行うことで、利用率の向上につながる可能性が高い。(居宅サービス)
- ・便利で必要なのはわかりますが、何で事業所負担があるのでしょうか？ランニングコストが永久にかからなくなったら導入します。(地域密着型サービス)

◆ 他のソフトを使用している (6件)

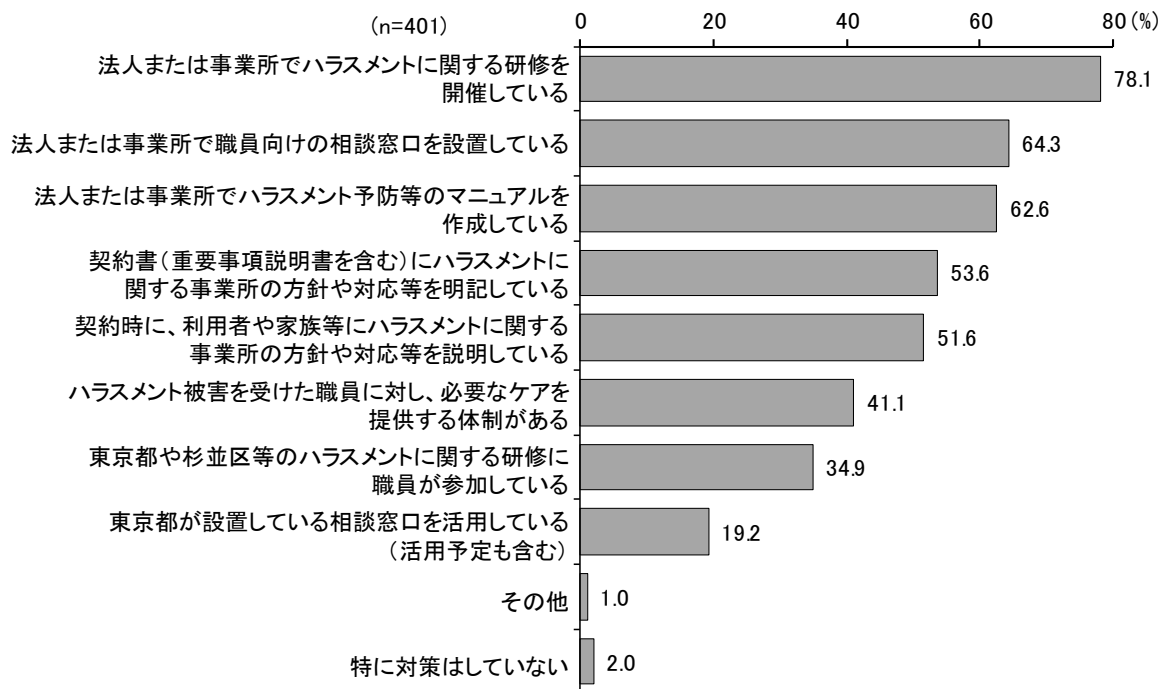
- ・今使っているソフトについて、もう慣れているし使っている事業者も多い。価格も安くレスポンスも悪くない。(居宅サービス)
- ・介護ソフトと連携が出来ていない (CSV のみの対応) ので、導入予定なし。いっそ、区内の事業所で同じソフトを用いて、ソフト内でデータがやり取りできた方が、よっぽど効率アップとなるかと存じます。(居宅サービス)

(5) ハラスメント対策についての取組

問 26 ハラスメント対策について、貴事業所・施設での取組をお答えください。
(回答はいくつでも)

ハラスメント対策についての取組は、「法人または事業所でハラスメントに関する研修を開催している」が78.1%で最も高く、次いで「法人または事業所で職員向けの相談窓口を設置している」(64.3%)、「法人または事業所でハラスメント予防等のマニュアルを作成している」(62.6%)と続いています。

図表 6-5-7 ハラスメント対策についての取組



第6章 介護サービス事業所等実態調査

サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所と【地域密着型】サービス事業所は「法人または事業所でハラスメントに関する研修を開催している」が最も高く、【施設サービス】事業所は「法人または事業所で職員向けの相談窓口を設置している」が最も高くなっています。また、「その他」と「特に対策はしていない」を除いた項目で、【施設サービス】事業所が他のサービス種別と比べて最も高くなっています。

図表6-5-8 ハラスメント対策についての取組／サービス種別

(%)

		事業所数 (n)	法人または事業所でハラスメントに関する研修を開催している	法人または事業所で職員向けの相談窓口を設置している	法人または事業所でハラスメント予防等のマニュアルを作成している	契約書(重要事項説明書を含む)にハラスメントに関する事業所の方針や対応等を明記している	契約時に、利用者や家族等にハラスメントに関する事業所の方針や対応等を説明している	ハラスメント被害を受けた職員に対し、必要なケアを提供する体制がある	東京都や杉並区等のハラスメントに関する研修に職員が参加している	東京都が設置している相談窓口を活用している(活用予定も含む)	その他	特に対策はしていない
全体		401	78.1	64.3	62.6	53.6	51.6	41.1	34.9	19.2	1.0	2.0
サービス種別	居宅サービス	283	79.2	63.3	62.2	59.0	55.8	37.8	37.1	20.1	0.7	1.8
	地域密着型サービス	95	72.6	61.1	60.0	34.7	34.7	43.2	24.2	13.7	2.1	3.2
	施設サービス	23	87.0	91.3	78.3	65.2	69.6	73.9	52.2	30.4	-	-

問 26-1 ハラスメント対策について、貴事業所・施設での課題等についてご記入ください。
(自由回答)

ハラスメント対策についての課題等に関しては、37事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類した上で、それぞれについて数件ずつ記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

◆ 研修の実施 (9件)

- ・小さい会社なので事業所社員（常勤、非常勤全員）を集めた研修を外部より講師を招いて行いたい。（居宅サービス）
- ・研修を更に充実させる。他事業所の取組を知る。（地域密着型サービス）

◆ 利用者・家族からのハラスメントへの対応 (7件)

- ・カスタマーハラスメントで悩まされているケースがあり、事業所内で情報共有、地域包括支援センターの方にもご協力いただいています。（居宅サービス）
- ・事業所単位での取り組みには限界があり、法人単位で取り組みをしているが、利用者および家族からのハラスメントについては対応に苦慮するケースが多い。（地域密着型サービス）

◆ 報告・相談体制 (7件)

- ・ハラスメントに関しては随時相談できる体制を整えています。小規模事業所ですのでハラスメントなどの問題があれば即座に察知できる環境です。（地域密着型サービス）
- ・ハラスメント被害を受けた職員に対しての必要なケアは提供できているが、職員がハラスメントを受けた場合の相談窓口が曖昧な状況があります。職員数が少ない事業所なので、相談窓口を状況によって換えているのが現状です。（居宅サービス）

◆ ハラスメントに対する認識の違い (4件)

- ・年代によりハラスメントに対する認識が異なるなどで、セミナーや研修の理解度に温度差がある。（地域密着型サービス）
- ・各人による許容範囲の線引き。（地域密着型サービス）

6 医療機関との連携について

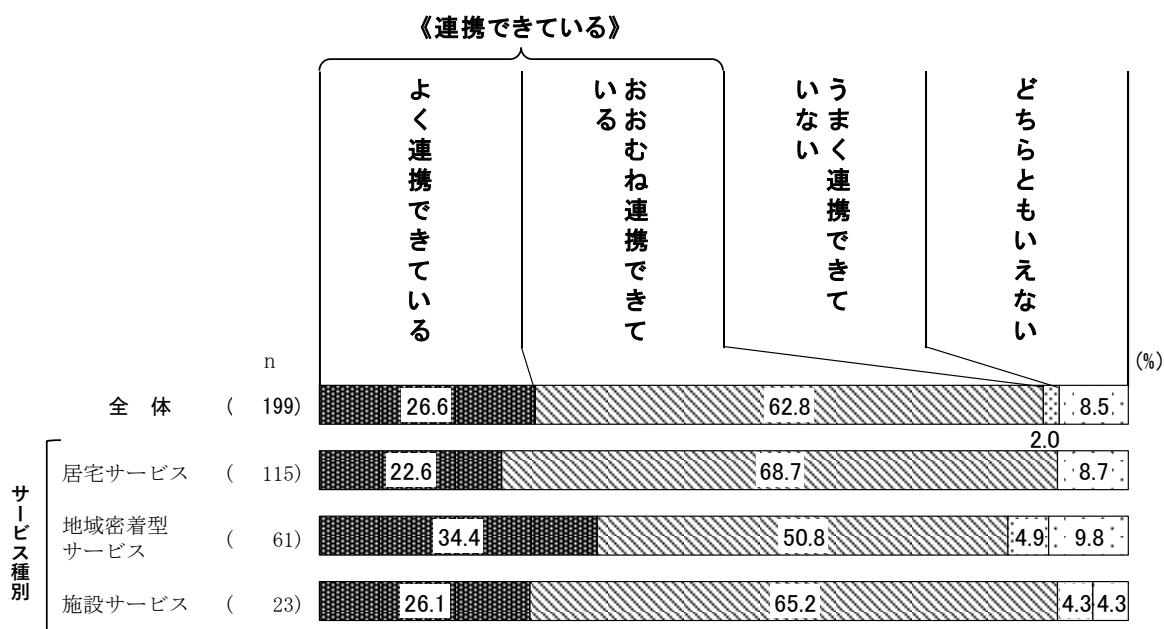
(1) 医療機関との連携状況

問 27 貴事業所・施設が宿泊を伴う事業所である場合、医療機関との連携は円滑にできていますか。(回答は1つ)

医療機関との連携状況については、「おおむね連携できている」(62.8%)と「よく連携できている」(26.6%)を合計した《連携できている》の割合は89.4%となっています。

サービス種別で見ると、「よく連携できている」の割合は【地域密着型サービス】事業所で34.4%と最も高くなっていますが、《連携できている》の割合は85.2%と、【居宅サービス】事業所、【施設サービス】事業所(共に91.3%)と比べて低くなっています。

図表 6-6-1 医療機関との連携状況／サービス種別



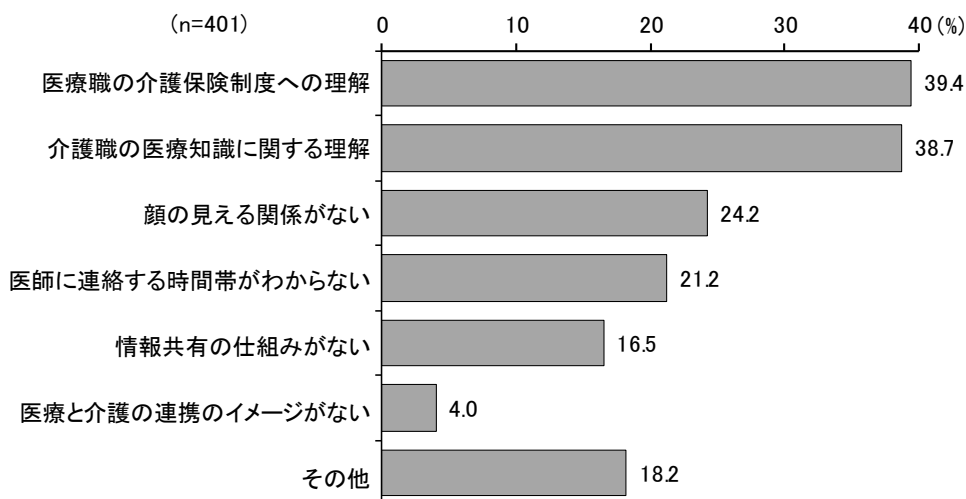
※上図は「宿泊を伴わない事業所・施設である」を除いて集計しています。

(2) 医療機関との連携に当たっての課題

問 28 医療機関との連携に当たり、どのような課題がありますか。(回答はいくつでも)

医療機関との連携に当たっての課題については、「医療職の介護保険制度への理解」が39.4%で最も高く、次いで「介護職の医療知識に関する理解」(38.7%)、「顔の見える関係がない」(24.2%)と続いています。

図表6-6-2 医療機関との連携に当たっての課題



「その他」の回答内容 (上位5項目)	件数
連絡が取りにくい	9
連絡手段が一元化されていない	4
医療機関側が連携を必要と考えていない	3
家族と医療機関の関係構築や調整が難しい	2
特に問題なく連携できている	34

サービス種別で見ると、【居宅サービス】事業所は、「医療職の介護保険制度への理解」が最も高く、【地域密着型サービス】事業所と【施設サービス】事業所は「介護職の医療知識に関する理解」が最も高くなっています。

図表6-6-3 医療機関との連携に当たっての課題/サービス種別

		事業所数 (n)	医療職の介護保険制度への理解	介護職の医療知識に関する理解	顔の見える関係がない	医師に連絡する時間帯がわからない	情報共有の仕組みがない	医療と介護の連携のイメージがない	その他
全体		401	39.4	38.7	24.2	21.2	16.5	4.0	18.2
サービス種別	居宅サービス	283	44.9	37.8	25.1	21.9	15.2	3.2	15.5
	地域密着型サービス	95	25.3	38.9	22.1	22.1	21.1	6.3	22.1
	施設サービス	23	30.4	47.8	21.7	8.7	13.0	4.3	34.8

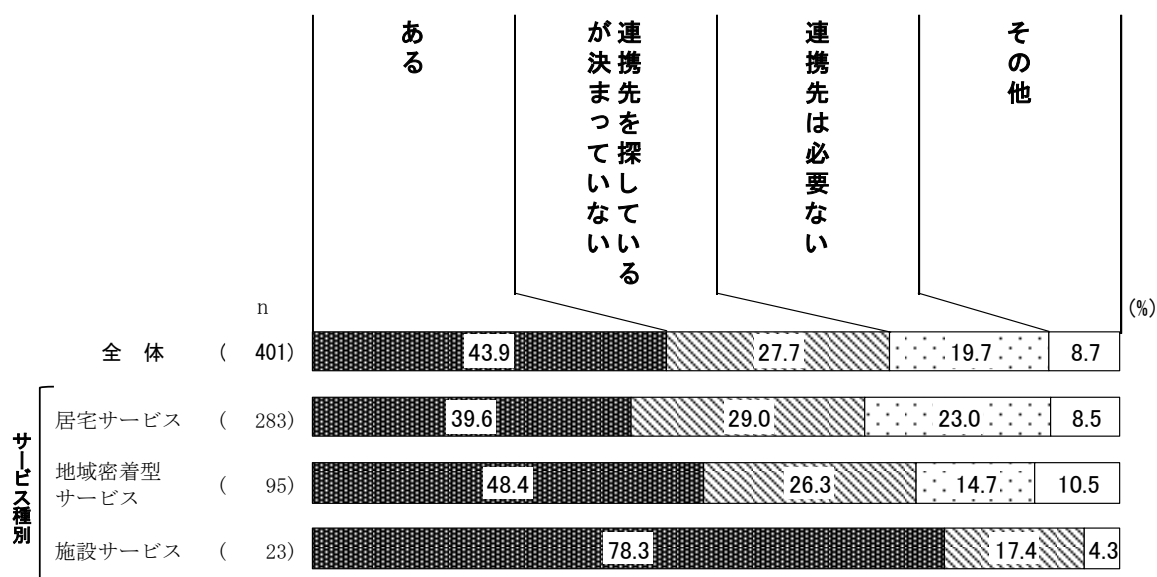
(3) 非常時の連携施設の有無

問 29 火災や大規模地震、感染症が発生した場合の連携施設はありますか。(回答は1つ)

非常時の連携施設の有無については、「ある」が43.9%で最も高く、次いで「連携先を探しているが決まっていない」(27.7%)、「連携先は必要ない」(19.7%)となっています。

サービス種別で見ると、「ある」の割合は、【施設サービス】事業所(78.3%)が最も高く、【居宅サービス】事業所(39.6%)が最も低くなっています。

図表6-6-4 非常時の連携施設の有無/サービス種別



7 「すぎなみ福祉サーチ」について

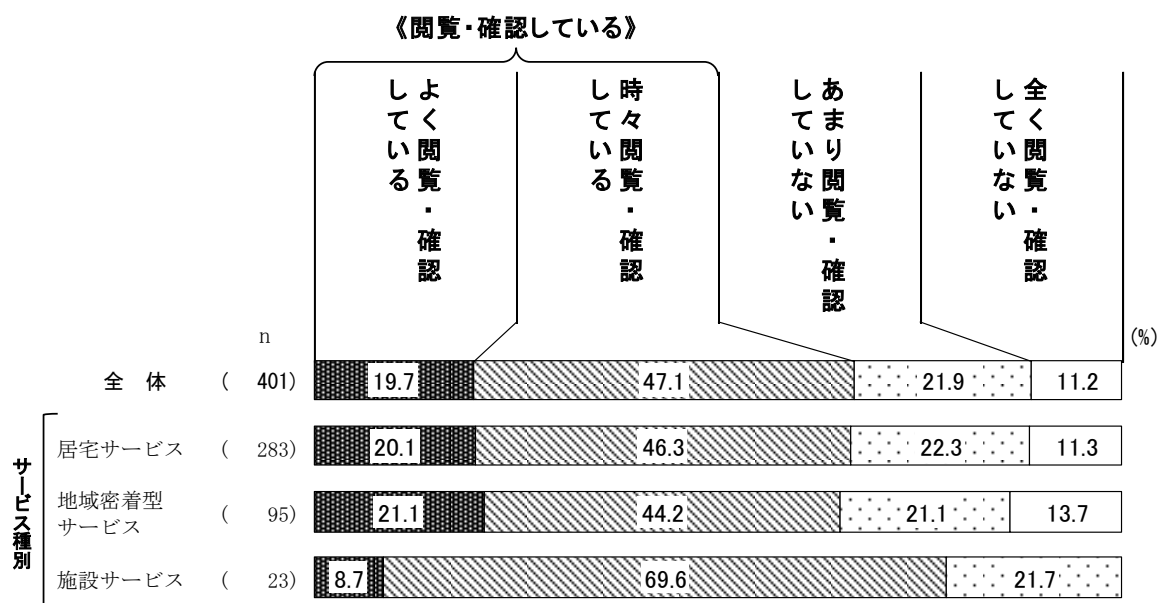
(1) 「すぎなみ福祉サーチ」閲覧・確認状況

問 30 「すぎなみ福祉サーチ（ケア倶楽部）」の閲覧・確認をしていますか。（回答は1つ）

「すぎなみ福祉サーチ」閲覧・確認状況については、「時々閲覧・確認している」（47.1%）と「よく閲覧・確認している」（19.7%）を合計した《閲覧・確認している》は66.8%となっています。

サービス種別で見ると、《閲覧・確認している》の割合は、【施設サービス】事業所が78.3%で、【居宅サービス】事業所（66.4%）、【地域密着型サービス】事業所（65.3%）と比べて高くなっています。

図表6-7-1 「すぎなみ福祉サーチ」閲覧・確認状況／サービス種別



問 30-1 「すぎなみ福祉サーチ（ケア倶楽部）」について、ご意見がありましたらご記入ください。（自由回答）

「すぎなみ福祉サーチ（ケア倶楽部）」については、22事業所・施設からご意見をいただきました。内容別に分類した上で、それぞれについて数件ずつ記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

◆ 内容に関して（10件）

- ・ 区の情報に加えて、厚労省や関係機関とのリンクもあり利便性が高いと思います。（施設サービス）
- ・ 研修情報だけではなくもう少し幅広く情報があるとよい。（居宅サービス）

◆ レイアウト・使い勝手に関して（4件）

- ・ レイアウトが見づらい。区、都など発信別になっているが詳細確認できない。（居宅サービス）
- ・ 検索がしにくい。（居宅サービス）

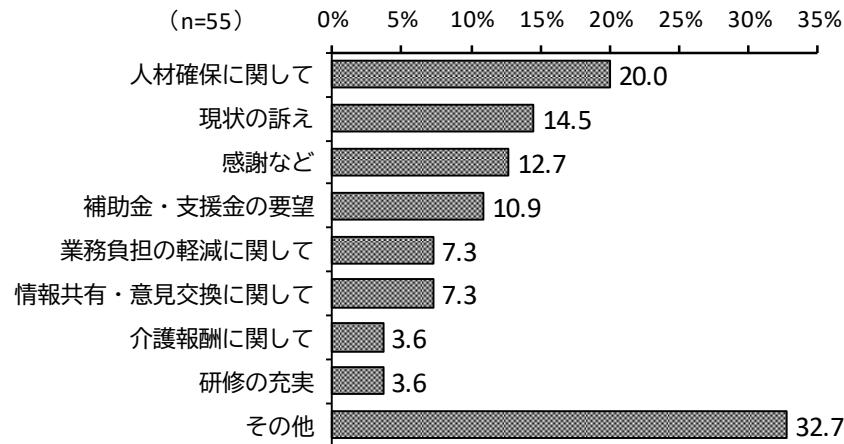
◆ メールでの通知に関して（4件）

- ・ メールでも情報が届くので、情報が早く得られて良いと感じています。（地域密着型サービス）
- ・ 通知のタイトル・内容が分かりづらく、困っている。（居宅サービス）

8. 自由意見

区へのご意見・ご要望などありましたらご記入ください。

55件の事業所・施設からご意見・ご要望をいただきました。内容別に分類し、集計した結果は下図のとおりです。



以下、サービス種別（居宅サービス／地域密着型サービス／施設サービス）別に、内容別に多かった主な意見・要望を記載します。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載しています。

居宅サービス

40 事業所からご意見をいただきました。

◆ 人材確保に関して（9 件／22.5%）

・介護職員（訪問介護のヘルパー）の高齢化、職員不足は深刻になっています。各事業所でも工夫して人材募集をしていると思いますが、区も積極的に取り組んでいただきたい。

◆ 感謝など（5 件／12.5%）

・介護保険、高齢者、障害者担当の区役所職員は親切。説明も丁寧で以前のような上からの物言いがなくなり印象が良い。それだけでも私たち従事者と利用者、家族にはとても助かります。色々な制度を利用するため区役所に相談、申請に行くプレッシャーが減ります。

◆ 現状の訴え（4 件／10.0%）

・人材不足。ヘルパーも足りてないのが原因の一つであるが、サービス提供責任者（サ責）の業務が多すぎる。サ責業務に加えてヘルパー業務もこなしている（ヘルパー不足のため）。業務のICT化、ペーパーレス化、書類の簡略化が急務に思える。サービス提供責任者をやりたいと言う人材がいない。育たない。サ責も高齢化している。近い将来サ責不足にもなると思う

◆ 補助金・支援金の要望（4 件／10.0%）

・区に対する要望として、最もお願いしたいのは、物価や人件費の高騰に対する金銭的支援です。限られた財源の中で介護サービスに特化した支援は難しいかもしれませんが、介護報酬の単価

第6章 介護サービス事業所等実態調査

が物価や人件費の上昇に見合っておらず、事業者側も増収や経費節減に努めているものの、資金運用は依然として非常に厳しい状況です。

地域密着型サービス

9 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 現状の訴え（3件／33.3%）

- ・現場では、慢性的な職員不足が続き、十分な研修機会を確保できないまま業務に入らざるを得ないケースもあり、結果として職員が疲弊しやすい状況です。職員不足は区民への支援体制の質にも影響するため、早急な対応が必要です。

◆ 感謝など（2件／22.2%）

- ・平素よりお世話になっております。認知症の方を支える一員として、地域の皆様と触れ合う機会が持てるよう尽力していきたいと思っております。

◆ 情報共有・意見交換に関して（2件／22.2%）

- ・杉並区の事業者の現状や課題を共有できる、区へ意見を伝えられる機会を作っていただきたいです。

施設サービス

6 事業所・施設からご意見をいただきました。

◆ 補助金・支援金の要望（2件／33.3%）

- ・開設より20年以上が経過し、様々な設備機器の経年劣化が進んでいる。改修、買い替え費用等にお金がかかるため、資金的な援助を必要とする。

◆ 人材確保に関して（1件／16.7%）

- ・人材確保、定着の取り組みや補助を手厚くしてほしい。